平成３１年度

# 講 義 計 画 書

（シラバス）

鹿児島県立短期大学

# 総　　目　　次


1　教養科目（人文，社会，自然，総合）…… 1

2　教養科目（外国語科目）…… 12

3　教養科目（スポーツ・健康科目）…… 42

4　教養科目（情報科目）…… 45

5　日本語日本文学専攻専門科目 …… 51

6　英語英文学専攻専門科目 …… 76

7　生活科学科共通科目 …… 114

8　食物栄養専攻専門科目 …… 116

9　生活科学専攻専門科目 …… 136

10　第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）…… 160

11　経済専攻専門科目 …… 173

12　経営情報専攻専門科目 …… 186

13　第二部商経学科教養科目（教養一般）…… 196

14　第二部商経学科教養科目（外国語科目）…… 203

15　第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）…… 208

16　第二部商経学科教養科目（情報科目）…… 209

17　第二部商経学科専門科目 …… 211

18　商経学科の演習・実習科目 …… 239

19　教職に関する科目 …… 242

20　司書教諭に関する科目 …… 273

21　「実務経験のある教員による授業科目一覧」 …… 275

## 文学科　日本語日本文学専攻


**【教養科目】**

**（人文）**
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

**（社会）**
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 6

**（自然）**
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 8
食生活と健康 …… 8

**（総合）**
平和論 …… 9
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 11
企業研修 …… 11

**（外国語科目）**
英語Ⅰ（A） …… 12
英語Ⅰ（A） …… 12
英語Ⅱ（A） …… 17
英語Ⅱ（A） …… 17
英語Ⅲ（D） …… 23
英語Ⅲ（E） …… 24
英語Ⅲ（F） …… 24
英語Ⅲ（G） …… 25
英語Ⅲ（H） …… 25
英語Ⅳ（A） …… 26
英語Ⅳ（B） …… 26
英語Ⅳ（F） …… 28
英語Ⅳ（G） …… 29
異文化コミュニケーション（英語） …… 30
異文化コミュニケーション（中国語） …… 30
中国語Ⅰ（A） …… 33
中国語Ⅰ（B） …… 33
中国語Ⅰ（H） …… 36
中国語Ⅱ（A） …… 37
中国語Ⅱ（B） …… 37
中国語Ⅱ（H） …… 40
中国語Ⅲ …… 41
中国語Ⅳ …… 41

**（スポーツ・健康科目）**
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（A） …… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（A） …… 44

**（情報科目）**
情報リテラシーⅠ（A） …… 45
情報リテラシーⅡ（A） …… 48

**【専門科目】**

**（専門基礎科目）**
日本文学概論 …… 51
言語学概論 …… 51

**（日本語学科目）**
日本語学概論 …… 52
日本語教育概論 …… 52
日本語史 …… 53
日本文法論 …… 53
日本語学講義 …… 54
日本語学講読Ⅰ …… 54
日本語学講読Ⅱ …… 55
日本語学演習Ⅰ・Ⅲ …… 55
日本語学演習Ⅱ …… 56
日本語学演習Ⅳ・Ⅵ …… 55
日本語学演習Ⅴ …… 57
日本語表現法 …… 57
日本語表現法演習 …… 58
対照言語学 …… 58

**（日本文学「古典」科目）** 114
日本文学講義Ⅰ …… 116
日本文学講読Ⅰ …… 136
日本文学講読Ⅱ …… 160
日本文学講読Ⅲ …… 173
日本文学演習Ⅰ・Ⅲ …… 186
日本文学演習Ⅱ …… 196

**（日本文学「近代」科目）** 203
日本文学史・近代Ⅰ …… 208
日本文学史・近代Ⅱ …… 209
日本文学講義Ⅱ …… 211
日本文学講読Ⅳ …… 239
日本文学講読Ⅴ …… 242
日本文学講読Ⅵ …… 273
日本文学講読Ⅶ …… 275
日本文学演習Ⅳ・Ⅵ …… 65
日本文学演習Ⅴ …… 66

**（地域文学・中国文学科目）**
南九州の文学 …… 66
中国文学史Ⅰ …… 67
中国文学史Ⅱ …… 67
中国文学講読Ⅰ …… 68
中国文学講読Ⅱ …… 68
中国文学演習Ⅰ …… 69
中国文学演習Ⅱ …… 69
中国文学演習Ⅲ …… 70

**（卒業研究）**
卒業研究Ⅰ・Ⅱ …… 70

**（関連科目）**
比較文化 …… 71
英文学史 …… 71
米文学史 …… 72
読書と豊かな人間性 …… 72
情報メディアの活用 …… 73
書道Ⅰ …… 73
書道Ⅱ …… 74
書道Ⅲ …… 74
書道Ⅳ …… 75

**【教職に関する科目】**
教職入門 …… 242
教育原理 …… 243
教育心理学 …… 244～245
特別支援教育概論 …… 246
教育行政学概論 …… 247
教育課程論 …… 248～249
国語科教育法Ⅰ …… 250
国語科教育法Ⅱ …… 251
道徳教育指導論 …… 259
特別活動指導論 …… 261
教育方法学概論 …… 263
生徒指導論 …… 264～265
進路指導論 …… 266
教育相談 …… 267～268
教職実践演習（中） …… 269
教育実習 …… 271

**【司書教諭に関する科目】**
学校経営と学校図書館 …… 273
学習指導と学校図書館 …… 273
読書と豊かな人間性 …… 274
情報メディアの活用 …… 274

## 文学科　英語英文学専攻


**【教養科目】**

（人文）
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 6

（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 8
食生活と健康 …… 8

（総合）
平和論 …… 9
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 11
企業研修 …… 11

（外国語科目）
英語Ⅲ（A）…… 22
英語Ⅲ（B）…… 22
英語Ⅲ（C）…… 23
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 30
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
ドイツ語Ⅰ …… 31
ドイツ語Ⅱ …… 31
フランス語Ⅰ …… 32
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（B）…… 33
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（B）…… 37
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 41
中国語Ⅳ …… 41

（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（B）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（B）…… 44

（情報科目）
情報リテラシーⅠ（B）…… 45
情報リテラシーⅡ（B）…… 48

**【専門科目】**

（専門基礎科目）
スタディスキルズ …… 76

（コミュニケーション科目）
コミュニケーション概論 …… 77
英語学概論 …… 78
英文学概論 …… 78
比較文化 …… 79
オーラルコミュニケーションⅠ …… 80～82
オーラルコミュニケーションⅡ …… 83～85
オーラルコミュニケーションⅢ …… 85～86
オーラルコミュニケーションⅣ …… 87
英語表現法Ⅰ …… 88
英語表現法Ⅱ …… 89
英語表現法Ⅲ …… 90
英語コミュニケーション演習Ⅰ …… 91
英語コミュニケーション演習Ⅱ …… 92
英語コミュニケーション演習Ⅲ …… 93
通訳入門Ⅰ …… 114
通訳入門Ⅱ …… 116
136

（英語学科目）　160
英文法 …… 173
英語史 …… 186
英語音声学 …… 196
講読演習Ⅰ …… 203
基礎演習Ⅰ …… 208
英語学演習 …… 209
211

（英米文学科目）　239
英文学史 …… 242
米文学史 …… 273
比較文学 …… 275
英米文学講読Ⅰ …… 100
英米文学講読Ⅱ …… 100
英米文学講読Ⅲ …… 101
講読演習Ⅱ …… 101
基礎演習Ⅱ …… 102
英米文学演習 …… 103

（比較文化科目）
イギリス事情 …… 103
アメリカ事情 …… 104
ヨーロッパ事情 …… 104
講読演習Ⅲ …… 105
基礎演習Ⅲ …… 105
比較文化演習 …… 106

（関連科目）
対照言語学 …… 106
言語学概論 …… 107
日本語学概論 …… 107
日本文学史Ⅰ …… 108
日本文学史Ⅱ …… 108
日本語教育概論 …… 109
国際経済論 …… 109
国際関係論 …… 110
検定対策講座Ⅰ …… 110
検定対策講座Ⅱ …… 111

（卒業研究）
卒業研究 …… 111～113

**【教職に関する科目】**
教職入門 …… 242
教育原理 …… 243
教育心理学 …… 244～245
特別支援教育概論 …… 246
教育行政学概論 …… 247
教育課程論 …… 248～249
英語科教育法Ⅰ …… 252～253
英語科教育法Ⅱ …… 254～255
道徳教育指導論 …… 259
特別活動指導論 …… 261
教育方法学概論 …… 263
生徒指導論 …… 264～265
進路指導論 …… 266
教育相談 …… 267～268
教職実践演習（中）…… 269
教育実習 …… 271

**【司書教諭に関する科目】**
学校経営と学校図書館 …… 273
学習指導と学校図書館 …… 273
読書と豊かな人間性 …… 274
情報メディアの活用 …… 274

## 生活科学科　食物栄養専攻


**【教養科目】**

（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 6

（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
化学の世界 …… 8
食生活と健康 …… 8

（総合）
平和論 …… 9
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 11
企業研修 …… 11

（外国語科目）
英語Ⅰ（C）…… 14
英語Ⅰ（C）…… 14
英語Ⅱ（C）…… 19
英語Ⅱ（C）…… 19
英語Ⅲ（A）…… 22
英語Ⅲ（B）…… 22
英語Ⅲ（C）…… 23
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 30
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
フランス語Ⅰ …… 32
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（F）…… 35
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（F）…… 39
中国語Ⅱ（H）…… 40

（スポーツ・健康科目）
生涯スポーツ実習Ⅰ（C）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（C）…… 44

（情報科目）
情報リテラシーⅠ（C）…… 46
情報リテラシーⅡ（C）…… 49

**【専門科目】**

（生活科学科目）
生活科学概論 …… 114
生活経営学 …… 114
人間関係論 …… 115
社会福祉論 …… 115

（基礎科目）
〈食物に関する科目〉
食品学Ⅰ …… 116
食品学Ⅱ …… 116
食品学実験 …… 117
食品衛生学 …… 117
食品衛生学実験 …… 118
食品加工学 …… 118
調理学 …… 119
調理学実習Ⅰ …… 119
調理学実習Ⅱ …… 120
調理学実習Ⅲ …… 120

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉
栄養学総論 …… 121
栄養学各論 …… 121
栄養学実習 …… 122
解剖生理学 …… 122
解剖生理学実験 …… 123
生化学Ⅰ …… 123
生化学Ⅱ …… 114
生化学実験 …… 116

〈健康と運動に関する科目〉 136
健康と運動 …… 160
健康管理概論 …… 173
公衆衛生学 …… 186
運動生理学 …… 196

（応用科目） 203
〈給食の管理に関する科目〉 208
給食管理 …… 209
給食管理実習Ⅰ …… 211
給食管理実習Ⅱ …… 239
給食管理実習Ⅲ …… 242

〈栄養の指導〉 273
栄養教育論 …… 275
栄養指導論Ⅰ …… 129
栄養指導論Ⅱ …… 130
栄養指導論実習Ⅰ …… 130
栄養指導論実習Ⅱ …… 131
公衆栄養学 …… 131
栄養情報処理 …… 132

〈臨床関連科目〉
臨床栄養学Ⅰ …… 132
臨床栄養学Ⅱ …… 133
臨床栄養学実習 …… 133
病理学 …… 134

〈栄養教諭関連科目〉
学校栄養教育論 …… 134

（その他）
有機化学概論 …… 135
生物概論 …… 135

**【教職に関する科目】**
教職入門 …… 242
教育原理 …… 243
教育心理学 …… 244～245
特別支援教育概論 …… 246
教育行政学概論 …… 247
教育課程論 …… 248～249

道徳教育の指導法 …… 260

特別活動論 …… 262
教育方法学概論 …… 263
生徒指導論 …… 264～265

教育相談 …… 267～268
教職実践演習（栄養教諭）…… 270
栄養教育実習 …… 271
栄養教育実習の事前事後の指導 …… 272

## 生活科学科　生活科学専攻


**【教養科目】**

（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
生活と経済 …… 5
キャリアデザイン …… 6

（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
生物の科学 …… 7
食生活と健康 …… 8

（総合）
平和論 …… 9
環境問題 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10
社会活動 …… 11
企業研修 …… 11

（外国語科目）
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅰ（B）…… 13
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅱ（B）…… 18
英語Ⅲ（A）…… 22
英語Ⅲ（B）…… 22
英語Ⅲ（C）…… 23
英語Ⅳ（A）…… 26
英語Ⅳ（B）…… 26
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 30
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
フランス語Ⅰ …… 32
フランス語Ⅱ …… 32
中国語Ⅰ（G）…… 36
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（G）…… 40
中国語Ⅱ（H）…… 40

（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（D）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（D）…… 44

（情報科目）
情報リテラシーⅠ（D）…… 46
情報リテラシーⅡ（D）…… 49

**【専門科目】**

（生活科学科目）
生活科学概論 …… 114
生活経営学 …… 114
人間関係論 …… 115
社会福祉論 …… 115

（専門基礎系）
生活化学 …… 136
生活化学実験 …… 136
色彩学 …… 137
ビジュアルデザイン基礎Ⅰ …… 137
ビジュアルデザイン基礎Ⅱ …… 138
テキスタイルサイエンス …… 138
ファッション造形基礎 …… 139

（ライフデザイン系）
生活文化 …… 139
衣生活学 …… 140
生活コロイド学 …… 140
食物と栄養 …… 141
調理学 …… 141
調理実習 …… 142
保育学 …… 114
卒業研究Ａ …… 116

（ビジュアル・ファッションデザイン系）136
ビジュアルデザイン論Ⅰ …… 160
ビジュアルデザイン論Ⅱ …… 173
ビジュアルデザインⅠ …… 186
ビジュアルデザインⅡ …… 196
ファッションデザイン論 …… 203
ファッション造形Ⅰ …… 208
ファッション造形Ⅱ …… 209
ファッションビジネス …… 211
卒業研究Ｂ …… 239

（建築デザイン系）242
住生活学 …… 273
住居史 …… 275
住居・インテリア設計学 …… 150
設計製図Ⅰ …… 150
設計製図Ⅱ …… 151
住居構造学Ⅰ …… 151
住居構造学Ⅱ …… 152
住居環境学 …… 152
住居環境学演習 …… 153
建築材料学 …… 153
建築生産 …… 154
建築法規 …… 154
ＣＡＤ設計 …… 155
建築史 …… 155
ＣＡＤ設計特講 …… 156
設計製図Ⅲ …… 156
設計製図Ⅳ …… 157
空間デザイン論 …… 157
空間デザインⅠ …… 158
空間デザインⅡ …… 158
卒業研究Ｃ …… 159

**【教職に関する科目】**
教職入門 …… 242
教育原理 …… 243
教育心理学 …… 244～245
特別支援教育概論 …… 246
教育行政学概論 …… 247
教育課程論 …… 248～249
家庭科教育法Ⅰ …… 256～257
家庭科教育法Ⅱ …… 258
道徳教育指導論 …… 259
特別活動指導論 …… 261
教育方法学概論 …… 263
生徒指導論 …… 264～265
進路指導論 …… 266
教育相談 …… 267～268
教職実践演習（中）…… 269
教育実習 …… 271

**【司書教諭に関する科目】**
学校経営と学校図書館 …… 273
学習指導と学校図書館 …… 273
読書と豊かな人間性 …… 274
情報メディアの活用 …… 274

# 商経学科　経済専攻


**【教養科目】**

**（人文）**

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3

**（社会）**

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 6

**（自然）**

数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 8
食生活と健康 …… 8

**（総合）**

現代人権論 …… 9
鹿児島学 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10

**（外国語科目）**

英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 30
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
中国語Ⅰ（C）…… 34
中国語Ⅰ（E）…… 35
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（C）…… 38
中国語Ⅱ（E）…… 39
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 41
中国語Ⅳ …… 41

**（スポーツ・健康科目）**

スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（E）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（E）…… 44

**（情報科目）**

情報リテラシーⅠ（E）…… 47
情報リテラシーⅡ（E）…… 50

**【専門科目】**

**（専門基礎科目）**

**〈基礎理論〉**

情報社会論 …… 160
現代社会論 …… 161
社会哲学 …… 161
経済学 …… 162
経済情報論 …… 114
消費者問題 …… 116
行政法 …… 136
経済政策 …… 160
社会政策 …… 173
民法 …… 186
商法 …… 196
産業心理学 …… 203
会計学総論 …… 208
簿記論Ⅰ …… 209
経営学総論 …… 211

**〈情報基礎〉** 239

情報科学概論 …… 242
文書作成実習 …… 273
統計学 …… 275
応用文書処理 …… 170
ＰＣデータ活用 …… 170～171
ＰＣデータ活用実習 …… 171～172
ＰＣアプリケーション実習 …… 172

**（専攻専門科目）**

**〈経済理論〉**

日本経済論 …… 173
財政学 …… 174
農業経済論 …… 175
金融論 …… 175
経済学史 …… 176
経済学特講Ⅰ …… 176
経済学特講Ⅱ …… 177
法学特講 …… 177
簿記論Ⅱ …… 178

**〈国際環境〉**

国際経済論 …… 178
アジア経済論 …… 179
国際関係論 …… 179
比較文化 …… 180
アジア事情 …… 180
ヨーロッパ経済事情 …… 181
国際経済特講Ⅰ …… 181

**〈地域政策〉**

地域経済論 …… 182
地域産業政策 …… 182
地方自治論 …… 183
高齢者福祉 …… 183
労働法 …… 184
地域研究特講 …… 184
地方自治法 …… 185

**〈演習・実習〉**

基礎演習 …… 239～240
演習Ⅰ …… 239～240
演習Ⅱ …… 239～240
卒業研究 …… 239～240
社会活動 …… 241
企業研修 …… 241

## 商経学科　経営情報専攻

**【教養科目】**


（人文）
文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2
かごしまカレッジ教育 …… 3
（社会）
日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 4
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 6
（自然）
数学の世界 …… 6
物理の世界 …… 7
生物の科学 …… 7
化学の世界 …… 8
食生活と健康 …… 8
（総合）
現代人権論 …… 9
鹿児島学 …… 9
かごしま教養プログラム …… 10
かごしまフィールドスクール …… 10
（外国語科目）
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅰ（D）…… 15～16
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅱ（D）…… 20～21
英語Ⅲ（D）…… 23
英語Ⅲ（E）…… 24
英語Ⅲ（F）…… 24
英語Ⅲ（G）…… 25
英語Ⅲ（H）…… 25
英語Ⅳ（C）…… 27
英語Ⅳ（D）…… 27
英語Ⅳ（E）…… 28
英語Ⅳ（F）…… 28
英語Ⅳ（G）…… 29
異文化コミュニケーション（英語）…… 30
異文化コミュニケーション（中国語）…… 30
中国語Ⅰ（D）…… 34
中国語Ⅰ（E）…… 35
中国語Ⅰ（H）…… 36
中国語Ⅱ（D）…… 38
中国語Ⅱ（E）…… 39
中国語Ⅱ（H）…… 40
中国語Ⅲ …… 41
中国語Ⅳ …… 41
（スポーツ・健康科目）
スポーツ・健康論 …… 42
生涯スポーツ実習Ⅰ（F）…… 43
生涯スポーツ実習Ⅱ（F）…… 44
（情報科目）
情報リテラシーⅠ（F）…… 47
情報リテラシーⅡ（F）…… 50


**【専門科目】**


（専門基礎科目）
〈基礎理論〉
情報社会論 …… 160
現代社会論 …… 161
社会哲学 …… 161
経済学 …… 162
経済情報論 …… 114
消費者問題 …… 116
行政法 …… 136
経済政策 …… 160
社会政策 …… 173
民法 …… 186
商法 …… 196
産業心理学 …… 203
会計学総論 …… 208
簿記論Ⅰ …… 209
経営学総論 …… 211
〈情報基礎〉 239
情報科学概論 …… 242
文書作成実習 …… 273
統計学 …… 275
応用文書処理 …… 170
ＰＣデータ活用 …… 170～171
ＰＣデータ活用実習 …… 171～172
ＰＣアプリケーション実習 …… 172
（専攻専門科目）
〈経営理論〉
簿記論Ⅱ …… 186
経営管理論 …… 186
経営組織論 …… 187
管理会計論 …… 187
原価計算 …… 188
国際経営論 …… 188
経営学特講Ⅰ …… 189
〈情報分析〉
比較経営論 …… 189
会計情報論 …… 190
企業行動科学 …… 190
経営戦略論 …… 191
企業論 …… 191
財務会計論 …… 192
マーケティング論 …… 192
〈情報活用〉
経営工学 …… 193
応用データ活用 …… 193
プログラミング …… 194
簿記論Ⅲ …… 194
情報論特講 …… 195
〈演習・実習〉
基礎演習 …… 239～240
演習Ⅰ …… 239～240
演習Ⅱ …… 239～240
卒業研究 …… 239～240
社会活動 …… 241
企業研修 …… 241

## 第二部商経学科


**【教養科目】**

（教養一般）

人間と文化 …… 196
日本の歴史 …… 196
日本文学・古典 …… 197
こころの科学 …… 197
比較文化 …… 198
アジア文化論 …… 198
日本国憲法 …… 199
ライフプランニング …… 199
環境問題 …… 200
かごしまカレッジ教育 …… 200
かごしま教養プログラム …… 201
かごしまフィールドスクール …… 201
キャリアデザイン …… 202

（外国語科目）

英語Ⅰ（A） …… 203
英語Ⅰ（B） …… 203
英語Ⅱ（A） …… 204
英語Ⅱ（B） …… 204
異文化コミュニケーション（英語） …… 205
異文化コミュニケーション（中国語） …… 205
中国語Ⅰ（A） …… 206
中国語Ⅰ（B） …… 206
中国語Ⅱ（A） …… 207
中国語Ⅱ（B） …… 207

（スポーツ・健康科目）

生涯スポーツ実習Ⅰ …… 208
生涯スポーツ実習Ⅱ …… 208

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（A） …… 209
情報リテラシーⅠ（B） …… 209
情報リテラシーⅡ（A） …… 210
情報リテラシーⅡ（B） …… 210

**【専門科目】**

（専門基礎科目）

〈基礎理論〉

情報社会論 …… 211
社会哲学 …… 212
経済学 …… 212
行政法 …… 213
経済政策 …… 213
社会政策 …… 214
民法 …… 214
商法 …… 215
産業心理学 …… 215
会計学総論 …… 216
簿記論Ⅰ …… 216
経営学総論 …… 217

〈情報基礎〉

情報科学概論 …… 217
文書作成実習 …… 218
統計学 …… 218
応用文書処理 …… 219
ＰＣデータ活用 …… 219
ＰＣデータ活用実習 …… 220
ＰＣアプリケーション実習（A） …… 220
ＰＣアプリケーション実習（B） …… 221

（専門応用科目）

〈経済理論〉

日本経済論 …… 221
財政学 …… 222
農業経済論 …… 223
金融論 …… 223
経済学史 …… 224
経済学特講 …… 114

〈地域と国際〉 116

国際経済論 …… 136
アジア経済論 …… 160
国際関係論 …… 173
アジア事情 …… 186
ヨーロッパ経済事情 …… 196
地域経済論 …… 203
地域産業政策 …… 208
地方自治論 …… 209
高齢者福祉 …… 211
労働法 …… 239
国際経済特講 …… 242
地域研究特講 …… 273
地方自治法 …… 275

〈経営理論〉

簿記論Ⅱ …… 231
経営管理論 …… 232
経営組織論 …… 232
管理会計論 …… 233
国際経営論 …… 233

〈情報分析・活用〉

比較経営論 …… 234
会計情報論 …… 234
企業行動科学 …… 235
経営戦略論 …… 235
企業論 …… 236
経営工学 …… 236
応用データ活用 …… 237
プログラミング …… 237
情報論特講 …… 238
マーケティング論 …… 238

〈演習・実習〉

基礎演習 …… 239～240
演習Ⅰ …… 239～240
演習Ⅱ …… 239～240
卒業研究 …… 239～240
社会活動 …… 241
企業研修 …… 241

# １　教養科目（人文，社会，自然，総合）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **文学の世界** | 担当者 | 轟義昭，小林朋子，木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】世界の文学<br>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では，3人の教員がイギリス，アメリカ，日本の3カ国を中心に，時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。<br>【到達目標】様々な作品を読み解き，文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし（プリント資料配付）<br>(2)　ビギナーズクラシックス『古事記』（角川ソフィア文庫）　ビギナーズクラシックス『源氏物語』（角川ソフィア文庫），その他必要に応じて授業時に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション，イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』<br>第　2回　イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』<br>第　3回　イギリス文学：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』<br>第　4回　イギリス文学：ブレイクの詩「無心のまえぶれ」と映画『博士の愛した数式』<br>第　5回　イギリス文学：シェイクスピアの詩（ソネット18番）と映画『恋におちたシェイクスピア』<br>第　6回　17世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード<br>第　7回　18世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』<br>第　8回　19世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス<br>第　9回　20世紀アメリカ文学：人種系文学<br>第10回　20世紀アメリカ文学とその後：自己の探求<br>第11回　奈良時代の日本文学：『古事記』神々と英雄<br>第12回　奈良時代の日本文学：『日本書紀』日本の内と外<br>第13回　平安時代の日本文学：『源氏物語』中国文学との関係<br>第14回　平安時代の日本文学：『源氏物語』女の物語<br>第15回　平安時代の日本文学：『源氏物語』後世への影響 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可） | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポートの提出（70点），および講義に関する毎回の意見・感想等（30点）で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。 | | |

（注）文学科を除く
（注）受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本の歴史** | 担当者 | 非常勤未定 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>【概要】<br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回<br>第　2回<br>第　3回<br>第　4回<br>第　5回<br>第　6回<br>第　7回<br>第　8回<br>第　9回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |

（注）受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **こころの科学** | 担当者 | 安部　幸志 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】科学としての心理学について理解し、その方法論や学問的展開について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、特に思春期・青年心理学や成人期以降の発達に関する学びを深めることを目指す。<br>【概要】本講義では科学としての心理学を体系的に理解するという観点から、心理学実験、心理学調査法、心理統計法などの実証的手法についても積極的に取り上げる。高度な数学的素養は必要ないが、講義内で電卓などを用いた計算作業を実施する予定である。また、グループワークを積極的に取り入れた授業を展開するため、ある程度の対人コミュニケーション能力が求められる。<br>【到達目標】①現在社会におけるこころの問題を理解するために、科学としての心理学の知識の習得を目標とする。<br>②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する対処法を身に付ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　毎時プリントによる資料を配布します。<br>(2)　①鹿取 廣人他著『心理学　第5版』東京大学出版会，2015年　②サトウ タツヤ ・渡邊 芳之著『心理学・入門―心理学はこんなに面白い』有斐閣，2011年　③長谷川 寿一他著『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣，2008年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　心理学とは：心理学の歴史<br>第　3回　こころの進化：動物にもこころはあるか<br>第　4回　こころの発達：赤ちゃんの心理<br>第　5回　こころの発達：思春期・青年期の心理<br>第　6回　こころの発達：中年期と女性の心理<br>第　7回　こころの発達：老年期の心理<br>第　8回　性格：血液型と認知バイアス<br>第　9回　知能：頭が良いのは遺伝か環境か　感覚・知覚<br>第10回　感覚・知覚<br>第11回　記憶の不思議<br>第12回　災害と心理<br>第13回　社会の中の人とこころ<br>第14回　心理療法<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業内課題（20%）、グループワーク（20%）、試験（60%） | | |

（注）受講生が140人を超えた場合は人数を制限することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **芸術論** | 担当者 | 北　一浩 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。<br>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート（造形芸術）を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。<br>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。<br>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　現代アートとは？　西洋美術史、現代アート、ルネサンス<br>第　3回　伝統と違うから興味ない？　アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、<br>第　4回　美しいとは思えないのだけれど？　パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち<br>第　5回　何が描いてあるかわからない　ワシリー・カンディンスキー、コンポジションⅣ<br>第　6回　上手だとは思えないのだけれど？　エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン<br>第　7回　これがアートといえるの？　マルセル・デュシャン、泉<br>第　8回　そんなに値打ちがあるものなの？　ピエト・モンドリアン、コンポジションⅢ<br>第　9回　わかったような、わからないような　ルネ・マグリット、光の帝国<br>第10回　何なのか、意味がわからない　マーク・ロスコ、無題<br>第11回　アートとアートでないものの違いって？　アンディー・ウォーホール、ブリロボックス<br>第12回　許せる？許せない？　リチャード・セラ、傾いた狐<br>第13回　きれいなのに汚い？　アンドレス。セラーノ、ピス・クライスト<br>第14回　名作はあなたが見つけるもの　菅亮平、an actor<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 毎講義ごとのレポート（50%）　講義内で行うワーク（50%） | | |

（注）受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | かごしまカレッジ教育 | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する。<br><br>【概要】「書く力」では，レポートの構成要素と表現を知り，データ・資料に基づいた論証型のレポートを作成する力を，「話す力」では，少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。<br>【到達目標】 (1) 「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方･聞き方を学び，実際の話し合いの場で実践できる。<br>(2) グループの話し合いの結果を，簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。<br>(3) レポートの構成要素を理解し，組み立てにそって論理的なレポートが書ける。<br>(4) レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し，レポートの中で使うことができる。<br>(5) 事実と意見を区別し，データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社<br>(2) 国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 導入：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，各自自己紹介<br>第 2回 地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く<br>第 3回 漢字：地図の解答確認，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題<br>第 4回 ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で<br>第 5回 調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査<br>第 6回 調査開始 ：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告<br>第 7回 調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告<br>第 8回 図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方<br>第 9回 ポスター作成：発表用資料を模造紙に<br>第 10 回 中間報告：口頭発表と質疑<br>第 11 回 レポート：文型・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成<br>第 12 回 レポート：第 1 回提出<br>第 13 回 レポート：わかりやすく書くには<br>第 14 回 レポート：補充調査<br>第 15 回 レポート：第 2 回提出とまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ネット調査，図書館調査，ポスター作成など，毎回授業のなかで指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題レポートの成績(50%)＋中間報告の口頭発表(30%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%) | | |

（注）受講者数は 30 名が上限。希望者多数で抽選となる場合は，「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本国憲法 | 担当者 | 山本 敬生 |
| | 〔履修年次〕 1，2 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。<br>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。<br>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリント<br>(2) 山下友信他編，『ポケット六法（平成 30 年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 日本国憲法の意義 ・立憲主義，民主主義，自由主義，法の支配の理念について<br>第 2回 憲法概論 ・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念について<br>第 3回 基本権総論 ・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論について<br>第 4回 包括的権利・参政権 ・幸福追求権，プライバシーの権利，法の下の平等，選挙に関する憲法原則について<br>第 5回 精神的自由権(1) ・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則について<br>第 6回 精神的自由権(2) ・表現の自由，検閲の禁止，知る権利，学問の自由，教育の自由について<br>第 7回 経済的自由権 ・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権について<br>第 8回 受益権 ・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権について<br>第 9回 社会権 ・生存権，環境権，教育を受ける権利，労働基本権について<br>第 10 回 国会(1) ・国権の最高機関の意味，唯一の立法機関の意味，衆議院の優越について<br>第 11 回 国会(2) ・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能について<br>第 12 回 内閣 ・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任について<br>第 13 回 裁判所 ・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制について<br>第 14 回 財政 ・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，公金支出の禁止について<br>第 15 回 憲法改正 ・憲法改正の手続，憲法改正の限界について | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

（注）受講者が 100 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **法学概論** | 担当者 | 疋田京子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　法学入門<br>生まれてから死ぬまでの間、日々の生活の中で経験する可能性のある法律について、概観します。<br>【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺もあるように、中立性・客観性・合理性を追求する法は、日常の感覚からすると何かよそよそしいもののように感じるかもしれません。しかし、法律は私たちの日常に深くかかわっています。<br>【到達目標】様々な角度から法の事象に触れることによって、日常生活の中にある出来事にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨く。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　森本直子・織原保尚編『法学ダイアリー』（ナカニシヤ出版）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：法の世界のプロローグ<br>第　2回　人生初期の法（1）　法的な意味での人の始期と終期<br>第　3回　人生初期の法（2）法律の中の「子ども」<br>第　4回　人生初期の法（3）子どもをとりまく社会環境<br>第　5回　人生中期の法（1）国民主権と民主主義<br>第　6回　人生中期の法（2）私たちと裁判―法が在ること、法が実現されることは違う<br>第　7回　人生中期の法（3）消費生活と法：契約の成立から終了まで<br>第　8回　人生中期の法（4）職業生活と法：労働法の基本と多様な働き方<br>第　9回　人生中期の法（5）パートナーシップと法<br>第10回　人生中期の法（6）事故と法：不法行為法の基本<br>第11回　人生中期の法（7）犯罪と法：刑法とは何か<br>第12回　人生終期の法（1）高齢化と法：社会保障、成年後見制度、<br>第13回　人生終期の法（2）終末期と法：安楽死・尊厳死・脳死と臓器移植<br>第14回　発展的課題と法：グローバル化と法<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 今年はテキストを指定するので、事前・事後に該当箇所を読むなどしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（１００％） | | |

（注）受講生が70人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会学** | 担当者 | 西原　誠司 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール・Lineで連絡。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Love　&　Peace の社会学――ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する。<br>【概要】ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、シリア内戦、イスラム国の台頭、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義ではこのような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明しその解決の方向性を探る。<br>【到達目標】世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、２０１５年）<br>(2)　池田香代子&マガジンハウス『世界がもし１００人の村だったら　２　』（マガジンハウス，２００２年６月） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに――日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える<br>第　2回　ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える<br>第　3回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　①<br>第　4回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　②<br>第　5回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　③<br>第　6回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　④<br>第　7回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　⑤<br>第　8回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　①<br>第　9回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　②<br>第10回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　③<br>第11回　EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　①<br>第12回　EU加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　②<br>第13回　「イスラム国」／ウクライナ／アフリカの部族紛争<br>第14回　非暴力主義の系譜と世界平和――ガンジー／キング牧師／チャップリン／ネルソンマンデラ／ジョンレノン<br>第15回　おわりに――東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出50%）および筆記試験（50%）。 | | |

（注）受講生が90人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活と経済** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の味方の基礎を学んでいきます。<br>【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第2回）。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第3～6回）。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第7～10回）。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第11～14回）。<br>【到達目標】経済は社会の基礎であるために、そこが揺らぐと個人の暮らしや社会の不安定化にもつながります。経済問題をいち早く認識し、解決するための力を受講者が身につけられるようにします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　講義時に提示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　人間社会と経済の発展<br>第　3回　生産と消費（1）ものづくり<br>第　4回　生産と消費（2）サービス<br>第　5回　生産と消費（3）流通<br>第　6回　生産と消費（4）消費生活の多様化<br>第　7回　労働と賃金（1）賃金とは何か<br>第　8回　労働と賃金（2）働きすぎの日本社会<br>第　9回　労働と賃金（3）失業、不安定就労、貧困問題<br>第10回　労働と賃金（4）人間らしい労働への取り組み<br>第11回　税と社会保障（1）日本における税負担の構造<br>第12回　税と社会保障（2）税制度の公平性<br>第13回　税と社会保障（3）社会保障制度の役割<br>第14回　税と社会保障（4）日本における社会保障の貧困<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%） | | |

（注）商経学科を除く
（注）受講生が50人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | キャリアデザイン | 担当者 | 担当教員 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 〔学期〕 | 通年 |
| | 〔単位〕　1 | 〔必修／選択〕 | 選択　〔授業形態〕　講義 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】１年生が就職活動を始める前に，卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。<br>【概要】キャリアデザインの授業内容に学生課で行ってきた就活サポートを取り込み，一体的に進路選択，就職活動の進め方などを学習する。「労働・ライフデザイン」，「働く意味を考える」，「進路のイメージの具体化」，「就活パネルディスカッション」など８回の講義をとおして，社会の中で働くことの意味，就職活動の実践的な進め方，学生課の就職支援など学生の進路選択及び就職活動に資する。進路については主な業界だけでなく，編入，公務員，教員及び栄養士それぞれの進路のイメージを具体化することで，間近に迫った進路選択に学生が不安なく臨めるよう必要な事項を学習する。併せて，将来のキャリア形成に有用な事項についても学習する。<br>【到達目標】８回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | ◆７月２４日（水）３限，４限<br>第１回　労働・ライフデザイン<br>第２回　働く意味を考える<br>◆９月１８日（水）及び２０日（金）午後<br>第３回　「ワークショップ」（４グループに分ける）<br>◆特設時間を利用した学生課主催のキャリアサポートのいずれかに参加する。<br>第４回　**＊最低１つに参加する。すべてに参加してもよい（レポートに記載可。ただし，１回分とする）。**<br>・「公務員・教員受験説明会」（１０月９日（水））<br>・「編入学受験説明会」（１０月２３日（水））<br>・「就職活動説明会」（１２月４日（水）第一部）（１２月６日（金）第二部）<br>◆１２月１０日（火）４限，５限<br>第５回　進路のイメージの具体化Ⅰ<br>**「販売業の仕事」，「金融関係の仕事」，「製造業の仕事」，「栄養士の仕事」（いずれか一つに参加）**<br>第６回　進路のイメージの具体化Ⅱ<br>**「情報関連の仕事」，「教職に関する仕事」，「医療事務に関する仕事」，「福祉に関する仕事」（いずれか一つに参加）**<br>◆１月２２日（水）　（特設時間を利用）<br>第７回　「就活パネルディスカッション」<br>◆１月２９日（水）　（特設時間を利用）<br>第８回　「就職活動を始めよう」<br>※2019 年度の講師については適宜掲示する。 | | |
| 成績評価の方法 | ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 数学の世界 | 担当者 | 和田　信哉 |
| | 〔履修年次〕　1，２年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時及びメールによる（アドレスは講義中に告知） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2 | 〔必修／選択〕 | 選択（注）　〔授業形態〕　講義 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>数学を愉しむ<br>【概要】<br>小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し，数学のよさや美しさなどを実感することによって，数学を愉しむことを目的とする。<br>【到達目標】<br>・基礎的な数学的知識を理解する。<br>・数学的に考えることを愉しむことができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　講義中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　n 進法<br>第　3回　九九表<br>第　4回　ロッカー問題<br>第　5回　ハノイの塔<br>第　6回　黄金比<br>第　7回　敷き詰め<br>第　8回　はと目返し<br>第　9回　ポリオミノ<br>第 10 回　正三角形を折る<br>第 11 回　一裁ち折り紙<br>第 12 回　一筆書き<br>第 13 回　結び目<br>第 14 回　問題をつくろう<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（60%）＋　授業ごとに実施する小テスト（40%） | | |

（注）受講生が４５人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **物理の世界** | 担当者 | 藤井　伸平 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。<br>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが，きれいな色がついていたことを覚えていますか?　覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか?　このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。<br>【到達目標】物理学を身近に感じる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし（適宜プリントを配布）<br>(2)　適宜授業中に紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の概要、基本的な量について<br>第　2回　身近な現象 ・・・大気圧を感じる<br>第　3回　身近な現象 ・・・地球の大きさ・丸さを感じる<br>第　4回　身近な現象 ・・・まさつを感じる<br>第　5回　身近な現象 ・・・水の特異な性質について<br>第　6回　身近な現象 ・・・ろうそくの炎について<br>第　7回　力学・・・釣り合いとてこの原理を感じる<br>第　8回　力学・・・無重量状態を感じる<br>第　9回　力学・・・慣性を感じる<br>第10回　熱学・・・断熱膨張を感じる<br>第11回　熱学・・・気化熱を感じる<br>第12回　電磁気学・・・分極を感じる<br>第13回　電磁気学・・・磁場を感じる<br>第14回　振動・波動・・・光の屈折を感じる<br>第15回　まとめ<br>（理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | (A)授業ごとの小レポート（50%）、(B)課題レポート（50%）。（詳細については第１回目の講義で説明します。） | | |

（注）受講生が８０人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生物の科学** | 担当者 | 塔筋　弘章 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】細胞・遺伝・進化<br>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。<br>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。<br>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　適宜指示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　生物の基本構造：化学成分と細胞<br>第　2回　代謝：エネルギー産生のしくみ<br>第　3回　DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節<br>第　4回　バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素<br>第　5回　細胞分裂（1）：細胞分裂と細胞周期<br>第　6回　細胞分裂（2）：減数分裂と受精、発生<br>第　7回　遺伝の基礎：メンデルの法則<br>第　8回　染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図<br>第　9回　突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん<br>第10回　環境ホルモン：内分泌攪乱因子と遺伝子の発現<br>第11回　進化論：ラマルクとダーウィン<br>第12回　生物の進化（1）：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ<br>第13回　生物の進化（2）：動物の進化<br>第14回　生物の進化（3）：恐竜から鳥へ<br>第15回　生物の進化（4）：猿人からヒトへ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

（注）生活科学科食物栄養専攻を除く
（注）受講生が４０人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **化学の世界** | 担当者 | 井余田　秀美・木下　朋美 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】身近なものや現象を通して，私たちの生活の中で，化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。<br>【概要】物質の科学である化学は，自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により，私たちの暮らしを豊かにしている。一方で，化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており，化学を学ぶことは，身の回りの物質についての知識を得，理解を深めるだけでなく，私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から，身の回りの物質や現象，茶の化学について，講義を行う。（第1~6回：井余田，第7~15回：木下　担当）<br>【到達目標】化学的視点から，課題を探求し，解決していくための基本的な能力を培う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　化学の基礎（化学とは，地球の誕生，自然の恩恵，資源の利用）<br>第　2回　生活の化学1（化学の歴史，物質の成り立ち，状態や性質，化学変化，無機物と有機物）<br>第　3回　生活の化学2（1日の生活，衣食住，エネルギーと資源）<br>第　4回　話題の化学（PM2.5，LED，原子力発電，燃料電池，ノーベル化学賞）<br>第　5回　鹿児島と化学（火山と火山灰やシラス，温泉と湧水，サツマイモと焼酎，薩摩切子，大島紬）<br>第　6回　洗剤・洗濯の化学（界面活性剤，洗浄作用，シャボン玉と研究）<br>第　7回　様々な茶を生み出した歴史　鹿児島と茶<br>第　8回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法ー茶成分（アミノ酸，ポリフェノール，カフェイン等）への影響（1）<br>第　9回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法ー茶成分（アミノ酸，ポリフェノール，カフェイン等）への影響（2）<br>第10回　緑茶に付加価値をつける　流通と仕上げ加工（ブレンド・火入れ）-アミノカルボニル反応<br>第11回　緑茶の味は淹れ方次第　溶出成分の特徴（急須とペットボトル）-茶成分の品質への影響<br>第12回　緑茶の味は淹れ方次第　溶出成分の特徴（実習）<br>第13回　紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール，香気成分等<br>第14回　味をも作り出す　香りの特性と役割 - 香気成分と受容体<br>第15回　茶の品質を見極める　官能検査と化学分析 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視する。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%） | | |

（注）生活科学科生活科学専攻を除く

（注）受講登録が50人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食生活と健康** | 担当者 | 中熊美和・亀井勇統・多田司・木下朋美 |
| | 〔履修年次〕　1.2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 担当ごとに適宜対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>健康な食生活を送るためにはどうしたらよいのか。<br>【概要】<br>バランスの取れた栄養、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。<br>【到達目標】<br>健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)プリント<br>(2)適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　健康な食生活：健康とは何か？（中熊）<br>第　2回　健康な食生活：食品の特性（木下）<br>第　3回　健康な食生活：食の安全（木下）<br>第　4回　健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方1(多田)<br>第　5回　健康・栄養情報：メディア情報とのつきあい方2(多田)<br>第　6回　食物と生活：食物の機能性（亀井）<br>第　7回　食物と生活：食物の機能性試験の方法（亀井）<br>第　8回　食物と生活：特定保健用食品の開発（亀井）<br>第　9回　健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性（中熊）<br>第10回　健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法（中熊）<br>第11回　健康な食生活：ダイエット（中熊）<br>第12回　健康な生活習慣：運動・睡眠・休養（中熊）<br>第13回　健康な生活習慣：生活習慣病（中熊）<br>第14回　健康な食生活：食のおいしさ・食文化（中熊）<br>第15回　まとめ：健康な食生活とは（中熊） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | プリントや参考文献にて学習する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとのレポート及び小テスト（70%）、授業態度（30%）を基準に総合的に評価する。<br>担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。 | | |

（注）受講生が110人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **平和論（隔年開講）** | 担当者 | 福田忠弘、杉原洋、疋田京子、船津潤 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】テーマは、国際社会や日本国内で生起した諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。<br>【概要】平和論で取り上げるテーマは、国家間の戦争、貧困問題、人権問題、女性への暴力、環境問題など、多岐にわたるが、本講義では（1）暴力の様々な形態および武器規制について、（2）スリランカを事例にした国家建設の光と影、（3）マスメディアと平和、4）アジア・太平洋戦争中に鹿児島が受けた被害などについて、それぞれの講師が講義を行う。<br><br>【到達目標】平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人間が自由にその能力を発揮できる状態を指すことを理解できることを到達目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　平和論の方法：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田）<br>第　2回　暴力の多様性（1）：暴力という概念について（福田）<br>第　3回　暴力の多様性（2）：国際社会における紛争について（福田）<br>第　4回　武器の規制：地雷およびクラスター爆弾（福田）<br>第　5回　スリランカの民族紛争(1)：その国内的・国際的背景について（船津）<br>第　6回　スリランカの民族紛争(2)：国際的な動向を踏まえた歴史的推移について（船津）<br>第　7回　戦時下の性暴力：戦時下の性暴力不処罰の歴史（疋田）<br>第　8回　戦争と女性：総力戦体制下における女性の動員（疋田）<br>第　9回　日本国憲法「平和主義」の歴史的意味：憲法9条と24条（疋田）<br>第10回　アジア・太平洋戦争と歩兵第４５連隊①　日露戦争、第２次山東出兵（杉原）<br>第11回　アジア・太平洋戦争と歩兵第４５連隊②　満州事変後の大陸出兵（杉原）<br>第12回　アジア・太平洋戦争と歩兵第４５連隊③　日中戦争での上海・南京攻撃からブーゲンビル島へ（杉原）<br>第13回　焦土化免れた鹿児島・米軍の行った無差別爆撃（杉原）<br>第14回　戦争とマスメディア・何を学べばいいか（杉原）<br>第15回　まとめ：平和の多様性について（福田） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 学期末に行う試験（100%）によって評価する | | |

（注）受講生が80人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **環境問題（隔年開講）** | 担当者 | 相場慎一郎・井余田秀美・野呂忠秀・岡村雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】環境問題を様々な角度から考える<br><br>【概要】化学(井余田)，陸（相場），海（野呂），経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える<br><br>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。<br>(2)　國部克彦（編集），神戸CSR研究会（編集）『CSRの基礎』，中央経済社。<br>國部克彦，伊坪徳宏，水口剛『環境経営・会計』，有斐閣。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等<br>第　2回　環境保護行政（1）世界自然遺産と保護地域制度<br>第　3回　環境保護行政（2）希少種の保護と外来種問題<br>第　4回　化学（1）：生活環境と公害<br>第　5回　化学（2）：地球環境汚染<br>第　6回　化学（3）：環境に配慮した生活<br>第　7回　陸（1）：人類の進化<br>第　8回　陸（2）環境問題の歴史<br>第　9回　陸（3）植物と土壌<br>第10回　海（1）：海洋生態学と環境保全<br>第11回　海（2）：赤潮<br>第12回　海（3）：磯焼け<br>第13回　経済社会（1）：企業のグローバル化とその影響（1）<br>第14回　経済社会（2）：企業のグローバル化とその影響（2）<br>第15回　経済社会（3）：企業と公害 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 20点満点（講師一人あたり）×5 | | |

（注）受講生が80人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | かごしま教養プログラム | 担当者 | 県内８大学の担当教員 |
| | 〔履修年次〕　１年<br>〔単位〕　２ | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 前期集中<br>選択（注）　〔授業形態〕　講義 |
| | 【概要】この講義では，鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた，鹿児島を素材にした授業を持ち寄り，「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき，リベラルアーツ教育を行います。３日間の夏期集中授業で，講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ，学生間でよく話し合い，切磋琢磨しながら学習します。<br><br>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化，自然，社会，産業などのテーマについて，内容をよく理解し，自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。<br>②グループ学習により，テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い，グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ，それを適切に発表できる。<br>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について，受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　未定 | | |
| 授業スケジュール | 第　１回　平成３０年度実施概要（平成３１年度については未定。若干の変更の予定があります。）<br><br>日程　：　平成３０年８月２２日（水）～２４日（金）<br>場所　：　鹿児島大学<br>定員　：　県内８大学等の学生　１５０人程度 | | |
| 成績評価の方法 | 未定 | | |

（注）「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」（日本語日本文学専攻のみ）の履修が条件となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | かごしまフィールドスクール | 担当者 | 県内１１大学の担当教員 |
| | 〔履修年次〕　１年<br>〔単位〕　２ | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 前期集中<br>選択（注）　〔授業形態〕　実習 |
| | 【概要】地場産業，農業，商業，文化，観光，環境，暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし，そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし，今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し，今後，地域を活性化していくための方策について考察し，若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。<br>この活動により，鹿児島の本質と問題点を理解し，国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ，あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には，実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し，考察・<br>討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに，発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより，日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。<br><br>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して，同地区の住民生活，商業活動，文化活動等の特徴を把握し，選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。<br>②同地区等のさらなる活性化のために，今後どのような展望が望ましいか，どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え，グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。<br>③実地調査，討論，発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。<br>テーマ別に編成されたグループにおいて，これらの３つの学習目標を達成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　未定 | | |
| 授業スケジュール | 第　１回　平成３０年度実施概要（平成３１年度は未定。若干の変更の予定があります。）<br><br>日程・場所：　①平成３０年８月２８日（火）～３０日（木）　２泊３日<br>霧島市牧園地区<br>②平成３０年８月２５日（土）～２８日（火）　４日間<br>鹿児島市，いちき串木野市，薩摩川内市，出水市，姶良市<br>③平成３０年８月２７日（月）～３０日（木）　３泊４日<br>南さつま市大浦町<br><br>定員　：　県内８大学等の学生　６０人程度 | | |
| 成績評価の方法 | 未定 | | |

（注）「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会活動** | 担当者 | 担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　年次指定なし<br>〔単位〕　2 | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 通年<br>選択（注）　〔授業形態〕　実習 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。<br><br>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。<br>具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。<br><br>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定（事前指導のなかで指示する）<br>(2)　未定（事前指導のなかで指示する） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。<br>研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。<br>事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%) | | |

（注）商経学科を除く

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業研修** | 担当者 | 担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　1年<br>〔単位〕　2 | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 通年<br>選択（注）　〔授業形態〕　実習 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。<br><br>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。<br>具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。<br><br>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定（事前指導のなかで指示する）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。<br>研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。<br>事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%) | | |

（注）商経学科を除く

# ２　教養科目（外国語科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(A) | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。<br><br>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。<br><br>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』　成美堂 刊<br>(2)　授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション<br>第 2回　Please to meet you. ＜be 動詞＞<br>第 3回　Do you remember me? ＜一般動詞（現在）＞<br>第 4回　I spoke to Ms. Hayashi yesterday. ＜一般動詞（過去）＞<br>第 5回　When does the meeting start? ＜疑問詞＞<br>第 6回　Can you meet me at the airport? ＜助動詞１＞<br>第 7回　Feel free to ask me anytime. ＜文の種類、命令文＞<br>第 8回　I'm thinking about quitting my job. ＜進行形＞<br>第 9回　I'll give her your message. ＜未来形＞<br>第 10 回　I haven't received the latest figures. ＜現在完了形＞<br>第 11 回　The cafeteria is closed today. ＜受動態＞<br>第 12 回　We expect higher sales in China. ＜比較＞<br>第 13 回　I'd like to check in. ＜助動詞２＞<br>第 14 回　How about going to the theater? ＜動名詞＞<br>第 15 回　I like to travel a lot. ＜to 不定詞＞ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）、提出物（10%）、授業への取組み態度（20%）で評価する。 | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(A) | 担当者 | 新福　豊実 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。<br><br>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。<br><br>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Marc Helgesen et al.『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman<br>(2)　授業時に適宜指示する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)<br>第 2回　Meeting people/introducing yourself. (Unit 1)<br>第 3回　Describing people – personality and character (Unit 2)<br>第 4回　Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3)<br>第 5回　Stating locations - describing differences between two places (Unit 4)<br>第 6回　Giving directions – following map directions (Unit 5)<br>第 7回　Describing personal experiences (Unit 6)<br>第 8回　Review/reflection/feedback<br>第 9回　Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7)<br>第 10 回　Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8)<br>第 11 回　Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9)<br>第 12 回　Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)<br>第 13 回　Describing processes – food and cooking (Unit 11)<br>第 14 回　Music – Giving opinions about music (Unit 12)<br>第 15 回　Review/reflection/feedback | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎時、具体的に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（40%）小テスト・復習テスト（30%）課題（20%）ポートフォリオ（10%） | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(B) | 担当者 | あべ松　伸二 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。<br><br>【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。　またロールプレイを通してスピーキング力を高める。<br><br>【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　金子光茂，Richard H. Simpson　『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED 』 南雲堂<br>(2)　随時プリント資料 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション　／Booking Accommodation　（宿泊の予約）<br>第　2回　Booking Accommodation　（宿泊の予約）<br>第　3回　Taking Photos　(写真を撮る)<br>第　4回　At a Restaurant　（レストランで）<br>第　5回　Let's Stay Healthy　（健康や体調）<br>第　6回　まとめ（重要語彙，有用表現など）<br>第　7回　Television　（テレビ）<br>第　8回　Sports　（スポーツ）　〃<br>第　9回　Confirmation（確認する）<br>第10回　Taking a Taxi　（タクシーに乗る）<br>第11回　まとめ（重要語彙，有用表現など）<br>第12回　On the Plane　（機内で）<br>第13回　Meeting at the Airport　（空港での出迎え）<br>第14回　〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験( 70% ) ＋ 提出物等( 30% ) | | |

（注）教職必修，生活科学専攻


| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(B) | 担当者 | あべ松　伸二 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。<br><br>【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。　またロールプレイを通してスピーキング力を高める。<br><br>【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　金子光茂，Richard H. Simpson　『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED 』 南雲堂<br>(2)　随時プリント資料 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション　／Booking Accommodation　（宿泊の予約）<br>第　2回　Booking Accommodation　（宿泊の予約）<br>第　3回　Taking Photos　(写真を撮る)<br>第　4回　At a Restaurant　（レストランで）<br>第　5回　Let's Stay Healthy　（健康や体調）<br>第　6回　まとめ（重要語彙，有用表現など）<br>第　7回　Television　（テレビ）<br>第　8回　Sports　（スポーツ）　〃<br>第　9回　Confirmation（確認する）<br>第10回　Taking a Taxi　（タクシーに乗る）<br>第11回　まとめ（重要語彙，有用表現など）<br>第12回　On the Plane　（機内で）<br>第13回　Meeting at the Airport　（空港での出迎え）<br>第14回　〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験( 70% ) ＋ 提出物等( 30% ) | | |

（注）教職必修，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ（C） | 担当者 | 新福　豊実 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。<br><br>【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。<br><br>【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Marc Helgesen et al.『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman<br>(2)　授業時に適宜指示する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)<br>第　2回　Meeting people/introducing yourself. (Unit 1)<br>第　3回　Describing people – personality and character (Unit 2)<br>第　4回　Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3)<br>第　5回　Stating locations - describing differences between two places (Unit 4)<br>第　6回　Giving directions – following map directions (Unit 5)<br>第　7回　Describing personal experiences (Unit 6)<br>第　8回　Review/reflection/feedback<br>第　9回　Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7)<br>第 10 回　Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8)<br>第 11 回　Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9)<br>第 12 回　Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)<br>第 13 回　Describing processes – food and cooking (Unit 11)<br>第 14 回　Music – Giving opinions about music (Unit 12)<br>第 15 回　Review/reflection/feedback | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎時、具体的に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（40%）小テスト・復習テスト（30%）課題（20%）ポートフォリオ（10%） | | |

（注）教職必修，食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ（C） | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。<br><br>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。<br><br>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊<br>(2)　授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　Please to meet you. ＜be 動詞＞<br>第　3回　Do you remember me? ＜一般動詞（現在）＞<br>第　4回　I spoke to Ms. Hayashi yesterday. ＜一般動詞（過去）＞<br>第　5回　When does the meeting start? ＜疑問詞＞<br>第　6回　Can you meet me at the airport? ＜助動詞１＞<br>第　7回　Feel free to ask me anytime. ＜文の種類、命令文＞<br>第　8回　I'm thinking about quitting my job. ＜進行形＞<br>第　9回　I'll give her your message. ＜未来形＞<br>第 10 回　I haven't received the latest figures. ＜現在完了形＞<br>第 11 回　The cafeteria is closed today. ＜受動態＞<br>第 12 回　We expect higher sales in China. ＜比較＞<br>第 13 回　I'd like to check in. ＜助動詞２＞<br>第 14 回　How about going to the theater? ＜動名詞＞<br>第 15 回　I like to travel a lot. ＜to 不定詞＞ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）、提出物（10%）、授業への取組み態度（20%）で評価する。 | | |

（注）教職必修，食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ（D） | 担当者 | 太田　一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語のリスニングおよびスピーキング等基礎的運用力の発展・充実<br>【概要】<br>(1)オーディオ教材，ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習<br>オーディオやビデオの教材で日常の会話で使用される英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。<br>(2)　シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成<br>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。<br>(3) テキスト付属の CD-ROM での学習<br>【到達目標】日常場面で相手の考えや必要な情報を理解し，自らの意見等の情報を伝えることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　English File（Elementary Student's Book）Christina Lathan-Koenig ほか著（Oxford University Press）<br>*テキストは後期の英語Ⅲでも継続して使用します。<br>(2)　授業中に適宜指示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　シャドーイングなど練習法の解説<br>第　3回　UNIT1 セクション A&B<br>第　4回　UNIT1 セクション C&Practical English<br>第　5回　UNIT2 セクション A&B<br>第　6回　UNIT2 セクション C&Practical English<br>第　7回　UNIT3 セクション A&B<br>第　8回　UNIT3 セクション C&Practical English<br>第　9回　UNIT4 セクション A&B<br>第 10 回　UNIT4 セクション C&Practical English<br>第 11 回　UNIT5 セクション A&B<br>第 12 回　UNIT5 セクション C&Practical English<br>第 13 回　UNIT6 セクション A&B<br>第 14 回　UNIT6 セクション C&Practical English<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎授業後に CD-ROM の練習問題および音読練習を行うこと | | |
| 成績評価の方法 | 授業中に行う複数回の小テスト（100%） | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ（D）月曜３限 | 担当者 | 石原　知英 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解<br>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。<br>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する<br>(2)　適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）<br>第　2回　Informative Presentation 1: 時系列で述べる<br>第　3回　Informative Presentation 2: 場所について述べる<br>第　4回　Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる<br>第　5回　Informative Presentation 4: 分類する<br>第　6回　Informative Presentation 5: 定義する<br>第　7回　Informative Presentation 6: 多角的に説明する<br>第　8回　Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する<br>第　9回　Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する<br>第 10 回　Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する<br>第 11 回　Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する<br>第 12 回　Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる<br>第 13 回　Persuasive Presentation 6: 比較して主張する<br>第 14 回　最終プレゼンテーションの準備<br>第 15 回　最終プレゼンテーションと振り返り | | |
| 授業外学習(予習・復習) | スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習） | | |
| 成績評価の方法 | 授業内課題（小テスト 30%、フィードバックシート 20%）＋期末課題（最終プレゼンテーション 50%） | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語Ⅰ（D） 月曜４限** | 担当者 | 石原　知英 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解<br>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。<br>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する<br>(2)　適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）<br>第　2回　Informative Presentation 1: 時系列で述べる<br>第　3回　Informative Presentation 2: 場所について述べる<br>第　4回　Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる<br>第　5回　Informative Presentation 4: 分類する<br>第　6回　Informative Presentation 5: 定義する<br>第　7回　Informative Presentation 6: 多角的に説明する<br>第　8回　Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する<br>第　9回　Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する<br>第 10 回　Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する<br>第 11 回　Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する<br>第 12 回　Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる<br>第 13 回　Persuasive Presentation 6: 比較して主張する<br>第 14 回　最終プレゼンテーションの準備<br>第 15 回　最終プレゼンテーションと振り返り | | |
| 授業外学習(予習・復習) | スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習） | | |
| 成績評価の方法 | 授業内課題（小テスト 30%、フィードバックシート 20%）＋期末課題（最終プレゼンテーション 50%） | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語Ⅰ（D）** | 担当者 | 土持　かおり |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この授業のテーマは、ナチュラルスピードの英語に慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現や語彙を身につけていくことです。<br>【概要】　授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの口頭練習で、「ナチュラルな英語を聞き取るコツ」、「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。授業の後半では、アメリカ旅行と留学を題材にしたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、日常会話での英語表現や語彙を場面ごとに学習していきます。さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組みます。<br>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とします。 | | |
| (1)テキスト | (1)　Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著，*Viva! San Francisco*　出版社：マクミラン・ランゲージハウス | | |
| 授業スケジュール | ＜毎回、LL 教室を使用します＞<br>第　1回　授業ガイダンス：授業内容と進め方について　/　ナチュラルな英語の特徴と聞き取り<br>第　2回　Do you have a reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現<br>第　3回　Would you like soup or salad?：レストランでのチェックインに使う表現<br>第　4回　Could you repeat that?：道順を尋ねる時に使う表現<br>第　5回　Where's fitting room?：ショッピングに使う表現<br>第　6回　Good to see you!：挨拶に使う表現<br>第　7回　I enjoyed my stay.：ホテルでのチェックアウトに使う表現<br>第　8回　You are one of the family now.：ホームスティ先で使う表現<br>第　9回　I want to help.：申し出る・申し出を受ける表現<br>第 10 回　Would you like to join us?：人を誘う・誘いに応じる表現<br>第 11 回　Let's keep in touch, OK?：別れに使う表現<br>第 12 回　映画を利用したリスニング演習：その（1）<br>第 13 回　映画を利用したリスニング演習：その（2）<br>第 14 回　映画を利用したリスニング演習：その（3）<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 小テストのための復習 | | |
| 成績評価の方法 | 授業フィードバックシート（30%）＋　復習のための小テスト（20%）＋　定期試験(50%) | | |

（注）経済専攻、経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(A) | 担当者 | 霧 島　S. 怜 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation.（正しい理解と意味のあるミニ会話）<br>【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte"（素晴しいローマは一夜にしてならず）というヨロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なポーランド語で大学の講義をした者はいません。 例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉学に極めて効果的です。…では、大生らしく、楽しく勉学に励みましょう!!<br>【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること（詳細は演習の冒頭に説明する)。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)<br>(2)　又、必要に応じて習熟資料を配布する | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。<br>第 2回　U20 Why Learning？　英和訳、読解、聞き取り等<br>第 3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第 4回　U 1 The Guy With Green Hair　英和訳、読解、聞き取り等<br>第 5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第 6回　U 4 Beauty Contest　英和訳、読解、聞き取り等<br>第 7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第 8回　U 5 Who Pays？　英和訳、読解、聞き取り等<br>第 9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第 10 回　U 6 Saying "I love you"　英和訳、読解、聞き取り等<br>第 11 回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第 12 回　U 8 Cyber Love　読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第 13 回　U 11 Pet Peeve　読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第 14 回　U 17 To Have or Not To Have　読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第 15 回　受講生が選択したテーマの学習（例:Mar. Xmas）前期学習のまとめ等<br>★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計 | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(A) | 担当者 | ジョン・トレマーコ |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Everyday Conversation.<br>【概要】This course will build upon the students' previous studies.　They will practice everyday conversation and review the　basic grammar needed to engage in those conversation.<br>【到達目標】To improve students' conversational skills. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　New Connection Book 1, Author: T. Kadoyama et. al　Publisher: Seibido<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations.　（導入ーコースの目標についての説明）<br>第 2回　Unit 1: Roommates<br>第 3回　Unit 2: Checking Out<br>第 4回　Unit 3: Get in Shape<br>第 5回　Unit 4: Money Management<br>第 6回　Supplemental Lesson<br>第 7回　Unit 5: Close Ties<br>第 8回　Unit 6: Time to Celebrate<br>第 9回　Unit 7: Animals in Danger<br>第 10 回　Unit 8: A Fine art<br>第 11 回　Unit 9: Tune In<br>第 12 回　Unit 10: Music to Our Ears<br>第 13 回　Unit 11: Study Abroad<br>第 14 回　Unit 12: Technology and You<br>第 15 回　Course Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Classroom Contribution　20%　Groupwork/Homework 40%　Final Test 40% | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ（B） | 担当者 | Louise Kennedy Nakamura |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.<br>【概要】<br><br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Materials will be supplied by the teacher<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Introduction to the class<br>第　2回　Getting to know the classmates<br>第　3回　Daily　Routines<br>第　4回　Describing　Appearance<br>第　5回　Describing　Appearance<br>第　6回　Clothes / Fashion<br>第　7回　Personality　Traits<br>第　8回　Review<br>第　9回　Making Requests<br>第10回　Hobbies / Interests<br>第11回　Movies<br>第12回　Movies<br>第13回　Travel Plans<br>第14回　Travel Plans<br>第15回　Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites. | | |
| 成績評価の方法 | Grade : test×２＝５０％　Homework, quizzes　and　class participation　＝５０％ | | |

（注）教職必修，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ（B） | 担当者 | Brian Pedersen |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】College English for Japanese learners<br><br>【概　要】By using a student centered oral communication text specifically designed for Japanese learners this class will get students motivated and help them progress where they need it most, listening and speaking.<br><br>【到達目標】<br>A successful outcome for the completion of this course would be for students to overcome any reluctance they might have to use English to communicate in a variety of everyday situations. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Jerry Talandis Jr./Bruno Vannieu 「Conversation in class (third edition)」 Alma Publishing<br>(2)　デイビッド・セイン 「英会話が口からパッと出る」英作文トレーニング　西東社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Classroom language/ Personal information<br>第　2回　Family and home. Describing one's home and community<br>第　3回　Hobbies and preferences. Expressing opinions. Disagreeing politely.<br>第　4回　Times and dates. Discussing schedules.<br>第　5回　Shopping. Working and dealing with large numbers<br>第　6回　Routines. Discussing frequency of activities.<br>第　7回　One's neighborhood. One's family.<br>第　8回　Vacations. Discussing past experiences.<br>第　9回　Locating buildings. Following / giving simple directions<br>第10回　Phone talk. Making requests. Taking leaving phone messages.<br>第11回　Inviting. Accepting and refusing invitations.<br>第12回　Ordering food in a restaurant. Talking about eating habits.<br>第13回　Health　Describing the body. Illness. Offering suggestions.<br>第14回　Speaking naturally.<br>第15回　Final review and oral presentation preparation. | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適時指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 45%　Written work 20％　Final Oral Presentation 35% | | |

（注）教職必修，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(C) | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 1 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.<br><br>【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, using transportation, traveling, shopping, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.<br><br>【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Joan Saslow and Arlen Allen Ascher,「Top Notch 1」(Third Edition) Pearson, 2016 (ISBN: 9780133928938)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 1: Meeting People: Adjectives. Yes/No Questions. Intonation<br>第 2回 Unit 2: Going Out: Prepositions for Time/Place. Confirming Information. Giving Directions<br>第 3回 Unit 3: Family: Simple Present Tense. Similarities and Differences<br>第 4回 Quiz (1) and Discussion<br>第 5回 Unit 4: Food and Restaurants: "There is / There are" for Countable and Non-Countable Nouns). Using "The"<br>第 6回 Unit 5: Technology: Present Continuous. Explaining a Problem. Making Questions<br>第 7回 Unit 6: Health: "Can" and "Have to". Adverbs for Frequency. Third Person Singular<br>第 8回 Quiz (2) and Discussion<br>第 9回 Unit 7: Travel: Simple Past Tense. Descriptive Adjectives. Intensifiers. Regular and Irregular Verbs<br>第 10回 Unit 8: Shopping: Object Pronouns. Comparative Adjectives<br>第 11回 Quiz (3) and Discussion<br>第 12回 Unit 9: Using Transportation: "Should" and "Could". "Be going to" (Future)<br>第 13回 Unit 10: Money and Tips: Superlative Adjectives. Asking for Clarification. "Too" and "Enough".<br>第 14回 Final Exam<br>第 15回 Review and Student / Teacher Consultation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Quizzes 60%, Final Exam 30%, Participation 10% | | |

（注）教職必修，食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(C) | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ Jorge García Arroyo |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | After class and by email |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.<br>【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.<br>【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and useful expressions. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown. *English Firsthand 1*. Fifth Edition., Pearson Education.<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Description of the course. Self"-presentations. Introduction topic: Why do you think English is important?<br>第 2回 Unit 1. Exchange personal information (speaking practice). Review of present simple<br>第 3回 Unit 1. Pair work (speaking practice) Grammar practice exercises. Vocabulary practice exercise.<br>第 4回 Unit 2. Vocabulary building (descriptions). Describing people around you (speaking practice)<br>第 5回 Unit 2. *Guess Who?* (Game based on describing someone famous).) Grammar review: *be vs have.*<br>第 6回 Unit 2. Pair work (speaking practice); Grammar practice. Vocabulary practice.<br>第 7回 Unit 3. Vocabulary building (schedules and routines) Talking about routines (speaking practice)<br>第 8回 Unit 3. Grammar review: adverbs of frequency. Pair work (speaking practice)<br>第 9回 Unit 3. Grammar practice. Vocabulary practice. Expansion activity (*How often do you do…?*)<br>第 10回 Unit 4. Vocabulary building (locations). Describing where are things in room (speaking practice)<br>第 11回 Unit 4. Grammar review: use of prepositions with *there is* and *there are*. Pair work (speaking practice)<br>第 12回 Unit 4. Grammar practice. Vocabulary practice. Expansion activity: a place that is special for you.<br>第 13回 Unit 5. Vocabulary building (directions) Giving directions (speaking practice)<br>第 14回 Unit 5. Grammar review: using *at, to*, *on* and *in* with directions. Pair work (speaking practice)<br>第 15回 Unit 5. Grammar practice. Vocabulary practice. Expansion activity (*The Taxi Driver*) | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Participation in class (35%) Final presentation (65%) | | |

（注）教職必修，食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(D) | 担当者 | Louise Kennedy Nakamura |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills.<br>【概要】<br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Materials will be supplied by the teacher<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Introduction to the class<br>第　2回　Getting to know the classmates<br>第　3回　Daily　Routines<br>第　4回　Describing　Appearance<br>第　5回　Describing　Appearance<br>第　6回　Clothes / Fashion<br>第　7回　Personality　Traits<br>第　8回　Review<br>第　9回　Making Requests<br>第10回　Hobbies / Interests<br>第11回　Movies<br>第12回　Movies<br>第13回　Travel Plans<br>第14回　Travel Plans<br>第15回　Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites. | | |
| 成績評価の方法 | Grade：test×２＝５０％　Homework，quizzes　and　class participation　＝５０％ | | |

（注）教職必修，経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(D) | 担当者 | Brian Pedersen |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Real world conversation<br>【概　要】A grammar based textbook aimed at Japanese college age students of English provides a helpful scaffold toward self-directed learning.<br>【到達目標】A successful outcome for the completion of this course would be for students to improve their conversational level of English and show greater ease and confidence in everyday English speaking situations | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Jerry Talandes Jr /Bruno Vannieu　「Conversation in class (third edition)」Alma Publishing<br>(2)　デイビッド・セイン　「英会話が口からパッと出る」英作文トレーニング　西東社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Getting acquainted<br>第　2回　Part time jobs<br>第　3回　Daily routines<br>第　4回　Spending time<br>第　5回　Hometown attractions<br>第　6回　Where to live in the future.<br>第　7回　Travel experiences<br>第　8回　Planning a trip<br>第　9回　Talking about breaks<br>第10回　Future hobbies<br>第11回　Music<br>第12回　TV, Reading and games<br>第13回　Recent meals<br>第14回　Exotic foods and eating out<br>第15回　Review of lessons and oral presentation practice. | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適時指示 | | |
| 成績評価の方法 | Classroom participation　45% Written work 20%　Final oral presentation 35% | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(D) | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.<br><br>【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, using transportation, traveling, shopping, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.<br><br>【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Joan Saslow and Arlen Allen Ascher,「Top Notch 1」(Third Edition) Pearson, 2016 (ISBN: 9780133928938)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 1: Meeting People: Adjectives. Yes/No Questions. Intonation<br>第 2回 Unit 2: Going Out: Prepositions for Time/Place. Confirming Information. Giving Directions<br>第 3回 Unit 3: Family: Simple Present Tense. Similarities and Differences<br>第 4回 Quiz (1) and Discussion<br>第 5回 Unit 4: Food and Restaurants: "There is / There are" for Countable and Non-Countable Nouns). Using "The"<br>第 6回 Unit 5: Technology: Present Continuous. Explaining a Problem. Making Questions<br>第 7回 Unit 6: Health: "Can" and "Have to". Adverbs for Frequency. Third Person Singular<br>第 8回 Quiz (2) and Discussion<br>第 9回 Unit 7: Travel: Simple Past Tense. Descriptive Adjectives. Intensifiers. Regular and Irregular Verbs<br>第 10回 Unit 8: Shopping: Object Pronouns. Comparative Adjectives<br>第 11回 Quiz (3) and Discussion<br>第 12回 Unit 9: Using Transportation: "Should" and "Could". "Be going to" (Future)<br>第 13回 Unit 10: Money and Tips: Superlative Adjectives. Asking for Clarification. "Too" and "Enough".<br>第 14回 Final Exam<br>第 15回 Review and Student / Teacher Consultation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Quizzes 60%, Final Exam 30%, Participation 10% | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(D) | 担当者 | Andrew Daniels |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions.<br>【概要】Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios.<br>【到達目標】Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Talk Time (Student Book 2) by Susan Stempleski (Oxford University Press)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction of the course and key topics<br>第 2回 Jobs<br>第 3回 Daily Activities<br>第 4回 Weekend Activities<br>第 5回 Music<br>第 6回 Vacations<br>第 7回 Cities<br>第 8回 Review Quiz<br>第 9回 Uniforms<br>第 10回 Clothes<br>第 11回 Fashion<br>第 12回 Cooking<br>第 13回 Places around Town<br>第 14回 Houses<br>第 15回 Pair Practice on key topics<br>第 16回 Final Oral Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30% | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ（A） | 担当者 | Brian Pedersen |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語のコミュニケーション能力を向上する授業<br><br>【概要】前期のつづきで，リスニングとスピーキングの練習を毎週ペアワークで行います<br><br>【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素(speaking, listening, reading, writing ) をスパイラルに取り入れ、コミュニケーション能力を向上すること。. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, *English Firsthand 1, Fifth Edition,* Pearson<br>(2)　David Barker 「An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners」 Back to Basics Press | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　Introduction<br>第 2回　Unit 6-Past Experiences: Vocabulary, Listening, Conversation<br>第 3回　Unit 6-Past Experiences: Pair Practice, Grammar, Pronunciation<br>第 4回　Unit 6-Past Experiences: Unit Quiz & Presentations<br>第 5回　Unit 7-Jobs & Skills: Vocabulary, Listening, Conversation<br>第 6回　Unit 7-Jobs & Skills: Pair Practice, Grammar, Pronunciation<br>第 7回　Unit 7-Jobs & Skills: Unit Quiz & Presentations<br>第 8回　Unit 8-Entertainment & Opinions: Vocabulary, Listening, Conversation<br>第 9回　Unit 8-Entertainment & Opinions: Pair Practice, Grammar, Pronunciation<br>第10回　Unit 8-Entertainment & Opinions: Unit Quiz & Presentations<br>第11回　Unit 9-Future Plans and Activities: Vocabulary, Listening, Conversation<br>第12回　Unit 9-Future Plans and Activities: Pair Practice, Grammar, Pronunciation<br>第13回　Unit 9-Future Plans and Activities: Unit Quiz & Presentations<br>第14回　Unit 10-Shopping: Vocabulary, Listening, Conversation<br>第15回　Unit 10-Shopping: Pair Practice, Grammar, Pronunciation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適時指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での参加の度合（３５%），クイズ・授業での発表・試験（６５%） | | |

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ（B） | 担当者 | Louise Kennedy Nakamura |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.<br><br>【概要】<br><br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Materials will be supplied by the teacher<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　Introduction to the class<br>第 2回　Vacations<br>第 3回　Last Weekend<br>第 4回　Food<br>第 5回　Food<br>第 6回　Jobs<br>第 7回　Jobs<br>第 8回　Review<br>第 9回　Health<br>第10回　Giving Advice<br>第11回　Christmas<br>第12回　Rules / Obligation<br>第13回　Rules / Obligation<br>第14回　Future Plans<br>第15回　Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites | | |
| 成績評価の方法 | Grade : test×2＝50%　Homework, quizzes and class participation ＝50% | | |

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(C) | 担当者 | あべ松　伸二 |
| | 〔履修年次〕1，2年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕後期　〔単位〕1　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】様々な題材の英文を読むことを通じて、日本語訳に頼った英文読解から脱却し、英文そのものを楽しむ力を養う。また、英語を読む際に必要なストラテジーを段階的に身につける。さらに、英文読解の最も基礎的な力である語彙力増強のトレーニングも随時行う。<br>【概要】主に、パラグラフの構造を理解し、英文読解に必要なストラテジーを習得する。また、わからない単語の意味を辞書に頼ることなく文脈や前後関係から推測するなどのスキルを練習する。<br>【到達目標】英文を読む楽しさを味わうことができる。<br>英文のパラグラフ構造を理解し、概要・要点を大まかに把握することができる。<br>わからない単語の意味を、文脈や前後関係から推測するスキルを修得できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　卯城祐司／中川知佳子／Mari Le Pavoux 著 /　*Reader's Ark Basic*　(金星堂)<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション<br>第 2回　Unit 01　Check Your Level: 語彙力・速読力のチェック<br>第 3回　〃<br>第 4回　Unit 02　Experience Pre-Reading Activities: visual aids, title, background information etc.<br>第 5回　〃<br>第 6回　Unit 03　Identifying the Main Idea <1>: topic sentence (top)<br>第 7回　〃<br>第 8回　Unit 04　Identifying the Main Idea <2>: topic sentence (bottom)<br>第 9回　〃<br>第10回　Unit 05　Identifying the Main Idea <3>: topic sentence (middle)<br>第11回　〃<br>第12回　Unit 06　Understanding Supporting Details<br>第13回　Unit 07　Using Signal Words to Predict Ideas <1>: sentence to sentence<br>第14回　Unit 08　Using Signal Words to Predict Ideas <2>: discourse<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（７０％）＋　提出物等( 30% ) | | |

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(D) | 担当者 | 太田　一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　英語のリスニングおよびスピーキング等基礎的運用力の発展・充実<br>【概要】　(1)オーディオ教材，ビデオ教材の視聴による聴き取りの訓練，および会話表現等の学習<br>オーディオやビデオの教材で日常の会話で使用される英語にふれ，英語の音声（プロソディ）に耳をならしてください。リスニングは慣れれば必ず上達します。<br>(2)　シャドーイング，音読による訓練によるスピーキング力の養成<br>モデルの音声のまねをしてくり返し音読することで，英語のリズムを身体で感じてください。ビデオ教材（または副教材）を使って訓練します。自宅での音読練習を自宅学習の課題にします。<br>(3) テキスト付属の CD-ROM での学習<br>【到達目標】　日常場面で相手の考えや必要な情報を理解し，自らの意見等の情報を伝えることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　English File（Elementary Student's Book）Christina Lathan-Koenig ほか著（Oxford University Press）<br>*テキストは前期の英語 I のものを継続して使用します。前期で進んだ箇所以降を学習する予定です。<br>(2)　授業中に適宜指示 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス<br>第 2回　シャドーイングなど練習法の解説<br>第 3回　UNIT7 セクション A&B<br>第 4回　UNIT7 セクション C&Practical English<br>第 5回　UNIT8 セクション A&B<br>第 6回　UNIT8 セクション C&Practical English<br>第 7回　UNIT9 セクション A&B<br>第 8回　UNIT9 セクション C&Practical English<br>第 9回　UNIT10 セクション A&B<br>第10回　UNIT10 セクション C&Practical English<br>第11回　UNIT11 セクション A&B<br>第12回　UNIT11 セクション C&Practical English<br>第13回　UNIT12 セクション A&B<br>第14回　UNIT12 セクション C&Practical English<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎授業後に CD-ROM の練習問題および音読練習を行うこと | | |
| 成績評価の方法 | 授業中に行う複数回の小テスト（100%） | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(E) | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕 1年，2年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.<br>【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.<br>【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, *English Firsthand 1*, Fifth Edition, Pearson<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction to the course.<br>第 2回 Unit 8. Entertainment and opinions. Making plans<br>第 3回 Unit 8. Pair talk. Using verb combinations and factual statements and invitations. Unit review.<br>第 4回 Unit 9. Future plans and activities. Looking forward to summer<br>第 5回 Unit 9. Using the future tense. Unit review<br>第 6回 Unit 10. Shopping. Negotiate prices.<br>第 7回 Unit 10. Pair talk. Using comparatives and intensifiers to describe preferences. Unit review<br>第 8回 Unit 11. Giving instructions. Teaching someone a skill.<br>第 9回 Unit 11. Pair talk. Using imperatives to give instructions and using the past tenses to talk about completed processes. Unit review.<br>第10回 Unit 12. Listen to music. Expressing our thoughts about music (speaking vocabulary).<br>第11回 Unit 12. Pair talk. Differentiate between past and present tenses when giving opinions. Unit review.<br>第12回 Special activity: watching a movie in English. 1<br>第13回 Special activity: watching a movie in English 2.<br>第14回 Discussion about the movie.<br>第15回 Course review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In-class activities (40%); final presentation (60%) | | |

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(F) | 担当者 | Louise Kennedy Nakamura |
| | 〔履修年次〕 1，2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English.<br>【概要】<br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Materials will be supplied by the teacher<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction to the class<br>第 2回 Vacations<br>第 3回 Last Weekend<br>第 4回 Food<br>第 5回 Food<br>第 6回 Jobs<br>第 7回 Jobs<br>第 8回 Review<br>第 9回 Health<br>第10回 Giving Advice<br>第11回 Christmas<br>第12回 Rules / Obligation<br>第13回 Rules / Obligation<br>第14回 Future Plans<br>第15回 Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites | | |
| 成績評価の方法 | Grade : test× ２＝５０％ Homework, quizzes and class participation ＝５０％ | | |

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(G) | 担当者 | John Christopher Foster |
| | 〔履修年次〕 1，2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 | 〔必修／選択〕 選択（注） | 〔授業形態〕 演習 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】流暢な英語で話す<br><br>【概要】Students learn and practice every-day English, and they will share their ideas on a wide range of topics.<br><br>【到達目標】The final goal of the course is to create the proper environment and offer the appropriate knowledge and skills that allow students to increase their English-speaking fluency. Students should finish the course with the ability and confidence to engage in simple conversations on a variety of topics. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | Smart Choice Student Book 1, Oxford, Ken Wilson | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit-1 Introducing yourself<br>第 2回 Unit-2 Talking about personal information<br>第 3回 Unit-3 Talking about likes/dislikes<br>第 4回 Unit-4 Talking about habits and routines<br>第 5回 Unit-5 Describing everyday activities<br>第 6回 Unit-6 Talking about present activities<br>第 7回 Mid-term review/English game<br>第 8回 Speaking Test #1 (Units 1 – 6)<br>第 9回 Unit-7 Making comparisons<br>第 10回 Unit-8 Describing people – personality/appearance<br>第 11回 Unit-9 Describing what activities can be done in places<br>第 12回 Unit-10 Explaining where locations are in space<br>第 13回 Unit-11 Talking about the past<br>第 14回 Unit 12 Talking about future-plans<br>第 15回 Speaking Test #2 (Units 7 – 12)<br>期末試験 Units 1 -12 Speaking | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Mid-term test - 10% Final Exam - 30% Small Speaking Tests – 40% Professionalism in class – 20% | | |

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅲ(H) | 担当者 | 未定 |
| | 〔履修年次〕 1，2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 | 〔必修／選択〕 選択（注） | 〔授業形態〕 演習 |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br><br>【概要】<br><br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | | | |
| 授業スケジュール | 第 1回<br>第 2回<br>第 3回<br>第 4回<br>第 5回<br>第 6回<br>第 7回<br>第 8回<br>第 9回<br>第 10回<br>第 11回<br>第 12回<br>第 13回<br>第 14回<br>第 15回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ（A） | 担当者 | ニコライ・ギュレメトヴ |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中級レベルの英語をつかいながら自分の意見を伝えること。　.<br>Expressing your opinion about different topics in English.<br>【概要】様々なトピックについて考えて、話し合って、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。<br>教科書、映像、プリントなどをつかう。<br>We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions.<br>【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。<br>Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定　（プリントを配布する場合もある）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション・説明　Orientation and　objectives<br>第　2回　クラスワーク　（文法、語彙）　Grammar and vocabulary<br>第　3回　クラスワーク　（発表をする方法）　Making a presentation<br>第　4回　グループワーク 1　Group work, preparation for presentation<br>第　5回　グループ発表 1　First presentation<br>第　6回　クラスワーク　（コミュニケーション力）　Communication skill<br>第　7回　クラスワーク　（ディスカッション力）　Discussion skill<br>第　8回　クラスワーク　（スピーチ力）　Speech skill<br>第　9回　グループワーク 2　Group work, preparation for presentation<br>第 10 回　グループ発表 2　Second presentation<br>第 11 回　クラスワーク　（classmate のインタビュー）　Interview your classmate!<br>第 12 回　クラスワーク　（文法、語彙）　Grammar and vocabulary 2<br>第 13 回　クラスワーク　(聞き取り・読解力)　Listening and Reading skills<br>第 14 回　クラスワーク　（コース復習）　Revision of all topics covered.<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%）＋グループ発表 30＋作文（宿題―10%）を基準に，総合的に評価する。 | | |

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ（B） | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.<br><br>【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for hospitals, emergencies, making plans, discussing world issues etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.<br><br>【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Joan Saslow and Arlen Allen Ascher,「Top Notch 3」(Third Edition) Pearson, 2016 (ISBN: 9780133928211)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Unit 1: Small Talk:　Tag Questions. Past Perfect. Intensifiers<br>第　2回　Unit 2: Health and Illness:　Drawing Conclusions with “Must”. Modals “May” and “Might”<br>第　3回　Unit 3: Getting Things Done:　Causatives. Indicating Acceptance. Expressing Enthusiasm<br>第　4回　Quiz (1) and Discussion<br>第　5回　Unit 4: Reading for Pleasure: Noun Clauses, Embedded Questions, Descriptive Adjectives<br>第　6回　Unit 5: Natural Disasters:　Direct and Indirect Speech. Imperatives. Adjectives of Severity<br>第　7回　Unit 6: Life Plans:　Expressing Intentions. “Was”, “Were going to” and “Would”. Perfect Modals<br>第　8回　Quiz (2) and Discussion<br>第　9回　Unit 7: Holidays and Traditions:　Adjective Clauses. Subject Relative Pronouns. “Who”, “Whom”, and “That”<br>第 10 回　Unit 8: Inventions and Discoveries:　Unreal Conditional. Past Unreal Conditional. Contractions with “ ‘d ”<br>第 11 回　Quiz (3) and Discussion<br>第 12 回　Unit 9: Politics:　Abstract Non-Countable Nouns. Expressing Abstract Ideas.<br>第 13 回　Unit 10: Geography:　Prepositional Phrases. Voiced and Voiceless “th”. Adjectives and Infinitives.<br>第 14 回　Final Exam<br>第 15 回　Review and Student / Teacher Consultation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Quizzes 60%,　Final Exam 30%,　Participation 10% | | |

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ(C) | 担当者 | ジョン・トレマーコ |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば， TOEIC 500～650 英検２級）のコミュニケーション能力の育成にある。<br>【概要】このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。<br>【到達目標】コミュニケーション能力の４つの要素（文法能力，社会言語能力，談話能力，方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) New Connection Book 2, Author: T. Kadoyama et. al Publisher: Seibido<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations.<br>（導入ーコースの目標についての説明）<br>第 2回 Unit 1: Meeting People<br>第 3回 Unit 2: Time to Eat<br>第 4回 Unit 3: Living with Technology<br>第 5回 Unit 4: Shoppong for Chlothes<br>第 6回 Supplemental Lesson<br>第 7回 Unit 5: A Helping Hand at Home<br>第 8回 Unit 6: Going Place<br>第 9回 Unit 7: Not Feeling So Good<br>第 10回 Unit 8: The Big Screen<br>第 11回 Unit 9: How do you feel?<br>第 12回 Unit 10: All in Good Fun<br>第 13回 Unit 11: Game Time<br>第 14回 Unit 12: Rain or Shine<br>第 15回 Course Review<br>The pace and range of topics may well differ from those set above; how much will depend on the characteristics of the class. 授業の進み具合やトピックの順番は、クラスのレベルや態度により、上記の授業計画と多少異なることもある。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40% | | |

（注）経済専攻、経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ(D) | 担当者 | 土持 かおり |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング・スピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。<br>【概要】 授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー）を教材として使用し、毎回、ナチュラルな英語の音声変化の学習の後、ストーリーを楽しみながらリスニング演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに日・英セリフの対比や日本語セリフ作成練習で表現力を高めていきます。また、この授業では、各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「学習の記録」）を毎回作成し、自分の取り組みを振り返りながら自律的に英語学習を進めていきます。<br>【到達目標】日常生活のなじみある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる / 自分の意思で表現できる英語力の習得を目標とします。 | | |
| (1)テキスト | (1) 教師作成のプリントを毎回使用します。 | | |
| 授業スケジュール | ＜毎回、LL 教室を使用します＞<br>第 1回 授業ガイダンス：映画を使った英語学習/ 映画の英語 / 授業内容と進め方について<br>第 2回 The Loft：友人同士の会話（新居）<br>第 3回 Unchained Melody：同僚との会話（オフィス）<br>第 4回 Propose：恋人同士の会話（路上）<br>第 5回 Eternal Good-bye：友人同士の会話（自宅）<br>第 6回 Spiritual Adviser：初対面の相手との会話（自宅）<br>第 7回 The Truth：初対面の相手との会話（カフェ）<br>第 8回 At Molly's Apartment：知人との会話（自宅）<br>第 9回 The Police Station：警察官との会話（警察）<br>第 10回 Rita Miller：顧客との会話（銀行）<br>第 11回 Revenge：友人との会話（自宅）<br>第 12回 The Penny：知人との会話（自宅）<br>第 13回 Re-union：知人との会話（自宅）<br>第 14回 Last Chance：恋人同士の会話<br>第 15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回の予習プリント、小テストのための復習 | | |
| 成績評価の方法 | 学習ファイル（10%）＋ リフレクションシート（30%）＋ 復習のための小テスト（20%）＋ 定期試験（40%） | | |

（注）経済専攻、経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ(E) | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.<br>【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for hospitals, emergencies, making plans, discussing world issues etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.<br>【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Joan Saslow and Arlen Allen Ascher,「Top Notch 3」(Third Edition) Pearson, 2016 (ISBN: 9780133928211)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 1: Small Talk: Tag Questions. Past Perfect. Intensifiers<br>第 2回 Unit 2: Health and Illness: Drawing Conclusions with "Must". Modals "May" and "Might"<br>第 3回 Unit 3: Getting Things Done: Causatives. Indicating Acceptance. Expressing Enthusiasm<br>第 4回 Quiz (1) and Discussion<br>第 5回 Unit 4: Reading for Pleasure: Noun Clauses, Embedded Questions, Descriptive Adjectives<br>第 6回 Unit 5: Natural Disasters: Direct and Indirect Speech. Imperatives. Adjectives of Severity<br>第 7回 Unit 6: Life Plans: Expressing Intentions. "Was", "Were going to" and "Would". Perfect Modals<br>第 8回 Quiz (2) and Discussion<br>第 9回 Unit 7: Holidays and Traditions: Adjective Clauses. Subject Relative Pronouns. "Who", "Whom", and "That"<br>第10回 Unit 8: Inventions and Discoveries: Unreal Conditional. Past Unreal Conditional. Contractions with " 'd "<br>第11回 Quiz (3) and Discussion<br>第12回 Unit 9: Politics: Abstract Non-Countable Nouns. Expressing Abstract Ideas.<br>第13回 Unit 10: Geography: Prepositional Phrases. Voiced and Voiceless "th". Adjectives and Infinitives.<br>第14回 Final Exam<br>第15回 Review and Student / Teacher Consultation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Quizzes 60%, Final Exam 30%, Participation 10% | | |

（注）経済専攻、経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ(F) | 担当者 | 轟 義昭 |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】テーマは，英検２級取得を目指せるように，受講者の語彙力を増やし，英文法を再確認させ，長文読解のコツを身に付けさせて，英語学習への意欲を高める。<br><br>【概 要】授業では，高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回１章ずつ進むので，予習が必要となる。担当者はプリントを用いてヒントを与え，受講者自身に間違った箇所をチェックさせる。その上で解説を試みる（学習意欲を高める工夫）。また，LL 教室を利用し，リスニング問題にも取り組めるようにする。<br><br>【到達目標】英検２級の取得を目指せるような英語力を身に付ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 坂部俊行，岡島徳昭，W.ノエル『英検２級 合格への道』南雲堂<br>適宜，プリントによる問題も配布<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明），プリント学習（受講生のレベルを確認）<br>第 2回 Lesson 1（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択）<br>第 3回 Lesson 2（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第 4回 Lesson 3（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択）<br>第 5回 Lesson 4（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第 6回 Lesson 5（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の応答文選択），小テスト（１回目）<br>第 7回 Lesson 6（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第 8回 Lesson 7（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択）<br>第 9回 Lesson 8（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第10回 Lesson 9（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択），小テスト（２回目）<br>第11回 Lesson 10（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第12回 Lesson 11（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択）<br>第13回 Lesson 12（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択）<br>第14回 実践形式の練習：筆記とリスニング，小テスト（３回目）<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備，復習は小テストの準備 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%），予習を含む授業への取り組み（30%），小テスト（20%） | | |

（注）全専攻の学生が選択可能

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅳ（G） | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】アカデミックなトピックの英語に慣れる。４年生大学編入試験に対応できる英文読解力を養成する。<br><br>【概要】プレゼンテーションや論説記事などを読みながら，構文と論理の組み立てを追いながら，英文を正確に読む練習をする。実用英語技能検定試験２級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。<br>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　*TED* (http://www.ted.com/)，随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　赤ちゃんはなぜ語学の天才と言えるのか？(1)<br>第　3回　赤ちゃんはなぜ語学の天才と言えるのか？ (2)<br>第　4回　赤ちゃんはなぜ語学の天才と言えるのか？ (3)<br>第　5回　ピダハンの子育て(1)<br>第　6回　ピダハンの子育て(2)<br>第　7回　人類の歴史 (1)<br>第　8回　人類の歴史 (2)<br>第　9回　人類の歴史 (3)<br>第 10 回　アメリカ大統領選の討論会に見る性差別(1)<br>第 11 回　アメリカ大統領選の討論会に見る性差別 (2)<br>第 12 回　アメリカ大統領選の討論会に見る性差別 (3)<br>第 13 回　課題の発表<br>第 14 回　課題の発表<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間以上，復習１時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（40%）＋ 課題 (50%)＋ 授業への参加状況（10%） | | |

（注）全専攻の学生が選択できる

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **異文化コミュニケーション（英語）** | 担当者 | 英語担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれでも可 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。<br>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。<br>2018年度の実績<br>日程：９月５日～９月１９日<br>参加者：１６名<br>研修費用：約３５万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の昼食費等）<br>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 事前ガイダンス：<br>特設時間を利用して受講希望者に３～４回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。<br><br>海外研修：<br>9月を予定（約２週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。<br><br>事後指導：帰国後に総括。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）　とハワイでの研修状況（50%）で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **異文化コミュニケーション（中国語）** | 担当者 | 中国語担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれでも可 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。<br>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。<br>中国語を用いて活動するため，あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。<br>※2017年度中国研修の実績<br>・日程：3月3日（土）～14日（水）［12日間］<br>・参加者：12名（日本語日本文学専攻８名，英語英文学専攻１名，経営情報専攻３名）<br>・費用：約13万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など）<br>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | <u>事前指導</u>　受講希望者に3～5回行います。<br>［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明，<br>［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明，<br>［3］課題（レポート作成）の指示などです。<br><u>海外研修</u>　休業期間に約２週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか，さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。<br><u>事後指導</u>　帰国後に総括します。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ドイツ語Ⅰ | 担当者 | 竹内　宏 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。揺れるＥＵの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。<br><br>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。<br>【到達目標】年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　林良子　著『４ステップドイツ語』郁文堂<br>(2)　在間進　他『アクセス独和辞典　第３版』三修社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット<br>第　2回　第１課、アルファベットと読み方・あいさつ<br>第　3回　第１課<br>第　4回　第１課<br>第　5回　第２課　お名前はなんと言いますか<br>第　6回　第２課<br>第　7回　第２課<br>第　8回　第３課　今日時間がありますか<br>第　9回　第３課<br>第10回　第３課<br>第11回　第４課　フランス語を話しますか<br>第12回　第４課<br>第13回　第４課<br>第14回　復習と試験の説明<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | １回の授業につき、予習１時間、復習１時間が必要 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 80%，授業への参加状況 20% | | |

（注）英語英文学専攻のみ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ドイツ語Ⅱ | 担当者 | 竹内　宏 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。揺れるＥＵの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。<br>【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。<br>【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　保坂良子　著『ドイツ・サラダ』朝日出版社<br>(2)　在間進　他『アクセス独和辞典　第３版』三修社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期の復習<br>第　2回　第５課　私は友達と湖に行きます<br>第　3回　第５課<br>第　4回　第５課<br>第　5回　第６課　他に何か御入用ですか<br>第　6回　第６課<br>第　7回　第６課<br>第　8回　第７課　何時にパーティーが始まりますか<br>第　9回　第７課<br>第10回　第７課<br>第11回　第８課　学校ではどうでしたか？<br>第12回　第８課<br>第13回　第８課<br>第14回　復習と試験の説明<br>第15回　まとめと試験 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | １回の授業につき、予習１時間、復習１時間が必要 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 80%，授業への参加状況 20% | | |

（注）英語英文学専攻のみ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | フランス語Ⅰ | 担当者 | 梁川　英俊 |
| | 〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年，生活科学科は２年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】フランス語の基礎を学びます。<br>【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及びます。フランス語はまた国連や EU などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとの共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し， 英語の語彙の 3 分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉 です<br>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で，簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでし ょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！ | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『クロワッサン：　基礎からわかるフランス語』（朝日出版社）<br>(2)　適宜指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業全体の説明，アルファベットの発音など<br>第　2回　Leçon 1<br>第　3回　Leçon 1<br>第　4回　Leçon 2<br>第　5回　Leçon 2<br>第　6回　Leçon 3<br>第　7回　Leçon 3<br>第　8回　Leçon 4<br>第　9回　Leçon 4<br>第 10 回　Leçon 5<br>第 11 回　Leçon 5<br>第 12 回　Leçon 6<br>第 13 回　Leçon 6<br>第 14 回　まとめ　1<br>第 15 回　まとめ　2 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋小テスト（30%） | | |

（注）英語英文学専攻は１年次，生活科学専攻は２年次

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | フランス語Ⅱ | 担当者 | 梁川　英俊 |
| | 〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年，生活科学科は２年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】フランス語の基礎を学びます。<br>【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は 28 カ国に及びます。フランス語はまた国連や EU などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとの共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し， 英語の語彙の 3 分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉 です<br>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で，簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでし ょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！ | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『クロワッサン：　基礎からわかるフランス語』（朝日出版社）<br>(2)　適宜指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Leçon 7<br>第　2回　Leçon 7<br>第　3回　Leçon 8<br>第　4回　Leçon 8<br>第　5回　Leçon 9<br>第　6回　Leçon 9<br>第　7回　Leçon 10<br>第　8回　Leçon 10<br>第　9回　Leçon 11<br>第 10 回　Leçon 11<br>第 11 回　Leçon 12<br>第 12 回　Leçon 12<br>第 13 回　まとめ 1<br>第 14 回　まとめ 2<br>第 15 回　まとめ 3 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋小テスト（30%） | | |

（注）英語英文学専攻は１年次，生活科学専攻は２年次

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ（A） | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>中国語に親しむ。<br>【概要】<br>この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。<br>【到達目標】<br>中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・張国璐『いま始めよう！アクティブラーニング』朝日出版社<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習<br>第　2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習<br>第　3回　発音（2）：複母音の導入，練習<br>第　4回　発音（3）：子音の導入，練習<br>第　5回　発音（4）：子音の練習、発音のまとめ<br>第　6回　動詞是の使い方<br>第　7回　姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方<br>第　8回　これまでの復習<br>第　9回　動詞文の導入と練習<br>第10回　動詞文の練習、疑問文の練習<br>第11回　二つ以上の動詞からなる連動文<br>第12回　希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習<br>第13回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる<br>第14回　全体の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%）、口頭試験（50%）で評価する | | |

（注）日本語日本文学専攻
（注）受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ（B） | 担当者 | 尾崎　孝宏 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国語と中国について学ぶ（1）<br>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。<br>【到達目標】中国語検定準4級程度（後期終了時の目標） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社）<br>(2)　辞書などについては授業時に指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　発音（1）<br>第　2回　発音（2）<br>第　3回　発音（3）<br>第　4回　名前を中国語で言う、覚えておきたい表現<br>第　5回　「あいさつする」第1課<br>第　6回　「名前を尋ねる」第2課<br>第　7回　「食べたいものを尋ねる」第3課<br>第　8回　「近況を尋ねる」第4課<br>第　9回　第1課～第4課の復習<br>第10回　「予定を尋ねる」第5課<br>第11回　「場所を尋ねる」第6課<br>第12回　「注文する」第7課<br>第13回　「値段の交渉をする」第8課<br>第14回　第5課～第8課の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（50%）、授業への貢献度（50%） | | |

（注）日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ（C） | 担当者 | 尾崎　孝宏 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国語と中国について学ぶ（1）<br>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。<br>【到達目標】中国語検定準4級程度（後期終了時の目標） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社）<br>(2)　辞書などについては授業時に指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　発音（1）<br>第　2回　発音（2）<br>第　3回　発音（3）<br>第　4回　名前を中国語で言う、覚えておきたい表現<br>第　5回　「あいさつする」第1課<br>第　6回　「名前を尋ねる」第2課<br>第　7回　「食べたいものを尋ねる」第3課<br>第　8回　「近況を尋ねる」第4課<br>第　9回　第1課～第4課の復習<br>第10回　「予定を尋ねる」第5課<br>第11回　「場所を尋ねる」第6課<br>第12回　「注文する」第7課<br>第13回　「値段の交渉をする」第8課<br>第14回　第5課～第8課の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（50%）、授業への貢献度（50%） | | |

（注）経済専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ（D） | 担当者 | 三木　夏華 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業前後に対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース<br>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。<br>【到達目標】1　ピンイン、声調記号が読めるようになる。<br>2　自己紹介など簡単な会話能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「しゃべっていいとも　中国語」朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著<br>(2)　授業で紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　発音、声調<br>第　2回　発音、声調<br>第　3回　人称代名詞、名前の言い方<br>第　4回　会話練習、ヒアリング<br>第　5回　“的”、“是”について<br>第　6回　会話練習、ヒアリング<br>第　7回　動詞述語文、連動文<br>第　8回　会話練習、ヒアリング<br>第　9回　指示代名詞、“有”構文<br>第10回　会話練習、ヒアリング<br>第11回　“在”構文、方位詞<br>第12回　会話練習、ヒアリング<br>第13回　助動詞、形容詞述語文<br>第14回　会話練習、ヒアリング<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で習った単語、構文等を必ずCDを聞いて耳で覚え、発音できるように復習しておくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験５０％＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０％ | | |

（注）経営情報専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(E) | 担当者 | 中筋　健吉 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで対応します。k9553471@kadai.jp |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】初級中国語の学習を行います。<br>【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。<br>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』(最新２訂版)（白水社）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション＆ウォーミングアップ<br>第　2回　発音（1）　声調・短母音・子音<br>第　3回　発音（2）　複母音・鼻母音、トレーニング<br>第　4回　第１課　人称代名詞、「是」の文<br>第　5回　第１課　復習とトレーニング<br>第　6回　第２課　指示代名詞（1）、疑問詞疑問文<br>第　7回　第２課　「的」の用法、副詞、トレーニング<br>第　8回　第３課　動詞の文、「所有」を表す「有」<br>第　9回　第３課　省略疑問の語気助詞<br>第10回　第４課　量詞、指示代名詞（2）<br>第11回　第４課　形容詞の文、「几」と「多少」、トレーニング<br>第12回　第５課　数字、日付・時刻の表現<br>第13回　第５課　「動作の時点」を言う表現、トレーニング<br>第14回　中国映画鑑賞<br>第15回　前期のまとめ<br>＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習、復習ともに、教科書添付の CD の音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%） | | |

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が 30 名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(F) | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】単語で作文Ⅰ<br>【概要】1回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして，書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば，外国語もそれほど難しくはないものです。<br>【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試 HSK 筆記１級程度に１年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準４級』アルク | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　声調と母音<br>第　3回　子音<br>第　4回　発音のまとめ<br>第　5回　表記の規則<br>第　6回　クラス名簿，あいさつ（1）<br>第　7回　クラス名簿，あいさつ（2）<br>第　8回　数字，お金，時刻（1）<br>第　9回　数字，お金，時刻（2）<br>第10回　数字，お金，時刻（3）<br>第11回　簡単な動詞の文（1）<br>第12回　簡単な動詞の文（2）<br>第13回　意思表示，誘いかけ（1）<br>第14回　意思表示，誘いかけ（2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 作文と小テスト 50%，定期試験 50% | | |

(注) 食物栄養専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(G) | 担当者 | 中筋　健吉 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | メールで対応します。k9553471@kadai.jp |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】初級中国語の学習を行います。<br>【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。<br>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一歩』(最新２訂版)（白水社）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション＆ウォーミングアップ<br>第　2回　発音（1）　声調・短母音・子音<br>第　3回　発音（2）　複母音・鼻母音、トレーニング<br>第　4回　第１課　人称代名詞、「是」の文<br>第　5回　第１課　復習とトレーニング<br>第　6回　第２課　指示代名詞（1）、疑問詞疑問文<br>第　7回　第２課　「的」の用法、副詞、トレーニング<br>第　8回　第３課　動詞の文、「所有」を表す「有」<br>第　9回　第３課　省略疑問の語気助詞<br>第10回　第４課　量詞、指示代名詞（2）<br>第11回　第４課　形容詞の文、「几」と「多少」、トレーニング<br>第12回　第５課　数字、日付・時刻の表現<br>第13回　第５課　「動作の時点」を言う表現、トレーニング<br>第14回　中国映画鑑賞<br>第15回　前期のまとめ<br>＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習、復習ともに、教科書添付の CD の音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%） | | |

(注) 生活科学専攻
(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(H) | 担当者 | 陳　躍 |
| | 〔履修年次〕　１年，２年（注） | 授業外対応 | 授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】楽しい中国語会話<br>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。<br>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂<br>(2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク<br>②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　我是上海人<br>第　2回　我叫王平<br>第　3回　这里是南京路<br>第　4回　现在几点了?<br>第　5回　今天是星期几?<br>第　6回　你家有几口人?<br>第　7回　没关系（映画）<br>第　8回　香港的夏天热吗?（映画）<br>第　9回　四川菜很好吃　（中間テスト）<br>第10回　我经常散步<br>第11回　牌价是多少?<br>第12回　汉语难不难?<br>第13回　我没吃蒜<br>第14回　我想去超市<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする | | |

(注) 文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
(注) 受講登録が３０人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(A) | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>中国語によるコミュニケーションに慣れる。<br>【概要】<br>この授業では，中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。<br>【到達目標】<br>学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・張国璐『いま始めよう！アクティブラーニング』朝日出版社<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習<br>第 2回　動詞「有」の導入，練習<br>第 3回　動詞「在」の導入，練習<br>第 4回　「有」と「在」の応用練習<br>第 5回　年月日、曜日の言い方の練習<br>第 6回　助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習<br>第 7回　助動詞を使った文の応用練習<br>第 8回　復習（1）これまでの内容の復習<br>第 9回　形容詞述語文の導入，練習<br>第10回　時刻の言い方の導入，練習<br>第11回　形容詞述語文の応用練習<br>第12回　お金の言い方の導入，練習<br>第13回　量詞の導入，練習<br>第14回　復習（4）：全体の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%）、口頭試験（50%）で評価する | | |

（注）日本語日本文学専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(B) | 担当者 | 尾崎　孝宏 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国語と中国について学ぶ（2）<br>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。<br>【到達目標】中国語検定準4級程度（後期終了時の目標） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社）<br>(2)　辞書などについては授業時に指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　前期試験の解説など<br>第 2回　第1課～第8課の復習<br>第 3回　「出来事を尋ねる1」第9課<br>第 4回　「出来事を尋ねる2」第10課<br>第 5回　「希望を尋ねる」第11課<br>第 6回　「行き方を尋ねる」第12課<br>第 7回　「経験を尋ねる」第13課<br>第 8回　第9課～第13課の復習<br>第 9回　「相手の都合を尋ねる」第14課<br>第10回　「比較する」第15課<br>第11回　「条件・情報を尋ねる」第16課<br>第12回　「進行状況を尋ねる」第17課<br>第13回　「別れを告げる」第18課<br>第14回　第14課～第18課の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（50%）、授業への貢献度（50%） | | |

（注）日本語日本文学専攻，英語英文学専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(C) | 担当者 | 尾崎　孝宏 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国語と中国について学ぶ（2）<br>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。<br>【到達目標】中国語検定準４級程度（後期終了時の目標） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社）<br>(2)　辞書などについては授業時に指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期試験の解説など<br>第　2回　第１課～第８課の復習<br>第　3回　「出来事を尋ねる 1」第９課<br>第　4回　「出来事を尋ねる 2」第 10 課<br>第　5回　「希望を尋ねる」第 11 課<br>第　6回　「行き方を尋ねる」第 12 課<br>第　7回　「経験を尋ねる」第 13 課<br>第　8回　第９課～第 13 課の復習<br>第　9回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課<br>第 10 回　「比較する」第 15 課<br>第 11 回　「条件・情報を尋ねる」第 16 課<br>第 12 回　「進行状況を尋ねる」第 17 課<br>第 13 回　「別れを告げる」第 18 課<br>第 14 回　第 14 課～第 18 課の復習<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（50%）、授業への貢献度（50%） | | |

（注）経済専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(D) | 担当者 | 三木夏華 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了時に対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】前期の中国語Ｉに続く入門コース<br>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。<br>道の尋ね方、買い物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。<br>【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級のレベルにまで到達することを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「しゃべっていいとも　中国語」朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著<br>(2)　授業で紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方<br>第　2回　会話練習、ヒアリング<br>第　3回　値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方<br>第　4回　会話練習、ヒアリング<br>第　5回　年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型<br>第　6回　会話練習、ヒアリング<br>第　7回　時刻の言い方、語気助詞の“了”<br>第　8回　会話練習、ヒアリング<br>第　9回　時間の長さの言い方、完了の“了”<br>第 10 回　会話練習、ヒアリング<br>第 11 回　前置詞、助動詞１<br>第 12 回　会話練習、ヒアリング<br>第 13 回　動詞の進行を表す表現、助動詞２<br>第 14 回　会話練習、ヒアリング<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 前回学習した課を CD を聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験５０％＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０％ | | |

（注）経営情報専攻
（注）受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(E) | 担当者 | 中筋　健吉 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで対応します。k9553471@kadai.jp |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】初級中国語の学習を行います。<br>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（1回）を鑑賞します。<br>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習　初級中国語 12 課』(同学社)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　第7課（1）　昼休みに（1）：年月日・曜日の言い方　時刻の言い方<br>第　2回　第7課（2）　昼休みに（2）：連動文　復習とトレーニング<br>第　3回　第8課（1）　倶楽部かジムで（1）：動詞「在(zài)」　動詞「有(yǒu)」<br>第　4回　第8課（2）　倶楽部かジムで（2）：年齢の言い方　復習とトレーニング<br>第　5回　第9課（1）　キャンパスで（1）：形容詞述語文　助動詞“想(xiǎng)”<br>第　6回　第9課（2）　キャンパスで（2）：時間量の言い方　復習とトレーニング<br>第　7回　第10課（1）　街角で（1）：動詞「有(yǒu)」　方位詞<br>第　8回　第10課（2）　街角で（2）：前置詞“从 cóng”　“离 lí”復習とトレーニング<br>第　9回　第11課（1）　パソコンの前で（1）：動作の進行と状態の持続を表す表現<br>第10回　第11課（2）　パソコンの前で（2）：助動詞“会 huì”　助詞“guo”復習とトレーニング<br>第11回　第12課（1）　観光地の店で（1）：量詞　助動詞“能 néng”<br>第12回　第12課（2）　観光地の店で（2）：助動詞“可以 kěyǐ”<br>第13回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語<br>第14回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語<br>第15回　授業まとめ<br>＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習、復習ともに、教科書添付の CD の音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%） | | |

（注）経済専攻，経営情報専攻
（注）受講登録が 30 名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(F) | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】単語で作文Ⅱ<br>【概要】1回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。やや複雑な文にして，基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず，相手に気持ちを伝えることを大切にします。<br>【到達目標】中国語検定準 4 級，漢語水平考試 HSK 筆記 1 級程度に 1 年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準 4 級』アルク | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　連続動作，意向確認（1）<br>第　2回　連続動作，意向確認（2）<br>第　3回　なに？ どこ？ だれ？（1）<br>第　4回　なに？ どこ？ だれ？（2）<br>第　5回　モノ（1）<br>第　6回　モノ（2）<br>第　7回　場所（1）<br>第　8回　場所（2）<br>第　9回　状態（1）<br>第10回　状態（2）<br>第11回　態度，ある瞬間（1）<br>第12回　態度，ある瞬間（2）<br>第13回　1年間の復習（1）<br>第14回　1年間の復習（2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 作文と小テスト 50%，定期試験 50% | | |

（注）食物栄養専攻
（注）受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(G) | 担当者 | 中筋　健吉 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | メールで対応します。k9553471@kadai.jp |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】初級中国語の学習を行います。<br>【概要】中国語Ｉで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（１回）を鑑賞します。<br>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習　初級中国語 12 課』(同学社)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　第７課（1）　昼休みに（1）：年月日・曜日の言い方　時刻の言い方<br>第　2回　第７課（2）　昼休みに（2）：連動文　復習とトレーニング<br>第　3回　第８課（1）　倶楽部かジムで（1）：動詞「在(zài)」　動詞「有(yǒu)」<br>第　4回　第８課（2）　倶楽部かジムで（2）：年齢の言い方　復習とトレーニング<br>第　5回　第９課（1）　キャンパスで（1）：形容詞述語文　助動詞“想(xiǎng)”<br>第　6回　第９課（2）　キャンパスで（2）：時間量の言い方　復習とトレーニング<br>第　7回　第 10 課（1）　街角で（1）：動詞「有(yǒu)」　方位詞<br>第　8回　第 10 課（2）　街角で（2）：前置詞“从 cóng”　“离 lí”復習とトレーニング<br>第　9回　第 11 課（1）　パソコンの前で（1）：動作の進行と状態の持続を表す表現<br>第 10 回　第 11 課（2）　パソコンの前で（2）：助動詞“会 huì”　助詞“guo”復習とトレーニング<br>第 11 回　第 12 課（1）　観光地の店で（1）：量詞　助動詞“能 néng”<br>第 12 回　第 12 課（2）　観光地の店で（2）：助動詞“可以 kěyǐ”<br>第 13 回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語<br>第 14 回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語<br>第 15 回　授業まとめ<br>＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習、復習ともに、教科書添付の CD の音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%） | | |

（注）生活科学専攻
（注）受講登録が 30 名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ（H） | 担当者 | 陳　躍 |
| | 〔履修年次〕　１年，２年（注） | 授業外対応 | 授業終了後，メールによる（アドレスは講義中に告知） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】楽しい中国語会話<br>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。<br>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂<br>(2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク<br>②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　来我家玩吧<br>第　2回　我打算去旅行<br>第　3回　没看过，听过<br>第　4回　我能参加<br>第　5回　我记一下<br>第　6回　我们边走边谈<br>第　7回　好像借给小李了（中間テスト）<br>第　8回　我不会打日文（映画）<br>第　9回　你知道号码吗？（映画）<br>第 10 回　什么都可以<br>第 11 回　被谁偷走了呢？<br>第 12 回　让你久等了<br>第 13 回　有没有单间？<br>第 14 回　我说得不好<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする | | |

（注）文学科・商経学科は１年次，生活科学科は２年次
（注）受講登録が 30 人を超えた場合は，人数を制限することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅲ | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>中国語の体系を把握する。<br>【概要】<br>この授業は，中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験４級程度の語彙，文法の獲得を目指し，中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また，後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に，グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。<br>【到達目標】<br>中国語検定試験４級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明および１年次に習った内容の復習<br>第　2回　年齢の言い方と尋ね方<br>第　3回　前置詞「在」（～で～をする）の導入，練習<br>第　4回　完了の「了」の導入，練習<br>第　5回　時間量の言い方の導入，練習<br>第　6回　文末詞「了」の導入，練習<br>第　7回　場所の言い方の導入，練習<br>第　8回　必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入，練習<br>第　9回　これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。<br>第10回　中国語で寸劇①：シナリオの作成<br>第11回　中国語で寸劇②：シナリオの修正<br>第12回　中国語で寸劇③：シナリオの決定，台本を読む練習<br>第13回　中国語で寸劇④：台本を読む練習，通し稽古<br>第14回　中国語で寸劇⑤：発表<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%）、口頭試験（50%）で評価する | | |

（注）生活科学科を除く

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅳ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国語で本を読む<br><br>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので，十分に予習・復習してから受講してください。<br>【到達目標】中国語検定４級レベル，漢語水平考試 HSK 筆記２級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　発音の復習（1）<br>第　3回　発音の復習（2）<br>第　4回　発音の復習（3）<br>第　5回　発音の復習（4）<br>第　6回　講読（1）<br>第　7回　講読（2）<br>第　8回　講読（3）<br>第　9回　講読（4）<br>第10回　講読（5）<br>第11回　講読（6）<br>第12回　講読（7）<br>第13回　講読（8）<br>第14回　講読（9）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習と発表 100%。定期試験は実施しません。 | | |

（注）生活科学科を除く

# ３　教養科目（スポーツ・健康科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **スポーツ健康論** | 担当者 | 西迫　貴美代 |
| | 〔履修年次〕　２年次 | 授業外対応 | 随時　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動･栄養･休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。<br><br>【概要】導入段階において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。<br><br>【到達目標】<br>1)日常生活における健康の重要性について知識を深める<br>2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連)<br>3)運動習慣と健康との関係について理解する<br>4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する<br>5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス) | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　毎回、講義資料を配布する。<br>(2)　毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（講義の進め方、スポーツ･健康科目講義の意義）<br>第　2回　健康施策の変遷とその背景について（健康観の変遷を探る）<br>第　3回　健康と休養（生活リズムと睡眠）<br>第　4回　健康と運動１（運動の必要性について）<br>第　5回　健康と運動２（ダイエットと運動処方）<br>第　6回　健康と栄養（ダイエットと食事）<br>第　7回　ライフスタイルを考える<br>第　8回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義中に配布する参考資料は必ず読むこと | | |
| 成績評価の方法 | 毎回のワークレポート提出（60%1回-7回まで）＋レポート１回（10%）＋筆記試験(8回目 30%) | | |

（注）教職必修
（注）食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生涯スポーツ実習Ⅰ（A）・（B）** | 担当者 | 道向　良 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり（体力づくり、仲間づくり）<br>【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、ダブルスのゲームができるようになることを目標とする。ペアまたはグループで段階的に練習することを通して、各自の能力に応じた動きや技術、さらにはプレイスタイルを模索していく。体力づくりや仲間づくりを意識しながら全体を構成していく。<br>【到達目標】<br>ダブルスのゲームが円滑にできるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　必要に応じてプリントを配布する<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　グループ分け、ラケッティング、種々の基本動作<br>第　2回　基本のストローク（基礎と応用）、ボール・トスの練習、スキルチェック１<br>第　3回　ラリーを続ける、ミニゲーム、<br>第　4回　グループ練習１（左右打ち）、ミニゲーム<br>第　5回　グループ練習２（前後打ち）、ミニゲーム<br>第　6回　ボレーの基本練習、ミニゲーム<br>第　7回　サーブとレシーブの基本練習、スキルチェック２<br>第　8回　ダブルス・ルールの理解（ポイントとゲーム）<br>第　9回　ダブルスゲーム１（チーム内での対抗戦）　振り返り１<br>第10回　ダブルスゲーム２（同等ペアとの対抗戦）　振り返り２<br>第11回　課題練習（自主的に練習を組み立てよう）<br>第12回　ファイナル・コンペティション（団体戦）１<br>第13回　ファイナル・コンペティション（団体戦）２、スキルチェック３<br>第14回　ファイナル・コンペティション（個人戦）１<br>第15回　ファイナル・コンペティション（個人戦）２　振り返りのレポート<br>※　シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各種運動を日頃から実践し、身体の感覚を新鮮に保っておくこと | | |
| 成績評価の方法 | 運動能力全般（40%）、授業への参加状況（30%）、グループにおける協力関係、リーダーシップ（30%） | | |

（注）教職必修
（注）（A）日本語日本文学専攻,（B）英語英文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生涯スポーツ実習Ⅰ（C）(D)(E)(F) | 担当者 | 西迫　貴美代 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 随時　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修(注)　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。<br>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。(後期はラケット種目を履修する)<br>【到達目標】<br>1)バレーボール・バスケットボールの歴史･ルールを理解する<br>2)バレーボール･バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する<br>3)自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる<br>4)他者と協力して、チームを組織し、運営することができる<br>5)自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | 各人の学習ノートを準備する。(毎回提出)　なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（ＥＦの場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク）<br>第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する<br>第　3回　Ａアタックのタイミングの理解と習熟　２対２の簡易ゲーム<br>第　4回　２：２の簡易ゲームから３：３のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)<br>第　5回　３：３の簡易ゲームから４：４のゲーム　（攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する）<br>第　6回　４：４の簡易ゲームから８：８のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる　）<br>第　7回　６：６のゲーム　（簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える）<br>第　8回　６：６のゲーム(バレーボール大会)　※チーム人数については調整の可能性有り<br>第　9回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　（シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する）<br>第10回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）　簡易ゲーム<br>第11回　２：０の練習　２：１の練習　２：２の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）<br>第12回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す）<br>第13回　２：２から３：３の練習　オールコートでのゲームの展開　５：５　にむけて<br>第14回　３：３の練習から５：５の練習へ　（ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる）<br>第15回　５：５ゲーム　（　バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 体調管理に留意すること | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の学習ノート記入回数及び内容 60%(自己評価記入も含む)＋スキルテスト 40%(種目毎)を基準に総合的に評価する | | |

（注）教職必修

（注）　（C）食物栄養専攻　、(D) 生活科学専攻、(E)経済専攻、(F) 経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生涯スポーツ実習Ⅰ(E)(F) | 担当者 | 徳田　修司 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり，仲間づくり<br>【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ，ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし，お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性，仲間との上手な協力関係を学び，実生活でも応用できるようになることを目指す。<br>【到達目標】<br>1)ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方，ルールを覚える。<br>2)ラケットスポーツを通した，健康・体力づくり，仲間づくりの方法を修得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に必要なし<br>(2)　必要なし　※必要に応じて，資料は配付する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットを使ったボール打ち。ラケットの持ちかたと打球。<br>第　2回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。順回転、逆回転。<br>第　3回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。順回転、逆回転。<br>第　4回　ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。順回転。<br>第　5回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。<br>第　6回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。<br>第　7回　ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー（方向）の練習。<br>第　8回　ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。<br>第　9回　ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。<br>第10回　ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。<br>第11回　ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。<br>第12回　サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で，正確に打つこと。<br>第13回　正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。<br>第14回　正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。<br>第15回　授業のまとめと評価 | | |
| 授業外学習（予習・復習） | 学校で実習した身体を動かすことを生活の中で活用し，習慣化することを目指す。 | | |
| 成績評価の方法 | 技術の上達度（60～80%），授業への参加状況（40～20%） | | |

（注）（E）経済専攻，（F）経営情報専攻

| 授業科目 | 生涯スポーツ実習Ⅱ（A）(B)(E)(F) | 担当者 | 西迫　貴美代 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 随時　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修(注)　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。<br>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。(後期はラケット種目を履修する)<br>【到達目標】<br>1）バレーボール・バスケットボールの歴史･ルールを理解する<br>2)バレーボール･バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する<br>3)自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる<br>4)他者と協力して、チームを組織し、運営することができる<br>5)自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | 各人の学習ノートを準備する。(毎回提出)　なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（ＥＦの場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク）<br>第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する<br>第　3回　Ａアタックのタイミングの理解と習熟　２対２の簡易ゲーム<br>第　4回　２：２の簡易ゲームから３：３のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する)<br>第　5回　３：３の簡易ゲームから４：４のゲーム　（攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する）<br>第　6回　４：４の簡易ゲームから８：８のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる　）<br>第　7回　６：６のゲーム　（簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える）<br>第　8回　６：６のゲーム(バレーボール大会)　※チーム人数については調整の可能性有り<br>第　9回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　（シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する）<br>第10回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）　簡易ゲーム<br>第11回　２：０の練習　２：１の練習　２：２の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）<br>第12回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す）<br>第13回　２：２から３：３の練習　オールコートでのゲームの展開　５：５　にむけて<br>第14回　３：３の練習から５：５の練習へ　（ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる）<br>第15回　５：５ゲーム　（　バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 体調管理に留意すること | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の学習ノートの提出(自己評価記入も含む)状況およびスキルテスト(種目毎)を元に総合的に評価する | | |

(注)教職必修
(注)（A）日本語日本文学専攻,（B）英語英文学専攻（E）経済専攻,（F）経営情報専攻

| 授業科目 | 生涯スポーツ実習Ⅱ（C)(D)(E)(F) | 担当者 | 岡田　猛 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 西迫先生を通して |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1 単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を目ざしたい。<br>【概要】<br>教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある)。生涯にわたってスポーツを享受できるために不可欠な認識（わかる）を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟（できる）を見通せる能力を形成する。<br>【到達目標】<br>1)生涯にわたりテニス（主としてダブルスゲーム）を楽しめる主体を形成する　そのために<br>2)テニスの歴史、技術構造を理解する<br>3)その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する<br>4)この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐性、身体に関する諸能力を向上させる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第１回　オリエンテーション<br>第２回～～第14回　1.テニスの世界への誘い（様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ）<br>2.テニスにおける基本的技能（グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。<br>3.テニスにおけるゲーム運営（ルール、戦術・戦略、試合運営等）についての理解・習熟<br>上記１～３の課題内容について丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加状況（50%)、授業への積極的な参加（20%)、技能の理解・習熟段階（30%）を総合的に評価する | | |

（注）教職必修　（注）（C）食物栄養専攻,（D）生活科学専攻,（E）経済専攻,（F）経営情報専攻

# ４　教養科目（情報科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（A） | 担当者 | 刈屋　美枝子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業前後。メールでの質問にも随時対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターする。<br>【概要】　Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている基本的なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、レポートをワープロで作成できるように、MS-WORD を用いた高度な文書作成法を学ぶ。<br>【到達目標】基本的アプリケーション・ソフトウェアを使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　随時、資料ファイルを配信。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　電子メールにおける文書処理（1）スマートフォンとの連携<br>第　2回　Windows パソコンの基本的な使い方　タイピング練習<br>第　3回　電子メールにおける文書処理（2）<br>第　4回　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）<br>第　5回　パソコンでの効率的な検索<br>第　6回　MS-WORD によるワープロ実習（1）<br>第　7回　MS-WORD によるワープロ実習（2）<br>第　8回　MS-WORD によるワープロ実習（3）　第1回課題<br>第　9回　画像ファイルの扱い方･･･画像のパソコンへの取込み<br>第10回　画像ファイルの扱い方･･･写真の加工・編集<br>第11回　画像を利用した文書作り<br>第12回　表を用いた文書作り　第2回課題<br>第13回　Windows の基本的トラブルシューティングとスマートフォンとのデータのやり取り<br>第14回　各種 MS OFFICE ソフトウェアの紹介（プレゼンテーションソフト PowerPoint、表計算ソフト Excel）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価 | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（B） | 担当者 | 刈屋　美枝子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業前後。メールでの質問にも随時対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターする。<br>【概要】　Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット、ワープロ、画像処理等、学習やビジネスの場で広く使用されている基本的なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。特に、レポートをワープロで作成できるように、MS-WORD を用いた高度な文書作成法を学ぶ。<br>【到達目標】基本的アプリケーション・ソフトウェアを使いこなせるようになる。他の授業の課題やレポートなどをすべてワープロで作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　随時、資料ファイルを配信。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　電子メールにおける文書処理（1）スマートフォンとの連携<br>第　2回　Windows パソコンの基本的な使い方　タイピング練習<br>第　3回　電子メールにおける文書処理（2）<br>第　4回　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）<br>第　5回　パソコンでの効率的な検索<br>第　6回　MS-WORD によるワープロ実習（1）<br>第　7回　MS-WORD によるワープロ実習（2）<br>第　8回　MS-WORD によるワープロ実習（3）　第1回課題<br>第　9回　画像ファイルの扱い方･･･画像のパソコンへの取込み<br>第10回　画像ファイルの扱い方･･･写真の加工・編集<br>第11回　画像を利用した文書作り<br>第12回　表を用いた文書作り　第2回課題<br>第13回　Windows の基本的トラブルシューティングとスマートフォンとのデータのやり取り<br>第14回　各種 MS OFFICE ソフトウェアの紹介（プレゼンテーションソフト PowerPoint、表計算ソフト Excel）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価 | | |

（注）教職必修，英語英文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（C） | 担当者 | 上野　祐子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得<br>必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。<br>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word（以下 Word），Excel，PowerPoint のうち，Word と Excel の基本操作を習得する。メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。Web による情報検索について習得する。情報検索の中で，情報セキュリティやネチケットについて触れていく。<br>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム株式会社<br>『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』　FOM 出版<br>(2)　授業にて紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション，電子メール<br>第　2回　電子メール，第1章 Word さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第　3回　第2章 Word 文書を作成しよう<br>第　4回　第3章 Word グラフィック機能を使ってみよう<br>第　5回　第4章 Word 表のある文書を作成しよう<br>第　6回　レポート作成に役立つ WORD の機能<br>第　7回　Web による情報検索<br>第　8回　Web による情報検索(2)<br>第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）<br>第10回　第5章 Excel さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第11回　第6章 Excel データを入力しよう<br>第12回　第7章 Excel 表を作成しよう<br>第13回　第8章 Excel グラフを作成しよう<br>第14回　Excel 練習問題<br>第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 入力練習。学習内容の復習。課題。 | | |
| 成績評価の方法 | 3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価 | | |

（注）食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（D） | 担当者 | 上野　祐子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得<br>必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。<br>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word（以下 Word），Excel，PowerPoint のうち，Word と Excel の基本操作を習得する。メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。Web による情報検索について習得する。情報検索の中で，情報セキュリティやネチケットについて触れていく。<br>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム株式会社<br>『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』　FOM 出版<br>(2)　授業にて紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション，電子メール<br>第　2回　電子メール，第1章 Word さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第　3回　第2章 Word 文書を作成しよう<br>第　4回　第3章 Word グラフィック機能を使ってみよう<br>第　5回　第4章 Word 表のある文書を作成しよう<br>第　6回　Web による情報検索<br>第　7回　Web による情報検索(2)<br>第　8回　レポート作成に役立つ WORD の機能<br>第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）<br>第10回　第5章 Excel さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第11回　第6章 Excel データを入力しよう<br>第12回　第7章 Excel 表を作成しよう<br>第13回　第8章 Excel グラフを作成しよう<br>第14回　Excel 練習問題<br>第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 入力練習。学習内容の復習。課題。 | | |
| 成績評価の方法 | 3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価 | | |

（注）教職必修，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（E） | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得<br>【概要】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。<br>【到達目標】<br>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2016』FOM出版<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Wordの画面構成<br>第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換<br>第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存<br>第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動<br>第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）<br>第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について<br>第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択<br>第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更<br>第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書）<br>第10回　図形描画　：図解について、図形描画を使った地図の作成<br>第11回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定<br>第12回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について<br>第13回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成<br>第14回　社外文書作成　：案内状など<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 文字入力・Word操作の復習,知識問題の予習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

（注）経済専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（F） | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得<br>【概要】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。<br>【到達目標】<br>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2016』FOM出版<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Wordの画面構成<br>第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換<br>第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存<br>第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動<br>第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）<br>第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について<br>第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択<br>第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更<br>第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書）<br>第10回　図形描画　：図解について、図形描画を使った地図の作成<br>第11回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定<br>第12回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について<br>第13回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成<br>第14回　社外文書作成　：案内状など<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 文字入力・Word操作の復習,知識問題の予習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

（注）経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（A） | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。<br><br>【概要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。II では，I で学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るとともに，情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。<br>【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。<br>また，ICT 関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 奥村晴彦，森本尚之『[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社<br>(2) 授業中に紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 授業の進め方，コンピューターとのつきあい方，コンピューターの基本用語<br>第 2回 文字入力，文字コード，コマンドライン<br>第 3回 ネットの利用，情報の調べ方・まとめ方<br>第 4回 電子メールとセキュリティ，SNS<br>第 5回 お絵かきソフトとファイルの基本操作<br>第 6回 文書作成の基本<br>第 7回 文書作成の応用<br>第 8回 表計算ソフトの基本<br>第 9回 表計算ソフトの応用，計算精度<br>第10回 プレゼンテーション<br>第11回 Web による情報発信<br>第12回 情報とセキュリティー，情報と法律<br>第13回 プログラミング R によるデータ処理 (1)<br>第14回 プログラミング R によるデータ処理 (2)<br>第15回 中学校での「情報教育」の動向について | | |
| 授業外学習（予習・復習） | 次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおく。また，毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%) | | |

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（B） | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。<br><br>【概要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。II では，I で学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るとともに，情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。<br>【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。<br>また，ICT 関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 奥村晴彦，森本尚之『[改訂第3版 ver.2] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社<br>(2) 授業中に紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 授業の進め方，コンピューターとのつきあい方，コンピューターの基本用語<br>第 2回 文字入力，文字コード，コマンドライン<br>第 3回 ネットの利用，情報の調べ方・まとめ方<br>第 4回 電子メールとセキュリティ，SNS<br>第 5回 お絵かきソフトとファイルの基本操作<br>第 6回 文書作成の基本<br>第 7回 文書作成の応用<br>第 8回 表計算ソフトの基本<br>第 9回 表計算ソフトの応用，計算精度<br>第10回 プレゼンテーション<br>第11回 Web による情報発信<br>第12回 情報とセキュリティー，情報と法律<br>第13回 プログラミング R によるデータ処理 (1)<br>第14回 プログラミング R によるデータ処理 (2)<br>第15回 中学校での「情報教育」の動向について | | |
| 授業外学習（予習・復習） | 次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおく。また，毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%) | | |

（注）教職必修，英語英文学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（C） | 担当者 | 上野　祐子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得<br>必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。<br>【概要】本科目は，情報リテラシーI (C) と同じ方針で進める。Microsoft PowerPoint の基本操作を習得した後，Word，Excel，PowerPoint，3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，ビジネス実務を想定した問題演習を行う。<br>デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。<br>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム株式会社<br>『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』　FOM 出版<br>(2)　授業にて紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Word と Excel の基本操作<br>第　2回　第 10 章 PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第　3回　第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう<br>第　4回　第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう<br>第　5回　第 13 章アプリ間でデータを共有しよう<br>第　6回　Word 練習問題（グラフィック中心）<br>第　7回　Word 練習問題（表中心）<br>第　8回　Word 練習問題<br>第　9回　第 9 章 Excel データを分析しよう<br>第 10 回　Excel 練習問題（関数中心）<br>第 11 回　Excel 練習問題（グラフ中心）<br>第 12 回　Excel 練習問題<br>第 13 回　総合問題<br>第 14 回　総合問題<br>第 15 回　まとめ（PowerPoint・Word・Excel） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 入力練習。学習内容の復習。課題。 | | |
| 成績評価の方法 | 3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価 | | |

（注）食物栄養専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（D） | 担当者 | 上野　祐子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得<br>必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。<br>【概要】本科目は，情報リテラシーI (D) と同じ方針で進める。Microsoft PowerPoint の基本操作を習得した後，Word，Excel，PowerPoint，3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，ビジネス実務を想定した問題演習を行う。<br>デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。<br>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム株式会社<br>『よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016』　FOM 出版<br>(2)　授業にて紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション，前期の復習<br>第　2回　第 10 章 PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成）<br>第　3回　第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう<br>第　4回　第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう<br>第　5回　アプリ間でデータを共有しよう<br>第　6回　Word 練習問題（グラフィック中心）<br>第　7回　Word 練習問題（表中心）<br>第　8回　Word 練習問題<br>第　9回　第 9 章 Excel データを分析しよう<br>第 10 回　Excel 練習問題（関数中心）<br>第 11 回　Excel 練習問題（グラフ中心）<br>第 12 回　Excel 練習問題<br>第 13 回　総合問題<br>第 14 回　総合問題<br>第 15 回　まとめ（PowerPoint・Word・Excel） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 入力練習。学習内容の復習。課題。 | | |
| 成績評価の方法 | 3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価 | | |

（注）教職必修，生活科学専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報リテラシーⅡ（E）** | 担当者 | 刈屋　美枝子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業前後。メールでの質問にも随時対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。<br>【概要】　情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級（経験者）と初級（初心者）に分けてクラス編成する。Windowsパソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。<br>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　随時、資料ファイルを配信。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Windowsパソコンの基本的な使い方　タイピング練習ソフトの紹介<br>第　2回　電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携<br>第　3回　Windows PCでのファイルの基本操作<br>第　4回　電子メールの応用　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）<br>第　5回　パソコンによる効率的な検索<br>第　6回　インターネット検索　第1回課題<br>第　7回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナーの使い方<br>第　8回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集<br>第　9回　画像を利用したワープロ文書作り（1）<br>第10回　画像を利用したワープロ文書作り（2）　第2回課題<br>第11回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍<br>第12回　ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト<br>第13回　インターネットを利用したデータのやり取り･･･パソコンとスマートフォンの連携<br>第14回　インターネットの活用･･･クラウドの利用<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価 | | |

（注）経済専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報リテラシーⅡ（F）** | 担当者 | 刈屋　美枝子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業前後。メールでの質問にも随時対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種ソフトウェアに習熟する。<br>【概要】　情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級（経験者）と初級（初心者）に分けてクラス編成する。Windowsパソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で使用されている様々なソフトウェアの実践的な使い方を習得する。<br>【到達目標】初心者クラスは、取り上げたソフトウェアを基本レベルで使いこなし、日常的にパソコンを身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　随時、資料ファイルを配信。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Windowsパソコンの基本的な使い方　タイピング練習ソフトの紹介<br>第　2回　電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携<br>第　3回　Windows PCでのファイルの基本操作<br>第　4回　電子メールの応用　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など）<br>第　5回　パソコンによる効率的な検索<br>第　6回　インターネット検索　第1回課題<br>第　7回　画像ファイルの扱い方･･･スキャナーの使い方<br>第　8回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集<br>第　9回　画像を利用したワープロ文書作り（1）<br>第10回　画像を利用したワープロ文書作り（2）　第2回課題<br>第11回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍<br>第12回　ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト<br>第13回　インターネットを利用したデータのやり取り･･･パソコンとスマートフォンの連携<br>第14回　インターネットの活用･･･クラウドの利用<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価 | | |

（注）経営情報専攻

# ５　日本語日本文学専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文学概論** | 担当者 | 木戸　裕子・竹本 寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。<br>【概要】<br>大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，１．古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，２．主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，３．大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。<br>【到達目標】<br>本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し，変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。<br>演習や２年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　小島孝之『古筆切で読む　くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸）<br>(2)　プリント（担当者：竹本） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。<br>第　2回　古典文学を学ぶとは：仮名史について　くずし字の読み方１<br>第　3回　文献学（写本と板本）について：くずし字の読み方２<br>第　4回　書誌学について・古典文学の分類について：くずし字の読み方３<br>第　5回　古典の季節観と暦：くずし字小テスト<br>第　6回　古典における比較文学　中国古典文学との関わり１：くずし字の読み方４<br>第　7回　中国古典文学との関わり２：くずし字の読み方５<br>第　8回　総括１：前半のまとめ<br>第　9回　近代文学を学ぶとは：文学理論について<br>第10回　「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて<br>第11回　「作者」とは何か：作者／作品／テクスト<br>第12回　「語り」とは何か：テクスト論について<br>第13回　「物語」とは何か：　構造と物語<br>第14回　論文の書き方<br>第15回　総括２：後半のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で指示する課題など。 | | |
| 成績評価の方法 | 毎時間提出するミニレポート（感想文等）２０％　講義期間中の提出課題又は小テスト３０％<br>試験５０％（竹本担当分はレポート５０％）の合計で評価する。 | | |

(注) 教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **言語学概論** | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>言語学に関する基礎知識を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。<br>【到達目標】<br>言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明<br>第　2回　音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音<br>第　3回　音声学・音韻論（2）：モーラ，音節，アクセント<br>第　4回　音声学・音韻論（3）：連濁，枝分かれ制約<br>第　5回　形態論：派生，複合など単語を生み出す仕組み<br>第　6回　統語論（1）：文の骨組みを作る仕組み<br>第　7回　統語論（2）：文の樹形図<br>第　8回　意味論（1）：単語の意味<br>第　9回　意味論（2）：文と文の間の意味関係<br>第10回　語用論（1）：間接的言語行為と協調の原則<br>第11回　語用論（2）：会話の含意<br>第12回　語用論（3）：　ポライトネスと敬語<br>第13回　言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差<br>第14回　これまでの復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での発言や参加度：30%，小テスト30%，期末試験：40% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語学概論** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年，英語英文学専攻は2年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。<br>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコン教室（※）で自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。<br>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房<br>(2) 授業中に紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 日本語学とは：国語／日本語 と 国語学／日本語学 （※印はパソコン教室で実施。）<br>第 2回 現代日本語の音声と音韻1：音声の研究，音声器官，音声記号 ※<br>第 3回 現代日本語の音声と音韻2：音の分類，音素分析 ※<br>第 4回 現代日本語の音声と音韻3：現代日本語の母音・子音 ※<br>第 5回 現代日本語の音声と音韻4：音節・モーラ，アクセント ※<br>第 6回 現代日本語の音声と音韻5：イントネーション ※<br>第 7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法，国語施策，舊漢字<br>第 8回 現代日本語の文法1：文法の諸領域，形態論<br>第 9回 現代日本語の文法2：統語論，意味論<br>第10回 現代日本語の文法3：語用論<br>第11回 現代日本語の語彙1：単語，語彙，語彙論<br>第12回 現代日本語の語彙2：単語の語彙的性質（語彙的カテゴリー），単語の基本度（基幹語彙）<br>第13回 文章論と談話分析：文章と談話，文章論，談話分析<br>第14回 現代語における文体差，言葉の変異と諸方言<br>第15回 コーパスと統計，理論的研究とは？ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%) | | |

（注）日本語日本文学専攻では，必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では，選択科目。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語教育概論** | 担当者 | 楊 虹 |
| | 〔履修年次〕 日本語日本文学専攻は1年，英語英文学専攻は2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本語教育学の基礎を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。<br>【到達目標】<br>・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。<br>・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリントを配布する。<br>(2) 授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観<br>第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室<br>第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育<br>第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析，<br>第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン<br>第 6回 教材分析・開発<br>第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ<br>第 8回 教授法②授業見学<br>第 9回 教授法③授業見学の振り返り<br>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方<br>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習<br>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク<br>第13回 授業の計画と実施④文化を教える<br>第14回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での参加度や提出物：50%，期末レポート：50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語史** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。<br><br>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について，音韻・文字・文法など各分野にわたり，資料を読みながら，史的変遷を概観する。「日本語学概論」を履修していない場合は，テキストのうち現代語に関する部分をよく読んでおくこと。<br>【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房<br>(2) 古典辞典いずれか1冊を毎回持参すること（電子辞書・辞書アプリでも可能）。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 時代区分と資料 ：音声資料（昔のレコード），古辞書，古典文学作品<br>第 2回 文字・書記：漢字の借用，表語文字から表音文字へ，書記法の発達<br>第 3回 音韻の歴史変化1：上代特殊仮名遣い，ハ行子音の歴史変化<br>第 4回 音韻の歴史変化2：ア行・ヤ行・ワ行の歴史変化，サ行・ザ行・タ行・ダ行の歴史変化<br>第 5回 音韻の歴史変化3：頭音法則とその周辺<br>第 6回 音韻の歴史変化4：アクセントの歴史的研究―資料と方法論<br>第 7回 古代語音声の復元：源氏物語，上代歌謡<br>第 8回 文法の歴史変化1：動詞の形態的変化<br>第 9回 文法の歴史変化2：統語的変化，意味変化<br>第10回 文法の歴史変化3：語形変化と語義変化<br>第11回 語と語彙の歴史的変化1：“語源”，出自から見た語彙，体系としての語彙とその変遷<br>第12回 語と語彙の歴史的変化2：語構成と造語，語形変化・語義変化<br>第13回 語と語彙の歴史的変化3：語の位相とその意識，〈食事〉を示す語彙体系とその変遷<br>第14回 文体史，文体差の史的事情<br>第15回 日本語学史 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績(20%) | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文法論** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び，日本語の文法について考察する。<br><br>【概要】中学校で習った（はずの）「口語文法」は，あまり役に立つとも思えない。しかし，文法研究を一生の仕事とした人がいるのだから，意外に面白いのかもしれない。また，外国語教育では，より実態に近い（役に立つ）文法理論も必要だ。<br>この講義では，毎年，日本語の文法について書かれた新刊書1冊を取り上げ，考察を加えていく。講義方式ではあるが，輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので，気軽に参加してほしい。<br>【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し，文法に関して議論ができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 庵 功雄『やさしい日本語 ――多文化共生社会へ』岩波新書<br>(2) 庵功雄ほか編『「やさしい日本語」は何を目指すか ―多文化共生社会を実現するために』ココ出版 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 学校文法の確認：中学校国語「口語文法」の内容について再確認<br>第 2回 主な文法学説1：大槻文彦／国語元年，山田孝雄／陳述<br>第 3回 主な文法学説2：松下大三郎／断句，橋本進吉／文節<br>第 4回 主な文法学説3：時枝誠記／文章論，三上章／主語廃止論<br>第 5回 テキストについての検討(1)<br>第 6回 テキストについての検討(2)<br>第 7回 テキストについての検討(3)<br>第 8回 テキストについての検討(4)<br>第 9回 テキストについての検討(5)<br>第10回 テキストについての検討(6)<br>第11回 テキストについての検討(7)<br>第12回 テキストについての検討(8)<br>第13回 テキストについての検討(9)<br>第14回 テキストについての検討(10)<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語学講義** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】１年次に学んだ日本語学概論，日本語史で扱った諸問題について韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして，改めて考察し日本語をより深く理解する。<br>【概要】日本では，６年以上勉強したが……の英語と比較して「日本語は特殊」と思い込んでしまう人が多いように見えるが，文法構造や漢字の受容，敬語法などの面において，日本語にそっくりで微妙に違う韓国語を知ると，目から鱗が落ちるはずだ。なお，授業は K-Pops を視聴するなど楽しくすすめるつもりだが，ハングル字母のおおよその読み方は覚えてほしい。<br>【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。ハングルの発音が（だいたい）わかる。また，日本語の起源に関する議論について，怪しい点が指摘できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリント<br>(2) 野間秀樹『ハングルの誕生 音から文字を創る』，『韓国語をいかに学ぶか』平凡社新書 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 「ハングル」とは：誕生日，構造<br>第 2回 日本語と韓国語１：口蓋音化，音節構造<br>第 3回 日本語と韓国語２：「清音／濁音」対「平音／激音／濃音」<br>第 4回 日本語と韓国語３：漢字音，固有語・漢字語・外来語<br>第 5回 日本語と韓国語４：品詞分類，助詞<br>第 6回 日本語と韓国語５：助動詞（語尾），サ変動詞・形容動詞（하다動詞・形容詞），活用<br>第 7回 日本語と韓国語６：代名詞と指示語，コソアドの体系<br>第 8回 日本語と韓国語７：擬声語・擬態語<br>第 9回 日本語と韓国語８：色彩形容詞 「空の青」「海のあを」<br>第 10回 日本語と韓国語９：待遇表現（敬語，文体）<br>第 11回 日本語と韓国語 10：数詞，助数詞<br>第 12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」１：記紀歌謡・万葉集と郷歌<br>第 13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」２：数詞<br>第 14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」３：トンデモ学説について<br>第 15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか，まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 次回の学習範囲を指示するので，日本語の事例について事前に調べておくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（簡単なハングルの読み書き，日本語との類似点・相違点，日本語の起源とのかかわり等について出題する）の成績(80%)<br>＋授業での発言や小テストの成績(20%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語学講読Ⅰ** | 担当者 | 松尾 弘徳 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | メールによる（連絡先は授業中に告知する） |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ<br>【概要】日本語学という学問分野がどんなことを問題をとして取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講学生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業では学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。<br>【到達目標】普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場にしたいと考えています。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。<br>(2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 授業の進め方の説明<br>第 2回 語彙１－ことばの性差<br>第 3回 語彙２－ことばの地域差<br>第 4回 語彙３－意味用法の変化と若者語<br>第 5回 音声１－日本語のリズム<br>第 6回 音声２－鹿児島方言のアクセント<br>第 7回 語用論１－語用論入門<br>第 8回 語用論２－配慮表現<br>第 9回 語用論３－比喩とはなにか<br>第 10回 語用論４－メタファーを考える<br>第 11回 文法１－アニマシー<br>第 12回 文法２－「あいづち」「いいよどみ」に潜む文法<br>第 13回 文法３－とりたて詞<br>第 14回 文法４－方言文法の変化<br>第 15回 まとめと試験 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 受講者全員に対し、授業前に提出してもらう予習課題が予習に、授業後に提出してもらうコメントカードが復習に該当します。 | | |
| 成績評価の方法 | 評価基準は下の通り。<br>メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：80%<br>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本語学講読Ⅱ | 担当者 | 松尾　弘徳 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる（連絡先は授業中に告知する） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える<br>【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。<br>学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。<br>授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。<br>【到達目標】教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。<br>この授業を通じて、①歴史認識　②日本語学の研究方法　③プレゼンテーションスキル　などを学ぶことになります。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。<br>(2)　授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方の説明<br>第　2回　「正しい日本語」とはなにもの？<br>第　3回　副詞「全然」の語史<br>第　4回　役割語とは何か<br>第　5回　研究発表準備①<br>第　6回　研究発表準備②<br>第　7回　「博士」のことば（研究発表①）<br>第　8回　博士語の成立<br>第　9回　標準語と非標準語（1）「田舎者」のことば（研究発表②）<br>第10回　標準語と非標準語（2）「標準語」の成立と展開<br>第11回　「中国人」のことば（研究発表③）<br>第12回　異人たちのことば<br>第13回　さまざまな役割語（研究発表④）<br>第14回　役割語とステレオタイプ<br>第15回　講義内容のまとめ　以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 受講者全員に対し、授業前に提出してもらう予習課題が予習に、授業後に提出してもらうコメントカードが復習に該当します。 | | |
| 成績評価の方法 | 評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。<br>メールによる予習課題の提出：50%　研究発表と発表概要の提出：50%<br>なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本語学演習Ⅰ，Ⅲ | 担当者 | 望月　正道 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年（注） | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。<br>【概要】レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。<br>【到達目標】Ⅰ　大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探すことができる。<br>Ⅲ　大正時代から昭和初期の言語の資料を探し出し，さまざまに考察することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。<br>(2)　塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　導入：国立国会図書館デジタルコレクション，同「歴史的音源」<br>第　2回　〃　：SP 盤レコードと文句集<br>第　3回　演習：学生による発表 2年生担当<br>第　4回　〃　：〃<br>第　5回　〃　：〃<br>第　6回　〃　：〃<br>第　7回　〃　：〃<br>第　8回　演習：学生による発表 1年生担当（2年生が補助）<br>第　9回　〃　：〃<br>第10回　〃　：〃<br>第11回　〃　：〃<br>第12回　〃　：〃<br>第13回　〃　：〃<br>第14回　〃　：〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 発表担当の際には（追加の補充調査を含めて）15時間程度を充てるものとする。 | | |
| 成績評価の方法 | 担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)＋それ以外の授業中の発言(20%)＋試験の成績(40%) | | |

（注）演習Ⅰは1年次，演習Ⅲは2年次

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本語学演習Ⅱ | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。<br><br>【概要】レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。<br>【到達目標】大正時代の言語を考察する資料を探し出し，その価値が指摘できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。<br>(2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 導入：今学期の進め方<br>第 2回 演習：学生による発表<br>第 3回 〃 ： 〃<br>第 4回 〃 ： 〃<br>第 5回 〃 ： 〃<br>第 6回 〃 ： 〃<br>第 7回 〃 ： 〃<br>第 8回 〃 ：中間まとめ<br>第 9回 〃 ：学生による発表<br>第10回 〃 ： 〃<br>第11回 〃 ： 〃<br>第12回 〃 ： 〃<br>第13回 〃 ： 〃<br>第14回 〃 ： 〃<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 発表担当の際には（追加の補充調査を含めて）8時間程度を充てるものとする。 | | |
| 成績評価の方法 | 担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)＋それ以外の授業中の発言(20%)＋試験の成績(40%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本語学演習Ⅳ，Ⅵ | 担当者 | 楊 虹 |
| | 〔履修年次〕 演習Ⅳは1年，演習Ⅵは2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。<br>【概要】<br>毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める，2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める<br>【到達目標】<br>演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリントを配布する。<br>(2) 授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。<br>第 2回 語用論，社会言語学の分野の研究について<br>第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当）<br>第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当）<br>第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当）<br>第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当）<br>第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当）<br>第 8回 卒論中間報告（2年生）<br>第 9回 役割語①（2年生担当）<br>第10回 役割語②（2年生担当）<br>第11回 談話分析（1年生）<br>第12回 会話分析（1年生）<br>第13回 卒論計画発表（1年生）<br>第14回 卒論発表練習（2年生）<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語学演習Ⅴ** | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。<br>【概要】<br>毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。<br>【到達目標】<br>演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。<br>第　2回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第　3回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第　4回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第　5回　レポート作成指導①<br>第　6回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第　7回　レポート作成指導②<br>第　8回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第　9回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第10回　レポート作成指導③<br>第11回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第12回　レポート作成指導④<br>第13回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。<br>第14回　レポートに基づく口頭発表<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語表現法** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。<br>【概要】発表，面接，論文，エッセーなどの課題にグループで取り組みながら，ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を考察する。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。<br>この授業は講義方式であるが，実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので，一部演習も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。<br>【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また，原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社<br>(2)　国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　導入：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，自己紹介<br>第　2回　地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く<br>第　3回　漢字：地図の答え合せ，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題<br>第　4回　ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で<br>第　5回　調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査<br>第　6回　調査開始：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告<br>第　7回　調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告<br>第　8回　図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方<br>第　9回　中間報告：口頭発表と質疑<br>第10回　レポート：文形・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成<br>第11回　レポート：第1回提出<br>第12回　レポート：わかりやすく書くには<br>第13回　レポート：補充調査<br>第14回　レポート：第2回提出<br>第15回　まとめ，表現の自由と人権 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ネット調査，図書館調査，ポスター作成など，毎回授業のなかで指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%) | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語表現法演習** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。<br><br>【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら，課題に対するレポートを作成し，口頭発表を行う。<br>この授業は演習方式であるが，実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので，一部講義も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法と併せて受講することが望ましい。<br>【到達目標】資料を調べて，口頭発表やレポート作成が適切にできる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社<br>(2) 国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 参考文献：参考文献を読む<br>第 2回 参考文献：参考文献を引用する<br>第 3回 プレゼンテーション：何を使うか<br>第 4回 課題レポート1：作成<br>第 5回 課題レポート1：発表<br>第 6回 課題レポート1：討論<br>第 7回 課題レポート2：作成<br>第 8回 課題レポート2：発表<br>第 9回 課題レポート2：討論<br>第10回 課題レポート3：作成<br>第11回 課題レポート3：発表<br>第12回 課題レポート3：討論<br>第13回 試験レポート：資料収集<br>第14回 試験レポート：テーマに関する討論<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ネット調査，図書館調査，レポート作成など，毎回授業のなかで指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **対照言語学** | 担当者 | 楊 虹 |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>対照言語学の基礎を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。<br>【到達目標】<br>日本語と外国語（英語，中国語）の主な共通点と相違点を理解し，実際の言語データを使って分析することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリントを配布する。<br>(2) 授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明<br>第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方<br>第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示<br>第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形<br>第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較①<br>第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較②<br>第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較①<br>第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較②<br>第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較①<br>第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較②<br>第11回 日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較①<br>第12回 日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較②<br>第13回 発表準備<br>第14回 学生による発表<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加度：30%，課題：30%，発表：40% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講義Ⅰ | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】女性と漢文学ー一条朝を中心としてー<br>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどういう存在だったのか、一条朝の女性を中心に考える。<br>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。<br>平安時代の女性の生き方を考える。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　服藤早苗『平安朝　女の生き方』小学館　ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：平安時代の漢詩文<br>第　2回　女性と漢詩文：一条朝以前<br>第　3回　紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」<br>第　4回　紫式部の場合：『紫式部日記』紫式部と『白氏文集』<br>第　5回　紫式部の場合：『源氏物語』１<br>第　6回　紫式部の場合：『源氏物語』２<br>第　7回　清少納言の場合：『枕草子』１「香炉峰の雪は」<br>第　8回　清少納言の場合：『枕草子』２「ふみは文選、博士の申文」<br>第　9回　赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌１<br>第10回　赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌２「法華経和歌」<br>第11回　選子内親王：『発心和歌集』<br>第12回　一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐<br>第13回　一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語<br>第14回　女性と漢詩文：一条朝以後<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中に指示する | | |
| 成績評価の方法 | 授業の感想ミニレポート（毎回）20%　レポート80% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅰ | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　1,2年どちらでも履修可 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】『萬葉集』巻十八の講読を通して上代文学に親しむ<br>【概　要】『萬葉集』の中でも，巻十七から巻二十は大友家持の歌日記的な巻といわれている。<br>巻十八は天平二十年から始まるが、31歳になった家持の、越中国守としての毎日が歌によって記される。その中には<br>4094～4097番の陸奥国で金が発見された事を祝う、東大寺大仏建立にまつわる歌など日本史の出来事に関わるも含む。<br>これらを受講生の輪読の形式で読み進め、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。<br>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び，上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。自分の担当箇所の資料を作り他の受講者の前で発表する力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　伊藤博『萬葉集釈注（九）』集英社文庫<br>(2)　渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：『萬葉集』について（編者，諸本，万葉仮名など）<br>第　2回　巻十八について：教員による模範演習<br>第　3回　『萬葉集』巻十八輪読その１：天平20年春の歌１<br>第　4回　『萬葉集』巻十八輪読その２：天平20年春の歌２<br>第　5回　『萬葉集』巻十八輪読その３：天平21年春の歌<br>第　6回　『萬葉集』巻十八輪読その４：天平21年夏の歌１<br>第　7回　『萬葉集』巻十八輪読その５：天平21年夏の歌２<br>第　8回　『萬葉集』巻十八輪読その６：天平感宝元年夏の歌１<br>第　9回　『萬葉集』巻十八輪読その７：天平感宝元年夏の歌２<br>第10回　『萬葉集』巻十八輪読その８：天平感宝元年夏の歌３<br>第11回　『萬葉集』巻十八輪読その９：天平勝宝元年冬の歌１<br>第12回　『萬葉集』巻十八輪読その10：天平勝宝元年冬の歌２<br>第13回　『萬葉集』巻十八輪読その11：天平勝宝元年冬の歌３<br>第14回　『萬葉集』巻十八輪読その12：天平勝宝二年正月の歌<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 輪読担当５０％　レポート５０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅱ | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。<br>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。<br>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。<br>基本的な変体仮名が読めるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　片桐洋一編『伊勢物語　慶長十三年刊　嵯峨本第一種』和泉書院　『字典かな』笠間書院<br>(2)　角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫，渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）<br>第　2回　初段１：昔男の登場　変体仮名の読み方１<br>第　3回　初段２：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方２<br>第　4回　三段：二条后の物語その１　変体仮名の読み方３<br>第　5回　四段：二条后の物語その２　変体仮名の読み方４<br>第　6回　五段：二条后の物語その３　変体仮名の読み方小テスト１<br>第　7回　六段１：二条后の物語その４<br>第　8回　六段２：二条の后の物語その５<br>第　9回　七・八段：東下りその１　浅間の山<br>第10回　九段１：東下りその２　八橋・宇津の山<br>第11回　九段２：東下りその３　富士の山・隅田川<br>第12回　六九段１：伊勢の斎宮その１　歴史との関わり　変体仮名の読み方小テスト２<br>第13回　六九段２：伊勢の斎宮その２　漢文学との関わり<br>第14回　一六段：男の友情<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各段のくずし字を読めるように復習する。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト２０％　筆記試験８０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅲ | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書　源氏物語』の影印本を使って読み、平安期の物語の理解を深めると共に、その後の享受のあり方について考える。<br>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「玉鬘（たまかづら）」を読む。「玉鬘」は、若き日の光源氏の恋を描く「夕顔」の後日譚であると同時に、都から遠く離れた九州をさまよう姫君の貴種流離譚でもある。受講生による輪読形式で読み進める。今年度は昨年度 30 年度の続き、長谷寺での右近と玉鬘一行との再会の部分から読み進める。<br>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　岩下光雄編『首書　源氏物語　玉鬘』和泉書院<br>(2)　ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫　『源氏物語の鑑賞と基礎知識　玉鬘』至文堂 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：『源氏物語』とは<br>第　2回　『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について<br>第　3回　「玉鬘」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。「夕顔」巻の紹介<br>第　4回　「玉鬘」輪読：その１　担当の役割説明<br>第　5回　「玉鬘」輪読：その２<br>第　6回　「玉鬘」輪読：その３<br>第　7回　「玉鬘」輪読：その４<br>第　8回　補足説明：都と地方、長谷寺の観音信仰<br>第　9回　「玉鬘」輪読：その５<br>第10回　「玉鬘」輪読：その６<br>第11回　「玉鬘」輪読：その７<br>第12回　「玉鬘」輪読：その８<br>第13回　「玉鬘」輪読：その９<br>第14回　「玉鬘」輪読：その 10<br>第15回　まとめ：『源氏物語』と貴種流離譚 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 輪読担当５０％　筆記試験５０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文学演習Ⅰ、Ⅲ** | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。<br>あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。<br>【概要】本演習は、新たに１年生が加わり、１年生の日本文学演習Ⅰと２年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、２年生には１年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、１年生には、２年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『四条宮下野集』である。<br>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。　平安時代の文学状況を理解する | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント、『字典かな』<br>(2)　片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　２年生によるオリエンテーション：四条宮下野集について<br>第　2回　グループワーク１：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方<br>第　3回　グループワーク２：翻字の実習<br>第　4回　グループワーク３：解釈の実習<br>第　5回　四条宮下野集を読む：１<br>第　6回　四条宮下野集を読む：２<br>第　7回　四条宮下野集を読む：３<br>第　8回　四条宮下野集を読む：４<br>第　9回　四条宮下野集を読む：５<br>第10回　四条宮下野集を読む：６<br>第11回　四条宮下野集を読む：７<br>第12回　四条宮下野集を読む：８<br>第13回　四条宮下野集を読む：９<br>第14回　四条宮下野集を読む：10<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 演習担当の準備 | | |
| 成績評価の方法 | 日本文学演習Ⅰ　担当時以外の発言　20%　レポート80%<br>日本文学演習Ⅲ　担当時以外の発言　20%　担当発表80% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文学演習Ⅱ** | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。<br>あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。<br>【概要】昨年度に引き続き、『四条宮下野（しじょうのみやしもつけしゅう))』を読む。四条宮下野は摂関期、藤原頼道の娘で後冷泉天皇皇后であった四条宮こと藤原寛子に仕えた女房である。その家集『四条宮下野集』は後冷泉後宮、なかでも四条宮寛子のもとでの華やかな宮廷生活が描かれ、『枕草子』的な家集と言われている。さまざまな和歌とエピソードを読むことで平安時代の貴族の文化、交友関係着いて考えたい。<br>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント、『字典かな』<br>(2)　片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：前年度の内容の確認<br>第　2回　四条宮下野集について：<br>第　3回　四条宮下野集を読む：１<br>第　4回　四条宮下野集を読む：２<br>第　5回　四条宮下野集を読む：３<br>第　6回　四条宮下野集を読む：４<br>第　7回　四条宮下野集を読む：５<br>第　8回　四条宮下野集を読む：６<br>第　9回　四条宮下野集を読む：７<br>第10回　四条宮下野集を読む：８<br>第11回　四条宮下野集を読む：９<br>第12回　四条宮下野集を読む：10<br>第13回　四条宮下野集を読む：11<br>第14回　四条宮下野集を読む：12<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 演習担当の準備 | | |
| 成績評価の方法 | 担当発表80%、担当時以外の発言（質問、意見など）20% | | |

| 授業科目 | 日本文学史・近代Ⅰ（隔年開講） | 担当者 | 竹本　寛秋 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1，2年共通 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治期の歴史的変遷を理解する。<br>【概要】<br>「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。<br>【到達目標】<br>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成30年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ）<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か<br>第　2回　概論：「近代」とは何か　―夏目漱石，森鴎外，北村透谷―<br>第　3回　概論：「小説」概念の成立　―坪内逍遙―<br>第　4回　明治の文学1：近世と近代文学　―戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説―<br>第　5回　明治の文学2：「国語」と近代文学　―速記，表記の改革，文体の改革―<br>第　6回　明治の文学3：詩歌の改良　―新体詩の出現―<br>第　7回　明治の文学4：言文一致小説　―二葉亭四迷―<br>第　8回　明治の文学5：写実主義と写生(1)　―尾崎紅葉，硯友社の文学―<br>第　9回　明治の文学6：写実主義と写生(2)　―正岡子規―<br>第10回　明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌　―森鴎外，島崎藤村―<br>第11回　明治の文学8：自然主義の小説(1)　―島崎藤村―<br>第12回　明治の文学9：自然主義の小説(2)　―田山花袋―<br>第13回　明治の文学10：反自然主義の小説　―夏目漱石―<br>第14回　明治の文学11：口語自由詩　―川路柳虹，相馬御風―<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%） | | |

（注）教職必修

| 授業科目 | 日本文学史・近代Ⅱ（隔年開講） | 担当者 | 竹本　寛秋 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1，2年共通 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代までの変遷を理解する。<br>【概要】<br>「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。<br>【到達目標】<br>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成30年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ）<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」―<br>第　2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派―<br>第　3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立<br>第　4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩<br>第　5回　昭和の文学2：主知主義文学<br>第　6回　昭和の文学3：プロレタリア文学<br>第　7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派―<br>第　8回　昭和の文学5：戦争と文学<br>第　9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発―<br>第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場―<br>第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死―<br>第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹―<br>第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司―<br>第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講義Ⅱ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　2 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「猫」から読む日本近代文学<br>【概要】<br>文学においては，作品を成立させるために不可欠な要素として様々な動物が登場する。本講義においては日本近代文学の作品においてどのように動物のイメージが利用されているか考察する。特に「猫」の形象に着目し、日本近代の文学・文化のなかにおけるイメージとしての「猫」の意味を明らかにするとともに、多様な視点で文学を読む方法について理解する。<br>【到達目標】<br>「文学」を多様な角度から分析する方法を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：文学における「動物」のイメージの問題<br>第　2回　夏目漱石『吾輩は猫である』（1）：『猫』の意匠<br>第　3回　夏目漱石『吾輩は猫である』（2）：「猫」という戦略<br>第　4回　寺田寅彦「猫」<br>第　5回　内田百閒『ノラや』（1）：「不在」について<br>第　6回　内田百閒『ノラや』（2）：「名付け」について<br>第　7回　詩における「猫」の表象<br>第　8回　萩原朔太郎『青猫』<br>第　9回　萩原朔太郎『猫町』<br>第10回　島木健作「黒猫」<br>第11回　童話における「猫」の表象<br>第12回　宮澤賢治「猫の事務所」<br>第13回　マンガにおける「猫」の表象<br>第14回　ねこじる『ねこじるうどん』<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 取り上げる作品の精読。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとのコメントカード（40%），レポート（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅳ | 担当者 | 丹羽　謙治 |
| | 〔履修年次〕　1年、2年 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】『南総里見八犬伝』を読む<br><br>【概要】江戸後期を代表する読本『南総里見八犬伝』（以下、『八犬伝』）は、曲亭馬琴が28年の歳月をかけて完成させた長編伝記小説である。本講義では、『八犬伝』の著名な場面をとり上げ、解説を加えながら作品の趣好や構成法について考察する。併せて『八犬伝』の後世への影響についても触れる。<br><br>【到達目標】1）江戸後期の書物に関する知識を得る。<br>2）江戸時代の庶民文化について正しい認識を得る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する<br>(2)　高田衛『完本　八犬伝の世界』（ちくま学芸文庫） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　導入<br>第　2回　近世文学・文化の特徴<br>第　3回　読本史概略<br>第　4回　中国文学と『八犬伝』<br>第　5回　『八犬伝』　八犬士登場以前　里見義実と安房<br>第　6回　『八犬伝』　伏姫と八房<br>第　7回　『八犬伝』　犬塚信乃<br>第　8回　『八犬伝』　浜路くどき<br>第　9回　『八犬伝』　芳流閣の決闘<br>第10回　『八犬伝』　古那屋の段<br>第11回　『八犬伝』　犬山道節<br>第12回　『八犬伝』　毒婦舟虫<br>第13回　『八犬伝』　犬江親兵衛<br>第14回　『八犬伝』と後世の文学<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストを事前に読んでおくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験による。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅴ | 担当者 | 丹羽　謙治 |
| | 〔履修年次〕 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】薩摩の滑稽本を読む<br>江戸時代後期に鹿児島の人によって作成された滑稽本『夢中の夢』を鑑賞する。<br>【概要】写本で伝わる滑稽本『夢中の夢』を最初から順に讀解し、そこに表れた南九州の風俗や江戸の風俗、鹿児島方言などに着目しながら、地獄・極楽を舞台とする枠組みを使い、どのような意図を込めてこの作品を作ったのかを考察する。/<br><br>【到達目標】1）江戸時代の地方の言語文化や笑いについて正しい知識を得る。<br>2）江戸時代の信仰や風俗についての知識を得る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　是枝勇一編『夢中夢物語』（私家版、1917 年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　地獄ものの滑稽本の流れ<br>第　2回　諸本について<br>第　3回　『小夜嵐』について<br>第　4回　『夢中の夢』発端<br>第　5回　『夢中の夢』極楽への道<br>第　6回　『夢中の夢』極楽での退屈<br>第　7回　『夢中の夢』弁慶の語り（1）義経との出会い<br>第　8回　『夢中の夢』弁慶の語り（2）義経とともに大陸へ<br>第　9回　『夢中の夢』地獄への道<br>第 10 回　『夢中の夢』地獄での婿入り<br>第 11 回　『夢中の夢』三助の教訓（1）<br>第 12 回　『夢中の夢』三助の教訓（2）<br>第 13 回　『夢中の夢』当世批判<br>第 14 回　『夢中の夢』夢から覚める<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストを事然に読むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験による。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅵ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>梶井基次郎を読み，文学テクストを読む方法論を身につける<br>【概要】<br>梶井基次郎の代表的な作品を取り上げ，検討する。『檸檬』などは高校の教科書などで読んだことがある学生も多いと思うが，文学研究においては，テクストを多様な角度から検討して論点を引き出し，論理的に考察する必要がある。論点を取り出す方法，論理的な考察の方法，生産的な議論の方法を身につけるために，学生相互のディスカッションから梶井基次郎のテクストを検討する。<br>【到達目標】<br>文学テクストを多様な視点から読むことができる。自分の考えをまとめて発表でき，ディスカッションができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　梶井基次郎著『檸檬』新潮文庫<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：梶井基次郎について<br>第　2回　文学テクストを読む様々な方法について<br>第　3回　『檸檬』（1）：「物語」／「表現」<br>第　4回　『檸檬』（2）：心理描写の手法<br>第　5回　『檸檬』（3）：「京都」と『檸檬』<br>第　6回　『檸檬』（4）：「病」と『檸檬』<br>第　7回　『檸檬』（5）：「活動写真」と『檸檬』<br>第　8回　『檸檬』（6）：まとめ<br>第　9回　『Kの昇天』（1）：ディスカッション<br>第 10 回　『Kの昇天』（2）：「ドッペルゲンゲル」「二重人格」<br>第 11 回　『Kの昇天』（3）：「月」への想像力<br>第 12 回　『桜の樹の下には』（1）： ディスカッション<br>第 13 回　『桜の樹の下には』（2）：「生」「性」「死」<br>第 14 回　『桜の樹の下には』（3）：「語り」<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 対象テキストの精読と検討。 | | |
| 成績評価の方法 | ディスカッションでの発言・参加（20%），毎回のミニレポート（30%），レポート（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学講読Ⅶ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>堀辰雄を読み，研究的な観点から文学テクストを読む実践を行う<br>【概要】<br>辰雄の作品『美しい村』『風立ちぬ』を講読する。授業では作品を様々な角度から読み解くために，担当者を決め，物語の構造，文章技巧，時代背景，土地の形象，病気のイメージ，海外文学との関係などについて調査をし，発表を行う。<br>【到達目標】<br>文学研究に必要となる，テクスト読解の方法を実践できる。<br>テクストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』新潮文庫<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：授業の進め方，堀辰雄について<br>第　2回　文学研究とは、注釈／解釈の方法、物質としてのテクスト<br>第　3回　軽井沢という場所<br>第　4回　堀辰雄テクストにおける「小説を書く主人公」<br>第　5回　「小説」をどう読むか／堀辰雄と「小説」への態度<br>第　6回　「美しい村」における心理描写の手法(1)　記憶と時間<br>第　7回　「美しい村」における心理描写の手法(2)<br>第　8回　場所と風景「風立ちぬ」を読むためのディスカッション<br>第　9回　前半のまとめ<br>第10回　「風立ちぬ」（1）<br>第11回　「風立ちぬ」（2）<br>第12回　「風立ちぬ」（3）<br>第13回　「風立ちぬ」（4）<br>第14回　「風立ちぬ」（5）<br>第15回　全体のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 対象テキストの精読と検討，資料の作成。 | | |
| 成績評価の方法 | 発表(30%)，毎回のミニレポート（30%），レポート（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学演習Ⅳ，Ⅵ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1，2（注） | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>近現代文学の代表的な作品を取り上げ，研究的視点からテクストを検討する。<br>【概要】<br>明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ，研究的視点から検討する。１年生はテキストの中から対象を選び発表する。２年生は関心のある作家について発表する。<br>【到達目標】<br>文学研究の方法論を身につけ，根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い，テクストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ，ディスカッションすることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　文学史研究会編『近代の短編』笠間書院<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：授業の進め方，担当者の決定<br>第　2回　文学研究の方法：研究の多様な方法論について<br>第　3回　資料の扱い方：資料の収集方法，資料の検討方法について<br>第　4回　口頭発表（1）<br>第　5回　口頭発表（2）<br>第　6回　口頭発表（3）<br>第　7回　口頭発表（4）<br>第　8回　口頭発表（5）<br>第　9回　前半のまとめ<br>第10回　口頭発表（6）<br>第11回　口頭発表（7）<br>第12回　口頭発表（8）<br>第13回　口頭発表（9）<br>第14回　口頭発表（１０）<br>第15回　全体のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 論文収集、資料作成、発表準備など。 | | |
| 成績評価の方法 | 口頭発表等（70%），討議での発言・参加（30%） | | |

（注）１年生は演習Ⅳ，２年生は演習Ⅵ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文学演習Ⅴ** | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　2 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける<br>【概要】<br>明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。<br>【到達目標】<br>日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し，自己の発表に生かすことができる。発表をもとに，ディスカッションすることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義<br>第　2回　対象となる作品の決定，文学理論について<br>第　3回　発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について<br>第　4回　口頭発表（1）<br>第　5回　口頭発表（2）<br>第　6回　口頭発表（3）<br>第　7回　口頭発表（4）<br>第　8回　口頭発表（5）<br>第　9回　前半のまとめ<br>第10回　口頭発表（6）<br>第11回　口頭発表（7）<br>第12回　口頭発表（8）<br>第13回　口頭発表（9）<br>第14回　論文作成の方法について<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 論文収集、資料作成、発表準備など。 | | |
| 成績評価の方法 | 口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **南九州の文学（隔年開講）** | 担当者 | 三嶽公子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 講義終了後、あるいは時間を合わせていつでも対応します。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】南九州の豊かさを、文学作品を通して知る。<br>南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさと、その土地で生きることへの希望を汲み取る。<br>南九州における自然と人間のかかわりや、そこから湧き出る物語について学習する。<br>【概要】南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読む。作品そのものに触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、２１世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。<br>【到達目標】「わたしの好きな鹿児島の１冊」ができるように。<br>南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を磨き、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「向田邦子　かごしま文学散歩」（K&Yカンパニー　２００３年）<br>「屋久島文学散歩」（K&Yカンパニー　２００５年）<br>授業ごとに作成したプリントを配布。<br>テキストは、授業時間内に販売するので、とくに購入する必要はない。（２冊で８００円）<br>(2)　「みたけきみこと読む　かごしまの文学」（K&Yカンパニー　２００７年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　鹿児島文学マップで仮想文学散歩<br>第　2回　桜島句碑めぐり<br>第　3回　森瑤子「アイランド」と与論島<br>第　4回　一色次郎「青幻記」と沖永良部<br>第　5回　梨木香歩「海うそ」と架空の南島<br>第　6回　椋鳩十「片耳の大鹿」と屋久島<br>第　7回　林芙美子「浮雲」と屋久島<br>第　8回　山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島<br>第　9回　島尾敏雄「島の果て」と奄美・加計呂麻島<br>第10回　梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津<br>第11回　向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・磯・天保山<br>第12回　海音寺潮五郎「二本の銀杏」と大口、鹿児島市<br>第13回　石牟礼道子「苦海浄土」と水俣<br>第14回　やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作<br>第15回　まとめとレポート作成補助 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中は、作品の一部だけを読むので、予習・復習として、取り上げる作品の全体を読む。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとのレポート（５０%）＋学期末提出のレポート（５０%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国文学史Ⅰ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国文学史<br><br>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し，そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。<br>【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2)　前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　詩経（1）<br>第　3回　詩経（2）<br>第　4回　詩経（3）<br>第　5回　楚辞（1）<br>第　6回　楚辞（2）<br>第　7回　楚辞（3）<br>第　8回　諸子（1）<br>第　9回　諸子（2）<br>第10回　諸子（3）<br>第11回　辞賦（1）<br>第12回　辞賦（2）<br>第13回　辞賦（3）<br>第14回　辞賦（4）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験 100% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国文学史Ⅱ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国文学史<br><br>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し，そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。<br>【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2)　前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　楽府（1）<br>第　2回　楽府（2）<br>第　3回　楽府（3）<br>第　4回　五言詩（1）<br>第　5回　五言詩（2）<br>第　6回　五言詩（3）<br>第　7回　志怪小説（1）<br>第　8回　志怪小説（2）<br>第　9回　志怪小説（3）<br>第10回　近体詩（1）<br>第11回　近体詩（2）<br>第12回　近体詩（3）<br>第13回　伝奇（1）<br>第14回　伝奇（2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験 100% | | |

| 授業科目 | 中国文学講読Ⅰ | 担当者 | 土肥　克己 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】漢文の文法<br><br>【概要】短い漢文を使って，漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために，構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。<br>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文の基本的な構文・句法を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　基本文型（1）<br>第　3回　基本文型（2）<br>第　4回　基本文型（3）<br>第　5回　基本文型（4）<br>第　6回　基本文型（5）<br>第　7回　基本文型（6）<br>第　8回　副詞<br>第　9回　基本文型の連続<br>第10回　フレーズ（1）<br>第11回　フレーズ（2）<br>第12回　フレーズ（3）<br>第13回　フレーズ（4）<br>第14回　フレーズ（5）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 小テストを数回実施するので予習してきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト50%，定期試験50% | | |

（注）教職必修

| 授業科目 | 中国文学講読Ⅱ | 担当者 | 土肥　克己 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】漢文学の基礎<br><br>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき，知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し，構文・句法についての訓練も同時におこないます。<br>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文に関連する基礎知識を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　漢字（1）<br>第　3回　漢字（2）<br>第　4回　漢字（3）<br>第　5回　漢字（4）<br>第　6回　漢字（5）<br>第　7回　漢文（1）<br>第　8回　漢文（2）<br>第　9回　漢文（3）<br>第10回　漢文学（1）<br>第11回　漢文学（2）<br>第12回　中国文学（1）<br>第13回　中国文学（2）<br>第14回　中国文学（3）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 小テストを数回実施するので予習してきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト50%，定期試験50% | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国文学演習Ⅰ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】白居易の作品を読む<br><br>【概要】白居易の作品集のなかから，仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので，そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。<br>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　講読（1）<br>第　3回　講読（2）<br>第　4回　講読（3）<br>第　5回　講読（4）<br>第　6回　講読（5）<br>第　7回　講読（6）<br>第　8回　講読（7）<br>第　9回　講読（8）<br>第10回　講読（9）<br>第11回　講読（10）<br>第12回　講読（11）<br>第13回　講読（12）<br>第14回　講読（13）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習と発表100%。定期試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国文学演習Ⅱ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文<br><br>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり，素材選択から調査，分析，構想，発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島の漢文石碑を調査し，漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。<br>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　文献調査の基礎（1）<br>第　3回　文献調査の基礎（2）<br>第　4回　論文の読み方<br>第　5回　石碑調査（1）<br>第　6回　石碑調査（2）<br>第　7回　石碑調査（3）<br>第　8回　石碑調査（4）<br>第　9回　石碑調査（5）<br>第10回　プレゼン練習（1）<br>第11回　プレゼン練習（2）<br>第12回　プレゼン練習（3）<br>第13回　プレゼン練習（4）<br>第14回　プレゼン練習（5）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習と発表100%。定期試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国文学演習Ⅲ | 担当者 | 土肥　克己 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する<br><br>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み，整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ，発表の技術や論文の形式，構成，発想を身につけていきます。<br>【到達目標】専門性を高め，学問的に探求する姿勢を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業の進め方について<br>第　2回　論文整理と発表（1）<br>第　3回　論文整理と発表（2）<br>第　4回　論文整理と発表（3）<br>第　5回　論文整理と発表（4）<br>第　6回　論文整理と発表（5）<br>第　7回　論文整理と発表（6）<br>第　8回　論文整理と発表（7）<br>第　9回　論文整理と発表（8）<br>第10回　論文整理と発表（9）<br>第11回　論文整理と発表（10）<br>第12回　論文整理と発表（11）<br>第13回　論文整理と発表（12）<br>第14回　論文整理と発表（13）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 関係論文を調査し，発表に備えてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 卒業研究Ⅰ，Ⅱ | 担当者 | 専攻教員全員 |
| | 〔履修年次〕　２年　〔学期〕　前期，後期<br>〔単位〕　各１単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】卒業論文の作成<br>【概要】卒業論文は２年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は，日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと，それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し，成果を卒業論文として提出します。<br>１年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し，２年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ，冬期には，卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。<br>教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け，みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。<br>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に紹介します。<br>(2)　小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Ⅰ　オリエンテーション：卒業論文の進め方　Ⅱ　論文作成：その１<br>第　2回　論文作成：その１　論文作成：その２<br>第　3回　論文作成：その２　論文作成：その３<br>第　4回　論文作成：その３　論文作成：その４<br>第　5回　論文作成：その４　論文作成：その５<br>第　6回　論文作成：その５　論文作成：その６<br>第　7回　論文作成：その６　論文作成：その７<br>第　8回　論文作成：その７　論文作成：その８<br>第　9回　論文作成：その８　論文作成：その９<br>第10回　論文作成：その９　論文作成：その１０<br>第11回　論文作成：その１０　論文作成：その１１<br>第12回　論文作成：その１１　論文作成：その１２<br>第13回　論文作成：その１２　論文作成：その１３<br>第14回　論文作成：その１３　論文作成：その１４<br>第15回　まとめ　まとめ | | |
| 成績評価の方法 | Ⅰ：中間報告100%<br>Ⅱ：卒業論文75%，口頭発表25% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較文化** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　日本語日本文学専攻は２年，英語英文学専攻は１年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。<br>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような<関係性=コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。<br>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007 年）<br>(2)　池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010 年）他。（授業で随時紹介します） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か<br>第　2回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味<br>第　3回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し<br>第　4回　空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間<br>第　5回　「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界<br>第　6回　女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー<br>第　7回　異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと<br>第　8回　異文化コミュケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか<br>第　9回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史<br>第 10 回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？<br>第 11 回　異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応<br>第 12 回　異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば<br>第 13 回　異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践１<br>第 14 回　異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践２<br>第 15 回　異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケーション」に向けて | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%） | | |

(注) 英語英文学専攻は教職必修。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英文学史** | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　2 年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| | 【テーマ】18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。<br>【概要】まず，文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に，18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18 世紀の特徴，19 世紀の特徴，20 世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。<br>【到達目標】18 世紀の小説の特徴，19 世紀の小説の特徴，20 世紀の小説の特徴を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　川崎寿彦著　『イギリス文学史』　成美堂<br>(2)　サブテスクトは講義中に指定する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（講義方式の説明，文学史のテキストに潜む問題点の探求）<br>第　2回　18 世紀の小説（1）：18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J. バニヤン，D. デフォー，J. スイフト，S. リチャードソン）<br>第　3回　18 世紀の小説（2）：18 世紀の小説における H. フィールディング，L. スターン，T. スモレットの役割<br>第　4回　18 世紀の小説（3）：18 世紀後半のゴシック小説（H. ウォルポール）<br>第　5回　18 世紀の小説（4）：J. オースティンの小説<br>第　6回　18 世紀の小説に関する小テスト，19 世紀の小説（1）：19 世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴<br>第　7回　19 世紀の小説（2）：C. ディケンズの小説<br>第　8回　19 世紀の小説（3）：W. M. サッカレーの小説，ブロンテ姉妹（シャーロット，エミリー，アン）の小説<br>第　9回　19 世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響，19 世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T. ハーディ）<br>第 10 回　19 世紀の小説に関する小テスト，20 世紀の小説（1）：20 世紀小説の特徴<br>第 11 回　20 世紀の小説（2）：D. H. ロレンスの小説<br>第 12 回　20 世紀の小説（3）：V. ウルフの小説，H. G. ウェルズの小説<br>第 13 回　20 世紀の小説（4）：H. ジェイムズの小説，E. M. フォスターの小説<br>第 14 回　20 世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査３回（プリント），復習は小テスト（３回）の準備 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%），講義中の小テスト／授業への取り組み（30%），課題レポート分(10%) | | |

(注) 日本語日本文学専攻は選択，英語英文学専攻は必修。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **米文学史** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流<br>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ることで、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。<br>＊授業には必ず英和辞典を持参すること。<br>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　井上謙治著　『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、 2004 年）<br>(2)　授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション―ネイティブ・アメリカンの詩<br>第　2回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（1）<br>第　3回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（2）<br>第　4回　「驚異」の世界―ロマン主義の勃興<br>第　5回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（1）<br>第　6回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（2）<br>第　7回　「金めっき時代」―リアリズムの勃興<br>第　8回　危機と革新―リアリズムの展開<br>第　9回　繁栄と解放の文学―ロスト・ジェネレーション<br>第 10 回　世界へ向けて―モダニズムの文学<br>第 11 回　戦後文学の出発―第２次世界大戦と冷戦<br>第 12 回　自我をつくろう―人種系文学（1）<br>第 13 回　自我をつくろう―人種系文学（2）<br>第 14 回　自己の探求―ポスト・モダニズムの文学<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%） | | |

（注）日本語日本文学専攻は選択，英語英文学専攻は必修。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **読書と豊かな人間性** | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。<br>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。<br>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニマシオンなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性 』(メディア専門職養成シリーズ)学分社<br>(2)　「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　子どもと読書：現代社会と読書<br>第　2回　読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み<br>第　3回　学校図書館と読書１：学校図書館の役割<br>第　4回　学校図書館と読書２：学校図書館と読書活動<br>第　5回　学校教育における読書指導：戦後 70 年間の変化<br>第　6回　学校教育における読書の意義：教科教育と読書<br>第　7回　児童生徒の発達段階と読書<br>第　8回　児童生徒と読書資料：本の種類と流通過程<br>第　9回　公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション<br>第 10 回　子供の読書環境・大人と読書：地域との連携、生涯学習<br>第 11 回　読書活動１：読書案内、ブックトーク、ブックリスト<br>第 12 回　読書活動２：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング<br>第 13 回　読書活動３：パネルシアター、紙芝居、エプロンシアター<br>第 14 回　実演１：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど<br>第 15 回　実演２：ブックトーク、読み聞かせ、読みあい、アニマシオンなど | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題提出（50%）と、授業第 14 回、15 回での実演（50%） | | |

（注）司書教諭資格必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報メディアの活用** | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び，学校図書館での活用方法について考える。<br>【概要】<br>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において，情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており，その中で，司書教諭は多様なメディアについて理解し，活用する能力を持つことが期待される。授業においては，情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき，様々なメディアの特性を知って，効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。<br>【到達目標】<br>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し，説明できる。<br>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し，説明できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社，適宜プリントを配布する。<br>(2)　なし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割<br>第　2回　情報メディアの歴史的変遷<br>第　3回　学校教育と情報メディア<br>第　4回　情報メディアの種類と特性<br>第　5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点<br>第　6回　視聴覚メディアの活用<br>第　7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用<br>第　8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用<br>第　9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索<br>第10回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索<br>第11回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信<br>第12回　情報セキュリティ<br>第13回　ネットワーク環境と学校教育<br>第14回　学校図書館メディアと著作権<br>第15回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 教科書の精読，授業で課す課題の調査など。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での課題（30%），期末試験（70%） | | |

（注）司書教諭資格必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **書道Ⅰ** | 担当者 | 松元　徳雄 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】楷書・行書・かなの特徴と書法<br>【概要】書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり，実に興味深い。<br>しかし，現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが，筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。<br>本講座では，書体の変遷について概要を学び，実技へと移行する。まず，書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書，さらにかなの基本へと進む。<br>【到達目標】楷書・行書・かなの書き方を習得する | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　書について（書体の特徴とその変遷）<br>第　2回　楷書の特徴とその書法（基本点画の書き方）<br>第　3回　〃　〃<br>第　4回　〃　〃<br>第　5回　〃　（細字の書き方）<br>第　6回　〃　〃<br>第　7回　行書の特徴とその書法（基本点画の書き方）<br>第　8回　〃　〃<br>第　9回　〃　〃<br>第10回　〃　（細字の書き方）<br>第11回　〃　〃<br>第12回　かなの特徴と書き方　（いろは単体）<br>第13回　〃　〃<br>第14回　〃　（連綿とその応用）<br>第15回　〃　〃 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業における清書作品（100%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **書道Ⅱ** | 担当者 | 松元　徳雄 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習<br>【概要】中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し，その執筆法を習得する。さらに，書の基本である楷書の古典を通して，その造型と運筆の要領を学ぶ。また，日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。<br>【到達目標】中学校におけ書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の＜ツメル＞特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　中学校における書写教育について<br>第　2回　中学校で学ぶ楷書の基本とその応用<br>第　3回　〃<br>第　4回　〃<br>第　5回　楷書の古典（九成宮醴泉銘）<br>第　6回　〃　〃<br>第　7回　〃　（始平公造像記）<br>第　8回　〃　〃<br>第　9回　中学校で学ぶ行書の基本とその応用<br>第10回　〃<br>第11回　〃<br>第12回　行書の古典（蘭亭叙）<br>第13回　〃　〃<br>第14回　〃　（苕溪詩巻）<br>第15回　〃　（呉昌碩詩稿） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業における清書作品（100%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **書道Ⅲ** | 担当者 | 松元　徳雄 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】草書・隷書・篆書の特徴とその運筆の技法<br>【概要】　書道Ⅲでは草書・隷書・篆書の３つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが，芸術性が高く，書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隷書は今から1800年位前に生まれた書体であるが，日常よく目にする文字である。隷書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり，その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。<br>【到達目標】草書・隷書・篆書の＜ツメル＞特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　草書の特徴とその書法（基本点画の書き方）<br>第　2回　草書の古典（書譜）<br>第　3回　〃　〃<br>第　4回　〃　（擬山園帖）<br>第　5回　〃　〃<br>第　6回　隷書の特徴とその書法（基本点画の書き方）<br>第　7回　隷書の古典（曹全碑）<br>第　8回　〃　〃<br>第　9回　〃　（礼器碑）<br>第10回　〃　〃<br>第11回　篆書の特徴とその書法（基本点画の書き方）<br>第12回　篆書の古典（泰山刻石）<br>第13回　〃　〃<br>第14回　〃　（趙之謙篆書対聯）<br>第15回　〃　〃 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業における清書作品（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 書道Ⅳ | 担当者 | 松元　徳雄 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 授業終了後に対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習<br>【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず，自分の名を刻した印を制作し，漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して，その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが，日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか，実感してもらうのも目的の一つである。<br><br>【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　作品制作（篆刻―自用印）<br>第　2回　〃　〃<br>第　3回　〃　〃<br>第　4回　〃　〃<br>第　5回　〃（漢字作品―４字熟語）<br>第　6回　〃　〃<br>第　7回　〃　〃<br>第　8回　〃（調和体作品）<br>第　9回　〃　〃<br>第10回　かなの古典（高野切第１種）<br>第11回　〃　〃<br>第12回　〃（高野切第３種）<br>第13回　〃　〃<br>第14回　〃（寸松庵色紙）<br>第15回　〃　〃 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業における清書作品（100%） | | |

# ６　英語英文学専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | スタディスキルズ | 担当者 | 遠峯伸一郎　轟義昭　小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成<br><br>【概要】大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術―「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」―を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。<br>【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　学習技術研究会　『知へのステップ　第４版－大学生からのスタディ・スキルズ』　くろしお出版<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：「生徒」から「学生」へ<br>第　2回　「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために<br>第　3回　「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に進む<br>第　4回　論文ってどんなもの？：基礎編１―よく使われる語と表現，引用<br>第　5回　論文ってどんなもの？：基礎編２―よく使われる文の形，句読点，表記規則<br>第　6回　「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方<br>第　7回　本論の役割：論拠提示，結論提示<br>第　8回　結びの役割：総括する，展望提示<br>第　9回　図表・資料に関する表現：使用する資料を示す，図表を用いて説明する<br>第10回　レポート作成の第一歩（テーマ設定から結びに至る展開術の確認）<br>第11回　レポート作成の実践（その一）<br>第12回　レポート作成の実践（その二）<br>第13回　レポート作成の実践（その三）<br>第14回　発表用スライドの作成：パワーポイントの活用<br>第15回　プレゼンテーション | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（60%），プレゼンテーション（10%），授業時の取り組み（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **コミュニケーション概論** | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよび schoology |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語で学ぶコミュニケーション入門，Content and Language Integrated Learning(CLIL)<br>【概要】<br>この授業は，CLIL（内容言語統合型学習）という教育方法を実践し，領域統合型の言語活動を実践する演習形式の授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。本授業では，500 語程度のリーディング課題が毎回課されます。学生は事前にそれを読み，基礎的な背景知識を身につけてから授業に参加します。授業では，まずリーディング課題に関するクイズを行い課題の取り組みや理解を確認します。その後，リーディング課題に関連するトピックについて短いレクチャーを聞いてノートテイキングの練習をしたり，関連する映像を見たり，ペアやグループで調査，ディベート，プレゼンテーションなど様々な言語活動に取り組みながら，新しく学んだ内容についての理解を深めます。各授業の終わりには，ラーニングジャーナルに学習内容を書いてまとめます。学期末には，学習のまとめとして各自関心のあるトピック関する 5 分間程度のプレゼンテーション課題と，授業中に与えられるテーマに関するレポート課題があります。<br>【到達目標】<br>(1)トピックに関する英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)トピックに関する英語の説明を聞いて，概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Vincent, P. (2017). *Speaking of intercultural communication.* Nan'un-do.<br>(2)　①Arent, R. (2009). *Bridging the cross-cultural Gap: Listening and speaking tasks for developing fluency in English.* The University of Michigan Press: Ann Arbor.②Goldstein, S. (2000). *Cross-cultural explorations: Activities in culture and psychology.* Allyn and Bacon.③Storti, C. (1994). *Cross-cultural dialogues: 74 brief encounters with cultural difference.* Intercultural Press.④Stringer M. D. & Cassiday, A. P. (2009). *52 activities for improving cross-cultural communication.* Intercultural Press. | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート）<br>第　2回　Communication: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　3回　Culture: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　4回　Nonverbal Communication: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　5回　Communicating Clearly: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　6回　Culture and Values: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　7回　Culture and Perception: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　8回　Diversity: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第　9回　Stereotypes: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第 10 回　Culture Shock: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第 11 回　Culture and Change: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第 12 回　Talking about Japan: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learningjournal<br>第 13 回　Becoming a Global Person: Quiz, Mini-lectue, Note-taking, Pair-work, Group-work, Learning journal<br>第 14 回　Final Presentation (1): Speech, Discussion, Learning journal<br>第 15 回　Final Presentation (2): Speech, Discussion, Learning journal | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習 2 時間以上，復習（発表準備含む）2 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | リーディング課題に関するクイズ 30%　プレゼンテーション 30%　レポート課題 40%で評価する。 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語学概論 | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語学諸分野の概説<br><br>【概要】英語を題材に，音声学・音韻論，形態論，意味論，統語論，語用論の各分野を概観する。<br><br>【到達目標】音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して，英語の例を分析できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし。<br>(2)　大名力 (2014) 『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社，東京。その他随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス，英語学とは何か<br>第 2回　音声学・音韻論(1)　英語の母音・子音<br>第 3回　音声学・音韻論(2)　音素と異音、綴りと発音の対応<br>第 4回　音声学・音韻論(3)　英語のアクセントとイントネーション<br>第 5回　音声学・音韻論(4)　英語の音変化と音脱落<br>第 6回　形態論(1)　形態素<br>第 7回　形態論(2)　複合語<br>第 8回　形態論(3)　その他の語形成過程<br>第 9回　統語論(1)　句や文の組み立てに見る規則性<br>第10回　統語論(2)　文構造の再帰性<br>第11回　統語論(3)　動詞を中心とする構文　時制、相、態<br>第12回　統語論(4)　冠詞・名詞を中心とする構文　定性<br>第13回　意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義<br>第14回　意味論(2) 比喩<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習1時間以上，復習3時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（40%）＋ 小テスト（40%）＋ 授業内活動への積極的な参加（20%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英文学概論 | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「詩」「劇」「散文」「小説」の作品を読む。作品に潜む問題点を考える能力（探求能力）を身に付ける。<br>【概要】「詩」「劇」「散文」「小説」のジャンルから具体的に作品を取り上げて鑑賞し，作品の問題点を探求していく。作品に関する基本的な事項については，1回目に配布したプリント「講義内容&資料」に基づいて予習させ，授業中に確認していく。問題点の探求においては，グループ活動をとおして受講生とのディスカッションを取り入れ，他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める（受講生は発言が求められるので，前もってテキストをしっかり読んでおく必要がある）。また，授業で学習した詩（ソネット）を応用し，課題（任意課題）に取り組む機会を与えることで，「大衆文化のなかのイギリス文学」という視点で文学作品を捉えられる可能性を教える。<br>【到達目標】イギリス文学の詩，劇，散文，小説に作品を鑑賞し，それぞれのジャンルに使用されている英語表現を理解する。作品に潜む問題点を探求しながら，多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。イギリス文学の代表的な詩，劇，散文，小説における5つの作品を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　W.シェイクスピア作　小田島雄志訳　『リア王』　白水Uブックス<br>C.ディケンズ作　村岡花子訳　『クリスマス・キャロル』　新潮文庫<br>エミリー・ブロンテ作　鴻巣友季子訳　『嵐が丘』　新潮文庫　＊プリント使用あり（原文の利用）<br>(2)　高橋源次『英文学概論』（南雲堂），高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』（大修館書店） | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション（「英文学概論」はどういう学問か，15回の講義で何を学ぶかについての説明）<br>第 2回　詩の鑑賞と問題点の探求：G.チョーサー『カンタベリー物語』（中世イギリスの社会的文化的背景の理解など）<br>第 3回　劇の鑑賞と問題点の探求（1）：W. シェイクスピア『リア王』（シェイクスピア劇の理解など）<br>第 4回　劇の鑑賞と問題点の探求（2）：W. シェイクスピア『リア王』（グロスター親子の役割）<br>第 5回　劇の鑑賞と問題点の探求（3）：W. シェイクスピア『リア王』（コーディリアの死の役割と意義）<br>第 6回　劇／詩の鑑賞と問題点の探求（4）：W. シェイクスピア『リア王』（まとめ）と『ソネット集』（詩の特徴の理解）<br>第 7回　散文の鑑賞と問題点の探求（1）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（散文英語の特徴，映像利用による作品の理解）<br>第 8回　散文の鑑賞と問題点の探求（2）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（作品のテーマと魅力及び作者の主張探求など）<br>第 9回　散文の鑑賞と問題点の探求（3）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（大衆文化における『ガリヴァー旅行記』）<br>第10回　小説の鑑賞と問題点の探求（1）：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』（19世紀イギリスの時代背景の理解など）<br>第11回　小説の鑑賞と問題点の探求（2）：E.ブロンテ『嵐が丘』（事前に鑑賞させた映画に関するディスカッションなど）<br>第12回　小説の鑑賞と問題点の探求（3）：E.ブロンテ『嵐が丘』（テーマに基づく物語の内容理解）<br>第13回　小説の鑑賞と問題点の探求（4）：E.ブロンテ『嵐が丘』（愛と復讐の問題点を探求）<br>第14回　小説の鑑賞と問題点の探求（5）：E.ブロンテ『嵐が丘』（小説英語の特徴の理解，『嵐が丘』の世界のまとめなど）<br>第15回　まとめ（5つの作品を学習したことを振り返って「英語文学を学ぶ」ことの意味を考える） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 第1回目に配布する「講義内容&資料」に記載した指示に従い，予習・宿題・課題に取り組むこと。任意課題の取り組み（ソネット18番と映画『恋におちたシェイクスピア』，ソネット116番と映画『いつか晴れた日に』） | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%），課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み（50%）　＊任意課題提出者は別途評価 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 比較文化 | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。<br>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、「グローバル化」による影響が私たちの身のまわりにあふれているのと同じように、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような<関係性=コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。受講者は、本講義を通して、どのように「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養成する。講義を通して単に知識を得るだけでなく、個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。また講義終盤では、地域に暮らす外国人や留学生と交流の時間を設ける。自身の文化をどのように発信すれば、ゲスト・スピーカーと適切に交流できるのか、受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。<br>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）<br>(2)　池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）、八代京子他著『異文化トレーニング―ボーダレス社会を生きる[改訂版]』（三修社、2009年）、八代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社、2001年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か<br>第　2回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味<br>第　3回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し<br>第　4回　空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間<br>第　5回　「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界<br>第　6回　女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー<br>第　7回　異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと<br>第　8回　異文化コミュケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか<br>第　9回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史<br>第10回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？<br>第11回　異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応<br>第12回　異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば<br>第13回　異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践1<br>第14回　異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2<br>第15回　異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケーション」に向けて | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅠ | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations.<br>【概要】Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.<br>【到達目標】In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Antonia Clare, JJ Wilson. *Speakout pre-intermediate*. 2nd edition. Pearson Education<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English?<br>第 2回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: *Past simple*.<br>第 3回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of *past simple* endings (*-ed*). Unit 1 review.<br>第 4回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/.<br>第 5回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: *present simple* and *continuous*.<br>第 6回 Unit 2 Communication skills: intonation; express likes and dislikes. Unit 2 review<br>第 7回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job.<br>第 8回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary.<br>第 9回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review.<br>第 10回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe.<br>第 11回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: *present continuous* and the *be going to* future.<br>第 12回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review<br>第 13回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English.<br>第 14回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: past simple and past continuous.<br>第 15回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5<br>第 16回 Unit 5 short presentation. The best day of your life.<br>第 17回 Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living the city or in the countryside.<br>第 18回 Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review.<br>第 19回 Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games.<br>第 20回 Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them.<br>第 21回 Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review.<br>第 22回 Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band<br>第 23回 Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie and videogame.<br>第 24回 Unit 8 Communication skills: polite intonations and contrastive stress Unit 8 review.<br>第 25回 Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game.<br>第 26回 Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals.<br>第 27回 Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review.<br>第 28回 Unit 9. Short presentation. The cost of fame.<br>第 29回 Preparation for the final presentation<br>第 30回 Review of the course | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In-class presentations (60%); Final presentation (40%) | | |

(注) 週2回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅠ | 担当者 | メアリー・マクセイ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a practical course for students to improve their basic English listening and speaking skills.<br><br>【概要】 Class time will be centered on the study of basic language patterns and strategies for everyday conversation. Pair practice and oral presentations will be an integral part of classroom practice.<br><br>【到達目標】The goal of this course is to help students comprehend and communicate in English more spontaneously, independently, and confidently. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Miles Craven, *Breakthrough Plus 2, 2nd Edition,* Macmillan Education<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction<br>第 2回 Unit 1-Lifestyles (Daily Life): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 3回 Unit 1 (continued)-Pair practices discussing daily activities, listening activities<br>第 4回 Unit 1 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 5回 Unit 1 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 6回 Unit 2-Leisure (talking about free time): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 7回 Unit 2 (continued)-Pair practices discussing free time, listening activities<br>第 8回 Unit 2 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 9回 Unit 2 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 10回 Unit 3-Getting Along (making requests/responding): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 11回 Unit 3 (continued)-Pair practices to practice making requests & responding, listening activities<br>第 12回 Unit 3 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 13回 Review 1: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 1-3<br>第 14回 Student presentations for Unit 1-3 themes/evaluation<br>第 15回 Unit 4-Interests (talking about activities): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 16回 Unit 4 (continued)-Pair practices to practice talking about activities, listening activities<br>第 17回 Unit 4 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 18回 Unit 4 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 19回 Unit 5-Telling a Story (relating past events): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 20回 Unit 5 (continued)-Pair practices to practice past tense, listening activities<br>第 21回 Unit 5 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 22回 Unit 5 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 23回 Unit 6-Celebrations (festivals/special events): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 24回 Unit 6 (continued)-Pair practices to discuss event planning/festivals, listening activities<br>第 25回 Unit 6 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 26回 Review 2: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 4-6<br>第 27回 Student presentations for Unit 4-6 themes/evaluation<br>第 28回 Unit 7-Food & Drink: Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 29回 Unit 7 (continued)-Pair practices to talk about food & drinks, listening activities<br>第 30回 Unit 7 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 授業での参加の度合（30%）、Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験（70%） | | |

（注）週 2 回，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーション I | 担当者 | ニコライ・ギュレメトヴ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】 Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. | | |
| | 【概要】Classes will include speaking practice, group and pair discussions, presentations (short speeches and Power Point) as well as expanding the textbook topics by watching and discussing relevant videos and materials. | | |
| | 【到達目標】The goal of this course is to help students communicate in English more fluently by discussing different topics and sharing their opinions in a confident, effective way. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Richard R. Day, J. Shawles. J. Yamanaka, *Impact Issues 2*, Pearson<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction: plans for the term and getting to know each other.<br>第 2回 Unit 1 First Impressions<br>第 3回 Unit 2 Traffic Jam<br>第 4回 Unit 2 CONTINUED.<br>第 5回 Unit 3 Who need the local language?.<br>第 6回 Unit 3 CONTINUED<br>第 7回 Unit 4 Getting Ahead<br>第 8回 Unit 5 Forever Single<br>第 9回 Unit 6 What are friends for?<br>第 10回 Unit 7 What's for Dinner?;<br>第 11回 Unit 7 CONTINUED.<br>第 12回 Unit 8 Cyber Bullying<br>第 13回 Unit 9 Taking Care of Father<br>第 14回 Unit 9 CONTINUED.<br>第 15回 Unit 10 Why go to school?<br>第 16回 Unit 11 An International Relationship<br>第 17回 Unit 12 Too little, too late<br>第 18回 Unit 12 CONTINUED.<br>第 19回 Unit 13 Ben and Mike<br>第 20回 Unit 14 Government Control<br>第 21回 Special Practice Lesson 1<br>第 22回 Special Practice Lesson 2<br>第 23回 Unit 15 Living Together<br>第 24回 Unit 16 Size Discrimination<br>第 25回 Unit 20 A Mother's Story<br>第 26回 Watch/discuss a documentary about social problems, crime and punishment.<br>第 27回 Special practice lesson 3: TOEFL Speaking exercise<br>第 28回 Special practice lesson 4: TOEFL Speaking exercise (continued)<br>第 29回 FINAL TEST- Every student has 10-15 minutes to present their work and answer questions about it.<br>第 30回 FINAL TEST: CONTINUED- Feedback on students' performance, extra questions, feedback from students. | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 授業への取り組み（20%）、Quizzes / in-class presentations / test クイズ／授業での発表・試験（80%） | | |

（注）週 2 回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **オーラルコミュニケーションⅡ** | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course focused on improving the students' communicative skills in English.<br>【概要】The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English.<br>【到達目標】The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Antonia Clare, JJ Wilson, *Speakout. Intermediate*. Pearson Education<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?<br>第 2回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on past simple and *present perfect*<br>第 3回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell, pronunciation of *have*, *had*, *was* (weak forms); intonation: sounding interested.<br>第 4回 Unit 1. Presentation: reporting news.<br>第 5回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (*will* tense)<br>第 6回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms), fast speech (*going to* future), linking in connected speech.<br>第 7回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.<br>第 8回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and *used to* and *simple conditional* tense<br>第 9回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress.<br>第 10回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.<br>第 11回 Unit 4. Taking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals<br>第 12回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (*would*); intonation: giving bad news.<br>第 13回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and confess the emotions they felt about it.<br>第 14回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is it necessary to achieve success? Review on *present perfect* VS *present continuous*<br>第 15回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.<br>第 16回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far.<br>第 17回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice<br>第 18回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect.<br>第 19回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event.<br>第 20回 Unit 7. What are the problems the world is facing today?. Review on reported speech<br>第 21回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes.<br>第 22回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world<br>Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers.<br>第 23回 Unit 8 Communication skills: verb phrases; stress pattern: short phrases.<br>第 24回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like.<br>第 25回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives.<br>第 26回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests<br>Unit 9. Presentation: The students try to explain the Japanese culture to a foreigner.<br>第 27回 Unit 10. Speaking: talking about communities.<br>第 28回 Unit 10. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words<br>第 29回 Unit 10. Presentation: The students describe their neighborhood.<br>第 30回 Review of the course | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In-class presentations (60%) final presentation (40%). | | |

（注）週 2 回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅡ | 担当者 | メアリー・マクセイ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course for students to further improve their basic English listening and speaking skills.<br><br>【概要】Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of classroom work.<br><br>【到達目標】The goal of this course is to help students further comprehend and communicate in English spontaneously, independently, and confidently. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Miles Craven, *Breakthrough Plus 3, 2nd Edition,* Macmillan Education<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction<br>第 2回 Unit 1-Lifestyles (Memories): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 3回 Unit 1 (continued)-Pair practices discussing past activities, listening activities<br>第 4回 Unit 1 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 5回 Unit 1 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 6回 Unit 2-Life Changes (talking about major life events): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 7回 Unit 2 (continued)-Pair practices discussing life events, listening activities<br>第 8回 Unit 2 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 9回 Unit 2 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 10回 Unit 3-Viewpoints (expressing opinions): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 11回 Unit 3 (continued)-Pair practices to practice expressing opinions & responding, listening activities<br>第 12回 Unit 3 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 13回 Review 1: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 1-3<br>第 14回 Student presentations for Unit 1-3 themes/evaluation<br>第 15回 Unit 4-Problems: Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 16回 Unit 4 (continued)-Pair practices to practice talking about problems, listening activities<br>第 17回 Unit 4 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 18回 Unit 4 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 19回 Unit 5-Thinking Ahead (predicting the future): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 20回 Unit 5 (continued)-Pair practices to practice future tense, listening activities<br>第 21回 Unit 5 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 22回 Unit 5 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation<br>第 23回 Unit 6-Imagine! (speculating/using conditionals): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 24回 Unit 6 (continued)-Pair practices for practicing conditionals, listening activities<br>第 25回 Unit 6 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks<br>第 26回 Review 2: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 4-6<br>第 27回 Student presentations for Unit 4-6 themes/evaluation<br>第 28回 Unit 7-My World (talking about people/places/things): Conversation, Grammar, Pronunciation<br>第 29回 Unit 7 (continued)-Pair practices to talk about the world today, listening activities<br>第 30回 Unit 7 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 授業での参加の度合（30%）、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験（70%） | | |

（注）週２回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅡ | 担当者 | ニコライ・ギュレメトヴ |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる<br>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.<br>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。<br><br>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Impact Issues 2, by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman<br>(2) （プリントを配布する場合もある） | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 オリエンテーション Orientation, selection of units to use (12 out of 20)<br>第 2回<br>第 3回<br>第 4回<br>第 5回<br>第 6回<br>第 7回 Week 2 to Week 10：Work with the units selected<br>第 8回<br>第 9回<br>第10回<br>第11回 Oral Presentation: スピーチ<br>第12回<br>第13回 Week 12 and 13: Finish the textbook<br>第14回 Oral Presentation: グループ発表<br>第15回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 授業中のパフォーマンス（60%）＋発表・スピーチ （40%）による評価します。 | | |

（注）週2回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅢ | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches. | | |
| | 【概要】Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing. | | |
| | 【到達目標】In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Antonia Clare, JJ Wilson. *Speakout intermediate plus*. 2nd edition. Pearson Education.<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English?<br>第 2回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions.<br>第 3回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses. Verb + preposition<br>第 4回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know<br>第 5回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative *have*.<br>第 6回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects; stress: causative *have*.; connected speech: linking<br>第 7回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good points and its bad points (if any).<br>第 8回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures.<br>第 9回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate<br>第10回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life.<br>第11回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and present perfect simple and continuous.<br>第12回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic)<br>第13回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks.<br>第14回 Review of the course<br>第15回 Preparation for the final presentation | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In-class presentations (60%) Final presentation (40%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅢ | 担当者 | メアリー・マクセイ |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is a course aimed at developing the students' vocabulary and ability to communicate their ideas spontaneously and independently.<br><br>【概要】Class time will be centered on speaking and vocabulary work, centered around discussions of timely themes. Students will be required to lead in discussions and compile notebooks containing vocabulary and notes of their topic discussions.<br><br>【到達目標】The goal of this course is to help students increase their vocabulary and become spontaneous in understanding and expressing themselves in English. They should become more knowledgeable concerning many important controversial topics and able to carry on a discussion with more confidence. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Day & Schaules, *Impact Issues 3, Third Edition,* Pearson Longman<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Orientation/determination of student leaders, textbook topics to discuss, and schedule for student leading<br>第 2回 Discussion Topic 1<br>第 3回 Discussion Topic 2<br>第 4回 Discussion Topic 3<br>第 5回 Discussion Topic 4<br>第 6回 Discussion Topic 5<br>第 7回 Discussion Topic 6<br>第 8回 Discussion Topic 7<br>第 9回 Discussion Topic 8<br>第10回 Discussion Topic 9<br>第11回 Discussion Topic 10<br>第12回 Discussion Topic 11<br>第13回 Discussion Topic 12<br>第14回 Discussion Topic 13<br>第15回 Discussion Topic 14 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 授業での参加の度合（30%）、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験（70%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅢ | 担当者 | Andrew Daniels |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations.<br>【概要】Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns<br>【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Inspire 2 by Hartmannn, Douglas and Boon Cengage learning<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction of key topics from the first half of the textbook<br>第 2回 Festivals<br>第 3回 Food<br>第 4回 Cities<br>第 5回 Jobs (Part-time)<br>第 6回 Jobs (Unusual)<br>第 7回 Review Quiz of first half of semester<br>第 8回 Music<br>第 9回 Traditional Instruments<br>第10回 Travel (Abroad)<br>第11回 Travel (Domestic)<br>第12回 Life Dreams and Hopes<br>第13回 Happiness<br>第14回 Life Goals<br>第15回 Pair work practice on key topic<br>第16回 Final Quiz | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Participation in class pair-work activities 40%<br>Vocabulary and short quizzes 30%<br>Final Speaking Activity and Quiz 30% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅣ | 担当者 | メアリー・マクセイ |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability.<br><br>【概要】Class time will be centered on English listening and viewing of TED Talks and authentic language. Vocabulary, speaking, pronunciation, note-taking, and presentation skills will be practiced based upon those segments.<br><br>【到達目標】The goal of this course is to help students increase their vocabulary, their listening ability, and become confident in expressing their ideas in a more fluent manner. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Lida Baker & Laurie Blass, *21st Century Communication--Book 1A,* National Geographic Learning / Cengage<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction/ Unit 1 (*Conservation*) Lesson A<br>第 2回 Unit 1 Lesson B<br>第 3回 Unit 1 Lesson C<br>第 4回 Unit 1 Presentations<br>第 5回 Unit 2 (*Connecting to Nature*) Lesson A<br>第 6回 Unit 2 Lesson B<br>第 7回 Unit 2 Lesson C<br>第 8回 Unit 2 Presentations<br>第 9回 Unit 3 (*Transportation*) Lesson A<br>第 10回 Unit 3 Lesson B<br>第 11回 Unit 3 Lesson C<br>第 12回 Unit 3 Presentations<br>第 13回 Unit 4 (*Music*) Lesson A<br>第 14回 Unit 4 Lesson B<br>第 15回 Unit 4 Lesson C | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class participation 授業での参加の度合（30%）、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験（70%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | オーラルコミュニケーションⅣ | 担当者 | Andrew Daniels |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English.<br>【概要】Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class.<br>【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) No Text. Materials prepared by teacher<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction of Course and Goals for this semester Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap<br>第 2回 Generation Gaps<br>第 3回 Family Issues<br>第 4回 Global Youth Culture<br>第 5回 World Music and expressing opinions about it<br>第 6回 Fashion<br>第 7回 Review Quiz<br>第 8回 Health<br>第 9回 Diets<br>第 10回 Pressures of the Mass Media<br>第 11回 Travel Plans<br>第 12回 Plans for the Future<br>第 13回 Life in the Future<br>第 14回 Generational Choices<br>第 15回 Pair work presentation practice<br>第 16回 Final Quiz | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Participation in class pair-work activities 40%<br>Vocabulary and short quizzes 30%<br>Final Speaking Activity and Quiz 30% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅰ** | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.<br><br>【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.<br><br>【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Introduction<br>第 2回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information<br>第 3回 Unit 1: Topic Sentences<br>第 4回 Unit 2: Organizing Ideas<br>第 5回 Unit 2: Inference Sentences<br>第 6回 In-class writing assignment (1), 1st draft<br>第 7回 In-class writing assignment (1), 2nd draft<br>第 8回 Writing assignment (1) Review<br>第 9回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs<br>第10回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech<br>第11回 Unit 4: Descriptive Paragraphs<br>第12回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition<br>第13回 In-class writing assignment (2), 1st draft<br>第14回 In-class writing assignment (2), 2nd draft<br>第15回 Writing assignment (2) Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Mid-Term Writing Assignment 50%, Final Writing Assignment 50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅰ** | 担当者 | Patrick Gorham |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in class compositions. Students must also fulfill the Kentan attendance requirement.<br>【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.<br>【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Class Orientation<br>第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph<br>第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph<br>第 4回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph<br>第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph<br>第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph<br>第 7回 Unit 2, Descriptive Paragraph<br>第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft<br>第 9回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft<br>第10回 Unit 3, Example paragraph<br>第11回 Unit 3, Example paragraph<br>第12回 Unit 3, Example paragraph<br>第13回 Unit 3, Example paragraph<br>第14回 Example paragraph in-class writing assignment 1st draft<br>第15回 Example paragraph in-class writing assignment 2nd draft | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Students essays 80%, freewriting 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅱ** | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.<br><br>【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.<br><br>【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 5: Introductory Paragraphs<br>第 2回 Unit 5: Cause and Effect Words and Paragraphs<br>第 3回 Unit 6: Process Paragraphs<br>第 4回 Unit 6: Guiding Readers / Modifiers<br>第 5回 In-class writing assignment (1), 1st draft<br>第 6回 In-class writing assignment (1), 2nd draft<br>第 7回 Writing assignment (1) Review<br>第 8回 Unit 7: Classifying into Groups<br>第 9回 Unit 7: Concluding Paragraphs / Use of Commas<br>第 10回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs<br>第 11回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Parallelism<br>第 12回 Unit 9: Sentence Transitions<br>第 13回 In-class writing assignment (2), 1st draft<br>第 14回 In-class writing assignment (2), 2nd draft<br>第 15回 Writing assignment (2) Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Mid-Term Writing Assignment 50%, Final Writing Assignment 50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅱ** | 担当者 | Patrick Gorham |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.<br>【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.<br>.<br>【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei ; Publisher: Oxford University Press<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 4, Process paragraph<br>第 2回 Unit 4, Process paragraph<br>第 3回 Unit 4, Process paragraph<br>第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft<br>第 5回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft<br>第 6回 Unit 5, Opinion paragraph<br>第 7回 Unit 5, Opinion paragraph<br>第 8回 Unit 5, Opinion paragraph<br>第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft<br>第 10回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft<br>第 11回 Unit 6, Narrative paragraph<br>第 12回 Unit 6, Narrative paragraph<br>第 13回 Unit 6, Narrative paragraph<br>第 14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft<br>第 15回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Student essays 80%, freewriting 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅲ** | 担当者 | James Murray ジェイムズ・マレー |
| | 〔履修年次〕 2 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.<br>【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.<br>【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 1: “About Me” Expository Paragraphs<br>第 2回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format<br>第 3回 Unit 2: “Career Consultant” Supporting Logical Conclusions<br>第 4回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information<br>第 5回 Unit 3: “Dream Come True” Supporting Sentences<br>第 6回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs<br>第 7回 Mid-Term Paper (first draft)<br>第 8回 Mid-Term Paper (final draft)<br>第 9回 Unit 4: “Invent” Definition Paragraphs<br>第 10回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product<br>第 11回 Unit 5: “Changed My Life” Cause and Effect Paragraphs<br>第 12回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards<br>第 13回 Unit 6: Process Paragraphs / Using Modifiers / Organizing Lists<br>第 14回 Final Paper (first draft)<br>第 15回 Final Paper (final draft) | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Mid-Term Writing Assignment 50%, Final Writing Assignment 50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語表現法Ⅲ** | 担当者 | Patrick Gorham |
| | 〔履修年次〕 2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments, do three in-class essays and fulfill the college attendance requirement.<br>【概要】Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied.<br>【到達目標】The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) Effective Academic Writing 3, Oxford University Press<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 Unit 3, Process Essay<br>第 2回 Unit 3, Process Essay<br>第 3回 Unit 3, Process Essay<br>第 4回 Process essay in-class writing assignment 1st draft<br>第 5回 Process essay in-class writing assignment 2nd draft<br>第 6回 Unit 4, Argumentative Essay<br>第 7回 Unit 4, Argumentative Essay<br>第 8回 Unit 4, Argumentative Essay<br>第 9回 Argumentative in-class writing assignment 1st draft<br>第 10回 Argumentative in-class writing assignment 2nd draft<br>第 11回 Unit 5, Classification Essay<br>第 12回 Unit 5, Classification Essay<br>第 13回 Unit 5, Classification Essay<br>第 14回 Classification in-class writing assignment 1st draft<br>第 15回 Classification in-class writing assignment 2nd draft | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Three in-class essays 80%, freewriting 20%<br>(The number of essays is subject to change depending on the progress of the class) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語コミュニケーション演習Ⅰ | 担当者 | 土持　かおり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この授業のテーマは、視聴覚教材を利用して標準的なナチュラルなオーストラリア英語、イギリス英語、アメリカ英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解し知識を得ることである。<br><br>【概要】　ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材で理解しながら、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高める。<br>さらに、毎回、パラレルリーディングやシャドーイングといった聞き取った音を再現する口頭練習を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」をアップさせる。<br><br>【到達目標】・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。<br>・英語の音声的特徴に慣れるとともに、パッセージを瞬時に聞き取り理解することができる。<br>・オーストラリアの日常生活・社会について理解し知識を得る。 | | |
| (1)テキスト | (1)　Kumiko T. Sato 他著　*Australia, Here We Come!*　出版社：Asahi Press | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業ガイダンス：　効果的なリスニング学習とは？　/　授業内容と進め方について<br>第　2回　Unit 1：Hello, Sydney, Australia！／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　3回　Unit 2：Street Life／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　4回　Unit 3：Public Transport – Commuting／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　5回　Unit 4：University Life – The University of Sydney (1)／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　6回　Unit 4：University Life – The University of Sydney (2)／シャドーイング演習<br>第　7回　Unit 5：Australian Home／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　8回　Unit 6：Supermarket – Coles／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第　9回　Unit 7：Daily Life／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第10回　Unit 8：Taronga Zoo – Australian Animals／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第11回　Unit 9：Leisure Time at the Sea／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第12回　Unit 10：Education Programmes in Taronga Zoo／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第13回　Unit 11：Leisure Time at the Park／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第14回　Unit 12：Australian Family／語彙テスト／シャドーイング演習<br>第15回　オーストラリアについてのレビュー | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回のテキストの予習、毎回の小テストのための復習 | | |
| 成績評価の方法 | 授業でのワークシート（30%）＋　復習のための小テスト（30%）＋　定期試験（40%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語コミュニケーション演習Ⅱ | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよび schoology |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>異文化コミュニケーションの理論と実践，Content and Language Integrated Learning(CLIL)<br>【概要】<br>この授業は，CLIL（内容言語統合型学習）という教育方法を実践し，領域統合型の言語活動を実践する演習形式の授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，読むことと書くことを中心に，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。<br>本授業では，600 語程度のリーディング課題が毎回課されます。学生は事前にそれを読み，基礎的な背景知識を身につけてから授業に参加します。授業では，まずリーディング課題に関するクイズを行い課題の取り組みや理解を確認します。その後，リーディング課題に関連するトピックについて短いレクチャーを聞いたり，関連する映像を見てディクテーションをしたり，ペアやグループで調査，ディベート，プレゼンテーションをするなど様々な言語活動に取り組みながら，新しく学んだ内容についての理解を深めます。各授業の終わりには，ラーニングジャーナルに学習内容を書いてまとめます。学期末には，学習のまとめとして各自関心のあるトピック関する 10 分間程度のプレゼンテーション課題と，授業中に与えられるテーマに関するレポート課題があります。本授業の使用言語は英語です。以上に加えて，自宅学習課題として，各自興味関心のあるテーマに関する記事や本などを読んで英語に触れる機会を増やす Extensive Reading 課題があります。<br>【到達目標】<br>(1)トピックに関する英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで，目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　McConachy, T., Furuya, S. & Sakurai, C. (2017). *Intercultural communication for English language learners in Japan*. Nan'un-do.<br>(2)　①Jandt, E.F. (2018). *An introduction to intercultural communication: Identities in a global community*. Sage Publications. ②Martun, N.J. & Nakayama, K.T. (2018). *Intercultural communication in contexts*. McGraw Hill Education.③Samovar, A.L., Porter, E.R., McDaniel, R.E., & Roy, S.C. (2017). *Communication between cultures*. Cengage Learning.④Singelis, M.T. (Ed.) (1998). *Teaching about culture, ethnicity & diversity*. Sage Publications. | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート）<br>第　2回　Intercultural Communication in Today's World: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　3回　English for Intercultural Communication: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　4回　Important Features of Human Communication: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　5回　The Concept of Culture: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　6回　Language and Thought: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　7回　Communication Styles: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　8回　Human Psychology and Communication: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第　9回　Speech Acts across Cultures: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 10 回　Stereotypes and Intercultural Communication: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 11 回　Cultural Accommodation in Intercultural Communication: quiz, mini-lectue, pair-/group-work, learning journal<br>第 12 回　Intercultural Communication in Higher Education: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 13 回　Study Abroad and Intercultural Adaptation: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 14 回　Intercultural Competence for the Future: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 15 回　Final Presentation: Speech, Discussion, Learning journal | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習（発表準備含む）2 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | クイズ 20%　プレゼンテーション 30%　期末レポート 40%　Extensive Reading10%で評価する。 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語コミュニケーション演習Ⅲ | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよび schoology |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】異文化コミュニケーションの理論と実践，Content and Language Integrated Learning(CLIL)<br>【概要】<br>本授業では 1000 語程度のリスニング課題（またはリーディング課題）が毎回課されます。学生は事前にそれを聞き（または読み），オンラインの授業支援システム schoology でクイズを受けてから授業に参加します。また schoology 上のビデオ教材を活用し，表現を事前に学習してから授業に参加します。授業では，ペアやグループで調査，ディベート，プレゼンテーションをするなど様々な言語活動に取り組みながら，新しく学んだ内容についての理解を深めます。 | | |
| | 【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Shaules, J. & Abe, J. (1997). *Different realities: Adventures in intercultural communication*. Nan'un-do.<br>(2)　Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). *Intercultural interactions: A practical guide*. Sage Publications. | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート）<br>第 2回　Culture and Identity: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 3回　Hidden Culture: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 4回　Stereotypes: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 5回　Words, Words, Words: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 6回　Communication without Words: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 7回　Diversity: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 8回　Perception: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 9回　Communication Styles (1): quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 10 回　Communication Styles (2): quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 11 回　Values: quiz, mini-lectue, pair-/group-work, learning journal<br>第 12 回　Deep Culture (Beliefs and Values): quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 13 回　Culture Shock: quiz, mini-lectue, dictation, pair-/group-work, learning journal<br>第 14 回　Final Presentation (1): speech, discussion, learning journal<br>第 15 回　Final Presentation (2): speech, discussion, learning journal | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習（発表準備含む）2 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 事前学習課題（オンライン）30%　授業内の取り組み（ポートフォリオ）70% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 通訳入門Ⅰ | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよび schoology |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成<br>【概要】本授業では，英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習，鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク，パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション，鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して，鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。<br>【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち，自ら積極的に参加する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　川本 佐奈恵（2018）『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』J リサーチ出版<br>(2)　森田 正康（他）（2018）『外国人から日本についてよく聞かれる質問 200』クロスメディア・ランゲージ<br>江口裕之（2018）『英語でガイド!世界とくらべてわかる日本まるごと紹介事典』J リサーチ出版<br>柴田バネッサ（監修）（2005）『通訳トレーニング入門』アルク | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス，Goodwill Guide（善意通訳）とは?，通訳訓練法の紹介<br>第 2回　フィールドワーク（1）<br>第 3回　英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までの email（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（1）<br>第 4回　英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までの email（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（2）<br>第 5回　ゲストと初対面から出発まで／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（3）<br>第 6回　電車／バスに乗って出かける／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（4）<br>第 7回　ゲストと一緒にランチをする（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（5）<br>第 8回　フィールドワーク（2）<br>第 9回　ゲストと一緒にランチをする（2）回転ずしに行く／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（6）<br>第 10 回　神社へ行く（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（7）<br>第 11 回　神社へ行く（2）手水舎（ちょうずや）でお清めをする／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（8）<br>第 12 回　神社へ行く（3）二礼二拍手一礼、お賽銭、神様の名前／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（9）<br>第 13 回　神社へ行く（4）おみくじ体験／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（１０）<br>第 14 回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（1）　※受講者の人数・レベル，予定によってスケジュールを<br>第 15 回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（2）　変更する可能性もあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習 2 時間以上，復習 1 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | ポートフォリオ（100%）で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **通訳入門Ⅱ** | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよびschoology |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成<br>【概要】本授業では，英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習，鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク，パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション，鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して，鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。<br>【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち，自ら積極的に参加する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　川本 佐奈恵（2018）『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』Jリサーチ出版<br>(2)　イーオン（2017）『世界をもてなす 語学ボランティア入門』朝日出版社<br>葛西朋子（2017）『英語でボランティアガイド』アルク<br>江口裕之・Daniel Dumas（2017）『英語で語る 日本事情 2020』ジャパンタイムズ | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス，夏休みの思い出シェアリング（画像や動画をパワーポイントスライドに貼って持参してください）<br>第　2回　フィールドワーク（1）<br>第　3回　外国人から必ず聞かれる日本の基礎知識／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（1）<br>第　4回　外国人から必ず聞かれる日本の季節・自然／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（2）<br>第　5回　外国人から必ず聞かれる日本の神社・寺／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（3）<br>第　6回　外国人から必ず聞かれる日本の交通機関／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（4）<br>第　7回　外国人から必ず聞かれる日本の食（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（5）<br>第　8回　フィールドワーク（2）<br>第　9回　外国人から必ず聞かれる日本の食（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（6）<br>第10回　外国人から必ず聞かれる日本の英語環境／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（7）<br>第11回　外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（8）<br>第12回　外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（9）<br>第13回　外国人から必ず聞かれる日本の買い物事情／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（１０）<br>第14回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（1）　※受講者の人数・レベル，予定によってスケジュールを<br>第15回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（2）　変更する可能性もあります。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間以上，復習１時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | ポートフォリオ（100%）で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英文法** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現）<br>【概要】本授業は、動詞（時制、相）、名詞・冠詞、前置詞、助動詞、準動詞、法、関係節について学ぶ。授業では、随時グループワークを行い、英語の初級学習者に対する効果的な指導方法についても討議したい。<br>【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Murphy, R.（著）渡辺雅仁・田島祐規子（訳）(2016)『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編　第３版』，ケンブリッジ大学出版局，シンガポール。<br>(2)　久野暲・高見健一，『謎解きの英文法』シリーズ，くろしお出版，東京。その他の参考文献は随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　時制と相 (1) 現在形と現在進行形<br>第　3回　時制と相 (2) 過去形と現在完了形<br>第　4回　時制と相 (3) 現在完了進行形<br>第　5回　時制と相 (4) 現在完了形と現在完了進行形<br>第　6回　名詞における可算・不可算の区別<br>第　7回　定冠詞と不定冠詞の用法<br>第　8回　数量詞の用法<br>第　9回　名詞の総称表現<br>第10回　前置詞と比喩<br>第11回　準動詞<br>第12回　助動詞の２つの意味<br>第13回　直説法と仮定法<br>第14回　関係節<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間以上，復習２時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（40%）＋小テスト（50%）＋授業内活動への積極的な参加（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語史** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言語の通時的変化）の観点から学ぶ。<br>【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。<br>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　ハンドアウトを配布する。<br>(2)　寺澤盾（2013）『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店，東京。堀田隆一（2014）『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部，東京。井口篤，寺澤盾（2013）『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会，東京。ブラッグ，メルヴィン（2008）『英語の冒険』講談社，東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) *The Adventure of English*. (DVD) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　英語の始まり<br>第　3回　インド・ヨーロッパ祖語<br>第　4回　古英語(1)<br>第　5回　古英語(2)<br>第　6回　ヴァイキングの侵攻と英語<br>第　7回　ノルマン征服と中英語<br>第　8回　初期近代英語　ルネッサンス、シェイクスピアと英語<br>第　9回　中英語・初期近代英語を読む<br>第10回　海外に広がった英語　アメリカ英語<br>第11回　世界共通語としての英語　アジア諸国における英語<br>第12回　ピジンとクレオール<br>第13回　現代イギリス英語に見られる変化<br>第14回　現代アメリカ英語に見られる変化<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習1時間以上，復習3時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（70%）＋授業内活動への積極的参加（30%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語音声学** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語の音声の仕組み<br>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素（ストレス、ピッチ、連接）を概略する。授業では、講義に加えてCALL機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。<br>【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　杉森幹彦ほか（2012）『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂，東京。(1800円)<br>(2)　キャットフォード, J. C.，竹林滋・設楽優子・内田洋子（訳）(2006)『実践音声学入門』 大修館書店，東京。深澤利昭（2015）『改訂版　英語の発音パーフェクト学習辞典』アルク，東京。今井，ジュミック（2012）『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社，東京。その他随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　分節音(1)<br>第　3回　分節音(2)<br>第　4回　分節音(3)<br>第　5回　分節音(4)<br>第　6回　分節音(5)<br>第　7回　アクセント(1)<br>第　8回　アクセント(2)<br>第　9回　音変化(1)<br>第10回　音変化(2)<br>第11回　音変化(3)<br>第12回　イントネーション(1)<br>第13回　イントネーション(2)<br>第14回　音と綴りの関係<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習1時間以上，復習3時間以上必要である。本授業は英語学概論の学習内容（音声学・音韻論）を前提とする。 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（40%）＋小テスト（実技課題を含む）（40%）＋授業内活動への積極的な参加（20%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **講読演習Ⅰ** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】英語学の文献講読<br><br>【概要】性差がことばに与える影響について学ぶ。<br><br>【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第２章以降を独力で読めるようになる。フレーム，メタメッセージなど基礎的な概念を理解し，具体的な言語分析に応用できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Tannen, Deborah (1990) *You Just Don't Undersatnd*, William Morrow, New York.(約 1800 円)<br>(2)　随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　Different Words, Different Worlds (1)<br>第　3回　Different Words, Different Worlds (2)<br>第　4回　Intimacy and Independence (1)<br>第　5回　Intimacy and Independence (2)<br>第　6回　Asymmetries (1)<br>第　7回　Asymmetries (2)<br>第　8回　The Mixed Metamessages of help<br>第　9回　The Modern Face of Chivalry<br>第 10 回　The Protective Frame<br>第 11 回　Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1)<br>第 12 回　It Begins at the Beginning (2)<br>第 13 回　It Begins at the Beginning (3)<br>第 14 回　The Key is Understanding<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間以上，復習２時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み（30%）＋ 試験（70%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **基礎演習Ⅰ** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】語用論の基礎を学ぶ。<br><br>【概要】「英語学概論」では，音，語，文を分析対象として扱った。「英語学演習」では文の集合である文章，会話を取り上げて，それらに見られる規則性を学習する。<br><br>【到達目標】情報構造を用いた談話分析の手法を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　福地肇（1985)『談話の構造』，大修館書店，東京。<br>(2)　随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　文の文法と談話の文法<br>第　3回　談話における情報の配置<br>第　4回　旧情報と新情報１（情報の新旧とは）<br>第　5回　旧情報と新情報２（旧情報と新情報の現れ方）<br>第　6回　主題と題述１（主題と題述とは）<br>第　7回　主題と題述２（主題の現れ方）<br>第　8回　受動態<br>第　9回　二重目的語構文<br>第 10 回　不変化詞<br>第 11 回　主題化<br>第 12 回　存在文<br>第 13 回　be 動詞を軸にした倒置<br>第 14 回　外置構文<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間以上，復習２時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み（50%）＋ レポート（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **基礎演習Ⅰ** | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよびschoology |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語コミュニケーション<br>【概要】<br>グループで英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ，その課題に関連する先行研究を探し，適切な研究方法を考えリサーチを行う。結果を報告し，全体でディスカッションを行う。主な使用言語は英語とする。<br>【到達目標】<br>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③コミュニケーション研究の方法について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。初回に指定するファイルを購入してください。<br>(2)　末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ゼミの進め方についてのガイダンス<br>第　2回　グループ発表の準備１<br>第　3回　グループ発表の準備２<br>第　4回　グループ発表の準備３<br>第　5回　グループ発表１<br>第　6回　グループ発表２<br>第　7回　グループ発表３<br>第　8回　グループ調査の準備<br>第　9回　グループ調査の準備<br>第10回　グループ調査<br>第11回　グループ調査報告の準備<br>第12回　グループ調査報告の準備<br>第13回　グループ調査報告１<br>第14回　グループ調査報告２<br>第15回　グループ調査報告３ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習が３時間以上，復習が３時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | ポートフォリオ（100%)で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語学演習** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本語と英語の対照<br><br>【概要】英文テキストを読みながら，対応する日本文テキストと比較して日本語と英語の文法，表現法などの共通点，相違点を学ぶ。<br><br>【到達目標】英語と日本語を比較し，文法や表現法の違いに気付くことができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Higashino, Keigo（著），Smith, A. O.（訳）(2011) *The Devotion of Suspect X*, Abacus, London.<br>(2)　随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　第１章<br>第　3回　第１章<br>第　4回　第２章<br>第　5回　第２章<br>第　6回　第３章<br>第　7回　第３章<br>第　8回　第４章<br>第　9回　第５章<br>第10回　第６章<br>第11回　第７章<br>第12回　第８章<br>第13回　第９章<br>第14回　第10章<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習２時間，復習３時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み（70%）＋ レポート（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英語学演習** | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよびschoology |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語コミュニケーション<br>【概要】毎回ゼミの最初に英語のディスカッション演習を行う。<br>英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ，その課題に関連する先行研究を探し，適切な研究方法を考えリサーチを行う。結果を報告し，全体でディスカッションを行う。主な使用言語は英語とする。<br>【到達目標】<br>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③コミュニケーション研究の方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり，建設的な意見を述べたりすることができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。初回に指定するファイルを購入してください。<br>(2)　末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子（2011）『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ゼミの進め方についてのガイダンス<br>第　2回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ１<br>第　3回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ２<br>第　4回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ３<br>第　5回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ４<br>第　6回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ５<br>第　7回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ６<br>第　8回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ７<br>第　9回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ８<br>第10回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ９<br>第11回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ10<br>第12回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ11<br>第13回　研究テーマと研究についての報告とアクション・リサーチ12<br>第14回　中間発表１<br>第15回　中間発表２ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習が３時間以上，復習が３時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 卒業研究ポートフォリオ（100%）で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英文学史** | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| | 【テーマ】18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。<br>【概要】まず，文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に，18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18 世紀の特徴，19 世紀の特徴，20 世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。<br>【到達目標】18 世紀の小説の特徴，19 世紀の小説の特徴，20 世紀の小説の特徴を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　川崎寿彦著　『イギリス文学史』　成美堂<br>(2)　サブテスクトは講義中に指定する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（講義方式の説明，文学史のテキストに潜む問題点の探求）<br>第　2回　18 世紀の小説（1）：18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン，D.デフォー，J.スイフト，S.リチャードソン）<br>第　3回　18 世紀の小説（2）：18 世紀の小説における H.フィールディング，L.スターン，T.スモレットの役割<br>第　4回　18 世紀の小説（3）：18 世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール）<br>第　5回　18 世紀の小説（4）：J.オースティンの小説<br>第　6回　18 世紀の小説に関する小テスト，19 世紀の小説（1）：19 世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴<br>第　7回　19 世紀の小説（2）：C.ディケンズの小説<br>第　8回　19 世紀の小説（3）：W.M.サッカレーの小説，ブロンテ姉妹（シャーロット，エミリー，アン）の小説<br>第　9回　19 世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響，19 世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T.ハーディ）<br>第10回　19 世紀の小説に関する小テスト，20 世紀の小説（1）：20 世紀小説の特徴<br>第11回　20 世紀の小説（2）：D.H.ロレンスの小説<br>第12回　20 世紀の小説（3）：V.ウルフの小説，H.G.ウェルズの小説<br>第13回　20 世紀の小説（4）：H.ジェイムズの小説，E.M.フォスターの小説<br>第14回　20 世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査３回（プリント），復習は小テスト（３回）の準備 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%），講義中の小テスト／授業への取り組み（30%），課題レポート分(10%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **米文学史** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流<br>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ることで、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。<br>＊授業には必ず英和辞典を持参すること。<br>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　井上謙治著　『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、 2004年）<br>(2)　授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション―ネイティブ・アメリカンの詩<br>第　2回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（1）<br>第　3回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（2）<br>第　4回　「驚異」の世界―ロマン主義の勃興<br>第　5回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（1）<br>第　6回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（2）<br>第　7回　「金めっき時代」―リアリズムの勃興<br>第　8回　危機と革新―リアリズムの展開<br>第　9回　繁栄と解放の文学―ロスト・ジェネレーション<br>第10回　世界へ向けて―モダニズムの文学<br>第11回　戦後文学の出発―第2次世界大戦と冷戦<br>第12回　自我をつくろう―人種系文学（1）<br>第13回　自我をつくろう―人種系文学（2）<br>第14回　自己の探求―ポスト・モダニズムの文学<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較文学** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学<br>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ビラヴィド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテクストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。<br>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　Toni Morrison *Beloved* Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：対話的文学論とは<br>第　2回　劇場の機知：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（1）<br>第　3回　劇場の機知：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（2）<br>第　4回　言語の表象不可能性：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（1）<br>第　5回　言語の表象不可能性：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（2）<br>第　6回　神話批評：『ビラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話（1）<br>第　7回　神話批評：『ビラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話（2）<br>第　8回　神話批評：『ビラヴド』とヨルバ族神話<br>第　9回　名称付与：『ビラヴド』と「千と千尋の神隠し」（1）<br>第10回　名称付与：『ビラヴド』と「千と千尋の神隠し」（2）<br>第11回　言語と音楽：『ビラヴド』とブラック・ミュージック（1）<br>第12回　言語と音楽：『ビラヴド』とブラック・ミュージック（2）<br>第13回　意識の流れ：『ビラヴド』とウィリアム・フォークナー<br>第14回　意識の流れ：『ビラヴド』とヴァージニア・ウルフ<br>第15回　レポートのテーマ報告会とまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（10%）、テーマごとに提出する小レポート（30%）、最終レポート（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英米文学講読Ⅰ** | 担当者 | 小林　潤司 |
| | 〔履修年次〕　1, 2年 | 授業外対応 | 質問等には講義終了時に対応する。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】シェイクスピアとその時代<br>【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは，この都市の膨張に伴って生じた，娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは，同時に，当時のロンドン市民の好尚に適う新しい芸能を担った，興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では，この「＜時代の落とし子＞にして＜世界の文豪＞」を準備した演劇的風土を，周辺の劇作家群像をも視野に入れながら，できる限り立体的に論じてみたい。<br>【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の大要を説明することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　（1）柴田稔彦（編）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫）<br>(2)　（2）河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂）　G．L．ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　世界の拡大<br>第　2回　ルネサンス観の多様性<br>第　3回　人文主義<br>第　4回　宗教改革と国民国家の形成<br>第　5回　ストラットフォードからロンドンへ<br>第　6回　歴史劇<br>第　7回　初期・中期の喜劇<br>第　8回　初期の悲劇<br>第　9回　『ハムレット』と『オセロー』<br>第10回　『リア王』と『マクベス』<br>第11回　後期の喜劇<br>第12回　物語詩の概説<br>第13回　『ヴィーナスとアドーニス』<br>第14回　『ルークリース凌辱』<br>第15回　まとめとふりかえり | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%　学期末試験 70% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英米文学講読Ⅱ** | 担当者 | 小林　潤司 |
| | 〔履修年次〕　1, 2年 | 授業外対応 | 質問等には講義終了時に対応する。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】シェイクスピア『ソネット集』選釈<br>【概要】時と永遠、無常と不易、愛欲と憎悪などをめぐる形而上学的な瞑想の断章をはさみながら展開していく『ソネット集』の「物語」が、詩人の実人生における経験を何らかの形で反映しているのかどうかはわからない。しかし、この一巻の詩集の中に生き生きと再現された思索と情感の運動の軌跡をたどる時、私たちはその向こう側に、驚くほどに自由で巨大な精神の存在を察知し粛然とせざるを得ないのである。『ソネット集』を読むことは、この巨大な精神との格闘に他ならない。それは格闘である以上、無傷で戻ってくることはできないことを覚悟して掛からねばならないであろう。<br>【到達目標】シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の大要を説明することができる。『ソネット集』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。任意のソネットを、詩集全体の中での位置づけ、当時の社会背景とのかかわり、語彙、表現、修辞をはじめとする表現形式などの複数の観点から分析、評釈することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　（1）柴田稔彦（編）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫）<br>(2)　（2）河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂）　G．L．ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ソネット連作詩集の世界（シドニー、スペンサー、シェイクスピア）<br>第　2回　シェイクスピア式ソネットの詩形と技巧<br>第　3回　『ソネット集』の成立と出版<br>第　4回　ソネット1番<br>第　5回　ソネット2番<br>第　6回　ソネット9番<br>第　7回　ソネット12番<br>第　8回　ソネット17番<br>第　9回　ソネット18番<br>第10回　ソネット30番<br>第11回　ソネット55番<br>第12回　ソネット66番<br>第13回　ソネット71番<br>第14回　ソネット73番<br>第15回　まとめとふりかえり | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%　学期末試験 70% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英米文学講読Ⅲ | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| | 【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。<br>【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読む。授業は**速読形式**で進め，担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品を読むには記憶力が大事である。物語内容の理解度を確認するために，小テストを6回実施する。また作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。<br>【到達目標】作品の内容を理解し，作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Charles Dickens, *Oliver Twist*（ペンギンリーダーズ）　南雲堂フェニックス<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞<br>第　2回　映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞（続き）と解説<br>第　3回　テキスト第1章～第3章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　4回　第1章～第3章の小テスト（1回目）およびその解説。第4章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　5回　第5章～第6章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　6回　第4章～第6章の小テスト（2回目）およびその解説。第7章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　7回　第8章～第9章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　8回　第7章～第9章の小テスト（3回目）およびその解説。第10章～第11章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第　9回　第12章～第13章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第10回　第10章～第13章の小テスト（4回目）およびその解説。第14章～第15章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第11回　第16章～第17章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第12回　第14章～第17章の小テスト（5回目）およびその解説。第18章～第19章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第13回　第19章～第21章を読む。プリントによる問題点の確認<br>第14回　第18章～第21章の小テスト（6回目）およびその解説<br>第15回　まとめ（『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったか） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は担当者が用意したプリント（宿題），復習は小テスト（6回）の準備 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（40%），小テスト（30%）予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 講読演習Ⅱ | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。<br>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して，J.オースティンの『分別と多感』を読む。授業はテキストを読んで日本語に訳す**精読方式**ですすめていく。また担当者が準備したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。最後に，学習したことからまとめあげたレポートについて発表（プレゼン）してもらい，他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める。（受講者数によってはグループ活動をとおした授業にする場合もある。）<br>【到達目標】作品の内容を理解し，作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Jane Austen, *Sense and Sensibility*（英潮社フェニックス）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞<br>第　2回　映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞（続き）と解説<br>第　3回　テキストの第1章～第2章を読む<br>第　4回　プリントによる第1章と第2章の問題点の確認と解説<br>第　5回　第3章を読む<br>第　6回　プリントによる第3章の問題点の確認と解説<br>第　7回　第4章を読む<br>第　8回　プリントによる第4章の問題点の確認と解説<br>第　9回　第5章を読む<br>第10回　プリントによる第5章の問題点の確認と解説<br>第11回　第6章を読む<br>第12回　プリントによる第6章の問題点の確認と解説<br>第13回　第7章を読む<br>第14回　プリントによる第7章の問題点の確認と解説<br>第15回　まとめ（プレゼン：パワーポイントを使って発表） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は各章の訳および担当者が用意した宿題プリント | | |
| 成績評価の方法 | レポート及びプレゼンテーション（50%），予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 基礎演習Ⅱ | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| | 【テーマ】①映画から学ぶ英詩　英詩から考える映画　②文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学）<br>【概　要】映画のなかにも英詩が用いられている場合がある。授業では映画（洋画，邦画）を利用して，高尚なイギリス文学（ここでは英詩）を学習する。**映画における英詩および映画の内容についてディスカッションを行うので，各自の自主的な発言が求められる。**また，比較文学的アプローチの仕方で黒澤監督の映画『乱』（シェイクスピア『リア王』の翻案作品）の魅力を考える。<br>【到達目標】英詩と映画及び文学と映画という視点で，映画を鑑賞する力を身に付けさせる。また，プレゼンテーションによって各自の考えを発信する能力を身に付けさせる（ディスカッション力と発信力）。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），W.ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の説明と問題提起<br>第　2回　「無心のまえぶれ」の解説，映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その１）及び問題点の確認<br>第　3回　映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その２）及び問題点の確認<br>第　4回　『博士の愛した数式』の分析（ディスカッション）<br>第　5回　『博士の愛した数式』に関するプレゼン（発信），J.キーツと彼の詩「秋に寄せるうた」の説明と問題提起<br>第　6回　「秋に寄せるうた」の解説，W.シェイクスピア『ソネット』18番の説明と問題提起／解説<br>＊映画『ブリジット・ジョーンズの日記』及び『恋におちたシェイクスピア』は図書館に所蔵。各自で鑑賞<br>第　7回　『ブリジット・ジョーンズの日記』の分析（ディスカッション）<br>第　8回　『恋におちたシェイクスピア』の分析（ディスカッション）<br>第　9回　『ブリジット・ジョーンズの日記』または『恋におちたシェイクスピア』のいずれかに関するプレゼン（発信）<br>第10回　W.シェイクスピア『リア王』と黒澤明監督『乱』の類似点と相違点（問題提起）<br>第11回　映画『乱』の鑑賞（その１）及び問題点の確認<br>第12回　映画『乱』の鑑賞（その２）及び問題点の確認<br>第13回　比較文学的アプローチ：類似点と相違点の確認及び両作品の分析（ディスカッション）<br>第14回　『乱』に関するプレゼン（発信），黒澤映画『蜘蛛巣城』とシェイクスピア『マクベス』の紹介<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は授業で取り扱う詩に関する宿題（２回）及び比較分析に関する宿題（１回），ディスカッションの準備としてスクリプトを読む（３回），プレゼンのためのパワーポイント作り（３回） | | |
| 成績評価の方法 | プレゼンテーション（50%），授業への取り組み（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 基礎演習Ⅱ | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】19th and 20th centuries American Literature. Debating.<br>【概要】In this class we will discuss different topics related to American literature of the 19th and 20th centuries.<br>We will do it using as reference some texts from Herman Melville and Ernest Hemingway.<br>Before analyzing and discussing the texts I will give the students some hints to do so correctly<br>【到達目標】The students will acquire the necessary skills to analyze and discuss about a literary text and it will serve as preparation for the other two seminars 「英米文学演習」and 「卒業研究」they will have to take in subsequent years. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Materials will be provided by the teacher.<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Introduction to the course (discussion and debate hints)<br>第　2回　Brief introduction to 19th Century American Literature<br>Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes<br>第　3回　TEXT 1 (imperialism) Selection of brief texts from *Moby-Dick; or, the Whale,* and "Benito Cereno". Reading of the texts<br>第　4回　TEXT 1: Discussion. Melville's vision on imperialism.<br>第　5回　TEXT 2 (slavery) Selection of some texts from "Benito Cereno" and *Typee.* Reading of the texts<br>第　6回　TEXT 2: Discussion. Melville and the slavery problem.<br>第　7回　TEXT 3 (religion): Selection of brief texts from *Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale* ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts.<br>第　8回　TEXT 3. Discussion: Melville and religion<br>第　9回　Melville's review and final discussion (conclusion)<br>第10回　Brief introduction to 20th century American literature.<br>Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes. Comments and impression about it.<br>第11回　TEXT 4. (The new women). Text from *The Sun also Rises*. Reading of the text<br>第12回　TEXT 4. Discussion. Hemingway and women.<br>第13回　TEXT 4 (war). Selection of brief text from *A Farewell to Arms* and *For Whom the Bell Tolls*. Reading of the texts and commentaries on them<br>第14回　TEXT 4. Discussion: Hemingway's vision on war and death.<br>第15回　Hemingway final discussion (conclusion).　Course review. | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | Class attendance (30%); participation in class (30%); in-class reports (40%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **英米文学演習** | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応します |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| | 【テーマ】ジェーン・オースティンの作品研究<br>【概　要】セミナーではJ.オースティンの作品研究を行う。ペンギンリーダーズのテキストを利用して『エマ』の作品を読み，ヒロインの成長に焦点を当てながら，作者の結婚観と風刺を考察する。また，その映画を鑑賞して，テキストと映像作品の相違点を考える。授業は担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。<br>【到達目標】作者の結婚観と風刺を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Jane Austen 著　『エマ』(ペンギンリーダーズ)　南雲堂フェニックス<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　セミナーの運営方法と説明，映画『エマ』の鑑賞<br>第　2回　映画『エマ』の鑑賞（続き）と作品の解説<br>第　3回　第１章 An Offer of Marriage の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　4回　第２章 A Second Offer の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　5回　第３章 Mr Elton's Choice の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　6回　第４章 Frank Charchill Appears の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　7回　第５章 Mrs Elton Comes to Highbury の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　8回　第６章 The Ball at the Crown Inn の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第　9回　第７章 The Trip to Box Hill の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第 10 回　第８章 A Secret Engagement の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第 11 回　第９章 The Weddings の分析（プリントによる問題点の確認）<br>第 12 回　オースティン作品の映画鑑賞（その１）:『プライドと偏見』と問題点の確認<br>第 13 回　オースティン作品の映画鑑賞（その２）:『プライドと偏見』と問題点の確認<br>第 14 回　プレゼンテーション :『エマ』に関する課題発表会<br>第 15 回　ジェーン・オースティンの作品に関する研究発表会＋まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は担当者が配布したプリント（宿題），プレゼンのためのパワーポイント作り（２回） | | |
| 成績評価の方法 | プレゼンテーション＋作品研究の発表（70%），授業への取り組み（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **イギリス事情** | 担当者 | ジョン・トレマーコ |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】British Culture, Modern and Tradition<br>【概要】This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. And the aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues.　Any chosen project will include a comparative cultural component.<br>【到達目標】The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　All materials provided by the professor<br>(2)　Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明<br>第　2回　Choosing the Project theme<br>第　3回<br>～　Planning and implementation of Project<br>第 13 回<br>第 14 回　Final Presentation<br>第 15 回　Course Review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | グループワークの点数と課題 40 %＋最終テスト 60 %の合計 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アメリカ事情** | 担当者 | ホルヘ・ガルシア・アロヨ |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | By email |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】American history; American cultural history.<br>【概要】In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American History. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss the topics seen in each unit.<br>【到達目標】The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America. | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Materials will be provided by the teacher<br>(2)　Christine Root, Karen Blanchard. American Roots: Readings on Contemporary U.S. Cultural History. Pearson Education.<br>Robert Middlekauff, et al. Oxford History of the United States. Oxford UP. | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of the nation. The colonial times. 1<br>第　2回　Unit 1. The origin of the nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion<br>第　3回　Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts).<br>Additional learning. The founders of the US: George Washington, Benjamin Franklin and Thomas Jefferson.<br>第　4回　Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion.<br>第　5回　Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts)　Additional learning: Manifest Destiny<br>第　6回　Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts) Unit 3 discussion<br>第　7回　Unit 4. Civil War and Reconstruction 1 (political facts)　Additional learning: The Civil War Literature<br>第　8回　Unit 4. Civil War and Reconstruction 2 (cultural facts). Unit 4 discussion.<br>第　9回　Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts)<br>Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics.<br>第 10 回　Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion.<br>第 11 回　Unit 6. From the Great Depression to the Second World War 1 (political and social facts)<br>Additional learning. Hollywood and anti-Nazi propaganda (video).<br>第 12 回　Unit 6. From the Great Depression to the Second World War 2 (cultural facts). Unit 6 discussion.<br>第 13 回　Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack).<br>Additional learning: 2001, September 11th (video).<br>第 14 回　Unit 7 discussion.<br>第 15 回　Course review. | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | In-class discussions (40%); Final exam (60%). | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ヨーロッパ事情** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ<br>【概要】15 世紀後半から 19 世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。<br>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　明石和康著『ヨーロッパがわかる―起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書（岩波書店、2013 年）<br>(2)　池本幸三他著『近代世界と奴隷制』（人文書院、1995 年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション<br>第　2回　ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（1）<br>第　3回　ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（2）<br>第　4回　近代世界と大西洋システム（1）<br>第　5回　近代世界と大西洋システム（2）<br>第　6回　近代世界と大西洋システム（3）<br>第　7回　大西洋奴隷貿易（1）：ルネサンスと地理上の発見<br>第　8回　大西洋奴隷貿易（2）：海洋国家オランダ<br>第　9回　大西洋奴隷貿易（3）：奴隷と砂糖をめぐる政治<br>第 10 回　コーヒー・ハウスが育んだ近代文化<br>第 11 回　イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」<br>第 12 回　大西洋システムとしての「イギリス帝国」<br>第 13 回　資本主義世界と奴隷制：地中海から大西洋へ―砂糖の西漸運動<br>第 14 回　資本主義世界と奴隷制：ヨーロッパの闘技場―カリブ海領有をめぐる角逐<br>第 15 回　まとめ：砂糖と紅茶―ティータイム儀礼化に内包された歴史 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、最終レポート（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **講読演習Ⅲ** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化<br><br>【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものの見方を学ぶ。また英文を正確に読解する方法を実践的に学ぶ。輪読形式を取るので予習は必須である。<br><br>【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫　編註（松柏社、1994年）<br>(2)　授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション<br>第　2回　Ways of looking at pictures (1)：フレーズ・リーディングとは１<br>第　3回　Ways of looking at pictures (2)：フレーズ・リーディングとは２<br>第　4回　History and mythology (1)：フレーズ・リーディングの実践１<br>第　5回　History and mythology (2)：フレーズ・リーディングの実践２<br>第　6回　Religious images (1)：フレーズ・リーディングの実践３<br>第　7回　Religious images (2)：フレーズ・リーディングの実践４<br>第　8回　An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1)：フレーズ・リーディングの実践５<br>第　9回　An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2)：フレーズ・リーディングの実践６<br>第10回　Hidden Meaning (1)：フレーズ・リーディングの実践７<br>第11回　Hidden Meaning (2)：フレーズ・リーディングの実践８<br>第12回　Quality (1)：フレーズ・リーディングの実践９<br>第13回　Quality (2)：フレーズ・リーディングの実践１０<br>第14回　Tradition　：フレーズ・リーディングの実践１１<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への積極的な参加態度（60%）、筆記試験（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **基礎演習Ⅲ** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】比較文学・比較文化<br><br>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取るので、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。<br><br>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション<br>第　2回　発表と討論：多文化主義的家族像（1）<br>第　3回　発表と討論：多文化主義的家族像（2）<br>第　4回　発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1）<br>第　5回　発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2）<br>第　6回　発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1）<br>第　7回　発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2）<br>第　8回　発表と討論：エキゾティシズム―他者憧憬と他者恐怖（1）<br>第　9回　発表と討論：エキゾティシズム―他者憧憬と他者恐怖（2）<br>第10回　発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1）<br>第11回　発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2）<br>第12回　発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1）<br>第13回　発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2）<br>第14回　発表と討論：表象とその臨界（1）<br>第15回　発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較文化演習** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触<br><br>【概要】二つの言語と文化が真っ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テクストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テクストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。<br><br>【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会　左記以外も授業で随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション<br>第　2回　英和辞典活用法：抽象語を翻訳する<br>第　3回　入試英語とは何か<br>第　4回　英語の女言葉：ジェンダーと敬語<br>第　5回　英英辞典活用法：歴史的テクストを翻訳する<br>第　6回　行間の＜傾向＞を読みとる<br>第　7回　正しい翻訳とは<br>第　8回　小説の翻訳：日本語の得意技<br>第　9回　論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い<br>第10回　漢文訓読と英文解釈<br>第11回　直訳から「超訳」へ<br>第12回　映し合う二つのテクスト：英訳された『雪国』<br>第13回　哲学の言葉の翻訳<br>第14回　翻訳の記号論：虚構としての言語<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **対照言語学** | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>対照言語学の基礎を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。<br>【到達目標】<br>日本語と外国語（英語，中国語）の主な共通点と相違点を理解し，実際の言語データを使って分析することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明<br>第　2回　日英中の対照（1）：主語の立て方<br>第　3回　日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示<br>第　4回　日英中の対照（3）：実際の発話における文の形<br>第　5回　日英中の対照（4）：時に関する比較①<br>第　6回　日英中の対照（5）：時に関する比較②<br>第　7回　日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較①<br>第　8回　日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較②<br>第　9回　日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較①<br>第10回　日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較②<br>第11回　日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較①<br>第12回　日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較②<br>第13回　発表準備<br>第14回　学生による発表<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加度：30%，課題：30%，発表：40% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **言語学概論** | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>言語学に関する基礎知識を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。<br>【到達目標】<br>言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明<br>第 2回　音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音<br>第 3回　音声学・音韻論（2）：モーラ，音節，アクセント<br>第 4回　音声学・音韻論（3）：連濁，枝分かれ制約<br>第 5回　形態論：派生，複合など単語を生み出す仕組み<br>第 6回　統語論（1）：文の骨組みを作る仕組み<br>第 7回　統語論（2）：文の樹形図<br>第 8回　意味論（1）：単語の意味<br>第 9回　意味論（2）：文と文の間の意味関係<br>第10回　語用論（1）：間接的言語行為と協調の原則<br>第11回　語用論（2）：会話の含意<br>第12回　語用論（3）： ポライトネスと敬語<br>第13回　言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差<br>第14回　これまでの復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での発言や参加度：30%，小テスト30%，期末試験：40% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語学概論** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕　英語英文学専攻は2年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。<br>【概要】日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコン教室（※）で自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。<br>【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房<br>(2)　授業中に紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　日本語学とは：国語／日本語 と 国語学／日本語学　（※印はパソコン教室で実施。）<br>第 2回　現代日本語の音声と音韻1：音声の研究，音声器官，音声記号 ※<br>第 3回　現代日本語の音声と音韻2：音の分類，音素分析 ※<br>第 4回　現代日本語の音声と音韻3：現代日本語の母音・子音 ※<br>第 5回　現代日本語の音声と音韻4：音節・モーラ，アクセント ※<br>第 6回　現代日本語の音声と音韻5：イントネーション ※<br>第 7回　文字・書記：現代日本語の文字と書記法，国語施策，舊漢字<br>第 8回　現代日本語の文法1：文法の諸領域，形態論<br>第 9回　現代日本語の文法2：統語論，意味論<br>第10回　現代日本語の文法3：語用論<br>第11回　現代日本語の語彙1：単語，語彙，語彙論<br>第12回　現代日本語の語彙2：単語の語彙的性質（語彙的カテゴリー），単語の基本度（基幹語彙）<br>第13回　文章論と談話分析：文章と談話，文章論，談話分析<br>第14回　現代語における文体差，言葉の変異と諸方言<br>第15回　コーパスと統計，理論的研究とは？ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学史Ⅰ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1，2年（注） | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治期の歴史的変遷を理解する。<br>【概要】<br>「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。<br>【到達目標】<br>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成30年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ）<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か<br>第　2回　概論：「近代」とは何か　―夏目漱石，森鴎外，北村透谷―<br>第　3回　概論：「小説」概念の成立　―坪内逍遙―<br>第　4回　明治の文学1：近世と近代文学　―戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説―<br>第　5回　明治の文学2：「国語」と近代文学　―速記，表記の改革，文体の改革―<br>第　6回　明治の文学3：詩歌の改良　―新体詩の出現―<br>第　7回　明治の文学4：言文一致小説　―二葉亭四迷―<br>第　8回　明治の文学5：写実主義と写生(1)　―尾崎紅葉，硯友社の文学―<br>第　9回　明治の文学6：写実主義と写生(2)　―正岡子規―<br>第10回　明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌　―森鴎外，島崎藤村―<br>第11回　明治の文学8：自然主義の小説(1)　―島崎藤村―<br>第12回　明治の文学9：自然主義の小説(2)　―田山花袋―<br>第13回　明治の文学10：反自然主義の小説　―夏目漱石―<br>第14回　明治の文学11：口語自由詩　―川路柳虹，相馬御風―<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%） | | |

（注）2019年度は英語英文学専攻1年生は受講できない。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本文学史Ⅱ | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代までの変遷を理解する。<br>【概要】<br>「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。<br>【到達目標】<br>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　久保田 淳 監修『日本文学史』おうふう　（平成30年度日本文学史・古典Ⅰ，Ⅱと同じ）<br>(2)　適宜，授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」―<br>第　2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派―<br>第　3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立<br>第　4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩<br>第　5回　昭和の文学2：主知主義文学<br>第　6回　昭和の文学3：プロレタリア文学<br>第　7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派―<br>第　8回　昭和の文学5：戦争と文学<br>第　9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発―<br>第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場―<br>第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死―<br>第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹―<br>第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司―<br>第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中に指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本語教育概論** | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　英語英文学専攻は２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本語教育学の基礎を学ぶ。<br>【概要】<br>この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。<br>【到達目標】<br>・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。<br>・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観<br>第　2回　異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室<br>第　3回　年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育<br>第　4回　教師の役割①コースデザインとニーズ分析，<br>第　5回　教師の役割②シラバス・デザイン<br>第　6回　教材分析・開発<br>第　7回　教授法①：直接法　オーディオリンガルメソッド　コミュニカティブ・アプローチ<br>第　8回　教授法②授業見学<br>第　9回　教授法③授業見学の振り返り<br>第10回　授業の計画と実施①授業の組み立て方<br>第11回　授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入　基本練習　応用練習<br>第12回　授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育　プロジェクトワーク<br>第13回　授業の計画と実施④文化を教える<br>第14回　評価法：熟達度テスト　到達度テスト<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での参加度や提出物：50%，期末レポート：50% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際経済論** | 担当者 | 野村　俊郎 |
| | 〔履修年次〕　英文専攻は２年 | 授業外対応 | 研究室（2号館3階）で対応、いつでもOK，予約不要。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」するとはどういうことか～新興国で考える【部品調達編】～<br><br>【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタIMVを事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第5章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。<br><br>【到達目標】トヨタで最も売れているIMVは、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂<br>(2)　同上『トヨタの新興国車IMV』同上 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　国際経済・貿易（輸出と輸入）関税と企業の部品・原材料調達<br>第　2回　関税WTO、FTAと企業の部品・原材料調達<br>第　3回　IMVに見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達<br>第　4回　LSP、MSP、JSPと系列調達&非系列調達①<br>第　5回　LSP、MSP、JSPと系列調達&非系列調達②<br>第　6回　アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化<br>第　7回　アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出1回目<br>第　8回　アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出2回目<br>第　9回　アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出3回目<br>第10回　アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出4回目<br>第11回　南米では系列外との取引①<br>第12回　南米では系列外との取引②<br>第13回　南米では系列外との取引③：TASAの事例<br>第14回　南米では系列外との取引④：TDVの事例<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際関係論** | 担当者 | 福田忠弘 |
| | 〔履修年次〕　英文専攻は２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。<br><br>【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。<br><br>【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的、方法<br>第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか<br>第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化<br>第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦<br>第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１<br>第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２<br>第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争<br>第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム<br>第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序<br>第10回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題<br>第11回　国際社会における諸問題２：貧困と開発<br>第12回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題<br>第13回　国際社会における諸問題４：グローバルガバナンス（1）<br>第14回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス（2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 試験（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **検定対策講座Ⅰ** | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】文法力・語彙力の強化と長文読解力の養成<br>【概　要】授業の目的は，検定対策として，英文読解力を向上させ，英文法の基礎知識を再確認させることにある。速読によって300語程度の英文を読んで内容を理解する能力を習得させる一方で，問題を解いて高校で習った文法事項を復習させる。また，一定の時間内に英検２級の問題（プリント学習）を解く感覚を身に付けさせる。LL 教室を利用するので，リスニング問題も対処する。<br>【到達目標】実用英語技能検定２級に合格できるように，英語のリーディング力と語彙・文法を身に付ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　坂部俊行・岡島徳昭・W.ノエル　『英検２級　合格への道』　南雲堂<br>今村洋美，他　『英検２級マスタースコース　リニューアル問題対応』　金星堂<br>適宜，プリントによる問題も配布する。<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），プリント学習（受講生のレベルを確認）<br>第　2回　『英検２級　合格への道』Lesson 1 および『英検２級マスタースコース』Lesson 1<br>第　3回　『合格への道』Lesson 2 および『マスタースコース』Lesson 2<br>第　4回　『合格への道』Lesson 3 および『マスタースコース』Lesson 3<br>第　5回　『合格への道』Lesson 4 および『マスタースコース』Lesson 4<br>第　6回　『合格への道』Lesson 5 および『マスタースコース』Lesson 5，小テスト（１回目）<br>第　7回　『合格への道』Lesson 6 および『マスタースコース』Lesson 6<br>第　8回　『合格への道』Lesson 7 および『マスタースコース』Lesson 7<br>第　9回　『合格への道』Lesson 8 および『マスタースコース』Lesson 8<br>第10回　『合格への道』Lesson 9＋プリント学習，小テスト（２回目）<br>第11回　『合格への道』Lesson 10＋プリント学習<br>第12回　『合格への道』Lesson 11＋プリント学習<br>第13回　『合格への道』Lesson 12＋プリント学習<br>第14回　実践形式の練習（その１）：筆記とリスニング，小テスト（３回目）<br>第15回　実践形式の練習（その２）＋まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備，復習は小テストの準備 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%），小テスト（25%），予習を含む授業への取り組み（25%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **検定対策講座Ⅱ** | 担当者 | 土持　かおり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この授業のテーマは、TOEIC の各パートの攻略法を学び、演習を通して問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力をつけていくことです。<br><br>【概要】　TOEIC で測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すには、TOEIC で求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。<br>授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。<br>自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEIC の学習に興味のある人は、この授業で一緒にがんばっていきましょう！<br><br>【到達目標】コース終了時までに TOEIC500 点以上を取ることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂<br>(2)　参考文献は授業時に随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | ＜毎回、LL 教室を使用します＞<br>第　1回　Preliminary Lesson – TOEIC とは？/　授業内容と進め方　/　Pre-TOEIC Test にチャレンジ！<br>第　2回　Part 1 の攻略法　および問題演習　／　小テスト<br>第　3回　Part 2 の攻略法および問題演習（1）／　小テスト<br>第　4回　Part 2 の攻略法および問題演習（2）／　小テスト<br>第　5回　Part 3 の攻略法および問題演習（1）／　小テスト<br>第　6回　Part 3 の攻略法および問題演習（2）／　小テスト<br>第　7回　Part 5 の攻略法および問題演習（1）／　小テスト<br>第　8回　Part 5 の攻略法および問題演習（2）／小テスト<br>第　9回　Part 6 の攻略法および問題演習　／　小テスト<br>第 10 回　Part 7 の攻略法および問題演習（1）／　小テスト<br>第 11 回　Part 7 の攻略法および問題演習（2）／　小テスト<br>第 12 回　Part 7 の攻略法および問題演習（3）／　小テスト<br>第 13 回　Part 4 の攻略法および問題演習（1）／　小テスト<br>第 14 回　Part 4 の攻略法および問題演習（2）<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回の小テストのための復習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト | | |
| 成績評価の方法 | 復習のための小テスト（30%）＋　各パートのミニテストの提出（30%）＋　定期試験（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究** | 担当者 | 轟　義昭 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| | 【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ，「課題探求・解決能力」を育成する。<br>【概　要】興味を持った英米文学，外国文化等のなかから，各人がテーマを設定して研究を進めることとする。担当者は助言と指導を行い，論文の完成を補助する。<br>＊卒業研究論文は日本語で作成しても構わない。この場合，350 語程度の英語の要約（summary）を添付することとする。勿論，英語での作成が望ましい。<br>【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　随時プリント<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>卒業論文とは何かの説明，卒業論文作成のスケジュール等の確認，テーマの選定と絞り込みの指導（過去の事例の紹介，文献収集の指導）<br>第　2回　卒業論文の書き方（論の展開の仕方）の指導：「はじめに」の書き方の指導<br>第　3回　個別指導：提出論文の添削・推敲（1）<br>第　4回　個別指導：提出論文の添削・推敲（2）<br>第　5回　個別指導：提出論文の添削・推敲（3）<br>第　6回　個別指導：提出論文の添削・推敲（4）<br>第　7回　中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（1）<br>第　8回　中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（2）<br>第　9回　個別指導：提出論文の添削・推敲（5）<br>第 10 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（6）<br>第 11 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（7）<br>第 12 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（8）<br>第 13 回　英文サマリーの作成指導<br>第 14 回　提出前の最終指導（レイアウト，目次，参考文献などの確認，英語での summary の確認）<br>第 15 回　プレゼンテーションのためのパワーポイント作成 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 論文を書き始めたら，担当者が指導・助言ができるように，毎回プリントを用意して授業に臨むこと | | |
| 成績評価の方法 | 卒業研究論文の提出物（70%），授業への取り組み（20%），プレゼンテーション（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究** | 担当者 | 遠峯伸一郎 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時，適宜（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】卒業研究の執筆を通し，基礎演習 I，英語学演習での研究成果をまとめる。<br><br>【概要】基礎演習 I と英語学演習 I を通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。<br><br>【到達目標】卒業研究を完成させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　浜田麻里ほか (1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』，くろしお出版，東京。<br>(2)　随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　個別指導(1)<br>第　3回　個別指導(2)<br>第　4回　卒業研究テーマについての中間発表<br>第　5回　個別指導(3)<br>第　6回　個別指導(4)<br>第　7回　先行研究と資料についての中間発表(1)<br>第　8回　先行研究と資料についての中間発表(2)<br>第　9回　個別指導(5)<br>第 10 回　個別指導(6)<br>第 11 回　考察についての中間発表<br>第 12 回　個別指導(7)<br>第 13 回　個別指導(8)<br>第 14 回　英文サマリーの作成<br>第 15 回　プレゼンテーション資料の作成 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習 1 時間以上，復習 5 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み（10%）＋ 卒業研究（90%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究** | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーおよび schoology |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語コミュニケーションに関する卒業研究の完成と効果的な英語プレゼンテーション方法の習得<br>【概要】<br>英語コミュニケーションをテーマに課題を見つけ，その課題に関連する先行研究を探し，リサーチを行い，その結果を報告し，全体でディスカッションを行う。使用言語は英語とする。<br>【到達目標】<br>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり，建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ゼミの進め方についてのガイダンス，夏休みの報告<br>第　2回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1<br>第　3回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2<br>第　4回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3<br>第　5回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4<br>第　6回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5<br>第　7回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6<br>第　8回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7<br>第　9回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8<br>第 10 回　卒業研究発表会の資料作成 1<br>第 11 回　卒業研究発表会の資料作成 2<br>第 12 回　卒業研究発表の練習 1<br>第 13 回　卒業研究発表の練習 2<br>第 14 回　卒業研究発表の練習 3<br>第 15 回　まとめと全体討論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習が 3 時間以上，復習が 3 時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 卒業研究ポートフォリオ(100%)で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】比較文学・比較文化<br><br>【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。<br><br>【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　テーマの確認と指導<br>第　3回　研究論文執筆の指導：文献収集など<br>第　4回　研究論文執筆の指導：論文の構成１<br>第　5回　研究論文執筆の指導：論文の構成２<br>第　6回　研究論文執筆の指導：論文の構成３<br>第　7回　中間発表１<br>第　8回　研究論文執筆の指導：論文の書き方１<br>第　9回　研究論文執筆の指導：論文の書き方２<br>第10回　研究論文執筆の指導：論文の書き方３<br>第11回　中間発表２<br>第12回　中間発表３<br>第13回　中間発表４<br>第14回　卒業研究発表について<br>第15回　まとめ及び卒業研究発表の練習 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取組み態度（30%）、卒業研究論文（70%） | | |

# 7　生活科学科共通科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活科学概論** | 担当者 | 多田　司　・　淺海　真弓 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>生活を科学的視点で把握し，生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。<br>【概要】<br>衣服・食・住まいの機能や将来の生活費，消費者問題など，毎回提示された課題について各自考えながら，生活全般についての理解を深める。また，現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し，その課題解決のために生活者としてできることは何か？についても考えていく。<br>【到達目標】<br>生活者の視点から，様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして，解決に向けて主体的に行動し，豊かな生活を創造していくことを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス ― 生活を科学する？（第1回～第8回：多田担当）<br>第　2回　食生活の科学1 ― 自分の食生活を見直してみよう<br>第　3回　食生活の科学2 ― 栄養の面から健康的な食生活を考える<br>第　4回　食生活の科学3 ― 安全な食生活のあり方について<br>第　5回　食生活の科学4 ― 食品添加物について考える<br>第　6回　生活環境の科学1 ― 生活における科学技術の役割と弊害について<br>第　7回　生活環境の科学2 ― 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1<br>第　8回　生活環境の科学3 ― 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2<br>第　9回　今日の衣生活スタイルの変化 ― 作る時代から買う時代へ（第9回～第15回：淺海担当）<br>第10回　自分の衣生活スタイルを考える ― 衣服に求める機能は？ 私たちの衣服はどこで作られている？<br>第11回　住まいの機能を考える ― 家がなくなったら困ることは？<br>第12回　これからの生活をデザインする ― 25歳一人暮らしの生活設計<br>第13回　生活者としてできること1 ― 現代の消費社会と消費者問題を考える<br>第14回　生活者としてできること2 ― 持続可能な社会に向けて<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示（予習・復習用のプリント配布） | | |
| 成績評価の方法 | 多田担当分（50%）：レポート（40%）+講義への取り組み状況（10%）<br>淺海担当分（50%）：ワークシート・課題（25%）＋レポート（25%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活経営学** | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　生活1年，食栄2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>生活経営とは何かを含め，生活を経営する上での諸問題を理解し，自立のための生活経営力の獲得を目指す。<br>【概要】<br>自分と他者の関わりを捉えなおし，個人と家庭，社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。<br>【到達目標】<br>真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　基礎事項1：生活経営学と生活を考える<br>第　3回　基礎事項2：家族と家庭を考える<br>第　4回　基礎事項3：男女の役割を考える<br>第　5回　基礎事項4：労働を考える<br>第　6回　基礎事項5：経済と消費を考える①<br>第　7回　基礎事項6：経済と消費を考える②<br>第　8回　基礎事項7：家計を考える<br>第　9回　基礎事項8：子どもと教育を考える<br>第10回　基礎事項9：高齢社会を考える<br>第11回　応用事項1：地域を考える<br>第12回　応用事項2：環境を考える<br>第13回　応用事項3：政治と社会を考える<br>第14回　応用事項4：自立を考える<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

（注）生活科学専攻は教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **人間関係論** | 担当者 | 田中　真理 |
| | 〔履修年次〕　生活１年，食栄２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（生活）（注）　選択（食栄）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】理論的な見地から人間関係のあり方を理解し，自分自身の人間関係について振り返る。<br>【概要】人間は人との関わりなくして生きていくことはできない。本講義では，家族関係を中心に人間関係やコミュニケーションに関する理論・概念を学ぶことで，理論的な枠組みから自己や他者の人間関係について理解を深めていく。さらにワークなどのコミュニケーション実習を通じた体験的な理解を目指す。最後に，家族や人間関係に関するテーマを設定し，パワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。<br>【到達目標】　①人間関係に関する基礎知識を理解することができる。<br>②コミュニケーション実習を通じて，自分自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　毎回プリントを配布する。<br>(2)　①柏木惠子編著『よくわかる家族心理学』ミネルヴァ書房，2010 年<br>②福島脩美（著）『自己理解ワークブック』金子書房，2005 年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　人間関係に関する基礎知識①：人間関係の発達<br>第　3回　人間関係に関する基礎知識②：家族<br>第　4回　人間関係に関する基礎知識③：思春期・青年期と家族<br>第　5回　人間関係に関する基礎知識④：結婚，夫婦<br>第　6回　人間関係に関する基礎知識⑤：子育て期の家族<br>第　7回　人間関係に関する基礎知識⑥：中年期以降の家族<br>第　8回　コミュニケーション実習①　：自己理解・他者理解<br>第　9回　コミュニケーション実習②　：自己開示<br>第 10 回　コミュニケーション実習③　：自己主張と他者受容<br>第 11 回　コミュニケーション実習④　：協働体験<br>第 12 回　コミュニケーション実習⑤　：リーダーシップ<br>第 13 回　プレゼンテーション①　：グループ前半<br>第 14 回　プレゼンテーション②　：グループ後半<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート課題（60%）＋プレゼンテーション（30%）+授業への参加度とリアクションペーパー（10%） | | |

（注）生活科学専攻は教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会福祉論** | 担当者 | 中山　慎吾 |
| | 〔履修年次〕　2 年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本の社会福祉の大枠を理解し，市民的な視点から政策と実践の方向を探る。<br>【概　要】1．社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。<br>2．社会福祉の各領域の実践等を，ビデオ等を参考にして学ぶ（まとめと感想を授業中に書いてもらう）。<br>3．社会福祉の領域ごとにテキスト等を通して制度の動向を学ぶ。<br>4．国際的な視野から日本の社会福祉の方向を探る。<br>【到達目標】社会福祉の領域ごとに制度の動向や新しい動き・問題を学ぶ。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　大久保秀子『新　社会福祉とは何か』中央法規<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　福祉の諸領域　（福祉の諸領域について概観する。）<br>第　2回　要介護高齢者への支援　（高齢者福祉について概観し，高齢者への支援の例について学ぶ。）<br>第　3回　共生型福祉の可能性　（高齢者，子ども，障がい者等に対する共生型福祉サービスについて学ぶ。）<br>第　4回　介護家族への支援　（要介護高齢者等を介護する家族への支援について学ぶ）<br>第　5回　ボランティアによる住民同士の支え合い（住民同士の支え合いにより高齢者等を支援する実践について学ぶ。）<br>第　6回　地域生活への住民の主体的関わり（地域の福祉の向上に向けた住民による主体的実践について学ぶ）<br>第　7回　地域生活における問題への対応　（地域コミュニティにおいて生ずる問題への対処について学）<br>第　8回　仕事と子育ての両立　（仕事と子育ての両立に関わる制度と具体的な実践について学ぶ）<br>第　9回　子どもの自立への援助　（支援を要する子どもに対して，中学卒業後等に自立に向けた行われている援助を学ぶ。）<br>第 10 回　子どもへの虐待等への対応　（子どもへの虐待に対する対処の仕組みと現状について学ぶ。）<br>第 11 回　知的障がい者への支援の歩み　（知的障がい者への支援を中心に，障がい者福祉の歴史等を学ぶ。）<br>第 12 回　発達障がい者への支援　（発達障がい者に関する理解と，支援の例について学ぶ。）<br>第 13 回　医療サービスと医療保険の動向（医療サービスと医療保険の概要と現状を学ぶ。）<br>第 14 回　低所得者への支援と生活保護制度　（低所得者への支援の枠組みと生活保護制度の概要について学ぶ。）<br>第 15 回　年金保険の動向　（年金保険や所得保障に関する基礎知識を学ぶ。） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習では授業内容に該当するテキストの箇所を確認し，復習では授業で学んだ内容を念頭にテキストを読み直してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での参加状況 30%，授業中に書いてもらう小テスト 70%の予定です。 | | |

（注）栄養士選択必修

# ８　食物栄養専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品学Ⅰ** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品の持つ様々な特性や機能性に関する知見のほか、最近とみに発展しつつある特定保健用食品について学習する。<br><br>【概要】食品中の成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能，病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。<br><br>【到達目標】食品の特性や機能性のほか、特定保健用食品について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青柳康夫編『新版　食品学Ⅰ［第２版］』建帛社<br>(2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第２版］』建帛社のほか，適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　人間と食品<br>第　2回　食品の分類と成分<br>第　3回　食品成分の特性と機能<br>第　4回　食品成分の化学：一次機能（水分）<br>第　5回　食品成分の化学：一次機能（炭水化物）<br>第　6回　食品成分の化学：一次機能（脂質）<br>第　7回　食品成分の化学：一次機能（タンパク質とアミノ酸）<br>第　8回　食品成分の化学：一次機能（タンパク質の機能）<br>第　9回　食品成分の化学：一次機能（酵素タンパク質）<br>第10回　食品成分の化学：一次機能（ミネラル）<br>第11回　食品成分の化学：一次機能（脂溶性ビタミン）<br>第12回　食品成分の化学：一次機能（水溶性ビタミン）<br>第13回　嗜好成分の化学：二次機能（色素成分）<br>第14回　嗜好成分の化学：二次機能（旨味成分と匂い成分）<br>第15回　食品の機能性：三次機能（機能性物質と特定保健用食品） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験７０％、授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品学Ⅱ** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品の種類と成分の他，それら食品成分の栄養面，嗜好面，病気予防面としての三つの機能性について学ぶ。<br><br>【概要】個々の食品に含まれている多様な成分と，食品成分の栄養面での一次機能，嗜好面での二次機能，病気予防面での三次機能と共に，それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。<br><br>【到達目標】食品の分類と各食品成分の栄養面以外の他の機能性についても理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　田所忠弘・安井明美編『新版　食品学Ⅱ』建帛社<br>(2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第２版］』建帛社のほか，適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食品（食品の分類）<br>第　2回　食品（食品の機能）<br>第　3回　植物性食品（穀類）<br>第　4回　植物性食品（穀類の利用）<br>第　5回　植物性食品（野菜類）<br>第　6回　植物性食品（野菜類の利用）<br>第　7回　植物性食品（イモ類）<br>第　8回　植物性食品（豆類）<br>第　9回　植物性食品（種実類と果実類）<br>第10回　植物性食品（きのこ類）<br>第11回　植物性食品（海藻類）<br>第12回　動物性食品（食肉類）<br>第13回　動物性食品（乳類）<br>第14回　動物性食品（卵類と魚介類）<br>第15回　動物性食品（魚介類の成分の機能） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験７０％，授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品学実験** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品に存在する成分等を分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。<br><br>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。<br><br>【到達目標】各種実験器具の取り扱い方や食品成分の基礎的な分析方法について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食品学実験の基礎（実験器具や試薬類の取り扱い方法）<br>第　2回　溶液の濃度計算１（溶液の調製法）<br>第　3回　溶液の濃度計算２（溶液の希釈法）<br>第　4回　溶液の濃度計算３（微濃度溶液の調製法）<br>第　5回　酸溶液の濃度の調整（酸の濃度と pH の関連）<br>第　6回　アルカリ溶液の調製（アルカリ水和物溶液の調製と pH）<br>第　7回　糖の検出と定量（ソモギー&ネルソン法による定量法）<br>第　8回　タンパク質の検出（ビウレット法による定性法）<br>第　9回　タンパク質の定量（ビウレット法による定量法）<br>第 10 回　アミノ酸の検出（ニンヒドリン法による定性法）<br>第 11 回　アミノ酸の同定（薄層クロマトグラフィーによる同定）<br>第 12 回　糖酸度の測定（ポケット糖酸度計による測定法）<br>第 13 回　食品の酵素的褐変（りんごの酵素的褐変とその防止法）<br>第 14 回　食品に含まれる色素の分析（カロテノイド系の色素）<br>第 15 回　食品学実験の総括（実験器具類の整理と保管） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出したレポート内容７０％、授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品衛生学** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品の安全について、その問題点と予防策について学び、衛生観念を身に付ける。<br><br>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。<br><br>【到達目標】食品の安全性と食中毒の予防法や衛生管理法を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　宮沢文古賀信幸編『食品衛生学』建帛社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食品の変質（腐敗微生物と食品の変質）<br>第　2回　食品の変質（食品中の水分と水分活性）<br>第　3回　食品の変質（食品の保蔵技術）<br>第　4回　食中毒（食中毒の分類）<br>第　5回　食中毒（細菌性食中毒　腸炎ビブリオ　他）<br>第　6回　食中毒（細菌性食中毒　黄色ブドウ球菌　他）<br>第　7回　食中毒（細菌性食中毒　ボツリヌス菌　他）<br>第　8回　食中毒（ウイルス性食中毒　ノロウイルス）<br>第　9回　食中毒（動物性自然毒食中毒　フグ毒　他）<br>第 10 回　食中毒（動物性自然毒食中毒　貝毒　他）<br>第 11 回　食中毒（植物性自然毒食中毒　キノコ毒　他）<br>第 12 回　飲食品と寄生虫（アニサキス　他）<br>第 13 回　有害物質による食品汚染（カビ毒　他）<br>第 14 回　食品添加物（種類と表示法）<br>第 15 回　農薬・動物医薬品および放射線食品（有機塩素系農薬，ガンマ線　他） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験７０％、授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

（注））栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品衛生学実験** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕実験 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】実験を通じて食品衛生に対する意識を高めると共に，食中毒を予防するための衛生管理技術を学ぶ。<br><br>【概要】食品衛生問題を解決するための食品衛生検査の技術的な手法として，検査器具類の適切な使用法，理化学試験，食品添加物試験，微生物試験，衛生管理手法等について実習する。<br><br>【到達目標】食品衛生検査に使用される種々の検査方法を習得し，食品の安全で安定な維持管理法について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　後藤政幸編『改訂　食品衛生学実験』建帛社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食品衛生学実験の基礎（実験器具や試薬類の取り扱い方法）<br>第　2回　理化学試験（飲料水の水質検査　アンモニア性窒素の検出）<br>第　3回　理化学試験（魚肉中のヒスタミンの検出）<br>第　4回　食品添加物試験（発色剤　亜硝酸ナトリウムの検出1）<br>第　5回　食品添加物試験（発色剤　亜硝酸ナトリウムの検出2）<br>第　6回　食品添加物試験（着色料　酸性タール色素の検出）<br>第　7回　微生物試験（培地の調製法と画線分離1）<br>第　8回　微生物試験（培地の調製法と画線分離2）<br>第　9回　微生物試験（細菌の分離と染色法）<br>第10回　微生物試験（食品の細菌検査1）<br>第11回　微生物試験（食品の細菌検査2）<br>第12回　微生物試験（飲料水の細菌検査）<br>第13回　衛生管理手法（微生物の簡易検査　手指の細菌1）<br>第14回　衛生管理手法（微生物の簡易検査　手指の細菌2）<br>第15回　食品衛生学実験の総括（実験器具類の整理と保管） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出したレポート内容７０％，授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

（注））栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食品加工学** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に，食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。<br><br>【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術，それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品，発酵食品，調味料，嗜好食品，インスタント食品，油脂食品について解説する。<br><br>【到達目標】加工食品の歴史と食品加工の目的を知るだけでなく，現在の食生活との関連性について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　菅原龍幸・宮尾茂雄編『三訂　食品加工学』建帛社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食品の保蔵と食生活（食品保蔵・加工の目的と方法）<br>第　2回　食品保蔵の技術（食品と微生物）<br>第　3回　食品保蔵の技術（食品中の水分と水分活性）<br>第　4回　食品加工の操作と技術（物理的操作，化学的操作，生物的操作）<br>第　5回　食品加工の操作と技術（酵素利用で作成された食品成分）<br>第　6回　食品加工の操作と技術（食品加工の技術）<br>第　7回　食品加工と成分変化（変性，糊化.・老化，酸化，褐変，有害物質，成分損失）<br>第　8回　食品加工と成分変化（食品の成分変化）<br>第　9回　食品添加物と加工食品の安全性確保（食品添加物の目的と種類）<br>第10回　保健機能食品と特別用途食品（保健機能食品の種類）<br>第11回　食品の表示と規格（品質表示，栄養成分表示，遺伝子組換え表示，アレルギー表示，食品の規格）<br>第12回　農産加工（穀類）<br>第13回　農産加工（イモ類）<br>第14回　加工食品の実習（さつま揚げの作成）<br>第15回　加工食品の実習（うどんの作成） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験７０％，授業への取り組み・参加状況３０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理学** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品の調理過程における科学的現象<br><br>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。<br><br>【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、<br>また、調理や食物選択を理にかなったものにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　はじめて学ぶ『調理学』化学同人<br>(2)　香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部　山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』　同文書院 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　調理学の意義と目的　調理実習Ⅰに準じながら<br>第 2回　食べ物のおいしさ　〃<br>第 3回　調理操作と調理機器　〃<br>第 4回　植物性食品1の調理科学　〃<br>第 5回　植物性食品2の調理科学　〃<br>第 6回　調味料・香辛料の調理科学　〃<br>第 7回　ゲル化剤・とろみ剤の調理科学　〃<br>第 8回　植物性食品3～5の調理科学　〃<br>第 9回　植物性食品6～8の調理科学　〃<br>第10回　油脂類の調理科学　〃<br>第11回　動物性食品　1の調理科学　〃<br>第12回　〃　2の調理科学　〃<br>第13回　〃　3の調理科学　〃<br>第14回　〃　4の調理科学　〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のノートを作成しまとめる。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%）・授業への取り組み・参加状況・小テスト・ノート（40%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理学実習Ⅰ** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術<br><br>【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、<br>和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム<br>【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部<br>(2)　香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　調理機器の使い方、調味の割合、<br>第 2回　和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、、即席漬物<br>第 3回　日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し（下洗い）、上新粉の扱い<br>第 4回　西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ（鶏がらの扱い）、パンケーキ<br>第 5回　中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、（大量調理）<br>第 6回　日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉<br>第 7回　洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット（ヴィネグレット）ソース、ゼラチンの扱い<br>第 8回　冷凍食品<br>第 9回　中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い<br>第10回　日本料理：ソーメン、焼魚（器具と化粧塩、鮎の食べ方）、いり豆腐、和え物、水ようかん<br>第11回　西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン<br>第12回　中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い<br>第13回　西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ<br>第14回　お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い　白和え　ふくれ菓子<br>第15回　和食の朝食　レシピを作る（朝食定番おかず）　調理技術復習 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。 | | |
| 成績評価の方法 | 調理技術試験40%、調理実習ノート30%、実習への取り組み・参加状況30% | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理学実習Ⅱ** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用<br><br>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム<br><br>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部<br>(2)　香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　夏のお盆料理の報告<br>第 2回　日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子<br>第 3回　中華料理：八宝菜、いかの扱い（花いか）、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について<br>第 4回　日本料理：行楽弁当（いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮）、土瓶蒸し、小倉ケーキ<br>第 5回　スチームコンベクション料理：焼き魚・から揚げ（ドライモード）、焼きそば（コンビ）、温野菜・プリン（スチーム）、<br>第 6回　献立応用家庭料理かみかみメニュー<br>第 7回　日本料理：さつますもじ（ちらし寿司）、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭<br>第 8回　パンとスープ<br>第 9回　中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭<br>第10回　日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし<br>第11回　正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り<br>第12回　クリスマス料理、ビーフストロガノフ（ブラウンソース）、ブッシュドノエル<br>第13回　テーブルマナー（会席料理）、懐石料理とは、会席料理とは<br>第14回　調理技術と主菜の作成（大量調理への応用）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。 | | |
| 成績評価の方法 | 調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習への取り組み・参加状況 30% | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理学実習Ⅲ** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル<br><br>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴（糊化作用、凝固作用、膨張作用など）を十分活かした調理実習カリキュラム<br><br>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部<br>(2)　香川芳子監修『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　郷土料理（芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん）<br>第 2回　季節の和食・応用（五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢）<br>第 3回　手作り餃子<br>第 4回　季節の郷土料理と和食（豚骨、五色なます、のっぺい汁）<br>第 5回　奄美の郷土料理（鶏飯、がね、ぬた）<br>第 6回　自作の献立作成から調理技術への完成<br>第 7回　自作の献立作成から調理技術への完成<br>第 8回　正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理大量調理の応用（真空料理、クックチル）仕込み<br>第 9回　〃　本調理<br>第10回　クリスマス（ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー）<br>第11回　クリスマスのショートケーキ<br>第12回　西洋料理の応用：グラタン（ホワイトソースの活用）、ミネストローネ、シフォンケーキ等諸外国の調理<br>第13回　災害食、おいしいお茶の入れ方<br>第14回　まとめ<br>第15回　テーブルマナー(洋食) | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。 | | |
| 成績評価の方法 | 調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習への取り組み・参加状況 30% | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養学総論** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。<br><br>【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。<br><br>【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　講義の際に適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的<br>第　2回　食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について<br>第　3回　消化・吸収と栄養１：消化器系の構造と機能や消化酵素について<br>第　4回　消化・吸収と栄養２：栄養素の体内動態について<br>第　5回　タンパク質の栄養１：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について<br>第　6回　タンパク質の栄養２：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について<br>第　7回　糖質の栄養１：糖質の概要・分類について<br>第　8回　糖質の栄養２：体内代謝や血糖調節について<br>第　9回　脂質の栄養１：脂質の種類と働き、臓器間輸送について<br>第10回　脂質の栄養２：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について<br>第11回　ビタミンの栄養１：水溶性ビタミンについて<br>第12回　ビタミンの栄養２：脂溶性ビタミンについて<br>第13回　ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について<br>第14回　水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について<br>第15回　エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養学各論** | 担当者 | 有村　恵美 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理<br>【概要】妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び，栄養評価法，栄養摂取法，疾患との関連等について学ぶ。<br>【到達目標】妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実際について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　奥田あかりほか『応用栄養学』（化学同人）<br>菱田明監修『日本人の食事摂取基準』（第一出版）<br>(2)　大里進子『ライフステージ実習栄養学」（医歯薬出版株式会社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　食事摂取基準（概要）<br>第　2回　食事摂取基準（活用・実践）<br>第　3回　乳児期の栄養（特性・疾患）<br>第　4回　乳児期の栄養（栄養補給法）<br>第　5回　幼児期の栄養（特性・疾患）<br>第　6回　幼児期の栄養（栄養ケア）<br>第　7回　学童期の栄養（特性・食事摂取基準）<br>第　8回　高齢期の栄養（特性・疾患）<br>第　9回　献立作成演習（食事摂取基準と調理方法）<br>第10回　思春期の栄養（特性・疾患）<br>第11回　成人・更年期の栄養（特性・疾患）<br>第12回　成人・更年期の栄養（生活習慣病）<br>第13回　妊娠期の栄養（特性・栄養と病態）<br>第14回　授乳期の栄養（特性・栄養ケア）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%），課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| 授業科目 | 栄養学実習 | 担当者 | 有村　恵美 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防，臨床を対象とした栄養学の実践から応用<br>【概要】各ライフステージ（妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など）別の健康保持・疾病予防のための食事，各治療食（形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など）を理解し，調理，供食までを実際に行う（全実習）。<br>【到達目標】各ライフステージ別の食形態，疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し，実践できる力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　大里進子『ライフステージ実習栄養学」（医歯薬出版株式会社）<br>玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社）<br>(2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（メディカルレビュー社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　乳児期（乳児期栄養の実際）<br>第　2回　離乳期（離乳食の進め方の目安・実際）<br>第　3回　幼児期・学童期（幼児期・学童期栄養の実際）<br>第　4回　実施献立（献立作成，調理方法）<br>第　5回　幼児期・学童期（食物アレルギー食）<br>第　6回　高齢期（高齢期栄養の実際）<br>第　7回　一般食治療食（形態別治療食）<br>第　8回　特別治療食（エネルギー調整食）<br>第　9回　特別治療食（脂質調整食）<br>第10回　特別治療食（食塩制限食）<br>第11回　特別治療食（たんぱく質調整食）<br>第12回　実施献立（献立作成，調理方法）<br>第13回　特別治療食（糖尿病食）<br>第14回　特別治療食（腎臓病食）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 実習ノート（70%），実習への取り組み状況（30%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| 授業科目 | 解剖生理学 | 担当者 | 多田　司 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】人体の構造と機能を理解する。<br>【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ。<br>【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　佐藤達夫監修『新版 からだの地図帳』講談社<br>山口和克ほか『新版 病気の地図帳』講談社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　人体の構造1：細胞・組織・器官<br>第　2回　人体の構造2：消化器系（1）<br>第　3回　人体の構造3：消化器系（2）<br>第　4回　人体の構造4：心臓・血管系<br>第　5回　人体の構造5：呼吸器系<br>第　6回　人体の機能1：内分泌系（1）<br>第　7回　人体の機能2：内分泌系（2）<br>第　8回　人体の機能3：代謝系<br>第　9回　人体の機能4：血液系<br>第10回　人体の機能5：免疫系（1）<br>第11回　人体の機能6：免疫系（2）<br>第12回　人体の機能7：脳・神経系<br>第13回　人体の機能8：骨格・筋肉系<br>第14回　人体の機能9：感覚器官<br>第15回　人体の機能10：腎臓系 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **解剖生理学実験** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対等 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】人体の構造と機能を理解する。<br><br>【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。<br><br>【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　青峰正裕、藤田守編著『Nブックス実験シリーズ解剖生理学実験』建帛社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄<br>第　2回　骨格観察1：頭<br>第　3回　骨格観察2：体躯<br>第　4回　骨格観察3：手足<br>第　5回　人体モデル観察1：各種臓器<br>第　6回　人体モデル観察2：各種臓器<br>第　7回　人体モデル観察3：各種臓器<br>第　8回　組織標本観察1：肝臓<br>第　9回　組織標本観察2：腎臓<br>第10回　組織標本観察3：膵臓<br>第11回　血液に関する実験1：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比）<br>第12回　血液に関する実験2：血糖値の定量<br>第13回　血液に関する実験3：コレステロール値の定量<br>第14回　酵素に関する実験：唾液アミラーゼ活性<br>第15回　まとめ：器具洗浄、片付け | | |
| 授業外学習(予習・復習) | レポートを重視する | | |
| 成績評価の方法 | レポート（70%）+実験への取り組み状況（30%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生化学Ⅰ** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。<br><br>【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。<br><br>【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅰでは、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学Ⅱで学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　上代淑人監訳『ハーパー生化学』（丸善）<br>山科郁男監修『レーニンジャーの新生化学』（廣川書店） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて<br>第　2回　タンパク質・アミノ酸1：アミノ酸・ペプチドについて<br>第　3回　タンパク質・アミノ酸2：タンパク質の種類と機能について<br>第　4回　糖質1：単糖類・二糖類・多糖類について<br>第　5回　糖質2：糖質の機能について<br>第　6回　脂質1：脂質の種類と分類について<br>第　7回　脂質2：脂質の機能について<br>第　8回　ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について<br>第　9回　ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について<br>第10回　核酸：ヌクレオチドの構造について<br>第11回　酵素1：酵素の分類と性質について<br>第12回　酵素2：酵素反応速度について<br>第13回　酵素3：酵素活性の調節について<br>第14回　ホルモン1：ホルモンの分類について<br>第15回　ホルモン2：個体の調節機構とホメオスタシスについて | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生化学Ⅱ** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。<br><br>【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。<br><br>【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解することと、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　上代淑人監訳『ハーパー生化学』（丸善）<br>山科郁男監修『レーニンジャーの新生化学』（廣川書店） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　代謝とは？：生体エネルギーと代謝について<br>第　2回　タンパク質・アミノ酸の代謝1：タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について<br>第　3回　タンパク質・アミノ酸の代謝2：アミノ酸の代謝とその代謝異常について<br>第　4回　糖質の代謝1：解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について<br>第　5回　糖質の代謝2：グリコーゲンの合成と分解について<br>第　6回　糖質の代謝3：糖新生、ペントース-リン酸経路、グルクロン酸経路について<br>第　7回　脂質の代謝1：脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について<br>第　8回　脂質の代謝2：トリグリセリドとリン脂質の代謝について<br>第　9回　脂質の代謝3：コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について<br>第10回　ヌクレオチドの代謝：塩基の合成と分解について<br>第11回　遺伝子発現とその制御1：遺伝情報の複製、転写、翻訳について<br>第12回　遺伝子発現とその制御2：RNAの合成（転写）について<br>第13回　遺伝子発現とその制御3：タンパク質合成（翻訳）について<br>第14回　生体防御機構1：非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について<br>第15回　生体防御機構2：免疫系の成り立ちについて | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生化学実験** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生体成分，栄養成分の定性・定量的分析<br><br>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。<br><br>【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　林 淳三『新訂生化学実験』建帛社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄<br>第　2回　尿に関する実験（1）：尿タンパク質の定量<br>第　3回　尿に関する実験（2）：尿糖の検出<br>第　4回　尿に関する実験（3）：ケトン体の検出<br>第　5回　尿に関する実験（4）：クレアチニンの定量<br>第　6回　尿に関する実験（5）：ウロペーパーによる簡易検査<br>第　7回　ビタミンに関する実験（1）：ビタミン$B_1$の定量<br>第　8回　ビタミンに関する実験（2）：ビタミン$B_2$の定性<br>第　9回　ホルモンに関する実験：ステロイドホルモンの分離定性<br>第10回　栄養成分に関する実験（2）：タンパク質の定量（1）<br>第11回　栄養成分に関する実験（3）：タンパク質の定量（2）<br>第12回　栄養成分に関する実験（1）：カルシウムの定量（1）<br>第13回　栄養成分に関する実験（2）：カルシウムの定量（2）<br>第14回　栄養成分に関する実験（3）：カルシウムの定量（3）<br>第15回　まとめ：器具洗浄、器具整理、片付け | | |
| 授業外学習(予習・復習) | レポートを重視する | | |
| 成績評価の方法 | レポート（70%）+実験への取り組み状況（30%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **健康と運動** | 担当者 | 西迫　貴美代 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 随時（要予約）　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　必修　(注)　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする。<br>【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。講義内容に即して具体的な運動を実施する内容も予定しているため、事前にお知らせする。<br>【到達目標】<br>自分自身の測定データから導き出される運動作業課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的かつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適時、講義資料を配付する<br>(2)　適時、参考文献を紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る）<br>第　2回　適切な運動処方について考える　1（自己のデータを元に）<br>第　3回　適切な運動処方について考える　2（基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法）<br>第　4回　適切な運動処方について考える 3　（データの意味-1）<br>第　5回　体力概念について（データの意味-２）<br>第　6回　現代社会の特徴と健康問題<br>第　7回　健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る)<br>第　8回　健康と運動１（運動の仕組みと運動の効果）<br>第　9回　健康と運動２（運動とダイエット）<br>第 10 回　健康と運動３（運動と休養･栄養）<br>第 11 回　健康と運動４（ライフスタイルを考える）<br>第 12 回　ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定<br>第 13 回　ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定<br>第 14 回　ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | これまで履修した講義（特に解剖学　運動生理学など）で使用したテキスト等、復習すること | | |
| 成績評価の方法 | 毎回、小レポートの提出と授業への参加状況（60%）最終レポート　40% | | |

(注) 教職必修　(注) 卒業必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **健康管理概論** | 担当者 | 與儀　幸朝 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>健康を維持増進するために、身近な健康増進の知識や方法について学ぶ<br>【概要】<br>我が国の健康の現状を把握し、健康問題への関心を高め、疾病予防や健康増進の方法についての知識を習得することで、健康管理ついての科学的な考え方や理解を養う<br>【到達目標】<br>1）健康の概念について説明できる<br>2）人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる<br>3）ストレス発散の具体的な方法について列挙できる<br>4）生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる<br>5）情報の収集・処理・管理について理解することができる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「健康管理概論」東京教学社<br>(2)　「健康管理概論」光生館 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　健康の概念<br>第　3回　健康の決定要因<br>第　4回　健康の現状１<br>第　5回　健康の現状２<br>第　6回　健康増進対策１<br>第　7回　健康増進対策２<br>第　8回　ストレス<br>第　9回　健康づくりの実際<br>第 10 回　健康の阻害要因と疾病の予防<br>第 11 回　健康管理の進め方１<br>第 12 回　健康管理の進め方２<br>第 13 回　情報処理と健康管理１<br>第 14 回　情報処理と健康管理２<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 70%，レポート 30% | | |

(注) 栄養士選択必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **公衆衛生学** | 担当者 | 郡山　千早 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | メールで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】健康の増進と疾病・障害の発生・予防に関する社会的要因，自然環境，生物学的要因との相互作用，予防医学の理論ならびに実践を理解する。<br>【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し，それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で，健康増進をいかに図り，集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。<br>【到達目標】次の項目を理解し，説明できる。I) 社会と健康・疾病との関係，II) 保健統計の意義と現状，III) 疫学とその応用，IV) 生活習慣病とその予防対策，V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　国民衛生の動向（厚生労働統計協会） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　公衆衛生学総論<br>第　2回　公衆衛生のしくみ（関連法律，計画・政策）<br>第　3回　公衆衛生のしくみ（国と地方自治体の役割，関連職種や住民との協働）<br>第　4回　保健統計<br>第　5回　感染症対策<br>第　6回　疫学１<br>第　7回　疫学２<br>第　8回　環境と健康<br>第　9回　地域保健（母子保健）<br>第10回　地域保健（成人保健）<br>第11回　地域保健（高齢者保健）<br>第12回　歯科保健，学校保健<br>第13回　精神保健，難病・障碍者支援<br>第14回　職場と健康<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 配布資料に添付する演習を復習として活用すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（80%），ミニレポート（20%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **運動生理学** | 担当者 | 徳田　修司 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し、栄養学との関係性を学ぶ。<br>【概要】<br>健康維持の原則である「運動」「栄養」「休養」について、それぞれの関係性を運動生理学の視点から考察する。さらに日常生活での運動の必要性・重要性を学び、「運動と適応」について理解し、実践するための知識を学ぶ。<br>【到達目標】<br>１）運動のエネルギー供給系について理解する（呼吸循環・代謝系を含む）。<br>２）人の骨格筋の特徴について生理学的、生化学的に理解する（中枢および末梢の神経調節系を含む）。<br>３）運動と適応について学び、体力や目的に応じた運動の実践のための基礎的知識を身につける（運動処方）。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に使用しないが、適宜、資料を配布する<br>(2)　「スポーツ生理学」化学同人、「運動生理学の基礎と応用　―健康科学へのアプローチ―」NAP | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに・運動生理学について―オリエンテーション―<br>第　2回　運動と骨格筋・神経　Ⅰ<br>第　3回　運動と骨格筋・神経　Ⅱ<br>第　4回　運動とエネルギー供給機構Ⅰ<br>第　5回　運動と代謝系<br>第　6回　運動とエネルギー供給機構Ⅱ<br>第　7回　運動と呼吸系<br>第　8回　運動と循環系<br>第　9回　運動と適応Ⅰ・・・身体不活動、体重維持<br>第10回　運動と適応Ⅱ・・・運動と発育発達・体組成<br>第11回　運動と適応Ⅲ・・・高所・低酸素トレーニング<br>第12回　運動と適応Ⅳ・・・運動と体温調節<br>第13回　体力論<br>第14回　運動処方とは<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回および次回の授業内容を確認すること。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験７０％　レポート３０％ | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **給食管理** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について<br><br>【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ<br><br>【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『栄養士のための給食計画論』・『大量調理』　学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社<br>(2)　『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部、『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂<br>『給食の運営管理実習テキスト』第一出版　、『給食経営管理論』東京化学同人 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　給食の概念<br>第　2回　栄養食事管理<br>第　3回　食品構成<br>第　4回　献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは<br>第　5回　献立計算<br>第　6回　主菜の考え方、給食の調理管理<br>第　7回　大量調理の献立<br>第　8回　大量調理の調理　｜　主菜の献立作成<br>第　9回　作業管理、設備管理　｜　副菜の献立作成<br>第10回　衛生・安全管理　｜　汁の献立の立て方<br>第11回　衛生・安全管理　｜　デザートの献立の立て方<br>第12回　市場調査、経営管理　｜　行事食<br>第13回　施設別の栄養管理・献立<br>第14回　施設別の給食管理、研究・調査<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業の課題プリントを宿題としてだす。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加状況・レポート・小テスト40%、試験60% | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **給食管理実習Ⅰ** | 担当者 | 山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前・後　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学内実習　本学学生を主要対象とした給食サービス<br><br>【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。<br>【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『栄養士のための給食計画論』・『大量調理』　学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社<br>『給食の運営管理実習テキスト』第一出版<br>(2)　『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部<br>『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂 | | |
| 授業スケジュール | オリエンテーション（実習の概要）<br>献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。<br>食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う<br>運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。<br>試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする<br>衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。<br>実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。<br>栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。<br>供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。<br>評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ（報告発表） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。 | | |
| 成績評価の方法 | 実習ノート（20%）、反省・報告発表（10%）、実習への取り組み，参加状況（70%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| 授業科目 | 給食管理実習Ⅱ | 担当者 | 山下　三香子 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学外実習　給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務<br><br>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。<br>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『栄養士のための給食計画論』学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社　実習ノート<br>(2)　『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部<br>『給食経営管理論』東京化学同人 | | |
| 授業スケジュール | 各施設による特徴<br>1、給食施設の概要<br>2、給食業務の流れ<br>3、給食組織と業務分担および栄養士業務<br>4、栄養教育<br>5、献立内容<br>6、大量調理の技術<br>7、食材管理<br>8、衛生管理<br>9、各調査と評価<br>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。<br>各施設による特徴 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成 | | |
| 成績評価の方法 | 実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習への取り組み，参加状況（70%） | | |

（注）栄養士必修　※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

| 授業科目 | 給食管理実習Ⅲ | 担当者 | 山下　三香子 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学外実習　給食施設（学校給食）での栄養士の給食業務<br><br>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。<br>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『栄養士のための給食計画論』学建書院、『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、　実習ノート<br>(2)　『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『七訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部<br>『給食経営管理論』東京化学同人 | | |
| 授業スケジュール | 各施設による特徴<br>1、給食施設の概要<br>2、給食業務の流れ<br>3、給食組織と業務分担および栄養士業務<br>4、栄養教育<br>5、献立内容<br>6、大量調理の技術<br>7、食材管理<br>8、衛生管理<br>9、各調査と評価<br>10、実習終了後、学内で報告発表を行う。<br>各施設による特徴 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成 | | |
| 成績評価の方法 | 実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習への取り組み，参加状況（70%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修　※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養教育論** | 担当者 | 町田　和恵 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法<br>【概要】栄養教育は，対象とする個人や集団のＱＯＬを高めるため適正な食生活を営み，望ましい健康状態を維持・増進できるよう，単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて，好ましい食行動を実践し習慣化させること，また，生活習慣病の増加に対応するため，栄養・食生活上問題のある人々を対象として，その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。<br>【到達目標】対象の実態とニーズに沿って，健康やＱＯＬの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜プリントを配布する。<br>(2)　日本栄養士会編　『2019 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養教育の概念，行動科学理論と栄養教育<br>第　2回　行動科学理論とモデル<br>第　3回　行動変容技法と概念<br>第　4回　栄養教育におけるカウンセリング<br>第　5回　組織づくり・地域づくり，栄養教育の展開<br>第　6回　食環境づくり，栄養教育の展開<br>第　7回　栄養教育マネジメント，栄養教育の展開<br>第　8回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績（70%）課題と小テスト（30%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修　　※ 7.5 回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養指導論Ⅰ** | 担当者 | 町田　和恵 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握<br>【概要】本講義では，栄養指導に必要な基礎知識と，対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。<br>【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　芦川修貮，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院<br>(2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015 年版』第一出版<br>日本栄養士会編　『2019 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養指導の目的，栄養指導の歴史<br>第　2回　食事摂取基準　（身体活動指数，エネルギー）<br>第　3回　食事摂取基準　（各栄養素）<br>第　4回　食品構成（各栄養素の基準量）<br>第　5回　食品構成（栄養比率の考え方）<br>第　6回　食品構成作成　栄養価の算定　（1）<br>第　7回　食品構成作成　栄養価の算定　（2）<br>第　8回　各種調査による実態把握（身体状況　生活時間）<br>第　9回　各種調査による実態把握（栄養調査）<br>第 10 回　各種調査による実態把握（食生活調査）<br>第 11 回　栄養指導の基本的な進め方（個別指導と集団指導）<br>第 12 回　栄養指導の基本的な進め方（栄養状態の評価）<br>第 13 回　栄養指導の基本的な進め方（運動）<br>第 14 回　栄養指導の基本的な進め方（休養）<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| 授業科目 | 栄養指導論Ⅱ | 担当者 | 町田　和恵 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導<br>【概要】本講義では，対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して，その食習慣を形作った背景を正しく理解して，指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み，問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。<br>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し，栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院<br>(2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版<br>日本栄養士会編　『2019年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ライフステージ（妊婦・授乳婦の栄養指導）<br>第　2回　ライフステージ（乳児期の栄養指導）<br>第　3回　ライフステージ（幼児期　3歳未満児の栄養指導）<br>第　4回　ライフステージ（幼児期　3歳以上児の栄養指導）<br>第　5回　ライフステージ（保育所給食と栄養指導）<br>第　6回　ライフステージ（学童期の栄養指導）<br>第　7回　ライフステージ（学校給食と栄養指導）<br>第　8回　ライフスタイル（成人期の栄養指導）<br>第　9回　ライフスタイル（生活習慣病　肥満症・高血圧症の栄養指導）<br>第10回　ライフスタイル（生活習慣病　糖尿病・脂質異常症の栄養指導）<br>第11回　ライフスタイル（高齢期の栄養指導）<br>第12回　健康障害と栄養指導<br>第13回　病院などの医療機関における栄養食事指導<br>第14回　アスリートと栄養教育（の栄養指導）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| 授業科目 | 栄養指導論実習Ⅰ | 担当者 | 町田　和恵 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法<br>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，個人や集団を対象として，そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント，栄養指導プログラムの立案，教育媒体・資料の作成，<br>【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し，その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として，対象者への的確な栄養アセスメント，指導案の作成，媒体の選択，プレゼンテーションのスキルを習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜プリントを配布する。<br>(2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版<br>日本栄養士会編　『2019年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養指導実習の意義と目的，栄養指導の基礎知識　(食事摂取基準)<br>第　2回　栄養指導の基礎知識　(食品構成表の作成)<br>第　3回　実態指導の基礎知識　(献立作成)<br>第　4回　実態把握の方法　食品構成の算定実習<br>第　5回　実態把握の方法　各種調査方法（食事摂取状況調査など）<br>第　6回　実態把握の方法　各種調査方法（食事摂取状況調査など）<br>第　7回　実態把握の方法　身体状況調査，体力測定<br>第　8回　指導案の作成（基本）<br>第　9回　指導案の作成（実践用　グループ）<br>第10回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（グループ）<br>第11回　プレゼンテーション（グループ）<br>第12回　プレゼンテーション（グループ）・　指導案の作成（実戦用　個人）<br>第13回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その1）<br>第14回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養指導論実習Ⅱ** | 担当者 | 町田　和恵 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法<br>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，栄養指導論実習Ⅱでは，集団・個別を対象とし，福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し，体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。<br>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成，媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜プリントを配布する。<br>(2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2015 年版』第一出版<br>日本栄養士会編　『2019 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成（1）<br>第　2回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成（2）<br>第　3回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その１<br>第　4回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その２<br>第　5回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その３<br>第　6回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その４<br>第　7回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その５<br>第　8回　個別対症の栄養指導の基本的な考え方<br>第　9回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成<br>第 10 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その１<br>第 11 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その２<br>第 12 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その３<br>第 13 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その４<br>第 14 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その５<br>第 15 回　個別対症の栄養指導の方法（病院.）プレゼンテーション　その６とまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。 | | |

(注) 栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **公衆栄養学** | 担当者 | 米盛　麻美 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】集団の健康問題が栄養上どのような因子に基づくのか，問題解決のために栄養はどうあるべきかを明らかにしていく。<br>【概　要】日本は，平均寿命延伸のなか，高齢化，少子化、医療費増大などの問題を抱えている。よって，障害や寝たきりではない状態で健康的に過ごせる期間である健康寿命の延伸が強く望まれている。そのような現状のなか，不適切な栄養摂取や生活習慣により引き起こされる生活習慣病対策としての，栄養士の活動は益々重要性を帯びている。<br>【到達目標】食の専門家である栄養士が疾患の予防のために，集団レベル，個人レベルで食生活における問題点を抽出し，その問題解決のために必要な食環境を含めた総合的かつ具体的で有効な方法を示すことができるようになること。 | | |
| （1）テキスト<br>（2）参考文献 | （1）栄養科学シリーズＮＥＸＴ　公衆栄養学　第５版　講談社サイエンティフィク（必ず購入すること。） | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　公衆栄養学の概念（1）<br>第 2回　公衆栄養学の概念（2）<br>第 3回　公衆栄養学の歴史<br>第 4回　食生活と栄養問題の変遷と現状（1）<br>第 5回　食生活と栄養問題の変遷と現状（2）<br>第 6回　我が国の栄養問題の現状と課題（1）<br>第 7回　我が国の栄養問題の現状と課題（2）<br>第 8回　栄養政策<br>第 9回　栄養疫学<br>第 10 回　公衆栄養活動に必要な統計学<br>第 11 回　地域栄養マネジメント<br>第 12 回　公衆栄養プログラムの展開<br>第 13 回　実技（1）<br>第 14 回　実技（2）<br>第 15 回　公衆栄養学総括 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（80%），実技（10%），授業への取り組み・参加状況（10%） | | |

(注) 栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養情報処理** | 担当者 | 町田　和恵 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養士が健康・栄養状態，食行動，食環境に関する情報の収集・分析，それを総合的に判断する能力<br>【概要】栄養士には，集めた情報を統計学的に処理し，客観的に評価することが求められている。そのためには，コンピュータを使用し，実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。<br>【到達目標】栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び，これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　石村貞夫，広田直子他著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編（第2版），東京図書<br>(2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版<br>日本栄養士会編　『2019年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　コンピュータの役割，機能，実際<br>第　2回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（1）<br>第　3回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（2）<br>第　4回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（3）<br>第　5回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（4）<br>第　6回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（5）<br>第　7回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（単純集計）<br>第　8回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計）<br>第　9回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計　オッズ比）<br>第10回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（区間推定）<br>第11回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（検定方法）<br>第12回　コンピュータによる献立作成<br>第13回　コンピュータによる栄養価計算<br>第14回　コンピュータによる月報作成<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋課題（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。 | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **臨床栄養学Ⅰ** | 担当者 | 有村　恵美 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法<br>【概要】主要な疾患の概要（疫学・発症機序・病態・臨床症状）、診断基準、治療法を学習することで，各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。<br>【到達目標】主要な疾患の概要（疫学・発症機序・病態・臨床症状），診断基準，治療法を理解し，栄養の関連を認識し，各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人）<br>(2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（メディカルレビュー社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　臨床栄養学（概念・意義）<br>第　2回　代謝性疾患（病態と栄養管理：糖尿病）<br>第　3回　代謝性疾患（病態と栄養管理：糖尿病）<br>第　4回　代謝性疾患（病態と栄養管理：脂質異常症）<br>第　5回　代謝性疾患（病態と栄養管理：脂質異常症）<br>第　6回　代謝性疾患（病態と栄養管理：痛風,高尿酸血症）<br>第　7回　代謝性疾患（病態と栄養管理：肥満）<br>第　8回　栄養法（経腸栄養・経静脈栄養）<br>第　9回　消化器疾患（病態と栄養管理：肝臓疾患）<br>第10回　消化器疾患（病態と栄養管理：肝臓疾患）<br>第11回　消化器疾患（病態と栄養管理：胃腸疾患）<br>第12回　消化器疾患（病態と栄養管理：胃腸疾患）<br>第13回　腎疾患（病態と栄養管理：慢性腎臓病）<br>第14回　腎疾患（病態と栄養管理：透析）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%），課題・小テスト・授業への取り組み状況（40%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床栄養学Ⅱ | 担当者 | 有村　恵美 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法（実践から応用）<br>【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで，各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。<br>各疾患別の病態の知識をもとに，治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。<br>【到達目標】主要な疾患の病態を理解し，栄養の関連を認識できること。<br>各疾患別の栄養・食事療法を理解し，具体的な治療食を考えられる力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人）<br>玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社）<br>日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂）<br>黒川清監修『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版株式会社）<br>(2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（メディカルレビュー社） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　循環器疾患（病態と栄養管理：動脈硬化症）<br>第　2回　循環器疾患（病態と栄養管理：高血圧）<br>第　3回　循環器疾患（病態と栄養管理：心疾患）<br>第　4回　その他の疾患（病態と栄養管理：呼吸器疾患）<br>第　5回　その他の疾患（病態と栄養管理：骨疾患）<br>第　6回　栄養評価（栄養アセスメント・スクリーニング）<br>第　7回　一般治療食（常食）<br>第　8回　一般治療食（形態別治療食）<br>第　9回　特別治療食　（エネルギーコントロール食）<br>第10回　特別治療食（脂質調整食）<br>第11回　特別治療食（食塩制限食）<br>第12回　特別治療食（腎臓病食品交換表）<br>第13回　特別治療食（たんぱく質調整食）<br>第14回　特別治療食（カリウム制限食・水分制限食）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%）、課題・小テスト・授業への取り組み状況（40%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 臨床栄養学実習 | 担当者 | 有村　恵美 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学外実習　病院での栄養士全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導）の業務による実習 | | |
| | 【概要】県内外の医療現場における2週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。<br>1.　医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で,専門職として栄養士の実情を把握。<br>2.　対象者の臨床成績を把握し,的確な食事計画や栄養管理,栄養食事指導。<br>3.　対象者の心理を理解し信頼を得る。<br>【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し,実際に遂行されている栄養士全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導）業務の習得。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人）<br>玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社）<br>日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂）<br>黒川清監修『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版株式会社）<br>菱田明監修『日本人の食事摂取基準』（第一出版）<br>香川芳子監修『七訂増補食品成分表』（女子栄養大出版部）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 各施設により異なる<br>1.指導管理栄養士等からの説明（院内における栄養部門の位置と役割　等）<br>2.病院給食管理業務の実際（施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務　等）<br>3.供食状況の実際（一般治療食・特別治療食　等）<br>4.病態栄養管理業務の実際（栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価　等）<br>5.栄養食事指導業務の実際（個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法　等）<br>6.多職種連携の実際（チーム医療・各種委員会見学　等）<br>7.報告会（実習内容・反省・課題　等） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習への取り組み状況（70%） | | |

（注）栄養士必修，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **病理学** | 担当者 | 山田　博久 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】人体等における病気の成り立ち。<br><br>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため，以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。<br><br>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしぼった授業も可能ですが，表面的な知識しか持たず，本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業（医学部3-5年生相当）を行い，また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ，以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　系統看護学講座　専門基礎４　病理学<br>(2)　特に定めないが，さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。<br>管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　病理学で学ぶこと<br>第　2回　炎症，免疫，感染症　呼吸器系の疾患<br>第　3回　循環障害，循環器，の疾患　代謝障害<br>第　4回　先天異常，遺伝子異常，神経系の疾患<br>第　5回　補足<br>第　6回　消化器系，腎泌尿器系，内分泌系の疾患<br>第　7回　腫瘍，血液の疾患，老化と死<br>第　8回　補足 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。 | | |

※7.5回

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **学校栄養教育論** | 担当者 | 中馬　和代・町田　和恵 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法<br>【概　要】　学校での年間指導計画の下に，学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し，効果的な指導を行うために，教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要な栄養教諭の役割や職務内容，食文化，食に関する指導方法等について学ぶ。<br>【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し，学級担任や養護教諭，学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために，実践を兼ねた演習を行い，知識や方法を修得させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　金田雅代『栄養教諭論』建帛社，<br>(2)　厚生労働省『食に関する指導の手引き』 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養教諭の制度と役割，現状と課題，職務内容，使命（担当：中馬）<br>第　2回　学校給食の教育的意義と役割，学校組織と栄養教諭の位置づけ（担当：中馬）<br>第　3回　学校給食の歴史と食文化の変遷（担当：中馬）<br>第　4回　子どもの発達と食生活（担当：中馬）<br>第　5回　食に関する指導の全体計画（計画・実施・評価）（担当：中馬）<br>第　6回　食に関する指導の展開（(担当：中馬）<br>第　7回　給食時間における食に関する指導（担当：中馬）<br>第　8回　給食時間における食に関する指導の実際（担当：中馬）<br>第　9回　児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情，法令及び諸制度（担当：町田）<br>第10回　児童・生徒の栄養に係る諸課題（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）（担当：町田）<br>第11回　発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材（担当：町田）<br>第12回　教科における食に関する指導①（担当：町田）<br>第13回　教科における食に関する指導②（担当：町田）<br>第14回　個別栄養相談指導（食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等）（担当：町田）<br>第15回　まとめ（担当：町田） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **有機化学概論** | 担当者 | 木下朋美・多田司 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | オフィスアワーを参照 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め，専門科目を履修する上で必要な基礎固めをする。<br><br>【概要】化学の基礎的知識として，原子・分子の構造，化学結合，物質量・溶液の濃度の表し方，酸・塩基，酸化・還元，有機化合物の種類について解説する。<br>【到達目標】①物質の構成を知り，化学結合について理解する。②物質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　高校で履修する「基礎化学」及び「化学」レベルのプリントを適宜配布する。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション，原子の構造<br>第 2回　化学結合（イオン結合と共有結合）<br>第 3回　原子・分子の重さ（原子量・分子量と式量）<br>第 4回　溶液の濃度（物質量・モル濃度）<br>第 5回　化学反応式（化学反応式のつくり方，化学反応の量的関係）<br>第 6回　酸と塩基―1（酸・塩基の性質，水素イオン濃度）<br>第 7回　酸と塩基―2（中和反応と塩の性質）<br>第 8回　酸化と還元―1（酸化・還元の定義，酸化数）<br>第 9回　酸化と還元―2（酸化剤と還元剤，酸化還元反応）<br>第10回　有機化合物の特徴と分類（官能基，構造式，異性体）<br>第11回　脂肪族炭化水素（アルカン，アルケン，アルキン）<br>第12回　酸素を含む脂肪族化合物－1（アルコール，アルデヒド，ケトン）<br>第13回　酸素を含む脂肪族化合物－2（カルボン酸，エステル，油脂とセッケン）<br>第14回　芳香族化合物―1（フェノール類，芳香族カルボン酸）<br>第15回　芳香族化合物―2（ニトロ化合物，芳香族アミン），有機化合物と人間生活 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（40%），小テスト（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生物概論** | 担当者 | 多田　司 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生命科学を学ぶための基礎となる生物学の概念と考え方を系統的に理解する。<br><br>【概要】生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造や機能、生命維持のためのエネルギー代謝の仕組み、さらに遺伝についての基本的概念を学習し、最後に動物の生殖と個体の成り立ち、恒常性の維持や刺激に対する応答について学習を進める。また、それぞれのテーマに関するいろいろな話題を取り上げて、生物に対する理解を深める。<br><br>【到達目標】食物栄養専攻で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭に、生命現象や生活現象を基礎的、原理的な面から理解できるようになること、特に高校で生物を履修していなかった学生が、生命や生活の機構の精緻さに興味を持ち、これから学ぶ専門科目をさらに深く理解できるようになることを到達目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　田村隆明 著　『医療・看護系のための生物学 改訂版』　裳華房　2016<br>適宜、プリントによる資料も配付する。<br>(2)　あれば講義中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス：生物概論を学習するにあたって<br>第 2回　分子から細胞へ：生体を構成する分子<br>第 3回　細胞の構造と機能：生物の体の成り立ちについて<br>第 4回　細胞分裂と細胞周期：体細胞分裂と核の変化<br>第 5回　遺伝と遺伝情報：メンデルの法則とセントラルドグマ<br>第 6回　遺伝情報とその複製：遺伝子の本体DNA<br>第 7回　遺伝情報の発現：遺伝情報からタンパク質合成へ<br>第 8回　生殖と発生：減数分裂と性の決定<br>第 9回　生殖と発生：配偶子形成と受精、発生<br>第10回　生命活動とエネルギー代謝：同化、異化<br>第11回　生命活動とエネルギー代謝：解糖系、TCA回路、電子伝達系<br>第12回　生命活動とエネルギー代謝：光合成<br>第13回　個体の構造と機能：内分泌系<br>第14回　個体の構造と機能：神経系<br>第15回　個体の構造と機能：生体防御 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。 | | |

# ９　生活科学専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活化学** | 担当者 | 井余田　秀美 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】身の回りの化学物質について学び，生活の様式や環境との関わりについて考える。<br>【概　要】多くの人が豊かで快適に暮らすために化学の果たす役割は大きい。人はこれまで，自然の物をうまく利用し，自然にはない有益な物を作り出して，生活のために活用してきている。しかしながら一方で，人工の有害物質や生活や生産活動に伴う大量の廃棄物等が人の生活や自然環境を損なってきてもいる。この講義では生活の中の化学物質について学ぶ。<br>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「あなたと化学」 齋藤勝裕 著　裳華房<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第Ⅰ部　化学の基礎<br>第 1回　原子と分子が全てをつくる　原子構造，化学結合，分子<br>第 2回　私たちは空気で囲まれている　空気の組成と体積，状態方程式，気体の性質<br>第 3回　地球は水の惑星　水の構造，水素結合，状態図，超臨界状態，液晶<br>第 4回　炭が燃えると熱くなる　酸化・還元，酸・塩基，反応，触媒<br>第 5回　元素の 80%は金属元素　金属元素の種類，金属結合，電気伝導性，合金，レアメタル<br>第 6回　有機物は炭素でできている　有機化合物、置換基，異性体，化石燃料<br>第 7回　生命体をつくるもの　糖・脂質・タンパク質，核酸，ビタミン・ホルモン<br><br>第Ⅱ部　生活と化学<br>第 8回　シャボン玉の不思議　セッケン，ミセル、洗濯，細胞膜<br>第 9回　私たちの食べているもの　主食，副食，酒類，調味料，食品添加物<br>第 10 回　毒と薬は同じもの？　医薬品，アスピリン，抗生物質，抗がん剤，毒物、麻薬・覚醒剤<br>第 11 回　プラスチックって何だろう？　高分子，ポリエチレン，ナイロンとペット，合成繊維，機能性高分子<br>第 12 回　電気って何だろう？　各種電池，水銀灯・蛍光灯，発光ダイオード，有機ＥＬ，生物発光<br>第 13 回　原子力と電力　原子核反応，放射能，核分裂・核融合，原子力発電<br>第 14 回　家庭は化学実験室　キッチン・バス，リビング，デスク，ガーデン，家屋<br>第 15 回　まとめ　練習問題の解答をレポートにまとめる。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業期間内の数回のミニレポートの提出 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活化学実験** | 担当者 | 井余田　秀美 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実験 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生活の中の化学物質について理解し，その正しい取り扱いができるようにする。<br>【概　要】衣食住や生活環境に関する実験を行う。<br>【到達目標】衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　実験全般の説明　実験の心構えや白衣の着用などについて説明する。各実験原理や要点について概説する。<br>第 2 回　水の硬度　水に含まれるカルシウムイオンやマグネシウムイオンの割合を測定。<br>第 3 回　pH の測定（生活，土壌，酸性雨）　洗剤液や土壌，火山灰などの pH を測定し、生活の中の液性について検討する。<br>第 4 回～第 5 回　洗剤および洗剤水溶液　洗剤中の界面活性剤の含有割合、洗剤水溶液の表面張力を測定する。<br>第 6 回～第 9 回　漂白剤　市販漂白剤による各種の布を漂白し、漂白効果を検討する<br>第 7 回　染色　合成染料と天然染料で各種の布の染色し、染色性や染色堅牢度について調べる。<br>第 10 回　吸水性樹脂　紙おむつの樹脂に水や食塩水を吸水させて、吸水量の違いを調べる。<br>第 11 回　吸着（木炭，シリカゲル）　色素液中での木炭やシリカゲルの色素の吸着について調べる。<br>第 12 回　脱酸素剤と使い捨てカイロ　鉄粉を用いて、酸化（脱酸素剤）や発熱（カイロ）の実験を行う。<br>第 13 回　食品の塩分濃度　各種食品中の塩分濃度を測定し、1 日の塩分摂取について検討する。<br>第 14 回　実験台の片付けと実験室の清掃　実験器具の洗浄、白衣の返却<br>第 15 回　まとめ　実験結果をノートにまとめて提出する。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回の実験終了後、レポート（実験ノート）作成 | | |
| 成績評価の方法 | 実験への取り組み（20%）と全実験終了後に提出する実験ノート（80%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **色彩学** | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。<br>【概要】<br>「色」は身近にあるため，好き，嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では，色覚のメカニズムや色彩心理，色彩調和，色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。<br>【到達目標】<br>基礎理論を習得し，それらをコーディネートなどに応用できることと，色彩に関する検定に挑戦することを目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所<br>(2)　随時紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第 2回　色の基礎知識1：色とは：色が見える仕組み<br>第 3回　色の基礎知識2：色の記録・伝達方法① 色名<br>第 4回　色の基礎知識3：色の記録・伝達方法② 表色系<br>第 5回　色の基礎知識4：色の混合：加法混色・減法混色<br>第 6回　色の基礎知識5：照明：演色性<br>第 7回　色の基礎知識6：色彩の心理① 色の見えの効果<br>第 8回　色の基礎知識7：色彩の心理② 色のイメージ<br>第 9回　色の基礎知識8：色彩調和① 色彩調和の基本形式<br>第10回　色の基礎知識9：色彩調和② 配色技法<br>第11回　色の基礎知識10：色彩調和論<br>第12回　色の応用1：色彩計画<br>第13回　色の応用2：色と文化<br>第14回　色の応用3：商品と色<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ビジュアルデザイン基礎Ⅰ** | 担当者 | 北　一浩 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。<br>【概要】グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。<br>【到達目標】今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。<br>※ビジュアルデザイン基礎Ⅱと同時の履修をすること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　オリエンテーション<br>第 2回　Illustrator 基本操作 1　オブジェクトの作成、線・塗りの設定<br>第 3回　実践課題 1　幾何形態色彩構成<br>第 4回　〃<br>第 5回　Illustrator 基本操作 3　パスの基本知識、ベジェ曲線<br>第 6回　実践課題 2　ピクトグラム<br>第 7回　〃<br>第 8回　Illustrator 基本操作 4　文字入力、フォント、文字のアウトライン化<br>第 9回　実践課題 3　タイポグラフィー構成<br>第10回　〃<br>第11回　応用課題1　名刺のデザイン<br>第12回　〃<br>第13回　応用課題2　ポスターのデザイン<br>第14回　〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（50%）　プレゼンテーション（50%） | | |

（注）ビジュアルデザイン基礎Ⅱの履修をすること。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ビジュアルデザイン基礎 II | 担当者 | 専任未定 |
| | 〔履修年次〕 1年次 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>【概要】<br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回<br>第 2回<br>第 3回<br>第 4回<br>第 5回<br>第 6回<br>第 7回<br>第 8回<br>第 9回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |

（注）ビジュアルデザインと付く関連科目の履修する事。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | テキスタイルサイエンス | 担当者 | 淺海 真弓 |
| | 〔履修年次〕 1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>衣服を構成している繊維，糸，布それぞれの特徴を知り，それらに起因するテキスタイルの性質について考えていく。<br>【概要】<br>繊維や糸，布の種類や構造などについて概説した後，テキスタイルの諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介，簡単な実験を取り入れながら，身の回りのテキスタイルに対する理解を深める。<br>【到達目標】<br>いつも自分が着ている衣服の素材や構造，特性を理解し，それらの知識を衣服の選択・着用・取扱い・保管および衣服製作などの場面で活かすことができるようになることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリント<br>(2) 島崎恒藏編著『衣服材料の科学』建帛社<br>日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 ガイダンス：テキスタイルとは？ 繊維とは？ ― 繊維の歴史と分類<br>第 2回 繊維の構造 ― 繊維の構造と性質の関係<br>第 3回 天然繊維１ ― 植物繊維（綿，麻）<br>第 4回 天然繊維２ ― 動物繊維（羊毛）<br>第 5回 天然繊維３ ― 動物繊維（絹）<br>第 6回 化学繊維１ ― 再生繊維（レーヨン，キュプラ）<br>第 7回 化学繊維２ ― 半合成繊維（アセテート，トリアセテート）<br>第 8回 化学繊維３ ― 合成繊維（ナイロン，ポリエステル，アクリル），繊維の性能比較<br>第 9回 新しい繊維 ― 繊維化技術の発展と高機能素材<br>第10回 糸の種類と構造 ― 紡績糸・フィラメント糸の性質，糸の太さとより 〈ミニ実験：糸の観察〉<br>第11回 布の種類と構造１ ― 織物の組織と性質<br>第12回 布の種類と構造２ ― 編物の組織と性質，織物と編物の性能比較<br>第13回 布の種類と構造３ ― 不織布・皮革の性質，布の構造特性 〈ミニ実験：織物の観察〉<br>第14回 テキスタイルの性質１ ― 耐久性と形態的性質<br>第15回 テキスタイルの性質２ ― 快適性と外観的性質 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示（予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示） | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（15%） | | |

| 授業科目 | ファッション造形基礎 | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。<br>【概要】<br>まず基礎縫いを行い，縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに，基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに，編物，刺繍など手芸の基礎も学ぶ。<br>【到達目標】<br>裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製，手芸技法を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　基礎縫い1：手縫い① 用具の説明，並縫い<br>第　3回　基礎縫い2：手縫い② まつり縫い，他<br>第　4回　基礎縫い3：手縫い③ ボタン，スナップつけ<br>第　5回　基礎縫い4：ミシン縫製 ミシン，ロックミシン<br>第　6回　上衣（チュニックブラウス）製作1：人体計測と製図<br>第　7回　上衣（チュニックブラウス）製作2：裁断，しるしつけ<br>第　8回　上衣（チュニックブラウス）製作3：仮縫い，試着<br>第　9回　上衣（チュニックブラウス）製作4：本縫い①<br>第10回　上衣（チュニックブラウス）製作5：本縫い②<br>第11回　上衣（チュニックブラウス）製作6：仕上げ，着装評価<br>第12回　工芸1：レース編み<br>第13回　工芸2：毛糸棒針編み<br>第14回　工芸3：フランス刺繍<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

（注）教職必修

| 授業科目 | 生活文化 | 担当者 | 淺海　真弓 ・ 宍戸　克実 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>生活の中から，家庭や地域などの影響を受けて生み出される文化について考えていく。<br>【概要】<br>人々の生活の中から生み出され伝承されてきた物質としての「もの」だけでなく，慣習や思想を含めた生活様式について概説する。衣食住を中心とした多様な生活文化やそれらの変遷過程を知り，現代の生活様式と比較して考える。<br>【到達目標】<br>異なる時代や地域の文化を知ることにより，現在の自分たちの生活について視点を変えて様々な面から検討する力を養う。そして，豊かな生活を実現するための行動へとつなげていくことを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　石川実，井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社<br>ルイス・フロイス著，岡田章雄訳注『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波書店 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：生活文化とは？ ― 生活文化の構造と特性（第1回～第13回：淺海担当）<br>第　2回　日本人と生活文化 ― 海外から見た日本人，日本人の性格と行動様式<br>第　3回　食の文化と生活1 ― 食文化の原点，世界の食文化<br>第　4回　食の文化と生活2 ― 日本の食文化の変遷，現在の食生活課題<br>第　5回　食の文化と生活3 ― 行事食の意味とその変容<br>第　6回　衣の文化と生活1 ― 日本の服装の歴史と文化<br>第　7回　衣の文化と生活2 ― 着物の分類と染織<br>第　8回　衣の文化と生活3 ― 日本のアクセサリーと化粧の文化<br>第　9回　衣の文化と生活4 ― 洗濯の文化<br>第10回　地域と生活文化 ― 味噌・雑煮の文化圏，行事と地域，衣服の材料と地域<br>第11回　老いと生活文化 ― 老いの生き方の視点と役割の変化<br>第12回　情報化と生活文化 ― 家庭・仕事の情報化と家族・生活スタイルの変化<br>第13回　国際化と生活文化 ― 異文化の葛藤と多文化の共生<br>第14回　異文化理解入門1 ― イスラーム地域の生活文化（第14回～第15回：宍戸担当）<br>第15回　異文化理解入門2 ― イスラーム地域の都市・建築文化 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示（予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示） | | |
| 成績評価の方法 | 淺海担当分（85%）：授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（20%）＋レポート（30%）<br>宍戸担当分（15%）：レポート | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **衣生活学** | 担当者 | 淺海　真弓 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>衣服について様々な側面から多角的に学び，「生活における衣服の役割」について考えていく。<br>【概要】<br>衣服の歴史や着用目的，衣服の機能，衣服素材の特性，衣服の管理方法などの内容を取り上げ，快適，安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。<br>【到達目標】<br>衣服を着る意味を理解し，身の回りの衣服に対する見識を深める。そして，自らの衣生活の現状と問題点を把握し，解決に向けて実践できるようになることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社<br>酒井豊子，藤原康晴編著『ファッションと生活―現代衣生活論』放送大学教育振興会 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：衣服と人間 ― あなたはなぜ服を着ますか？<br>第　2回　衣服と民族 ― 気候風土と民族服の形態<br>第　3回　衣服の変遷１― 西洋の服装の変遷<br>第　4回　衣服の変遷２― 日本の服装の変遷<br>第　5回　衣服の装いと心理 ― 服装による印象と感情<br>第　6回　衣服の素材１― 繊維の分類と特徴<br>第　7回　衣服の素材２― 糸・布の分類と特徴<br>第　8回　衣服の管理 ― しみ抜き，洗濯，漂白，仕上げ，保管<br>第　9回　衣服の表示 ― 衣服の組成と取扱い表示の関係<br>第10回　衣服の機能１― 体温調節と衣服内気候<br>第11回　衣服の機能２― 動きやすさと安全性<br>第12回　衣服の設計と製作 ― 体型変化と衣服設計，ユニバーサルファッション<br>第13回　衣服の生産と流通 ― アパレル産業と既製服<br>第14回　衣服の消費 ― 衣生活の消費者問題<br>第15回　衣服と環境 ― 廃棄と再利用 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示（予習・復習用のプリント配布またはキーワードを提示） | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（50%）＋授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（15%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **生活コロイド学** | 担当者 | 井余田　秀美 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生活の中で出会う様々なコロイドや界面の現象について理解する。<br><br>【概　要】コロイドや界面の学問的基礎を説明し，次に日常の事柄，特に洗濯や染色について詳しく述べる。更に，生活や環境での関連する事柄を取り上げ，最後に，生体に関する事に触れる。<br>1　界面とコロイドの基礎<br>2　生活とコロイド<br>3　環境とコロイド<br>4　生体とコロイド<br><br>【到達目標】コロイドや界面の現象と日常生活との関わりについて理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　北原文雄，「界面・コロイド化学の基礎」講談社，　水野上与志子他編，「被服整理学」建帛社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　界面とコロイドの基礎<br>～　界面とコロイドとは　界面とは　界面活性剤　コロイドとは　界面とコロイドのつながり<br>第 3回　界面現象　界面活性剤水溶液の性質（吸着とミセル形成）　ぬれ　乳化　分散<br><br>第 4回　生活とコロイド　繊維と汚れの付着　洗剤と洗濯　家庭洗濯とドライクリーニング　洗浄理論<br>～<br>繊維　洗濯　染色　発色　三原色　染料と染色<br>第12回<br>第13回　食品とコロイド　食品用乳化剤と乳化食品<br>化粧品　界面やコロイドと各種化粧品<br>第14回　産業，環境，生体とコロイド　微粒子や微細孔の製品　青空や夕焼け　虹　浄水　爪　皮膚、細胞膜　透析<br>第15回　まとめ　課題についてレポートを作成する。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業期間内の数回のミニレポートの提出 | | |
| 成績評価の方法 | レポート | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **食物と栄養** | 担当者 | 亀井　勇統 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食生活を通して健康を維持するための食物に含まれている多種多様な栄養成分について学ぶ。<br><br>【概要】健康的な生活を維持するために役立っている食物に含まれている水分，炭水化物，脂質，タンパク質，ミネラル，ビタミン，その他成分を紹介する他，食物の保存や調理中に起こりえる栄養成分の化学的な変化とその防止等について解説する。<br><br>【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分に関する知見を得るだけでなく，生体成分としての重要性について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第２版］』建帛社のほか，適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　人間と食物<br>第　2回　穀類の栄養成分１<br>第　3回　穀類の栄養成分２<br>第　4回　野菜類の栄養成分１<br>第　5回　野菜類の栄養成分２<br>第　6回　いも類の栄養成分<br>第　7回　豆類の栄養成分<br>第　8回　果実類の栄養成分<br>第　9回　きのこ類の栄養成分<br>第10回　海藻類の栄養成分<br>第11回　食肉類の栄養成分<br>第12回　乳類の栄養成分<br>第13回　卵類の栄養成分<br>第14回　魚介類の栄養成分１<br>第15回　魚介類の栄養成分２ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験７０％，授業態度３０％ | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理学** | 担当者 | 立石　百合恵 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義修了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し<br>実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。<br>【概要】・自然科学の手法により、調理過程中に生じる種々の諸現象を確認する。<br>・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ<br>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う<br>基本的な調理操作法の習得 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　オールガイド食品成分表　実教出版株式会社<br>(2)　山崎清子　島田キミエ「調理と理論」同文書院　石松成子　鎹　吉　外西壽鶴子　NEW 基礎調理学 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション　調理学の意義<br>第　2回　調理の基本：食事と栄養素、調理器具、調味料の特徴、調理法<br>第　3回　調理科学：だしのうま味と特性<br>第　4回　調理の基本：砂糖・甘味類・種実類<br>第　5回　調理科学：砂糖の温度変化による変化<br>第　6回　調理の基本：卵類・乳類・菓子類<br>第　7回　調理科学：卵の熱変性<br>第　8回　調理の基本：穀類・藻類・魚介類<br>第　9回　調理科学：ゲル化素材の特徴<br>第10回　調理の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介）<br>第11回　調理科学：小麦粉の特性<br>第12回　調理の基本：いも・でん粉類・豆類・肉類<br>第13回　調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類<br>第14回　調理の基本：油脂類・嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を重視 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（８０％、）＋レポート（２０％） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **調理実習** | 担当者 | 立石　百合恵 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義修了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】調理理論と調理操作の融合<br><br>【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる<br>・清潔な食品の取り扱いの習得<br>・食環境整備の有効性を学ぶ<br>・食事の作法とマナーについて学習する<br>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得<br>社会性概念の意識付け | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　石原三妃ら共著　あすの健康と調理　アイ・ケイコーポレーション | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について）<br>第　2回　日本料理　米のガス炊飯　若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し<br>第　3回　西洋料理　ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、コンポジションサラダ、コーヒー<br>第　4回　日本料理　親子丼、潮汁、なます、いちご大福<br>第　5回　中国料理　白飯、太平燕、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐<br>第　6回　テーブルマナー（西洋料理）<br>第　7回　西洋料理　サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶<br>第　8回　日本料理　散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹<br>第　9回　中国料理　白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子、中華饅<br>第10回　日本料理　茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、ぬた和え、水饅頭<br>第11回　西洋料理　チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ、アイスティー<br>第12回　日本料理　きつねうどん、おにぎり、肉じゃが、ねぎ味噌、みつ豆<br>第13回　西洋料理　パンの調理（食パン）、コンソメスープ（牛）、マヨネーズサラダ、ヨーグルト<br>第14回　郷土料理　鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 実技試験（５０％）＋授業ごとのレポートと実技内容の評価（５０％） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **保育学** | 担当者 | 奥　章三・池堂　猛彦　・田中　真理 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。<br>【概要】子どもは，出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして，子どもの発達には，周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では，保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに，子どもの標準的な発育発達，子どもによくみられる病気と対処法，子どもの安全対策等，保育に必要な知識の習得を目指す。<br>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し，説明ができるようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　（担当　奥）　乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント”４４、診断と治療社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　（担当　奥）　保育とは何か？　なぜ「保育」を学ぶのか、母体の健康管理と誕生<br>第　2回　出産と育児及びそれらをとりまく環境<br>第　3回　子どもの成長（その１）　～ 発育，運動発達 ～<br>第　4回　子どもの成長（その２）　～ 知的発達，社会性の発達 ～<br>第　5回　子どもを育てる　愛着と自律<br>第　6回　子どもの育つ環境の整備<br>第　7回　子どもとふれ合う　保育の現場<br>第　8回　子どもによくみられる病気とその症状・対応<br>第　9回　子どもの事故防止対策<br>第10回　発達障害児への対応　～ 講義のふりかえり～<br>第11回　（担当　田中）事前事後指導①：事前指導<br>第12回　（担当　池堂）実習①：保育園における保育実習(1)<br>第13回　実習②：保育園における保育実習(2)<br>第14回　実習③：保育園における保育実習(3)<br>第15回　（担当　田中）事前事後指導②：事後指導 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | （担当　奥）筆記試験（100%）<br>各担当者が 100 点／３で点数を算出した後，３人の合計を総合点として評価する。 | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究Ａ** | 担当者 | 井余田　秀美 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 授業終了時 |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】自ら研究課題を設定し，課題探求と問題解決の能力を養う。<br>【概　要】生活化学及び生活コロイド学の分野から（例えば，洗剤や染色，化粧品，環境など）基礎課題や応用課題を設定し取り組む。<br>【到達目標】実験や演習を行うことにより，衣食住の生活や環境での化学物質の役割や化学的な現象について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (2)　中西茂子著「洗剤と洗浄の科学」コロナ社<br>北原文雄著「界面・コロイド科学の基礎」講談社<br>近藤保 ほか 著「やさしいコロイドと界面の科学」三共出版 | | |
| 授業スケジュール | 第１回～第３回　研究課題の決定，参考資料の収集：授業全体の説明と研究課題についての話し合い、資料収集の方法<br>第４回～第８回　先行研究の資料収集と予備実験：2 年前期におおよその実験を試みる。その結果による研究テーマの修正について検討する。<br>第９回～第22回　研究テーマについての本実験：研究テーマを確定し、実験を行う。資料収集を行う。<br>第23回～第24回　研究成果のまとめ、発表準備：研究成果を図表や論文にまとめて卒業論文を完成させる。発表のためのスライドを作成する。<br>第30回　発表会：2 月初旬の専攻発表会で研究成果を発表する。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業期間内の数回の中間報告 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への取り組み（20%）＋　口頭発表（20%）＋　卒業論文（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究Ａ** | 担当者 | 田中　真理 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】心理学に関するテーマについて，リサーチ・分析し，成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。<br>【概要】心理学に関する研究テーマやリサーチクエスチョンを設定した上で，先行研究について概観，資料やデータの収集，分析，結果の整理，考察を行う。最後に，卒業論文としてまとめるとともに，卒業研究発表会にて研究の成果を発表する。<br>【到達目標】①調査研究のプロセスを体験する中で，日常の事象に対する科学的な視点を養う。<br>②調査研究や論文執筆に必要な基礎知識やスキルを習得する。<br>③研究の成果についてわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜紹介する。<br>(2)　松井豊（著）『改訂新版　心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新，2010 年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回～第　4回　調査研究の進め方　〃<br>第　5回～第　26回　テーマ設定，情報収集，分析，結果整理，考察，論文の執筆（毎回の報告）　〃<br>第　27回～第　29回　発表会の資料作成，プレゼンテーションの準備　〃<br>第　30回　卒業研究発表会 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回課題を課すため，授業時間外の学習を要す。 | | |
| 成績評価の方法 | 卒業論文とプレゼンテーション（70%），授業への参加度と毎回の課題（30%） | | |

（注）原則教職課程履修者のみ対象とする

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ビジュアルデザイン論Ⅰ | 担当者 | 北　一浩 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ビジュアルデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。<br>【概要】ビジュアルデザインの様々な分野の参考作品を通して、ビジュアルデザインの基礎的な知識及び考え方を学ぶ。<br>またデザインワークを行う為に必要なデザイン思考を身につける。<br>【到達目標】デザインを取り巻く環境を理解し、積極的にデジタル環境に慣れるようにする。<br>また、デザインに携わっていくための知識や心得を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　デザインとは１　役割、要素、歴史<br>第　3回　デザインとは２　目的、ターゲット、<br>第　4回　レイアウトの法則１　位置、繰り返し、余白<br>第　5回　レイアウトの法則２　グリッド、ランダム、アクセント<br>第　6回　レイアウトの法則３　視線の誘導、差異、黄金比<br>第　7回　文字の法則１　フォント、和文、欧文、明朝体、ゴシック体、セリフ体、サンセリフ体<br>第　8回　文字の法則２　大きさ、字間、行間、横組み、縦組み<br>第　9回　文字の法則３　段落、タイトル、見出し、ロゴタイプ<br>第10回　カラーの法則１　色相、明度、彩度、トーン<br>第11回　カラーの法則２　イメージ、配色<br>第12回　デザインの手法１　トリミング、タイリング、フレーミング<br>第13回　デザインの手法２　コラージュ、ディフォルメ、裁ち落とし<br>第14回　デザインの手法３　コンセプト、テクスチャ、図形、特殊印刷<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | プレゼンテーション（70%）　提出課題（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ビジュアルデザイン論Ⅱ | 担当者 | 専任未定 |
| | 〔履修年次〕　1年次 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>【概要】<br>【到達目標】 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回<br>第　2回<br>第　3回<br>第　4回<br>第　5回<br>第　6回<br>第　7回<br>第　8回<br>第　9回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |

（注）ビジュアルデザインと付く関連科目を同時履修する事。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ビジュアルデザインⅠ | 担当者 | 北　一浩・専任未定 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。<br><br>【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として，<br>コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。<br>【到達目標】これまで学習した技術や概念を，コンピューターを使用して実媒体へと応用する。<br>※ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1-2回　オリエンテーション<br>第　3-4回　ポスターデザイン　公共問題をテーマとしたポスター制作<br>第　5-6回　〃<br>第　7-8回　〃<br>第 9-10回　パッケージデザイン　実際に使用されているパッケージのリデザイン<br>第11-12回　〃<br>第13-14回　〃<br>第15-16回　ブックカバーデザイン　本学大学案内の表紙のデザイン<br>第17-18回　〃<br>第19-20回　〃<br>第21-22回　ポートフォリオ制作　各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作<br>第23-24回　〃<br>第25-26回　〃<br>第27-28回　〃<br>第29-30回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（50%）　プレゼンテーション（50%） | | |

（注）ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ビジュアルデザインⅡ | 担当者 | 北　一浩 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。<br><br>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。<br><br>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。<br>※ビジュアルデザインⅠを履修しておくこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　プロジェクト課題　内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。<br>第　3回　〃<br>第　4回　〃<br>第　5回　〃<br>第　6回　〃<br>第　7回　〃<br>第　8回　〃<br>第　9回　〃<br>第10回　〃<br>第11回　自由課題　各自テーマを設定しデザインを行う<br>第12回　〃<br>第13回　〃<br>第14回　〃<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（50%）　プレゼンテーション（50%） | | |

（注）ビジュアルデザインⅠを履修しておくこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ファッションデザイン論 | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ファッションデザインの概要と基礎、展開、さらに、パターンメイキングの基礎理論と応用を学ぶ。<br>【概要】<br>衣服の製作は，まずデザインと素材が決まり，次にデザインイメージを具体化して，布地裁断のための型紙を作図しなければならない。製作イメージを表現できるファッションデザインの方法と運動や動作に配慮したパターンメイキングを学ぶ。<br>【到達目標】<br>デザイン，パターンともに基礎知識を理解し，自分が表現したいデザインやパターンメイキングができる応用力を目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　文化服装学院『文化ファッション大系 服飾関連専門講座９ 服飾デザイン』文化出版局<br>文化女子大学被服構成学研究室編『被服構成学 理論編』文化出版局 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　ファッションデザインの概要<br>第　3回　ファッションデザインの基礎１：形態と色彩<br>第　4回　ファッションデザインの基礎２：素材とコンポジション<br>第　5回　ファッションデザインの展開<br>第　6回　ファッションデザインとイメージ<br>第　7回　デザイン展開とパターンメイキング１：人体の形態<br>第　8回　デザイン展開とパターンメイキング２：平面展開図<br>第　9回　デザイン展開とパターンメイキング３：ダーツ，衿，袖<br>第10回　デザイン展開とパターンメイキング４：スカートとパンツ<br>第11回　パターンメイキングと運動機構１：上半身<br>第12回　パターンメイキングと運動機構２：下半身<br>第13回　ファッションデザインとコーディネート１：形態<br>第14回　ファッションデザインとコーディネート２：色彩と素材<br>第15回　まとめ：アパレルメーカーとファッション動向 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ファッション造形Ⅰ | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。<br>【概要】<br>衣服を平面製図法で行う場合，基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず，基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い，それらの手順と方法を学ぶ。さらに，上・下半身衣の原型とその展開について学び，理解する。<br>【到達目標】<br>平面製図の方法を理解し原型展開ができることと，裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座２　スカート・パンツ』文化出版局 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　下衣（スカート）製作１：スカートの製図<br>第　3回　下衣（スカート）製作２：表布の裁断，印つけ<br>第　4回　下衣（スカート）製作３：仮縫い<br>第　5回　下衣（スカート）製作４：試着，補正<br>第　6回　下衣（スカート）製作５：表布の縫製１<br>第　7回　下衣（スカート）製作６：表布の縫製２<br>第　8回　下衣（スカート）製作７：ファスナーつけ<br>第　9回　下衣（スカート）製作８：裏布の裁断，印つけ<br>第10回　下衣（スカート）製作９：裏布の縫製<br>第11回　下衣（スカート）製作10：ベルトつけ<br>第12回　下衣（スカート）製作11：仕上げ，着装評価<br>第13回　上衣（原型）製作１：上半身衣の原型<br>第14回　上衣（原型）製作２：上半身衣のデザイン展開<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

（注）教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ファッション造形Ⅱ | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。<br>【概要】<br>基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法，その過程を学ぶ。デザインについては，着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう，また，製作については，目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。<br>【到達目標】<br>上，下半身衣のデザインと製図展開ができることと，迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座３　ブラウス・ワンピース』文化出版局 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　上衣（ブラウス）製作１：デザインと製図<br>第　3回　上衣（ブラウス）製作２：裁断と印つけ<br>第　4回　上衣（ブラウス）製作３：仮縫い<br>第　5回　上衣（ブラウス）製作４：試着，補正<br>第　6回　上衣（ブラウス）製作５：見頃の縫製<br>第　7回　上衣（ブラウス）製作６：衿つくりと衿つけ<br>第　8回　上衣（ブラウス）製作７：袖つくりと袖つけ<br>第　9回　上衣（ブラウス）製作８：ボタンホール，ボタンつけ，仕上げ<br>第10回　下衣（パンツ）製作１：デザインと製図<br>第11回　下衣（パンツ）製作２：裁断と印つけ<br>第12回　下衣（パンツ）製作３：仮縫い，試着，補正<br>第13回　下衣（パンツ）製作４：縫製<br>第14回　下衣（パンツ）製作５：仕上げ<br>第15回　着装評価，まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ファッションビジネス | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ファッションに対する理解を深めるため，デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。<br>【概要】<br>衣服を大量生産，大量消費する時代は過ぎ，ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び，ファッション全体の背景や仕組みを捉える。<br>【到達目標】<br>基礎知識を習得し，企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス［Ⅰ］』財団法人　日本ファッション教育振興会 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：講義概要と進め方<br>第　2回　ファッションビジネス知識１：ファッションビジネスの概要<br>第　3回　ファッションビジネス知識２：ファッション消費と消費者行動<br>第　4回　ファッションビジネス知識３：アパレル産業と小売産業<br>第　5回　ファッションビジネス知識４：ファッションマーケティング<br>第　6回　ファッションビジネス知識５：ファッションマーチャンダイジング<br>第　7回　ファッションビジネス知識６：ファッション物流と流通<br>第　8回　ファッションビジネス知識７：ファッションプロモーション<br>第　9回　ファッションビジネス知識８：ビジネス基礎知識と計数管理<br>第10回　ファッション造形知識１：ファッション文化<br>第11回　ファッション造形知識２：ファッションコーディネーションの基礎知識<br>第12回　ファッション造形知識３：ファッション商品知識ー服種・アイテム<br>第13回　ファッション造形知識４：ファッションデザインの定義と特性<br>第14回　ファッション造形知識５：パターンメイキングとファッションエンジニアリング<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 卒業研究Ｂ | 担当者 | 北　一浩 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。<br><br>【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。<br><br>【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。<br>(2)　参考文献は適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。<br>第　3回　随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。<br>第　4回<br>第　5回<br>第　6回<br>第　7回<br>第　8回<br>第　9回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 研究成果（50%）　プレゼンテーション（25%）　研究態度（25%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 卒業研究Ｂ | 担当者 | 坂上　ちえ子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>学生自らが設定した衣生活に関わる課題について，分析・研究し，成果をまとめる。<br>【概要】<br>前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに，それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに，卒業研究発表会において，それらの研究成果を発表する。<br>【到達目標】<br>まず，衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし，問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに，研究成果を文書にまとめることと，効果的な発表方法を身につけることを目指す。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜配布<br>(2)　適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第１回　オリエンテーション<br>第２～　10回　卒業研究のための基礎知識１：文献購読<br>第11～　12回　卒業研究のための基礎知識２：研究手法の検討・理解<br>第13～　15回　卒業研究のための基礎知識３：テーマ設定と文献・情報収集<br>第16～　23回　卒業研究１：各自の調査・研究・考察<br>第24～　27回　卒業研究２：論文作成<br>第28～　30回　卒業研究３：発表準備，練習 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 卒業研究成果（60%）＋　研究発表（20%）＋ 授業での取り組み内容（20%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **住生活学** | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得<br><br>【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。<br>【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書<br>(2)　日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス　建築の学び方、考え方<br>第 2回　建築設計の主題　建築設計理念について<br>第 3回　建築計画の役割　建築行為（生産）と建築計画<br>第 4回　空間と行為　空間と行為の関係<br>第 5回　寸法の計画　人体寸法と動作寸法<br>第 6回　プランニング演習-1　室空間のプランニング<br>第 7回　風土・文化・建築　建築を縁取る風土と文化<br>第 8回　文化・社会・建築　社会の変容と建築<br>第 9回　ユニバーサルデザイン　ユニバーサルデザインと安全計画<br>第 10回　機能と規模設計　建築の機能と空間、規模の要因と根拠<br>第 11回　利用と動線　利用の把握と動線の計画<br>第 12回　住空間の計画-1　狭小住宅の実践と解説<br>第 13回　住空間の計画-2　狭小住宅演習-1<br>第 14回　住空間の計画-3　狭小住宅演習-2<br>第 15回　まとめ・総合レポート出題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 総合レポート（40%）、レポート・課題（60%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修 科目，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **住居史** | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。<br>※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。<br>【概要】西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開設しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。<br>【到達目標】西洋様式建築、近代建築の理念を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100 人とその作品を巡る」アーキシップ叢書<br>(2)　矢代眞己・田所辰之助・濱嵜良実 著「20 世紀の空間デザイン」彰国社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス<br>第 2回　西洋様式建築の全体像<br>第 3回　幾何学の明晰性-1　–ルネサンス–<br>第 4回　幾何学の明晰性-2　–ルネサンス–<br>第 5回　幾何学の明晰性-3　–ルネサンス–<br>第 6回　手法の多義性-1　–マニエリスム–<br>第 7回　手法の多義性-2　–マニエリスム–<br>第 8回　均整のプロポーション-1　–パラーディオの建築–<br>第 9回　均整のプロポーション-2　–パラーディオの建築–<br>第 10回　空間のダイナミズム　–バロック–<br>第 11回　崇高の自律性とピクチャレスクの他律性　–新古典主義–<br>第 12回　新素材と新技術　–近代の萌芽–<br>第 13回　思想の改革と運動の理念　–近代合理主義–<br>第 14回　インターナショナルスタイルとナショナリズム<br>第 15回　表層・深層・透層　–モダニズムの終焉– | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修 科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **住居・インテリア設計学** | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】建築空間を構成する様々な要素について理解し，身近な生活空間について考える。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。 | | |
| | 【概要】建築空間を表現するための手段，図面の役割について理解するとともに，建築内外を構成する様々な要素についてのスケール感覚を身につける。また，商業施設や街の空間構成について理解し，多様な都市生活環境について学ぶ。 | | |
| | 【到達目標】建築とインテリアについての理解が深まるとともに，暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社<br>(2)　中山繁信『建築のスケール感』オーム社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　建築とインテリアの基礎知識<br>第 2 回　住居の平面構成　暮らしと間取り<br>第 3 回　図面表現　平面図，立面図，断面図，透視図①<br>第 4 回　〃　透視図②<br>第 5 回　住空間の寸法　単位空間の事例研究<br>第 6 回　〃　家具・設備の事例研究<br>第 7 回　間取りプランニング　所要室の配置と規模<br>第 8 回　〃　集合住宅<br>第 9 回　〃　戸建平屋<br>第 10 回　〃　戸建複層<br>第 11 回　商業空間のデザイン　事例研究<br>第 12 回　〃　発表・ディスカッション<br>第 13 回　街と建築のデザイン　事例研究<br>第 14 回　〃　発表・ディスカッション<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業課題（30%），宿題（30%），発表・レポート（40%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目，教職必修

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **設計製図Ⅰ** | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し，図面・模型製作を通じ建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。 | | |
| | 【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ，住宅を構成する様々な単位空間につての理解を深める。最終的には実例住宅を各自選定し，模型・図面等を用いてプレゼンテーションを行う。 | | |
| | 【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ，住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社<br>(2)　日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善，本間至『小さな家の間取り解剖図鑑』エクスナレッジ | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　建築製図の基礎知識<br>第 2 回　課題１：切妻屋根の住宅　立体形状の理解<br>第 3 回　〃　立体形状の図面化<br>第 4 回　課題２：L字型の住宅　空間構成の理解<br>第 5 回　〃　建築図面作成の手順と方法<br>第 6 回　課題３：コートのある住宅　屋内外空間構成の理解<br>第 7 回　〃　建築図面の記号とルール<br>第 8 回　課題４：テラスのある住宅　屋内外空間構成の理解<br>第 9 回　〃　建築図面作成<br>第 10 回　課題５：住宅課題　構想検討，建築図面・模型作成<br>第 11 回　〃　〃<br>第 12 回　〃　〃<br>第 13 回　〃　〃<br>第 14 回　〃　〃<br>第 15 回　まとめ　発表 | | |
| 授業外学習(習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業課題（100%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| 授業科目 | 設計製図Ⅱ | 担当者 | 川島　茂 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。<br><br>【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。<br>【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　日本建築学会編 「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善<br>(2)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス　課題出題<br>第 2回　住宅の設計-1　条件の整理と敷地及び周辺環境の把握<br>第 3回　住宅の設計-2　配置計画、諸機能の構成と動線計画<br>第 4回　住宅の設計-3　平面計画<br>第 5回　住宅の設計-4　断面、立面計画、外構計画<br>第 6回　住宅の設計-5　ダイヤグラム、模型、プレゼンテーション<br>第 7回　住宅の設計-6　提出、評価<br>第 8回　住宅の設計-7　講評、課題出題<br>第 9回　ギャラリーの設計-1　条件の整理と敷地及び周辺環境の把握<br>第10回　ギャラリーの設計-2　配置計画、諸機能の構成と動線計画<br>第11回　ギャラリーの設計-3　平面計画<br>第12回　ギャラリーの設計-4　断面、立面計画、外構計画<br>第13回　ギャラリーの設計-5　ダイヤグラム、模型、プレゼンテーション<br>第14回　ギャラリーの設計-6　提出、評価<br>第15回　ギャラリーの設計-7　講評 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 総合レポート（40%）、レポート・課題（60%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| 授業科目 | 住居構造学Ⅰ | 担当者 | 田島 康弘 |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。<br><br>【概要】建物にはたらく力、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。<br><br>【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　一般社団法人日本建築学会、『絵でみる　ちからとかたち』<br>(2)　浅野清昭著、『図説　やさしい構造設計』、学芸出版社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　構造設計という仕事<br>第 2回　建物にかかる様々な荷重<br>第 3回　木造1　特徴と材料<br>第 4回　木造2　軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4工法）<br>第 5回　木造3　現場見学<br>第 6回　鉄骨構造1　特徴と材料<br>第 7回　鉄骨構造2　建物ができるまで<br>第 8回　鉄骨構造3　現場見学<br>第 9回　鉄筋コンクリート構造1　特徴と材料<br>第10回　鉄筋コンクリート構造2　建物ができるまで<br>第11回　鉄筋コンクリート構造3　現場見学<br>第12回　基礎構造とその他の構造形式　（プレストレストコンクリート構造　他）<br>第13回　下地と仕上げ　（屋根、壁、床、天井、階段　他）<br>第14回　耐震設計　（地震に強い建物）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| 授業科目 | 住居構造学Ⅱ | 担当者 | 田島 康弘 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。<br><br>【概要】住居構造学Ⅱ では、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、<br>構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。<br><br>【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法と<br>それから得られる結果の評価方法について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　浅野清昭著、『図説　やさしい構造力学』、学芸出版社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　建物の模型を作ろう１<br>第　2回　建物の模型を作ろう２<br>第　3回　力のモーメント（模型による演習含む）<br>第　4回　力のつりあい（模型による演習含む）<br>第　5回　構造物の支点（ローラー・ピン・固定）　（模型による演習含む）<br>第　6回　反力の求め方<br>第　7回　片持ばりに生じる力<br>第　8回　単純ばりに生じる力<br>第　9回　門型ラーメンに生じる力<br>第10回　トラスに生じる力（模型による演習含む）<br>第11回　断面の性質（断面１次モーメント、断面２次モーメント、他）（模型による演習含む）<br>第12回　部材に生じる応力度<br>第13回　片持ばり、単純ばりの変形<br>第14回　建築物の設計への応用<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **住居環境学** | 担当者 | 曽我　和弘 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画<br><br>【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには，建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では，適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法，さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。<br><br>【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築<br>第　2回　光環境計画１：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図<br>第　3回　光環境計画２：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備<br>第　4回　光環境計画３：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算<br>第　5回　光環境計画４：光束法による照明計算、照明設備計画<br>第　6回　熱環境計画１：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射<br>第　7回　熱環境計画２：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算<br>第　8回　熱環境計画３：住まいと結露、結露判定の計算<br>第　9回　熱環境計画４：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画<br>第10回　空気環境計画１：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気<br>第11回　空気環境計画２：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算<br>第12回　空気環境計画３：機械換気設備、換気設備計画<br>第13回　音環境計画１：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算<br>第14回　音環境計画２：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料<br>第15回　音環境計画３：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。 | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **住居環境学演習** | 担当者 | 曽我　和弘 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の測定<br><br>【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の測定を行い，測定データに基づいて，居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に，データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また，気候と住居形態に関する調査を通して，環境にやさしい住居に対する理解を深める。<br><br>【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査<br>第　2回　日影図の作成と日照環境の評価<br>第　3回　教室の照度分布測定と評価<br>第　4回　教室の昼光率分布測定と評価<br>第　5回　室内照明計算<br>第　6回　定常伝熱計算<br>第　7回　壁体の温度測定<br>第　8回　温熱環境の測定<br>第　9回　温熱環境の分析と評価<br>第10回　室内ガス濃度の測定<br>第11回　室内ガス濃度の分析と評価<br>第12回　必要換気量の計算<br>第13回　室内騒音の測定<br>第14回　交通騒音の測定<br>第15回　騒音の分析と評価 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 演習や実験への取り組み態度，レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。 | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **建築材料学** | 担当者 | 迫田順一 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質<br><br>【概　要】　どのような材料がどの様な特質を持ち，どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ。<br>【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　松本進　「図説　やさしい建築材料」　学芸出版社<br>(2)　建築学会篇　「建築材料用教材」　彰国社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　構法と建築材料<br>第　2回　主要構造部材と仕上材<br>第　3回　木材１　特性<br>第　4回　木材２　用法<br>第　5回　木材３　種類と用法<br>第　6回　コンクリート１　特性<br>第　7回　コンクリート２　配合と強度<br>第　8回　コンクリート３　製作<br>第　9回　鉄材１　鉄筋<br>第10回　鉄材２　鉄骨と接合<br>第11回　その他の主要材料（石・左官・ガラス・建具）<br>第12回　材料の力学（曲がりにくさ）<br>第13回　環境にやさしい建築材料<br>第14回　材料の積算<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **建築生産** | 担当者 | 迫田順一 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　各種建築構造方式の生産過程について学ぶ<br><br>【概　要】　住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。<br>【到達目標】講義では建築の各種構造方式の施工手順について，工種と工程に沿って理解することを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　今村仁美、田中美都　『図説　やさしい建築一般構造』　学芸出版社<br>(2)　久富洋、古澤忠正　『図説　建築施工入門』　彰国社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　構法と施工過程<br>第　2回　木構造と木工事<br>第　3回　鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事<br>第　4回　鉄骨構造 その他の構造<br>第　5回　建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事<br>第　6回　施工計画と種々の管理<br>第　7回　契約と実行<br>第　8回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **建築法規** | 担当者 | 村田 英樹 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>住まいをはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法について学ぶ。 | | |
| | 【概要】建築物は，人間の生活や社会活動の基盤であり，安全性や快適性等を確保するための最低基準である建築基準法に適合させる必要がある。建築物の構造安全性，防火・避難，室内環境，まちづくりなどに関する基準を定めた建築基準法について，解説する。 | | |
| | 【到達目標】<br>建築物，特に住宅を建築する際に必要な建築法規の基礎を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　基準法を考える設計者の会『いちばんやさしい建築基準法 改訂版』新星出版社<br>(2)　適宜関連資料を配布 | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　建築基準法は何のために　・建築基準法の目的と構成，法規を理解するための用語<br>第 2 回　ともに地域で生活していくために①　・集団規定①（道路、用途制限、容積率、建ぺい率）<br>第 3 回　ともに地域で生活していくために②　・集団規定②（高さ制限、まちづくり制度）<br>第 4 回　火災や災害から人命や財産を守るために　・防火規定<br>第 5 回　火災や災害時に安全に避難するために　・避難規定<br>第 6 回　安全な構造を維持するために　・構造安全規定<br>第 7 回　よりよい住環境のために　・一般構造規定（採光、換気、衛生、階段等）<br>第 8 回　法が守られるために　・制度規定<br>第 9 回　期末考査 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（70%）、ミニテスト（30%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必須科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＣＡＤ設計 | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】CAD（図面作成）ソフトや，建築プレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・建築図面作成手順，作品表現方法について学ぶ。 | | |
| | 【概要】２次元 CAD（Vectorworks，JW-CAD），３次元 CAD（SketchUp），画像編集（Photoshop）の他，多様な関連ソフトを体験する。 | | |
| | 【到達目標】CAD ソフトの操作法を習得し，基礎的な建築図面を作成できる。また，関連する多様なソフトの体験を通じ，プレゼンテーションスキルの幅が広がる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に指示<br>(2)　戸國義直『Vectorworks デザインブック』ソシム，ObraClub『優しく学ぶ SketchUp』エクスナレッジ | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　CAD について，関連ソフト・周辺機器について<br>第 2 回　2 次元 CAD　Vectorworks 基本操作<br>第 3 回　〃　〃<br>第 4 回　〃　Vectorworks 作図課題<br>第 5 回　〃　〃<br>第 6 回　3 次元 CAD　SketchUp 基本操作<br>第 7 回　〃　〃<br>第 8 回　〃　SketchUp 作図課題<br>第 9 回　〃　〃<br>第 10 回　〃　SketchUp 応用課題<br>第 11 回　〃　〃<br>第 12 回　画像編集　Photoshop 基本操作<br>第 13 回　〃　〃<br>第 14 回　関連ソフトの基本的操作　JW-CAD，Illustrator，GoogleEarth 等<br>第 15 回　〃　〃 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業課題（100%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 建築史 | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本及び世界の建築・都市の成り立ちや構成について学び，身近な都市空間に存在する建築物や街並みの構成原理について考える。 | | |
| | 【概要】ヨーロッパ，アフリカ，中東，アジアの他，日本や鹿児島の都市空間や建築物について学ぶ。身のまわりにある建築物や街並みに関し調査に基づいた研究発表を通して建築や都市への興味や理解を深める。 | | |
| | 【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに，身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に指示<br>(2)　西村幸夫『都市空間の構想力』学芸出版社，西田雅嗣『建築の歴史』学芸出版社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　建築と都市の歴史<br>第 2 回　西洋建築史　古代建築<br>第 3 回　〃　中世建築<br>第 4 回　〃　近世建築<br>第 5 回　〃　西洋の都市空間<br>第 6 回　日本建築史　古代建築<br>第 7 回　〃　中世建築<br>第 8 回　〃　近世建築<br>第 9 回　〃　日本の都市空間<br>第 10 回　エジプト・アフリカ地域　都市と建築<br>第 11 回　トルコ・中東地域　〃<br>第 12 回　イラン・アジア地域　〃<br>第 13 回　九州・鹿児島　〃<br>第 14 回　〃　〃<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業課題（70%），レポート（30%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＣＡＤ設計特講 | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「CAD 設計」で習得した作図スキル活かし，建築・都市的課題に取り組むとともに，効果的なプレゼンテーション手法について考える。 | | |
| | 【概要】各自で選定した地域を題材とし，建築・都市的課題や魅力の図面化作業を通して地域を理解・考察し，プレゼンテーションする。本科目は設計製図Ⅳと連動したカリキュラムとなっている。 | | |
| | 【到達目標】CAD 及び関連ソフトを複合的に使いこなし，建築物や周辺環境，都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に指示<br>(2)　PIE BOOKS『わかりやすく情報を伝えるための図とデザイン』パイインターナショナル | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　課題説明，事例研究<br>第 2 回　課題１：敷地，周辺環境の立体表現　SketchUp，GoogleEarth，Photoshop<br>第 3 回　〃　〃<br>第 4 回　〃　〃<br>第 5 回　〃　〃<br>第 6 回　課題２：建築物，周辺環境の表現　VectorWorks，Photoshop<br>第 7 回　〃　〃<br>第 8 回　〃　〃<br>第 9 回　課題３：敷地，街路，地域の作図・分析　VectorWorks<br>第 10 回　〃　〃<br>第 11 回　〃　〃<br>第 12 回　課題４：都市施設や住居の作図・分析　VectorWorks<br>第 13 回　〃　〃<br>第 14 回　〃　〃<br>第 15 回　まとめ　発表 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 演習課題の発表・提出（100%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 設計製図Ⅲ | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　１単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の建築計画，設計手順，図面作成について理解する。 | | |
| | 【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み，課題文の読解，エスキス方法，要求図面について学ぶ。 | | |
| | 【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　総合資格学院『2 級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格<br>(2)　日建学院教材研究会『２級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　はじめに　二級建築士製図試験について，例題①<br>第 2 回　設計手順について　課題読解，エスキス手順，面積計算，例題②<br>第 3 回　店舗併用住宅について　敷地計画，配置計画，動線計画，設備計画<br>第 4 回　〃　例題③<br>第 5 回　〃　要求図面の理解<br>第 6 回　集会所・公民館について　敷地計画，配置計画，動線計画，設備計画<br>第 7 回　〃　例題④<br>第 8 回　〃　要求図面の理解<br>第 9 回　課題１：木造　課題文の読み取り，平面計画，構造・設備・法令検討<br>第 10 回　〃　図面作成<br>第 11 回　課題２：鉄骨造　課題文の読み取り，平面計画，構造・設備・法令検討<br>第 12 回　〃　図面作成<br>第 13 回　課題３：　鉄筋コンクリート造　課題文の読み取り，平面計画，構造・設備・法令検討<br>第 14 回　〃　図面作成<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 演習課題の提出（100%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **設計製図Ⅳ** | 担当者 | 宍戸　克実 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　４単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】二級建築士が設計可能な規模の建築物を対象とした研究・設計課題に取り組むとともに，地域に根ざした建築や都市の空間構成・形成過程について考え，地域の課題を解決するための設計提案を試みる。 | | |
| | 【概要】本科目は通年科目である。前期は各自テーマ設定した地域・建築の既存情報を整理し，図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は，前期の成果をもとに地域の課題と向き合い，建築・都市的アプローチによる提案を試みる。 | | |
| | 【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に指示<br>(2)　日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善，西村幸夫『まちの見方・調べ方』朝倉書店 | | |
| 授業スケジュール | 【前期】<br>第 1 回～第 3 回　課題１：建築及び都市研究・製作　発表，ディスカッション，事例研究<br>第 4 回～第 6 回　〃　資料研究による地域・敷地研究，発表資料作成<br>第 7 回～第 9 回　〃　現地調査による地域・敷地研究，発表資料作成<br>第 10 回～第 12 回　〃　地域・敷地のプレゼン図面作成，発表資料作成<br>第 13 回～第 15 回　〃　構想案・中間報告書の作成<br>【後期】<br>第 16 回～第 21 回　課題２：建築及び都市研究・製作　構想検討<br>第 22 回～第 27 回　〃　〃<br>第 28 回～第 33 回　〃　発表・ディスカッション<br>第 34 回～第 39 回　〃　都市構成図，地域構成図作成<br>第 40 回～第 45 回　〃　平面図，立面図，断面図，その他図版<br>第 46 回～第 51 回　〃　模型・プレゼン資料作成<br>第 52 回～第 57 回　〃　発表資料，プレゼンボード<br>第 59 回～第 60 回　〃　要旨・発表・論文提出 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。 | | |
| 成績評価の方法 | 前期課題の発表・提出（30%），後期課題の発表・提出（70%） | | |

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格（実務一年）取得必修科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **空間デザイン論** | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。<br>※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。<br>【概要】建築、インテリア等の実例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、グループワークを取り混ぜ、プレゼンテーション、講評を実施する。<br>【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適宜配布<br>(2)　適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス<br>第 2回　プレゼンテーションと講評-1　狭小住宅課題<br>第 3回　プレゼンテーションと講評-2　狭小住宅課題<br>第 4回　20 世紀の住宅-1　近代建築の名作住宅の設計<br>第 5回　20 世紀の住宅-2　近代建築の名作住宅の設計<br>第 6回　20 世紀の住宅-3　近代建築の名作住宅の設計<br>第 7回　透視図法と立体表現<br>第 8回　建築設計の実践-1　現代建築の実例から学ぶ設計手法-1<br>第 9回　建築設計の実践-2　現代建築の実例から学ぶ設計手法-2<br>第 10 回　プレゼンテーションと講評-3　住宅課題<br>第 11 回　プレゼンテーションと講評-4　住宅課題<br>第 12 回　建築の構想と提案-1　設計競技における構想と提案<br>第 13 回　建築の構想と提案-2　設計競技にみる建築家の役割<br>第 14 回　建築の構想と提案-3　設計競技実践事例の解説<br>第 15 回　まとめ・レポート出題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート・演習（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 空間デザインⅠ | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。<br>※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。<br>【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。<br>【到達目標】課題に対する多様アイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　日本建築学会編 「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善<br>(2)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス<br>第 2回　コンペの選定<br>第 3回　コンセプトの立案-1<br>第 4回　コンセプトの立案-2<br>第 5回　コンセプトの立案-3<br>第 6回　計画案の立案-1<br>第 7回　計画案の立案-2<br>第 8回　計画案の立案-3<br>第 9回　中間講評-1<br>第10回　中間講評-2<br>第11回　計画案の調整・模型作成-1<br>第12回　計画案模型作成-2<br>第13回　プレゼンテーションシート作成-1<br>第14回　プレゼンテーションシート作成-2<br>第15回　講評 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 課題（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 空間デザインⅡ | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。<br>※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。<br>【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。<br>【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス<br>第 2回　フォーマットの作成<br>第 3回　プレゼンテーション-1　狭小住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-1<br>第 4回　プレゼンテーション-2　狭小住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-2<br>第 5回　プレゼンテーション-3　狭小住宅課題の図面表現<br>第 6回　プレゼンテーション-4　住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-1<br>第 7回　プレゼンテーション-5　住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-2<br>第 8回　プレゼンテーション-6　住宅課題の図面表現<br>第 9回　プレゼンテーション-7　ギャラリー課題のコンセプトとダイヤグラム-1<br>第10回　プレゼンテーション-8　ギャラリー課題のコンセプトとダイヤグラム-2<br>第11回　プレゼンテーション-9　ギャラリー課題の図面表現<br>第12回　プレゼンテーション-10　模型写真<br>第13回　プレゼンテーション-11　レイアウト-1<br>第14回　プレゼンテーション-12　レイアウト-2<br>第15回　まとめ・レポート出題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 課題提出物（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **卒業研究Ｃ** | 担当者 | 川島　茂 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。<br>ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものことが求められる。<br>【概要】ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、充分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。<br>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)　研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス<br>第　2回　～第5回　研究・設計のテーマの検討と設定<br>第　6回　～第12回　文献、資料収集及び考察、計画条件の設定<br>第　13回　～第22回　エスキス、設計<br>第　23回　～第29回　プレゼンテーションシートの作成<br>第　30回　発表 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。 | | |
| 成績評価の方法 | 研究および設計の取り組み方、成果物の総合評価とする。 | | |

# 10　第一部商経学科の専攻間で共通する科目
# （専門基礎科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報社会論（隔年開講）** | 担当者 | 杉原　洋 |
| | 〔履修年次〕　1,2 いずれも履修可 | 授業外対応 | 原則授業終了後、非常勤講師控え室で。メールアポお願い。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ニュースから現代社会を理解する<br><br>【概要】マスメディアのニュースを素材に、「日本の今・世界の今」を読み解き、出来事の背景や、問われていることの意味、どう私たちに関わるのかなどを、一緒に考えましょう。<br>【到達目標】社会に出るとき・出たときに求められる時事問題の常識や、考える力を身につけることです。自分も社会をかたちづくり、支える１人なのだということに気付くことです。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に使用しません。杉原が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。<br>(2)　池上彰『知らないと恥をかく　世界の大問題』角川新書<br>蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ<br>その他、授業資料で適宜紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに　授業の目指すもの、授業の進め方など全体的なオリエンテーション<br>第　2回　天皇退位問題１<br>第　3回　天皇退位問題２<br>第　4回　日本国憲法を考える１（憲法って何なの）<br>第　5回　日本国憲法を考える２（自民党はどこを変えたいと考えているのだろう）<br>第　6回　日本国憲法を考える３（国民投票の仕組み）<br>第　7回　川内原発と日本のエネルギー問題１（第５次エネルギー基本計画）<br>第　8回　川内原発と日本のエネルギー問題２（核のゴミと過疎地）<br>第　9回　第25回参議院議員選挙（争点は何だろう）<br>第10回　大きく動いている世界１（日本はアメリカとどう付き合えばいいのだろう）<br>第11回　大きく動いている世界２（北朝鮮、韓国、中国とどう向き合うか）<br>第12回　国際貢献とはどういうことか<br>第13回　少子高齢化社会と人口減少社会<br>第14回　フェイクニュースとネット言論（新聞、TV、ネット情報の読み方・見方）<br>第15回　まとめ<br>※現代を理解するうえで重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールにかかわらず、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。このシラバスは、あくまでも「計画」であり、変更されることがある、と考えてください。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 【予習】短大図書館などで複数の新聞に必ず目を通してください。読み比べが大事。TV やポータルサイトのニュースを検索・視聴して、現代日本、現代世界でどんなことが起きているかをチェックすること。<br>【復習】授業資料をもとに、講義内容を自分なりに整理し、疑問点や自分の考えがあれば、メールで発信してください。 | | |
| 成績評価の方法 | ・授業始めに配布する「感想シート」と、期末に提示する「期末リポート」を合わせて総合評価します。配分は「感想シート」20%、「期末リポート」80%。<br>・5回（全授業の３分の１）以上、無断欠席した場合（感想シートが提出されていない）は、原則として単位の認定はできません。欠席届は、原則、事前にペーパー（書式は問いません）で提出してください（メール連絡は不可）。突発事故や急病などの場合、事前提出は不可能ですから、事後提出でかまいません。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **現代社会論（隔年開講）** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　１、２年 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。<br>【概要】<br>この授業は、現代社会を主として1970年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」（第２～４回）、「新自由主義」（第５～７回）でというキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題（第８～１２回）についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し（第１３～１４回）をみていきます。<br>【到達目標】<br>現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　講義時に提示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義<br>第　2回　グローバリゼーション（1）現代のグローバリゼーションの特質<br>第　3回　グローバリゼーション（2）多国籍企業と経済発展<br>第　4回　グローバリゼーション（3）アメリカン・グローバリゼーションの問題<br>第　5回　新自由主義（1）経済学における自由<br>第　6回　新自由主義（2）新自由主義とは何か<br>第　7回　新自由主義（3）新自由主義政策と格差問題<br>第　8回　現代社会の諸問題（1）民族・宗教をめぐる国際紛争<br>第　9回　現代社会の諸問題（2）人の移動と排外主義<br>第10回　現代社会の諸問題（3）疲弊する地域経済<br>第11回　現代社会の諸問題（4）行き詰まる社会保障システム<br>第12回　現代社会の諸問題（5）悪化する地球環境問題<br>第13回　行き詰まりを打開するために（1）所得再分配の模索<br>第14回　行き詰まりを打開するために（2）世界的に活発化する社会運動<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会哲学（隔年開講）** | 担当者 | 笠井高人 |
| | 〔履修年次〕　１年、２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】社会に生きる我々の身の回りにある事象に目を向け、価値や倫理の問題として取り上げる。<br><br>【概要】近代以降、人類社会は学問と共に飛躍的な発展を遂げたが、その理念と制度は必ずしも一致して深化してきたわけでない。本科目では身近な問題を取り上げ、制度と理念のギャップをもとに、社会と倫理のかかわりについて議論する。<br><br>【到達目標】現代の諸問題を知覚して、常識にとらわれずに思考することで、自らの考えを持ち、それを表現できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に指定しない。プリント等を授業時に配布する。<br>(2)　授業中に適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：人類の歩みと社会の成り立ち<br>第　2回　科学と哲学①：発展・進歩<br>第　3回　科学と哲学②：懐疑主義<br>第　4回　効率と正義①：効用主義の課題<br>第　5回　効率と正義②：道徳的平等<br>第　6回　生命倫理①：安楽死<br>第　7回　生命倫理②：臓器移植<br>第　8回　これまでの復習<br>第　9回　環境倫理①：無為・自然<br>第10回　環境倫理②：エコロジー<br>第11回　資本主義と倫理①：個人的所有<br>第12回　資本主義と倫理②：企業統治<br>第13回　民主主義と倫理①：私的・公的空間<br>第14回　民主主義と倫理②：互恵性<br>第15回　全体の振り返りとまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）、宿題および授業中課題（30%）<br>授業中の発言はクラスへの貢献とみなして高く評価します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。<br>【概要】<br>経済とは、経済学の役割（第１～２回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第３～７回）。マクロ経済学の基礎理論（第８～１４回）。<br>【到達目標】<br>経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　マンキュー，Ｎ・グレゴリー（2014）『マンキュー入門経済学［第２版］』東洋経済新報社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業ガイダンス、経済とは何か<br>第　2回　経済学の役割<br>第　3回　ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給<br>第　4回　ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策<br>第　5回　ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性<br>第　6回　ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場<br>第　7回　ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ<br>第　8回　マクロ経済学の基礎（1）ＧＤＰの測定<br>第　9回　マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション<br>第10回　マクロ経済学の基礎（3）経済成長<br>第11回　マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム<br>第12回　マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割<br>第13回　マクロ経済学の基礎（6）外国貿易<br>第14回　マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ<br>第15回　全体のまとめ、テスト対策 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済情報論** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　１，２年 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メール連絡してください。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>日本経済が直面しているさまざまな課題について，現状を知り，何がどう問題なのかそうでないのか考えていきます。<br>【概要】日本経済を取り巻く経済の動きを採り上げ，受講者とともにさまざまな視点から掘り下げて考えていきます。<br>(社会保障の課題・雇用の課題については，経済政策の講義で採り上げます)<br>【到達目標】<br>経済ニュースに関心を持ち，異なる視点・考え方を学び，経済の動きを多面的に捉える眼を持てるようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　広井良典『人口減少社会という希望』朝日選書<br>高橋伸彰『少子高齢化の死角－本当の危機とは何か』ミネルヴァ書房<br>スーザン・ジョージ，マーティン・ウルフ『徹底討論　グローバリゼーション　賛成／反対』作品社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方<br>第　2回　少子高齢化社会：　少子高齢化は本当に問題なのか，少子化現象の本当の問題点とは何か<br>第　3回　国の債務問題(1)：　国の借金が増えても問題ないという考え方は正しいのか，借金が増えると何が問題なのか<br>第　4回　国の債務問題(2)：　どのようにして債務残高を減らしていくべきか<br>第　5回　デフレ経済：　なぜ日本はデフレ経済になったのか，アメリカはなぜデフレにならないのか<br>第　6回　為替相場制度：　変動相場制と固定相場制－それぞれのメリット・デメリットは何か<br>第　7回　企業のグローバル化：　企業が海外進出することは問題なのか<br>第　8回　貿易収支(1)：　日本は貿易赤字国になっていくのか，貿易赤字は悪いことなのか<br>第　9回　貿易収支(2)：　輸出を増やすには何が必要か<br>第10回　自由貿易協定：　日本にとって有益なのか，有害なのか<br>第11回　食料輸入：　食料自給率をもっと引き上げるべきなのか<br>第12回　再生可能エネルギー：　再生可能エネルギー発電の普及・電力自由化の課題は何か<br>第13回　新興国経済：　新興国の経済発展は脅威なのか有益なのか，新興国経済の課題は何か<br>第14回　グローバリゼーション：　グローバリゼーションの良い面・悪い面，課題を考える<br>第15回　まとめ（授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復讐を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ，視点や考えをさらに深めてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **消費者問題** | 担当者 | 石窪　奈穂美 |
| | 〔履修年次〕　１年，２年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 講義終了時及び適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「消費者問題を通して考える－自己責任社会における消費者のあり方・役割について」<br>【概要】規制緩和やグローバル化等，私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し，自己責任社会を迎えています。また，消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら，消費者の権利と責任について理解し，消費者問題を幅広い視点から捉え，問題点や解決策を考えます。その上で，消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。<br>【到達目標】消費者基本法が制定され，消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され，消費者自らが自立し，「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として，消費者として，社会人として，各自の価値システムをどう作り上げていくのか，消費者主権の主体的・合理的な選択，判断能力を養います。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　無し。随時プリント・資料等を配布する。<br>(2)　講義時に必要な際は紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション，消費者問題概論①<br>第　2回　消費者問題概論②<br>第　3回　消費者問題の歴史<br>第　4回　悪徳商法と消費者問題<br>第　5回　ネット社会と消費者問題<br>第　6回　消費者の権利と法的保護①<br>第　7回　消費者の権利と法的保護②<br>第　8回　消費者金融（クレジット・サラ金）問題<br>第　9回　安心・安全と消費者問題①<br>第10回　安心・安全と消費者問題②<br>第11回　商品・サービスと消費者問題①<br>第12回　商品・サービスと消費者問題②<br>第13回　消費生活と環境問題<br>第14回　消費者の未来像―消費者主権の社会づくり<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示，復習を重視する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（２０％），提出物（２０％），定期試験（６０％）による総合評価 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **行政法** | 担当者 | 山本　敬生 |
| | 〔履修年次〕　1，2年履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。<br>【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約等の行政の行為形式論，行政上の義務履行確保制度，行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。<br>【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　山下友信他編，『ポケット六法（平成30年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　法律による行政の原理　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則について<br>第　2回　行政立法・行政計画　・法規命令（委任命令，執行命令），行政規則，行政計画について<br>第　3回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力について<br>第　4回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，瑕疵の治癒と転換について<br>第　5回　行政行為(3)　・行政裁量，裁量行為，羈束行為，比例原則，平等原則について<br>第　6回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政について<br>第　7回　行政上の義務履行確保制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政罰について<br>第　8回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為の手続について<br>第　9回　行政不服審査法　・審査請求，異議申し立て，再審査請求，教示について<br>第10回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，取消訴訟，事情判決，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議について<br>第11回　行政事件訴訟法(2)　・処分性，原告適格，法律の保護する利益説，保護に値する利益説について<br>第12回　行政事件訴訟法(3)　・狭義の訴えの利益，無効等確認訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟について<br>第13回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権について<br>第14回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件について<br>第15回　損失補償　・奈良県ため池条例事件，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間について | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済政策** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メール連絡してください。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「課題先進国」と言われる日本の将来にとって，どのような政策が必要なのかを考えます。<br>【概要】人口減少社会への転換によって，これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ，受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。<br>【到達目標】<br>日本の課題について関心を持ち，さまざまな考え方やアプローチを踏まえて，自分自身で解決策を考える視点を持つこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　千葉忠夫『格差と貧困のないデンマーク－世界一幸福な国の人づくり』ＰＨＰ研究所<br>高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』ＰＨＰ研究所<br>山崎亮『まちの幸福論－コミュニティデザインから考える』ＮＨＫ出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方<br>第　2回　経済成長を考える：　経済成長は善か悪か必要悪か，経済成長のための政策とは<br>第　3回　財政再建を考える(1)：　財政再建は必要なのか，社会保障と税の一体改革とは<br>第　4回　財政再建を考える(2)：　消費税増税の課題，税制の課題は何か<br>第　5回　社会保障の将来を考える(1)：　国は，誰をどこまで救うべきなのか，公平の基準，平等の考え方<br>第　6回　社会保障の将来を考える(2)：　弱者救済のための政策　生活保護制度の課題とは<br>第　7回　社会保障の将来を考える(3)：　現役世代のための社会保障の充実策とは<br>第　8回　雇用の将来を考える(1)：　非正規雇用と正規雇用の格差，正規雇用の男女間格差，格差解消の方策とは<br>第　9回　雇用の将来を考える(2)：　若者の雇用政策には何が必要か，高齢者の雇用政策の課題とは<br>第10回　地域経済の将来を考える(1)：　人口減少と地域経済，大都市圏集中と地方経済の空洞化<br>第11回　地域経済の将来を考える(2)：　中央集権から地域主権へ，道州制は何を目指そうとしているのか<br>第12回　地域経済の将来を考える(3)：　地域経済を支える産業政策の課題とは<br>第13回　地域経済の将来を考える(4)：　農業の再生には何が必要か<br>第14回　地域経済の将来を考える(5)：　地域社会の未来のため何が必要か<br>第15回　まとめ（授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ，視点や考えをさらに深めてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会政策** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1年・2年とも可 | 授業外対応 | 常時対応（希望者は事前にメール下さい。） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】人々を苦しめている貧困・格差・労働条件悪化。その発生原因をさぐります。<br>**ベーシックな科目なので、できれば1年次に履修して下さい。**<br>【概要】　貧困や格差、劣悪な労働環境は、偶然の産物ではなく、その背後にはそれを成立される法則が存在しています。授業ではそれを解明し、改善のための手段も考えます。<br>【到達目標】労働をめぐる社会問題に関心をもち、その解決のために社会を分析する基礎的な力を身につけます。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。<br>(2)　授業の中で支持します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　資本主義と労働（1）　商品と価値<br>第　3回　（2）　価値と貨幣<br>第　4回　（3）　価値と資本<br>第　5回　（4）　賃労働と資本<br>第　6回　賃金　（1）　賃金と賃金形態<br>第　7回　（2）　時間賃金<br>第　8回　（3）　出来高賃金<br>第　9回　労働時間　（1）　労働時間の延長理由<br>第10回　（2）　イノベーション、資本間競争、深夜労働、交替制<br>第11回　直接的生産諸結果　機械制大工業と貧困化<br>第12回　労働時間を巡る闘争　資本主義成立前後の労働時間の違いについて<br>第13回　社会政策と国家の役割　社会政策の性格について<br>第14回　日本の労働条件改悪政策　今日の貧困・格差の原因<br>第15回　まとめ　日本の労働問題を考えるために | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 経済学の基礎理論を学ぶ。自分や家族の労働条件について考える。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **民法** | 担当者 | 疋田京子 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】民法入門<br>商法や労働法など市場経済の一般法であり、契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法である民法を知る。<br>【概要】明治29年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。<br>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは<br>第　2回　民法の基本構造：財産法と家族法<br>第　3回　法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定<br>第　4回　法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則<br>第　5回　成人年齢が18歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力<br>第　6回　父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権利能力・意思能力・行為能力<br>第　7回　権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全<br>第　8回　権利の対象とすることができるのは？：権利の客体／物の概念<br>第　9回　善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度<br>第10回　契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件<br>第11回　契約どおりにならなかったら？：契約違反とその解決方法<br>第12回　言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力<br>第13回　損害賠償が求められる場合とは：不法行為<br>第14回　「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習に重点をおいて、よく理解できなかったところを質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 4回のレポート提出（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **商法** | 担当者 | 河野総史 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年 | 授業外対応 | 講義終了後またはメールにて対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>商法分野のうち、会社法の基礎知識<br>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。<br>【到達目標】<br>株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　指定しない（レジュメを配布する）<br>(2)　適宜指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義ガイダンス　民法と商法<br>第　2回　会社法総論<br>第　3回　会社の種類<br>第　4回　株式①（株式の種類等）<br>第　5回　株式②（株式の譲渡および譲渡制限等<br>第　6回　株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）<br>第　7回　株式④（株式併合・分割・無償割当等）<br>第　8回　資金調達①（会社設立時）<br>第　9回　資金調達②（募集株式の発行等）<br>第10回　資金調達③（株式以外の資金調達手段）<br>第11回　機関①（機関総論）<br>第12回　機関②（株主総会）<br>第13回　機関③（取締役・取締役会）<br>第14回　機関④（監査役・会計参与・会計監査人）<br>第15回　機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社）　総まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末テスト80パーセント、小テスト20%とし、全体で６０%以上を合格とする。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **産業心理学** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕 1，2 年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ<br>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。<br>【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリントを配布，Web でも公開<br>(2) なし | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 概要説明<br>第 2回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質<br>第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用<br>第 4回 ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則<br>第 5回 ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介<br>第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策<br>第 7回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類<br>第 8回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係<br>第 9回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例<br>第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム<br>第 11 回 購買心理：消費者の購買心理<br>第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理<br>第 13 回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策<br>第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察<br>第 15 回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **会計学総論** | 担当者 | 宗田 健一 |
| | 〔履修年次〕 1，2 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】会計学の全体像を知る。<br>【概要】本講義は，会計学の初学者を対象として，会計学の全体像について学びます。財務会計論，管理会計論，監査，税務会計などの会計科目，会社法，金融商品取引法，法人税法等の会計関連法規，簿記や原価計算の基礎について学びます。<br>この科目で学ぶ内容は後期以降で学ぶ，簿記論Ⅰ，簿記論Ⅱ，簿記論Ⅲ，財務会計論，管理会計論，原価計算などの基礎科目となります。<br>【到達目標】会計学の全体を学び，社会における会計の役割，必要性について知る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) **★成川正晃編著**『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。<br>(2) 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（第 11 版），有斐閣。<br>永野則雄『ケースブック会計学入門』（第４版），新世社。<br>田中建二『財務会計入門』（第４版）中央経済社。<br>伊藤邦雄『新・現代会計入門』（第２版）日本経済新聞出版社。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等，この講義で学べること，会計学の必要性<br>第 2回 なぜ会計を学習するのか？：ゲームで学ぶ会計の役割<br>第 3回 株式会社とは：どうして株式会社形態が多い？<br>第 4回 会計の歴史：世界史から学ぶ会計の歴史<br>第 5回 記録と簿記：複式簿記って，いつから使われているの？<br>第 6回 会計情報の役割：誰がどのように使ってるの？<br>第 7回 会計制度：どうして，ルールが必要なの？<br>第 8回 会計の基本原理：貸借対照表，損益計算書<br>第 9回 財務会計と管理会計の違い：利害関係者を知ろう，<br>第 10 回 公認会計士って何をする人？：監査を知る<br>第 11 回 法人税って何？：色々な税金を知ろう<br>第 12 回 会計関連法規を資料：それぞれの役割って何？<br>第 13 回 開示情報の入手方法：EDINET を使ってみよう<br>第 14 回 企業の公開情報を入手してみよう<br>第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：**会計学総論**<br>１年後期：簿記論Ⅰ<br>簿記論Ⅱ<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 中間レポート（50%）期末レポート（50%） | | |

＊受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

**★の書籍は，本学生協で発注する予定です。後期からの簿記論Ⅰ，Ⅱでも使います。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **簿記論Ⅰ** | 担当者 | 宗田健一 |
| | 〔履修年次〕　1，2 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】商業簿記の基礎Ⅰ<br><br>【概要】簿記を初めて学ぶ学生を対象として，日商簿記検定３級レベルの内容を学習します。<br><br>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br>渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br><br>(2)　**●成川正晃編著**『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明<br>第　2回　複式簿記の意義と目的：テキスト第１章<br>第　3回　貸借対照表と損益計算書：テキスト第１章<br>第　4回　勘定と取引：テキスト第２章<br>第　5回　仕訳と転記：テキスト第２章<br>第　6回　勘定と仕訳（1）：テキスト第３章<br>第　7回　勘定と仕訳（2）：テキスト第３章<br>第　8回　おさらい：定着度の確認<br>第　9回　帳簿の記入（1）：テキスト第３章<br>第 10 回　帳簿の記入（2）：テキスト第３章<br>第 11 回　決算（1）：テキスト第４章<br>第 12 回　決算（2）：テキスト第４章<br>第 13 回　簿記一巡の手続き：総復習<br>第 14 回　おさらい：定着度の確認<br>第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>１年後期：**簿記論Ⅰ**<br>**簿記論Ⅱ**<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（20%）＋期末試験（80%） | | |

**（注）本科目は会計学総論を済みであることが望ましい。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。**
**テキストの書籍は，本学生協で発注する予定です。●印の本は，前期の会計学総論でも使います。簿記論ⅠとⅡは同時に受講して下さい。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営学総論** | 担当者 | 竹中啓之 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。<br>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。<br>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に配布するプリント<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。<br>第　2回　経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。<br>第　3回　経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。<br>第　4回　企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。<br>第　5回　企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。<br>第　6回　人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。<br>第　7回　人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。<br>第　8回　人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。<br>第　9回　人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。<br>第 10 回　日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。<br>第 11 回　組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。<br>第 12 回　企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。<br>第 13 回　経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。<br>第 14 回　企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報科学概論** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕　1，2 年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ<br>【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。<br>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０％以上理解できる ・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布，Web でも公開<br>(2)　初心者向け情報関連雑誌 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概要説明<br>第　2回　ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割<br>第　3回　パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割<br>第　4回　単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度<br>第　5回　インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み<br>第　6回　電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法<br>第　7回　IT セキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策<br>第　8回　インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方<br>第　9回　周辺機器１：モニタ，光学ドライブなど周辺機器の役割，仕組み<br>第 10 回　周辺機器２：プリンタ，ハブ，ルータなど周辺機器の役割，仕組み<br>第 11 回　クラウド，ビッグデータ，ＩｏＴ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開<br>第 12 回　スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方<br>第 13 回　ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法<br>第 14 回　インターネットの国際比較：普及率，使用法と地域，国の情勢<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **文書作成実習・経済** | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得<br>【概要】<br>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。<br>【到達目標】<br>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）<br>＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）<br>第　2回　検定対策（3 級）　：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）<br>第　3回　検定対策（3 級）　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）<br>第　4回　検定対策（3 級）　：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）<br>第　5回　検定対策（3 級）　：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　6回　検定対策（3 級）　：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　7回　検定対策（3 級）　：課題文書作成（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）<br>第　8回　検定対策（3 級）　：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）<br>第　9回　検定対策（3 級）　：文書作成 3 級検定模擬問題演習<br>第 10 回　Excel データの利用　：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定<br>第 11 回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）<br>第 12 回　報告書の作成　：課題文書作成（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）<br>第 13 回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）<br>第 14 回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

（注）経済専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **文書作成実習・経情** | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得<br>【概要】<br>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。<br>【到達目標】<br>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得）<br>＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）<br>第　2回　検定対策（3級）　：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）<br>第　3回　検定対策（3級）　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）<br>第　4回　検定対策（3級）　：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）<br>第　5回　検定対策（3級）　：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　6回　検定対策（3級）　：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　7回　検定対策（3級）　：課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野）<br>第　8回　検定対策（3級）　：文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）<br>第　9回　検定対策（3級）　：文書作成3級検定模擬問題演習<br>第10回　Excelデータの利用　：Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定<br>第11回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）<br>第12回　報告書の作成　：課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）<br>第13回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）<br>第14回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

（注）経営情報専攻

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **統計学** | 担当者 | 倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>基本的な統計解析を学ぶ<br>【概要】<br>現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。<br>【到達目標】<br>・基本的なデータ処理を行う<br>・相関関係について理解する<br>・検定について理解する | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：統計学とは<br>第　2回　データの基本処理：平均値，度数分布<br>第　3回　データの基本処理：分散，標準偏差<br>第　4回　データの基本処理：標準正規分布<br>第　5回　データの基本処理：正規分布と偏差値<br>第　6回　データの基本処理：確率分布<br>第　7回　統計解析：相関係数<br>第　8回　統計解析：回帰直線<br>第　9回　統計解析：順位相関<br>第10回　統計解析：カイ２乗検定<br>第11回　統計解析：平均値の推定<br>第12回　統計解析：平均値の検定<br>第13回　統計解析：分散分析<br>第14回　統計解析：エクセルを用いた統計解析<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **応用文書処理** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ<br>【概要】1）　自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する<br>2）　ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。<br>3）　提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する。<br>【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる　・わかりやすいドキュメントを作成する　・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布，Web でも公開<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概要説明<br>第　2回　自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成<br>第　3回　自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合<br>第　4回　自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合<br>第　5回　自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ<br>第　6回　ホームページ作成１：　HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入<br>第　7回　ホームページ作成２：課題設定とページ作成<br>第　8回　ホームページ作成３：資料収集とページ作成<br>第　9回　ホームページ作成４：ページ公開<br>第10回　提案書作成１：インターネットによる費用情報検索<br>第11回　提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書<br>第12回　提案書作成３：プレゼン資料の作成<br>第13回　提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ<br>第14回　提案書作成５：プレゼンと評価<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（３つの課題を総合的に評価） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ＰＣデータ活用（経済）** | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用<br>【概要】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。<br>【到達目標】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　習熟度確認アンケート　Excel の起動と画面の確認　文字入力の確認<br>第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認<br>第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用<br>第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線<br>第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）<br>第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）<br>第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）<br>第　8回　各関数を利用した実習問題<br>第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）<br>第10回　円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）<br>第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）<br>第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能<br>第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか）<br>第14回　データの集計（ピボットテーブル）<br>第15回　前期のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（60%）＋小テスト（30%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣデータ活用（経営情報） | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用<br>【概要】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。<br>【到達目標】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30 時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　習熟度確認アンケート　Excel の起動と画面の確認　文字入力の確認<br>第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認<br>第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用<br>第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線<br>第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）<br>第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）<br>第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）<br>第　8回　各関数を利用した実習問題<br>第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）<br>第 10 回　円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）<br>第 11 回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）<br>第 12 回　データベース入門：データベース作成上の各機能<br>第 13 回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか）<br>第 14 回　データの集計（ピボットテーブル）<br>第 15 回　前期のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（60%）＋小テスト（30%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣデータ活用実習（経済） | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得<br>【概要】<br>前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。<br>【到達目標】<br>知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認<br><br>☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30 時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期授業の復習　知識科目問題<br>第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題<br>第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題<br>第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題<br>第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題<br>第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題<br>第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題<br>第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題<br>第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）<br>第 10 回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題<br>第 11 回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題<br>第 12 回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題<br>第 13 回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題<br>第 14 回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題<br>第 15 回　後期のまとめ　知識科目問題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣデータ活用実習（経営情報） | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得<br>【概要】<br>前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。<br>【到達目標】<br>知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認<br><br>☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30 時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期授業の復習　知識科目問題<br>第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題<br>第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題<br>第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題<br>第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題<br>第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題<br>第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題<br>第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題<br>第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）<br>第 10 回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題<br>第 11 回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題<br>第 12 回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題<br>第 13 回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題<br>第 14 回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題<br>第 15 回　後期のまとめ　知識科目問題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣアプリケーション実習 | 担当者 | 刈屋　美枝子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業前後。メールでの質問にも随時対応。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】　学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション･ソフトウェアを実践的に使いこなす。<br>【概要】　本実習は前期の情報リテラシーII（E）（F）の応用となるので、基本的に前期の PC 経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種ソフトウェア（プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など）の基本的な使い方を学習する。また、学生が取り組みたいアプリについて事前アンケートを取るので、できるだけ対応したいと考えている。<br>【到達目標】上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　随時、資料ファイルを配信。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期授業の復習　プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint（1）<br>第　2回　プレゼンテーション・ソフトウェア PowerPoint（2）　第 1 回課題<br>第　3回　スマートフォンアプリとの連携　授業アンケート（授業の感想及び取り組みたいソフトウェアの希望など）<br>第　4回　動画ファイルの扱い方･･･動画作成・編集ソフト<br>第　5回　動画ファイルの扱い方･･･動画の撮影、編集<br>第　6回　動画ファイルの扱い方･･･動画の編集　第 2 回課題<br>第　7回　PDF ファイルの扱い方…OCR の利用　画像文書からテキストへ<br>第　8回　PDF ファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…文書ファイルの統合<br>第　9回　PDF ファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…セキュリティ設定<br>第 10 回　ホームページの作成（1）<br>第 11 回　ホームページの作成（2）<br>第 12 回　ホームページの作成（3）　第 3 回課題<br>第 13 回　Windows パソコンの知っておくと便利な機能<br>第 14 回　アンケートで学生が希望したアプリへの対応<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 3 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 3 回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価 | | |

# 11　経済専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本経済論** | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本経済<br><br>【概要】主として明治から現在までの日本の産業政策と構造改革について講義します(下記，授業スケジュールを参照)。<br><br>【到達目標】日本経済の特質と課題，そして日本経済が過去の歴史や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め，日本経済や経済政策について主体的に考察できるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　三和良一『概説日本経済史　近現代　(第3版)』東京大学出版会<br>内閣府『平成30年度　年次経済財政報告』 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等<br>第　3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等<br>第　4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950年代前半の産業政策等<br>第　5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等<br>第　6回　行政指導について：勧告操短，企業の反発等<br>第　7回　開放体制への移行：IMF8条国への移行，産業再編等<br>第　8回　1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等<br>第　9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き，現在の状況等<br>第10回　1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等<br>第11回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等<br>第12回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等<br>第13回　構造改革：構造改革の特徴・本質等<br>第14回　構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識，構造改革下の福祉改革の内容と特徴等<br>第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義前後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ，検討すること，普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目することを勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **財政学** | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政の基礎的な制度について，内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること<br><br>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で，それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは，財政民主主義という財政制度の根幹，経済における公共部門と民間部門の関係，歴史的推移，そして，グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めることになります。この講義を受講することで，経済学等で学んだマクロ経済の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また，財政は，政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので，他の科目では触れることが少ない政治の経済に対する影響に関しても見識を高めることができるはずです。<br><br>【到達目標】財政の基礎的な制度について理解し，説明できるようになること，実際の政府の活動について分析・評価できるようになること，マクロ経済の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年)<br>植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年)<br>宇波弘貴編著『図説　日本の財政　各年度版』東洋経済新報社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2回　財政(1)：財政の定義，財政学の特徴，政府に対する評価の揺れ等<br>第　3回　財政(2)：市場の失敗，財政民主主義と制度化に必要な原則等<br>第　4回　予算(1)：定義，役割，政府と議会の役割，予算原則等<br>第　5回　予算(2)：予算の種類，特別会計と「埋蔵金」，改革の方向等<br>第　6回　経費(1)：定義，主要な分類，経費膨張の法則，転位効果等<br>第　7回　経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等<br>第　8回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等<br>第　9回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等<br>第10回　公債(1)：定義，民間債務・租税との対比，公債の種類等<br>第11回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等<br>第12回　財政投融資：定義，運用対象，批判，2001年度の改革，今後の展望等<br>第13回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等<br>第14回　財政改革を考える：社会の変化と財政，財政危機とは，財政改革で求められる視点等<br>第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数，加えて日本関連だけでなく，諸外国関連のニュースについても)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **農業経済論** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。<br><br>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。<br><br>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標、表面化している食料・農業・農村の問題提起<br>第　2回　農業の基礎：基本的知識<br>第　3回　世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産<br>第　4回　日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開<br>第　5回　日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法<br>第　6回　日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換<br>第　7回　農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通<br>第　8回　農業保護政策：国内市場、農産物貿易<br>第　9回　農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化<br>第10回　農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業<br>第11回　農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法<br>第12回　高付加価値化と安全性：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、六次産業化、農商工連携、GAP<br>第13回　農村空間の商品化：農村景観、地産地消、観光農園、農産物直売所<br>第14回　都市住民の農業：市民農園、体験農園、自家菜園<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **金融論** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メールで連絡してください。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>金融の仕組みに関する基礎知識を習得するとともに，金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。<br>【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から，金融業界が直面している課題や金融危機の原因や影響まで幅広いテーを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学習し，社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。<br>【到達目標】<br>金融の基本的な知識を習得し，金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　川西諭・山﨑福寿『金融のエッセンス』有斐閣<br>杉山敏啓編『実務入門　改訂版　金融の基本教科書』日本能率マネジメントセンター | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　　序論：お金とは何か？　金融とは何か？<br>第　2回　銀行の役割(1)：　決済の仕組み（内国為替，手形，外国為替）<br>第　3回　銀行の役割(2)：　間接金融の仕組み，預金金利・貸出金利の決定方法，銀行の信用創造機能<br>第　4回　銀行の役割(3)：　貸出形態，貸出審査，信用補完（担保・保証）<br>第　5回　銀行の役割(4)：　公的信用保証の仕組み〔鹿児島県信用保証協会による出張講義〕<br>第　6回　銀行の役割(5)：　新しい貸出手法（動産担保融資，知的財産担保融資，リバースモーゲージ・ローン）<br>第　7回　銀行の役割(6)：　地域金融機関の取り組み（地域密着型金融）<br>第　8回　銀行の役割(7)：　金融機関に対する規制，預金者保護のための制度<br>第　9回　証券会社の役割(1)：　直接金融の仕組み，株式の仕組み，株式市場の仕組み，株式上場の意義<br>第10回　証券会社の役割(2)：　債券の仕組み，証券会社の業務，証券市場に対する規制，投資家保護のための制度<br>第11回　保険会社の役割(1)：　保険の仕組み，生命保険と損害保険<br>第12回　保険会社の役割(2)：　保険会社の経営，保険会社に対する規制，契約者保護のための制度<br>第13回　日本銀行の金融政策：　日本銀行の金融調節，ゼロ金利政策，量的緩和政策<br>第14回　金融危機から学ぶこと：　日本のバブル崩壊，米国発の世界金融危機，欧州金融危機<br>第15回　ソーシャル・ファイナンス：　金融の仕組みを活用して，社会的課題を解決する方法 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を十分行ってください。金融に関する情報・論説に触れ，最新の動きについて知識を広げてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学史** | 担当者 | 笠井高人 |
| | 〔履修年次〕　1年、2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経済学の成り立ちと発展について、時代背景と共に理解する。<br><br>【概要】本科目では主に 18 世紀のイギリスの思想家を取りあげて、いわゆる古典派までの経済学の歴史を解説する。その際に単なる理論の発展史ではなく、その背後にある価値判断と科学との関係を考慮しつつ議論を展開する。<br><br>【到達目標】・経済学のおおまかな歴史について、表・グラフ・文章などを用いながら、自らの言葉で論理的に説明できる。<br>・過去の経済思想をもとに現代的諸課題に対して自身の考えを展開できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に指定しない。プリント等を授業時に配布する。<br>(2)　授業中に適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　イントロダクション：経済学の見取り図<br>第 2回　社会契約思想：ロック<br>第 3回　重商主義：ステュアート<br>第 4回　重農主義：ケネー<br>第 5回　経済学の誕生：スミス①<br>第 6回　経済学の誕生：スミス②<br>第 7回　経済学の誕生：スミス③<br>第 8回　これまでの復習<br>第 9回　急進的哲学主義：ベンサム<br>第10回　ドイツ歴史学派：リスト①<br>第11回　ドイツ歴史学派：リスト②<br>第12回　古典派経済学の発展：リカード・マルサス①<br>第13回　古典派経済学の発展：リカード・マルサス②<br>第14回　古典派経済学の発展：リカード・マルサス③<br>第15回　全体の振り返りとまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）、宿題および授業中課題（30%）<br>授業中の発言はクラスへの貢献とみなして高く評価します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学特講Ⅰ** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　1年、2年 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メール連絡してください。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>証券取引の実務を学びます。<br>【概要】<br>証券取引に携わる証券会社や金融機関の職員に必要とされる実務知識を習得します。<br>【到達目標】<br>証券外務員二種資格試験に合格できる程度の知識を習得すること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　ファイナンシャルバンクインスティチュート㈱『うかる！証券外務員二種　最速テキスト 2019-2020 年版』<br>日本経済新聞出版<br>プリント<br>(2)　なし | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　　序論：間接金融と直接金融，株式の仕組み<br>第 2回　株式会社法：　株主の責任と権利，株式会社の機関<br>第 3回　財務諸表と企業分析(1)：　財務諸表の仕組み，収益性分析，安全性分析<br>第 4回　財務諸表と企業分析(2)：　資本効率性分析，成長性分析，損益分岐点分析<br>第 5回　株式業務：　証券取引所での売買，店頭取引，株式の上場，証券投資計算<br>第 6回　証券売買のルール(1)：　証券取引所のルール<br>第 7回　証券売買のルール(2)：　証券業協会のルール<br>第 8回　証券売買のルール(3)：　金融商品取引法のルール<br>第 9回　債券業務(1)：　債券の仕組み，債券売買手法，利回り計算<br>第10回　債券業務(2)：　経過利子，転換社債型新株予約権付社債<br>第11回　投資信託業務：　投資信託の仕組み<br>第12回　証券税制：　利子所得・配当所得・譲渡所得に関する課税，相続・贈与に対する課税<br>第13回　経済・金融・財政の基礎知識：<br>第14回　小テスト<br>第15回　小テストの答案返却，授業評価アンケートの実施 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を十分行ってください。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学特講Ⅱ** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>歴史的な視野をもって、科学・技術や文化、国際的な政治経済関係といった点からアメリカ経済の実像を学んでいきます。<br>【概要】<br>アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第１回)。戦後アメリカ経済の圧倒的優位を準備した、２０世紀前半の特質（第２～４回)。「パクス・アメリカーナ」と呼ばれる、アメリカ主導による資本主義経済社会の繁栄（第５～７回)。1970 年代ころからはじまる「新自由主義」に基づくアメリカ経済の革新（第８～１１回)。新自由主義がアメリカにもたらした問題（第１２～１３回)。今後のアメリカ経済のゆくえ（第１４回)。以上の流れでアメリカ経済を概観する。<br>【到達目標】<br>アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。世界経済との関係を意識し、アメリカ経済の相対的位置を把握すること。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　講義時に提示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか<br>第　2回　戦後アメリカ経済の背景（1）大量生産体制<br>第　3回　戦後アメリカ経済の背景（2）大恐慌とニューディール<br>第　4回　戦後アメリカ経済の背景（3）第二次世界大戦と戦時経済システム<br>第　5回　パクス・アメリカーナ（1）第二次世界大戦後のパクス・アメリカーナの基本構造の確立<br>第　6回　パクス・アメリカーナ（2）繁栄の 1950-60 年代とパクス・アメリカーナ<br>第　7回　パクス・アメリカーナ（3）1970 年代におけるパクス・アメリカーナの限界<br>第　8回　新自由主義の興隆（1）1980 年代の「レーガノミクス」と金融的発展<br>第　9回　新自由主義の興隆（2）戦後企業体制の転換<br>第 10 回　新自由主義の興隆（3）1990 年代の「ニューエコノミー」<br>第 11 回　新自由主義の興隆（4）IT・バイオを中心とした技術革新<br>第 12 回　新自由主義の帰結（1）金融経済化とリーマンショック<br>第 13 回　新自由主義の帰結（2）アメリカにおける格差問題<br>第 14 回　これからのアメリカ経済のゆくえ<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（60%)、授業ごとの小論文（40%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **法学特講** | 担当者 | 疋田京子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ジェンダーと法<br>性と性別にまつわる様々な法的な問題を知る。どんな歴史があって今のあなたがいるのか。<br>【概要】男女という性別二元制や異性愛など、私たちが常識だと思っている性に関する知と規範意識は、どんな歴史を経て形成されてきたのか。時代の常識とされる「知」と格闘してきた先人たちの名著を通して、ジェンダー視点から法を考える。<br>【到達目標】<br>個人的に感じている「生き難さ」と法とを関連付ける思考力を磨く。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント配布<br>(2)　江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著５０』平凡社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：LGBT によって開かれたあらたな地平<br>第　2回　戦後フェミニズムのバイブル：シモーヌ・ド・ボーボワール『第二の性』<br>第　3回　「必然の恋」を信じられる？：サルトルとボーボワール<br>第　4回　その社会が好む「女らしさの型」「男らしさの型」：M・ミード『男性と女性』<br>第　5回　M・ミードに影響を与えた女性：ルース・ベネディクト『人種主義』<br>第　6回　1950 年代アメリカの「罠に陥った女性」の状況：ベティ・フリーダン『新しい女性の創造』<br>第　7回　日本のウーマンリブ運動のバイブル：田中美津『いのちの女たちへ―取り乱しウーマンリブ論』<br>第　8回　アメリカウーマンリブ運動のバイブル：ケイト・ミレット『性の政治学』<br>第　9回　「ウーマン・リブ」の展開：フェミニズムの三大潮流<br>第 10 回　イタリアのソーシャル・フェミニズム：M・ダラコスタ『家事労働に賃金を』<br>第 11 回　女という商品の交換から成立する社会：L・イリガライ『ひとつではない女の性』<br>第 12 回　女性虐待にまつわる神話と現実：レノア・E・ウォーカー『バタード・ウーマン』<br>第 13 回　アラブ・イスラーム世界の女性たち：N・E・サダウィ『イヴの隠れた顔』<br>第 14 回　正義の倫理に「ケアの倫理」は対抗できるか：C・ギリガン『もうひとつの声』<br>第 15 回　異性愛と性の二元論：ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義で紹介した本を、一冊は読んでみてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の小レポート（70%）と学期末に１回レポート（30%）を課します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 簿記論Ⅱ | 担当者 | 宗田健一 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ<br><br>【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。<br><br>【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。<br>渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。<br><br>(2)　**●成川正晃編著**『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　履修登録の確認，現預金取引：テキスト第５章<br>第　2回　商品売買①：テキスト第６章<br>第　3回　商品売買②：テキスト第６章<br>第　4回　売掛金と買掛金：テキスト第７章<br>第　5回　その他の債権と債務：テキスト第８章<br>第　6回　手形：テキスト第９章<br>第　7回　有価証券：テキスト第10章<br>第　8回　固定資産：テキスト第11章<br>第　9回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第12章：<br>第10回　資本金と引出金：テキスト第13章<br>第11回　収益と費用：テキスト第14章<br>第12回　伝票：テキスト第15章<br>第13回　決算と財務諸表（１）：テキスト第16章<br>第14回　決算と財務諸表（２）：テキスト第16章<br>第15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>１年後期：**簿記論Ⅰ**<br>**簿記論Ⅱ**<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

**（注）本科目は会計学総論を履修済みであることが望ましい。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。**
**テキストの書籍は，本学生協で発注する予定です。●印の本は前期の会計学総論でも使います。簿記論Ⅰ，Ⅱは同時に受講して下さい。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 国際経済論 | 担当者 | 野村　俊郎 |
| | 〔履修年次〕　1，2年 | 授業外対応 | 研究室（2号館3階）で対応、いつでもOK，予約不要。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」するとはどういうことか～新興国で考える【部品調達編】～<br><br>【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタIMVを事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第5章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。<br><br>【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂<br>(2)　同上『トヨタの新興国車 IMV』同上 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　国際経済・貿易（輸出と輸入）関税と企業の部品・原材料調達<br>第　2回　関税 WTO、FTA と企業の部品・原材料調達<br>第　3回　IMV に見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達<br>第　4回　LSP、MSP、JSP と系列調達&非系列調達①<br>第　5回　LSP、MSP、JSP と系列調達&非系列調達②<br>第　6回　アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化<br>第　7回　アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出１回目<br>第　8回　アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出２回目<br>第　9回　アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出３回目<br>第10回　アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出４回目<br>第11回　南米では系列外との取引①<br>第12回　南米では系列外との取引②<br>第13回　南米では系列外との取引③：TASA の事例<br>第14回　南米では系列外との取引④：TDV の事例<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アジア経済論** | 担当者 | 野村　俊郎 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 研究室（2号館3階）で対応、いつでもOK，予約不要。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」とはどういうことか、アジアの新興国を中心に【製品開発】に焦点を当てて考えます。アジアは日本、韓国、台湾を除いて、まだまだ貧しい人々の多い地域です。貧しい庶民はまだまだ高価な耐久消費財、特に車を買うことはできない。他方で人口の数%ではあるが日本より豊かな富裕層も存在する。人口の多い、インド（13億人、世界第2位）では富裕層が1割でも日本の総人口に匹敵する。インドネシア（2億5千万人、世界第4位）では同じく2500万人で日本の4分の1になる。高級品だけでも相当な数が売れる。他方で21世紀以降、特にインド、ブラジルでは庶民層の中で車に手の届く人も出てきた。こうした新興国の現状に自動車メーカーはどう立ち向かっているか、トヨタを例に解説していきます。<br>【概要】新興国は先進国と比べて富裕層と庶民の所得格差が大きい。20世紀まで車を買えるのは限られた富裕層だけで大多数の庶民は車を買えなかった。車を買うのが富裕層だけなら価格は高くて良いのだが、新興国は道路事情が悪く、ベンツ、BM等の先進国の高級車では快適でなく、雨季には洪水で走れないこともあった。そこで新興国の道路事情でも快適に走れる高級車が求められることになり、トヨタは IMV という新興国専用の高級車を開発して大成功を収めた。本講義の半分は、この大成功を収めたIMVについて説明する。他方で、21世紀に入って以降、庶民層の中にも「安ければ車を買える」人々が現れた。特に、インド、ブラジルで「安い車なら買える人々」が多数を占めるようになり、スズキやドイツのフォルクスワーゲンは低価格車で大きな成功を収めた。しかし、トヨタは低価格車の開発に取り組んだものの苦戦が続いている。本講義のもう半分は低価格帯の動向を説明する。全体を通じてテキストを用いて説明する。<br>【到達目標】アジアの主要国の現状と、そこでのビジネスの狙い目を学びます。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂<br>(2)　同上『トヨタの新興国車IMV』同上 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～①<br>第　2回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～②<br>第　3回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～③<br>第　4回　インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用したLCGC開発の成功と限界～①<br>第　5回　インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用したLCGC開発の成功と限界～②<br>第　6回　スズキ45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～①<br>第　7回　スズキ45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～②<br>第　8回　スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫 ～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～①<br>第　9回　スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫 ～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～②<br>第10回　南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化 ～日系Tier1 の少ない南米でも日系並みを実現～①<br>第11回　南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化 ～日系Tier1 の少ない南米でも日系並みを実現～②<br>第12回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～①<br>第13回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～②<br>第14回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～③<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際関係論** | 担当者 | 福田忠弘 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。<br>【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。<br>【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的、方法<br>第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか<br>第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化<br>第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦<br>第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１<br>第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２<br>第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争<br>第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム<br>第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序<br>第10回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題<br>第11回　国際社会における諸問題２：貧困と開発<br>第12回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題<br>第13回　国際社会における諸問題４：グローバルガバナンス（1）<br>第14回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス（2）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 試験（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較文化** | 担当者 | 小林朋子 |
| | 〔履修年次〕　経済専攻は２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。<br>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような<関係性=コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。<br>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007 年）<br>(2)　池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010 年）他。（授業で随時紹介します） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か<br>第　2回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味<br>第　3回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し<br>第　4回　空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間<br>第　5回　「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界<br>第　6回　女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー<br>第　7回　異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと<br>第　8回　異文化コミュケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか<br>第　9回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史<br>第 10 回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？<br>第 11 回　異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応<br>第 12 回　異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば<br>第 13 回　異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践１<br>第 14 回　異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践２<br>第 15 回　異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケーション」に向けて | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%） | | |

（注）文学科に合同

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アジア事情** | 担当者 | 福田忠弘 |
| | 〔履修年次〕　１，２年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。<br>【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，脱植民地化，国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。<br>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法<br>第　2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか<br>第　3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア<br>第　4回　歴史的形成２：植民地のようす<br>第　5回　歴史的形成３：植民地からの独立<br>第　6回　歴史的形成４：脱植民地化、国民国家建設、開発<br>第　7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア<br>第　8回　東南アジア１：インドシナ三国<br>第　9回　東南アジア２：ベトナム戦争の影響<br>第 10 回　東南アジア３：タイ、ミャンマー、マレーシア<br>第 11 回　東南アジア４：メコン河流域開発<br>第 12 回　東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成<br>第 13 回　アジアにおける協力体制１：ASEAN を中心とする協力１<br>第 14 回　アジアにおける協力体制２：ASEAN を中心とする協力２<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ヨーロッパ経済事情（隔年開講） | 担当者 | 大重　康雄 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する<br>【概要】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国の EU 離脱や難民・移民問題が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。<br>【到達目標】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第５版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント<br>(2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか<br>第　2回　ヨーロッパ統合前史<br>第　3回　ヨーロッパ統合の歴史<br>第　4回　統一通貨ユーロとは<br>第　5回　国際金融危機とＥＵ財政諸問題<br>第　6回　ＥＵ社会が抱える課題<br>第　7回　イギリスとＥＵ経済<br>第　8回　フランスとＥＵ経済<br>第　9回　ドイツとＥＵ経済<br>第10回　その他諸国とＥＵ経済<br>第11回　中・東欧諸国と EU 経済<br>第12回　ＥＵと対外通商関係<br>第13回　欧州通貨と国際金融システム<br>第14回　ヨーロッパ社会と統合の将来について<br>第15回　講義のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 国際経済特講Ⅰ | 担当者 | 村田　秀博 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 授業終了後Ｅメールにて |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義形式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本経済・地域経済のグローバル化と、鹿児島県内中小企業の海外進出、それに伴う貿易取引について<br><br>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で、企業活動を海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとしたり、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、方法論を考え国際感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。<br><br>【到達目標】日本国内特に県内での様々なグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　レジュメ、プリント資料、映像<br>(2)　必要に応じて、随時資料を追加配布する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・外国人労働力受け入れ）<br>第　2回　鹿児島県内中小企業の国際化の現状<br>第　3回　進出国の情勢比較（中国）<br>第　4回　進出国の情勢比較（中国）<br>第　5回　海外知的財産権の保護、県内大学生の海外展開<br>第　6回　外国人労働力の受け入れ、メディカルツアーの誘致<br>第　7回　進出国の情勢比較（台湾・タイ・ベトナム）<br>第　8回　進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）<br>第　9回　進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシア他）<br>第10回　貿易実務（自由貿易協定。TPP・FTA 他）<br>第11回　貿易実務（外国為替・為替相場・先物為替予約）<br>第12回　貿易実務（外貨預金・外貨貸付）<br>第13回　貿易実務（輸入）<br>第14回　貿易実務（輸出）<br>第15回　まとめ、試験 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験５０％＋レポート５０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域経済論** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。<br><br>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。<br><br>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済<br>第　2回　都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階<br>第　3回　都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム<br>第　4回　産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析<br>第　5回　商業地域論：商業形態の発展と変化、中心地理論<br>第　6回　工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散<br>第　7回　農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散、生産者の意思決定<br>第　8回　漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス<br>第　9回　地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差<br>第10回　内発的発展論：定義、事例紹介<br>第11回　地域連携：地域内連携、地域間連携、異業種間連携<br>第12回　都市計画：展開、運用、仕組み<br>第13回　まちづくり：地方分権とまちづくり条例、中心市街地と郊外、景観と緑地<br>第14回　コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域産業政策** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。<br><br>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学ぶが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。<br><br>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標<br>第　2回　政策的要因（1）：日本の国土計画、全国総合開発計画、新全国総合開発計画<br>第　3回　政策的要因（2）：第三次全国総合開発計画、第四次全国総合開発計画、21世紀の国土のグランドデザイン<br>第　4回　地域間格差の現状（1）：人口、産業、所得<br>第　5回　地域間格差の現状（2）：ライフコースと人口移動<br>第　6回　地域間格差の現状（3）：地域社会、生活<br>第　7回　地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併<br>第　8回　地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生<br>第　9回　地域活性化の取り組み事例（1）：大都市地域<br>第10回　地域活性化の取り組み事例（2）：都市地域<br>第11回　地域活性化の取り組み事例（3）：工業地域<br>第12回　地域活性化の取り組み事例（4）：農村地域<br>第13回　地域活性化の取り組み事例（5）：観光業地域<br>第14回　地域の発展を考える：鹿児島を事例に<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 地方自治論（隔年開講） | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地方自治，地方行財政<br><br>【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて，地方自治に関する基本的な概念や理論，制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます(下記，授業スケジュールを参照)。<br><br>【到達目標】上記の概要に示した内容に関する理解を深め，受講者が地方自治，地方行財政について，自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　総務省編『地方財政白書　各年版』日経印刷 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2回　地方自治(1)：地方自治とは何か，地方公共団体の本質的特徴，地方分権が求められる背景等<br>第　3回　地方自治(2)：グローバル化の影響等<br>第　4回　地方自治体の意思決定(1)：首長・役所・議会の関係，国と地方公共団体の関係等<br>第　5回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等<br>第　6回　地方自治体の財源(1)：三位一体の改革，地方債等<br>第　7回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等<br>第　8回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，影響等<br>第　9回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金等<br>第10回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等<br>第11回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等<br>第12回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等<br>第13回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，参考事例の紹介等<br>第14回　住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について<br>第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

部・2部　共通

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 高齢者福祉（隔年開講） | 担当者 | 田口康明 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで連絡、随時対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。<br>【概要】本科目は，本科目は，専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。<br>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　小竹雅子『総介護社会――介護保険から問い直す（岩波新書)』<br>(2)　授業内で随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第１回　ガイダンス　この授業のすすめ方<br>第２回（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策<br>第３回（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義<br>第４回（発表）テキスト「序章：介護問題の社会化」<br>第５回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その１<br>第６回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その２<br>第７回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その１<br>第８回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その２<br>第９回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その１<br>第１０回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その２<br>第１１回（発表）テキスト「第４章　介護保険の使い方」<br>第１２回（発表）テキスト「第５章　介護保険にかかる金」<br>第１３回（発表）テキスト「第６章　なぜ、サービスは使いづらいのか」<br>第１４回（発表）テキスト「第７章　介護保険を問い直すガイダンス　」<br>第１５回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストの各回の箇所を十分読むこと／各回のテキストの指定部分を事前に熟読する | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表　60%，授業中の発言 20%　ファイナルレポート 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **労働法** | 担当者 | 疋田京子 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現のための基礎知識<br>２０１９年４月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。<br>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。<br>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。<br>権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『知らなきゃトラブル！　労働基準関係法の要点』(全国労働基準関係団体連合会)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：「マタハラ」って何？<br>第　2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法との関係<br>第　3回　労働契約の成立：労働者の募集・採用と内定取り消し<br>第　4回　労働法上の「労働者」「使用者」の概念：プロ野球選手は「労働者」？<br>第　5回　労働契約の内容はどうやって決まる？：労働契約と就業規則と労働協約の関係<br>第　6回　労働法の基本原則：労働契約で定めてはいけないことがある<br>第　7回　賃金についてのルール：賃金支払いのルール<br>第　8回　労働時間の基本的ルール（1）：所定労働時間と法定労働時間<br>第　9回　労働時間の基本的ルール（2）：罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか？<br>第10回　労働時間と賃金（1）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？__<br>第11回　労働時間と賃金（2）：変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう<br>第12回　労働時間制の多様化：フレックスタイム制・裁量労働制とは？<br>第13回　年次有給休暇：パートタイム労働者には年休権がない？<br>第14回　ワークライフバランスの実現に向けて：産前・産後休業／育児・介護休業と均等法<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をしっかりとしてください | | |
| 成績評価の方法 | 4回のレポート提出（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域研究特講** | 担当者 | 福田忠弘 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】世界の格差の状況について認識し，貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。<br>【概要】本講義では，さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後，国際機関，国家，地方自治体，市民が主体となった国際協力について概観する。<br>【到達目標】さまざまな行為体が，さまざまなレベルで，多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。<br>(2)　新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローカルな市民社会に向けて』(明石書店，2008年) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法<br>第　2回　世界の現状１：　数値からみる世界の格差<br>第　3回　世界の現状２：グローバリゼーションの進展<br>第　4回　第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について<br>第　5回　途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略<br>第　6回　国際機関による援助１：さまざまな国際機関１<br>第　7回　国際機関による援助２：さまざまな国際機関２<br>第　8回　国家を主体とする援助１：ODAについて（1）<br>第　9回　国家を主体とする援助２：ODAについて（2）<br>第10回　企業による社会活動：CSRを中心に<br>第11回　市民を主体とする援助１：NPOの活動（1）<br>第12回　市民を主体とする援助２：NPOの活動（2）<br>第13回　市民を主体とする援助３：NPOの活動（3）<br>第14回　人間の安全保障<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 試験（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地方自治法** | 担当者 | 山本　敬生 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。<br>【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。<br>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　山下友信他編，『ポケット六法（平成30年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　地方自治の意義　・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨について<br>第　2回　地方公共団体の種類　・地方公共団体の構成要素（住民，区域，法人格），都道府県，市町村について<br>第　3回　地方公共団体の区域・事務　・区域，機関委任事務，法手受託事務について<br>第　4回　住民の権利義務(1)　・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求について<br>第　5回　住民の権利義務(2)　・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求について<br>第　6回　条例と規則(1)　・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力について<br>第　7回　条例と規則(2)　・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項について<br>第　8回　議会(1)　・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，検査権について<br>第　9回　議会(2)　・調査権，請願受理権，定例会，臨時会，議会の運営について<br>第10回　議会(3)　・定足数の原則，会議公開の原則，過半数議決の原則，会期不継続の原則について<br>第11回　執行機関(1)　・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所について<br>第12回　執行機関(2)　・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会について<br>第13回　議会と長との関係　・再議制度，専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散について<br>第14回　地方公共団体と国の関係　・国の関与の手続，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会について<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

# 12　経営情報専攻専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **簿記論Ⅱ** | 担当者 | 宗田健一 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ<br><br>【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。<br><br>【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。<br>渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。<br><br>(2)　●成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　履修登録の確認，現預金取引：テキスト第５章<br>第　2回　商品売買①：テキスト第６章<br>第　3回　商品売買②：テキスト第６章<br>第　4回　売掛金と買掛金：テキスト第７章<br>第　5回　その他の債権と債務：テキスト第８章<br>第　6回　手形：テキスト第９章<br>第　7回　有価証券：テキスト第10章<br>第　8回　固定資産：テキスト第11章<br>第　9回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第12章：<br>第10回　資本金と引出金：テキスト第13章<br>第11回　収益と費用：テキスト第14章<br>第12回　伝票：テキスト第15章<br>第13回　決算と財務諸表（1）：テキスト第16章<br>第14回　決算と財務諸表（2）：テキスト第16章<br>第15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>１年後期：**簿記論Ⅰ**<br>**簿記論Ⅱ**<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

**（注）本科目は会計学総論を済みであることが望ましい。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。**
**テキストの書籍は，本学生協で発注する予定です。●印の本は，前期の会計学総論でも使います。簿記論Ⅰ，Ⅱは同時に受講して下さい。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営管理論** | 担当者 | 竹中啓之 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。<br>【概要】２人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。<br>したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や，組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中，対処している方法について講義していきます。<br>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に配布するプリント<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。<br>第　2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。<br>第　3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。<br>第　4回　組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。<br>第　5回　組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。<br>第　6回　組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。<br>第　7回　他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。<br>第　8回　企業理念と組織文化（1）：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。<br>第　9回　企業理念と組織文化（2）：これまでの組織文化論を概観し、組織管理と文化の関連について考える。<br>第10回　人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。<br>第11回　人的資源管理（2）：これからの人的資源管理の課題について考える。<br>第12回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。<br>第13回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。<br>第14回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営組織論（隔年開講）** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 常時対応（希望者は事前にメール下さい。） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】資本主義企業の組織構造の発展をとその中での労働環境の変化について理解します。<br>**※　社会政策を履修していると理解がしやすくなります。**<br>【概要】講義が対象とする資本主義的企業は、利潤最大化を目的とする組織です。この目的に沿って企業の組織構造が変化しその下での労働環境が発展変化します。講義ではその法則を理解し、また、そこから派生する問題を捉えます。<br>【到達目標】資本主義企業と組織構造の発展、および労働環境についての影響に関する基礎的理解を得る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。レジュメを配布します。<br>(2)　授業内で指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　近代における労働観の分裂について　資本主義の下での労働の特徴について<br>第　3回　資本主義企業の下での労働（1）　資本の運動とその歴史的条件について<br>第　4回　資本主義企業の下での労働（2）　資本の運動と資本主義的労働の特徴<br>第　5回　資本主義企業とイノベーション（1）　イノベーションと資本間競争<br>第　6回　資本主義企業とイノベーション（2）　イノベーション競争がもたらす労働環境の変化<br>第　7回　組織と生産力（1）協業　資本主義的企業組織の基礎としての協業<br>第　8回　組織と生産力（2）分業　分業による生産力の発展と部分労働者化<br>第　9回　組織と生産力（3）機械制大工業　機械制大工業の成立と資本による労働者の包接の進展<br>第10回　「科学的管理」とフォードシステム　テーラーシステム、フォードシステムの登場<br>第11回　労働の人間化要求とボルボ方式　労働の人間化要求とポスト・フォーディズム<br>第12回　ワーク・ライフ・バランス要求とその問題点　ワーク・ライフ・バランス論の問題性<br>第13回　デーセントワークの主張とグローバル化戦略との対立　デーセントワーク要求と資本のグローバル化戦略の対立<br>第14回　デジタル化と労働環境　デジタル化が変化させる労働の未来<br>第15回　まとめ　今何を変えなければならないか | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 参考文献の独習を指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **管理会計論** | 担当者 | 北村　浩一 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する<br>【概　要】<br>管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。<br><br>【到達目標】<br>企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。 | | |
| （1）テキスト<br>（2）参考文献 | （1）西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社<br>（2）特になし | | |
| 授業スケジュール | 第1回　講義ガイダンス・講義の進め方や評価について<br>第2回　予算管理（1）<br>第3回　予算管理（2）<br>第4回　利益管理（1）<br>第5回　利益管理（2）<br>第6回　CVP分析（1）<br>第7回　CVP分析（2）<br>第8回　管理会計とは<br>第9回　分権的組織の管理会計（1）<br>第10回　分権的組織の管理会計（2）<br>第11回　原価概念<br>第12回　原価計算と原価管理<br>第13回　標準原価管理<br>第14回　原価企画とABC原価計算<br>第15回　講義のまとめ<br>（＊　講義の進度によって予定を変更する場合があります） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト(複数回，50%）と期末定期試験（50%）の総計で評価します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **原価計算** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】原価計算入門<br><br>【概要】少子高齢化による人手不足が深刻化しているわが国の企業においては，生産性向上に取り組むこと大きな課題になっています。そうした課題を克服する手段として，企業活動を見える化する原価計算は有用なツールといえます。本講義は，原価計算の基本的な考え方や知識について解説します。<br>※簿記の学習歴，あるいは本講義と並行して自学する意欲を有することが望ましい<br><br>【到達目標】製造業における取引を記帳する能力を養う。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　滝澤ななみ『スッキリわかる 原価計算初級』（平成31年版）TAC出版。ほかに配布プリント。<br>(2)　伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等<br>第　2回　原価計算の基礎概念（1）：原価計算の意義と目的<br>第　3回　原価計算の基礎概念（2）：材料費の計算と記帳①<br>第　4回　原価計算の基礎概念（3）：材料費の計算と記帳②<br>第　5回　原価計算の基礎概念（4）：労務費の計算と記帳<br>第　6回　原価計算の基礎概念（5）：経費の計算と記帳<br>第　7回　原価計算の基礎概念（6）：直接費の計算と記帳<br>第　8回　製品別期間損益計算（1）：原価の集計<br>第　9回　製品別期間損益計算（2）：在庫の原価<br>第10回　製品別期間損益計算（3）：製品別損益計算書の作成<br>第11回　利益の計画と統制（1）CVP分析①<br>第12回　利益の計画と統制（2）CVP分析②<br>第13回　利益の計画と統制（3）予算実績再分析①<br>第14回　利益の計画と統制（4）予算実績再分析②<br>第15回　まとめ：<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>簿記論Ⅰ<br>１年後期：簿記論Ⅱ<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>**原価計算**<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際経営論（隔年開講）** | 担当者 | 野村　俊郎 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 研究室（2号館3階）で対応、いつでもOK，予約不要 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」とはどういうことか～新興国で考える【生産編】～<br><br>【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、②の生産について、新興国で世界一売れているトヨタ IMV を事例に説明する。全体を①新興国でのモノづくり（生産）に関する論点、②グローバル供給態勢、③多車種多仕様生産の問題と解決、の三つに分けて説明する。テキスト第2篇を用いて説明する。なお、テキストは国際経済論で第3篇を、アジア経済論で第1篇を説明するので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。<br><br>【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているかを理解することを通じて、新興国でのモノづくり（生産）について一般的に理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂<br>(2)　同上『トヨタの新興国適応』同上 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　新興国でのモノづくり（生産）に関する論点1回目<br>第　2回　新興国でのモノづくり（生産）に関する論点2回目<br>第　3回　グローバル供給態勢の変化1回目<br>第　4回　グローバル供給態勢の変化2回目<br>第　5回　グローバル供給態勢の変化3回目<br>第　6回　製造拠点の概要①：IMV 生産11カ国12工場調査<br>第　7回　製造拠点の概要②：11カ国12拠点の概要1回目<br>第　8回　製造拠点の概要③：11カ国12拠点の概要2回目<br>第　9回　多車種多仕様生産の問題と解決①：IMV における混流の状況<br>第10回　多車種多仕様生産の問題と解決②：工数差の大きな車を混流しても手待ちのムダが出ない工夫<br>第11回　多車種多仕様生産の問題と解決③：SPS による TPS の進化<br>第12回　多車種多仕様生産の問題と解決④：内部労働市場と純レント<br>第13回　第2世代 IMV へのグローバル切り替え<br>第14回　IMV が開いたグローバル生産の新段階と進化<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営学特講Ⅰ** | 担当者 | 田原　武志，　東　圭太 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール、電話にて適宜対応。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマおよび概要 | 【テーマ】「経営」を学んで人生を豊かに幸せにしよう<br>【概要】経営にかかわるマネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社の経営はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。レポート作成、発表を通して大学生としての論文、レポート作成力を身につけます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学の講義受講の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています<br><br>【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　毎回、次回課題をプリントにて配布。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーリング<br>第　2 回　毎回テーマを決めて講義，レポート，感想発表<br>～　（テーマ例）<br>第14回　「隠れた経営資源に気づく」<br>「目的、目標の設定の重要性を認識する」<br>「継続的改善の仕組みを取り入れる」<br>「企業の果たす社会的責任について認識する」<br>「トレンドを把握する」<br>「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」<br>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」<br>「投機と投資の考察」等々<br><br>第15回　まとめ　試験対策 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習（課題が毎回発表）復習（講義のまとめ）のレポート作成があります。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（25%）、授業での発表（25%）試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較経営論（隔年開講）** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営システムの多様性を知る<br><br>【概要】本講義では、様々な国々の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まず、日本的経営について解説した後に、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営システムを取り上げる。また、授業のなかで適宜グループ・ワークを行い、主体的に課題に取り組んでもらうことで、各国の経営に対する関心を養い理解を深める。<br><br>【到達目標】各国の歴史、政治、経済、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第　2回　株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：各国の経営システムを分析するために必要な基本事項を解説する。<br>第　3回　日本の経営①：日本の経営に関する歴史を振り返り、日本的経営の要点を確認する。<br>第　4回　日本の経営②：日本的経営におけるコーポレート・ガバナンスの変容について考える。<br>第　5回　日本の経営③：日本的生産システムを知る。<br>第　6回　日本の経営④：日本的経営における組織・人的資源管理および経営戦略の特徴を解説する。<br>第　7回　アメリカの経営①：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて考える。<br>第　8回　アメリカの経営②：アメリカ企業の組織・人的資源管理や経営戦略の特徴を解説する。<br>第　9回　グループ・ワーク①：これまでの講義の内容を確認する。<br>第10回　欧州の経営①：イギリスの経営について解説する。<br>第11回　欧州の経営②：フランスの経営について説明する。<br>第12回　欧州の経営③：ドイツの経営について、コーポレート・ガバナンスを中心に説明する。<br>第13回　アジア諸国の経営：アジア諸国の経営について解説する。<br>第14回　グループ・ワーク②その１：これまでの授業の内容を確認する。<br>第15回　グループ・ワーク②その２：これまでの授業の内容を確認する。また、期末テストに関する説明を行う。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークに臨む姿勢等（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **会計情報論** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1，2 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】会計情報から企業社会の諸相を考察する<br><br>【概要】本講義は，担当者が企業の会計情報を分析し，いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは，企業の会計情報を各自で入手し，読解に取り組むことになります。<br><br>【到達目標】会計情報を読解し，企業の収益性・安全性について説明できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを随時配布。<br>(2)　山根節，太田康広，村上裕太郎『ビジネスアカウンティング』(第３版)，中央経済社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等<br>第　2回　会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計<br>第　3回　事例研究①：アパレル企業数社の収益性<br>第　4回　会計情報の読み方（1）：収益性の分析<br>第　5回　会計情報の読み方（2）：成長性の分析<br>第　6回　会計情報の読み方（3）：安全性の分析①<br>第　7回　会計情報の読み方（4）：安全性の分析②<br>第　8回　事例研究②：アパレル企業数社の安全性<br>第　9回　ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法<br>第 10 回　有価証券報告書を読む（1）：有報の読むポイントを知る<br>第 11 回　有価証券報告書を読む（2）：非会計情報から事業の概況を把握する<br>第 12 回　会計情報分析の実践（1）：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析<br>第 13 回　会計情報分析の実践（2）：成長性分析<br>第 14 回　会計情報分析の実践（3）：安全性分析<br>第 15 回　まとめ<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>簿記論Ⅰ<br>１年後期：簿記論Ⅱ<br>財務会計論<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>**会計情報論**<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 中間試験（30%）＋期末レポート（70%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業行動科学（隔年開講）** | 担当者 | 竹中啓之 |
| | 〔履修年次〕　1，２年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。<br>【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。<br>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。<br>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に知る。主要な動機づけ理論を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に配布するプリント<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する<br>第　2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する<br>第　3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する<br>第　4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える<br>第　5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える<br>第　6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える<br>第　7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える<br>第　8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する<br>第　9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する<br>第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する<br>第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する<br>第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する<br>第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える<br>第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営戦略論** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　１・２年いずれも可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する<br><br>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説します。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会における経営戦略のあり方も講義します。<br><br>【到達目標】経営戦略の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、ニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第　2回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。<br>第　3回　経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。<br>第　4回　規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。<br>第　5回　多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。<br>第　6回　M&A と戦略的提携：M&A および戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。<br>第　7回　経験曲線と PLC：PPM の基礎にもなる、経験曲線と PLC について解説する。<br>第　8回　PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。<br>第　9回　経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を確認する。<br>第 10 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における２つの柱について説明する。<br>第 11 回　ポジショニング・アプローチ：ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて解説する。<br>第 12 回　資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチについて説明する。<br>第 13 回　ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論をベースとした、ゲーム論的アプローチについて講義する。<br>第 14 回　学習アプローチ：組織学習論を中心に、競争戦略論における学習アプローチについて解説する。<br>第 15 回　経営戦略と現代社会：競争戦略論の内容を振り返りながら、現代社会との関連性について考える。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業への姿勢等（10%） | | |

**経営情報専攻**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業論** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 常時対応（希望者は事前にメール下さい。） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】資本主義的企業の発展法則を捉え、今日の資本主義を動かす巨大企業の運動とその問題点を考えます。<br>**※　社会政策を履修していると理解がしやすくなります。**<br>【概要】今日世界経済は、巨大企業を中心に運動しています。富める１%が世界の半分の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。その利益のために戦争すら引き起こされます。このような現代社会を考察します。<br>【到達目標】現代資本主義の法則的認識を基礎に、今日生じている様々な社会問題をとらえ、その解決を考える力を養います。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。レジュメを配布します。<br>(2)　授業で紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　巨大企業と世界<br>第　3回　資本の巨大化　（1）資本主義と機械文明<br>第　4回　（2）資本の蓄積（1）　資本蓄積の基本法則と限界と失業者の形成<br>第　5回　（3）資本の蓄積（2）　イノベーションを含む蓄積と資本の自立<br>第　6回　（4）資本の蓄積（3）　相対的過剰人口の諸形態<br>第　7回　（5）利潤と競争　利潤の運動<br>第　8回　（6）商業資本の形成　商業資本の成立と運動<br>第　9回　（7）利子生み資本（1）　利子生み資本の形成とバブル経済の誕生<br>第 10 回　（8）利子生み資本（2）　銀行資本の成立と運動<br>第 11 回　独占資本主義　（1）独占資本の形成と運動　独占資本と独占の運動<br>第 12 回　（2）金融資本と帝国主義　独占資本の運動と国家、世界貿易、植民地<br>第 13 回　日本の企業集団（1）日本資本主義（1）　戦前の日本資本主義の特徴<br>第 14 回　（2）日本資本主義（2）　戦後の日本資本主義の特徴<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 参考文献の独習を指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **財務会計論** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】事例を活用し、財務諸表の社会的役割や作成原理について理解する<br><br>【概要】本講義は，担当者が企業の財務的な物語といわれる財務諸表を読解し，いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは，企業の財務諸表を各自で入手し，読解に取り組むことになります。<br><br>【到達目標】財務諸表を読解し，企業の財政状態・経営成績について説明できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（第11版），有斐閣（変更することがある）。<br>(2)　田中建二『財務会計入門』（第4版）中央経済社。<br>伊藤邦雄『新・現代会計入門』（第2版）日本経済新聞出版社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等<br>第　2回　経済社会における会計の役割：財務会計の位置づけ<br>第　3回　財務会計のシステムと基本原則<br>第　4回　企業の設立と資金調達：必要な資金をどう調達するか<br>第　5回　仕入・生産活動：営業活動のスタートは仕入と生産<br>第　6回　販売活動：売り上げの測定と代金回収<br>第　7回　設備投資と研究開発（1）：有形固定資産<br>第　8回　設備投資と研究開発（2）：無形固定資産<br>第　9回　資金の管理と運用：営業活動をサポートする資金運用活動<br>第10回　国際活動：外貨表示額を日本円に換算する<br>第11回　税金と配当：角栄決算主義と余剰金の配当<br>第12回　財務諸表の作成と公開：会計情報の内容と意味<br>第13回　企業集団の財務報告：グループ全体を統合した情報<br>第14回　財務諸表による経営分析：会計情報の利用法<br>第15回　まとめ<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>１年前期：会計学総論<br>簿記論Ⅰ<br>１年後期：簿記論Ⅱ<br>**財務会計論**<br>２年前期：簿記論Ⅲ<br>原価計算<br>会計情報論<br>２年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **マーケティング論** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ<br><br>【概要】マーケティング論とは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説していきます。さらに、グループ・ワークを適宜取り入れることで、理解を深めていきます。<br><br>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い消費者」になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第　2回　マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。<br>第　3回　グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。<br>第　4回　標的市場の選択：STPについて解説する。<br>第　5回　消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者の購買行動について理解を深める。<br>第　6回　競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。<br>第　7回　グループ・ワーク②：市場・顧客分析と競争分析<br>第　8回　製品戦略：バリュー・ネットワークや製品ミックスなどについて解説する。<br>第　9回　価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。<br>第10回　流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。<br>第11回　流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。<br>第12回　プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスについて説明する。<br>第13回　ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。<br>第14回　企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。<br>第15回　グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツについて考える。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークに臨む姿勢等（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営工学** | 担当者 | 倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>企業などにおける運営業務の科学化<br>【概要】<br>現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。<br>【到達目標】<br>企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：経営工学とは<br>第　2回　生産スケジューリング1：どんな順番で製品を作れば良いのか<br>第　3回　生産スケジューリング2：どんな順番で作業を行えば良いのか<br>第　4回　工程編成：均等に作業を割り当てるには<br>第　5回　プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには<br>第　6回　設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか<br>第　7回　生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか<br>第　8回　作業分析：作業者の動作を分析する<br>第　9回　投資計画1：お金の現在価値と将来価値<br>第10回　投資計画2：プロジェクトの価値<br>第11回　在庫問題：在庫コストを少なくする<br>第12回　評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ<br>第13回　最短経路：一番近い道を探す<br>第14回　配送計画：配達順序を決める<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **応用データ活用** | 担当者 | 倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>リレーショナルデータベースの概念と基本操作<br>【概要】<br>実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のAccessの基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。<br>【到達目標】<br>データベースソフトのAccessを利用して，簡単なシステム開発を行う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：リレーショナルデータベースの概念<br>第　2回　Accessの操作：Accessとは<br>第　3回　Accessの操作：レコードの並べ替え<br>第　4回　Accessの操作：レコードの追加<br>第　5回　Accessの操作：フォームの作成<br>第　6回　Accessの操作：選択クエリの作成<br>第　7回　Accessの操作：さまざまなクエリ<br>第　8回　Accessの操作：アクションクエリ<br>第　9回　Accessの操作：データベースの設計<br>第10回　Accessの操作：リレーションシップの作成<br>第11回　Accessの操作：リレーションシップされたクエリの計算<br>第12回　Accessの操作：レポートの作成<br>第13回　Accessの操作：レポートのアレンジ<br>第14回　Accessの操作：マクロの利用<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | プログラミング | 担当者 | 倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング<br>【概要】<br>プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。<br>【到達目標】<br>・基本的なプログラミング技術を身につける。<br>・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　七条達弘,『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング　第５版』，ソフトバンククリエイティブ<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：プログラミングの概念<br>第　2回　VBA の利用：関数と変数<br>第　3回　VBA の利用：条件分岐<br>第　4回　VBA の利用：オブジェクトの基本<br>第　5回　VBA の利用：繰り返し操作<br>第　6回　VBA の利用：マクロの登録と自作関数<br>第　7回　VBA の利用：マクロの記録<br>第　8回　VBA の利用：文字列と日付関数<br>第　9回　VBA の利用：変数の型宣言と配列<br>第 10 回　VBA の利用：プロシージャとオブジェクト<br>第 11 回　VBA の利用：セル操作の詳細<br>第 12 回　VBA の利用：イベントプロシージャ<br>第 13 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 1<br>第 14 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 2<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 簿記論Ⅲ | 担当者 | 櫛部幸子 |
| | 〔履修年次〕　1，2 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 授業終了時 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】複式簿記の基礎原理から応用論点へ<br><br>【概要】複式簿記の基礎原理・応用論点・記帳技術を、講義と演習により学習する。<br><br>【到達目標】簿記一巡の手続きと基礎原理・応用論点を理解し、財務諸表を作成することができる。損益会計、資産会計、負債会計、および純資産会計について理解することができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス(履修確認　講義計画の説明、簿記理解度チェック等)<br>第　2回　簿記の基本概念：資産・負債・純資産<br>第　3回　資産会計(意義と認識・測定)<br>第　4回　資産会計(流動資産・固定資産・繰延資産)<br>第　5回　負債会計(意義・分類・評価)<br>第　6回　負債会計(金銭債務・引当金)<br>第　7回　純資産会計(意義)<br>第　8回　純資産会計(分類)<br>第　9回　損益会計(収益と費用)<br>第 10 回　損益会計(利益の計算方法)<br>第 11 回　損益会計(商品販売 1)<br>第 12 回　損益会計(商品販売 2)<br>第 13 回　財務諸表(貸借対照表)<br>第 14 回　財務諸表(損益計算書)<br>第 15 回　まとめ（最終的な理解度チェック等） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回、前回の授業内容の小テストを行うため、授業のテーマに関する復習を計 4 時間程度行うこと。復習を中心に、繰り返し演習問題を解くこと。具体的な内容は、毎回授業時に板書にて指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験(70%)と毎回の小テストの結果(30%)。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報論特講** | 担当者 | 岡村俊彦，倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。<br>【概要】<br>ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといったICTを学び，日商PC検定２級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに，コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。<br>【到達目標】<br>実社会において，自らICT業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　FOM出版「日商PC検定試験 知識科目 ２級対策問題集」，プリント<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概要説明：授業概要と評価方法の説明<br>第　2回　ハードとソフト：PC等のICT 機器のハードウェア，ソフトウェアの解説<br>第　3回　コンピュータの内部部品１：CPUとメモリの解説<br>第　4回　コンピュータの内部部品２：ストレージと光学ドライブの解説<br>第　5回　インターネットとネットワーク：TCP/IPの意味と設定方法<br>第　6回　ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法，Wi-Fiの解説<br>第　7回　様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例<br>第　8回　コンピュータが扱う数字１：２進数と16進数<br>第　9回　コンピュータが扱う数字２：負の数と実数<br>第10回　情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号<br>第11回　シミュレーション１：シミュレーションとは<br>第12回　シミュレーション２：エクセルを用いたシミュレーション<br>第13回　意思決定：エクセルのソルバー<br>第14回　データ分析：エクセルのデータ分析<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（75%）＋期末試験（25%） | | |

（注）「情報科学概論」（担当：岡村）を履修済み，もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

# 13　第二部商経学科教養科目
# （教養一般）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **人間と文化** | 担当者 | 遠峯　伸一郎，淺海　真弓，船津　潤，土肥　克己，<br>山口　祐司，山本　敬生，山下　三香子 |
| | 〔履修年次〕　1～3年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期（集中講義）　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】文化という人間の営みを，人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。<br>【概要】県立短大三学科の教員７名がそれぞれの分野から，様々な地域，時代における「文化」を異なる角度から考察します。一週間という集中した期間に，多角的な知見を学ぶことで，受講生にとって，時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。<br>（9/9,10,11,12,13,17,18 の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり，他大学等の学生も受講する）<br>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより，様々な事象を多面的に考察する姿勢を身に着ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　必要に応じて後日指示します。<br>(2)　授業中，必要に応じて指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　現代の英語　英語は世界でどのように使われているか　（遠峯　伸一郎）<br>第　2回　現代の英語　英語のさまざまなかたち　（遠峯　伸一郎）<br>第　3回　世界の民族衣装：気候区分と民族衣装の形態　（淺海　真弓）<br>第　4回　服飾の歴史：西洋と日本の衣服変遷　（淺海　真弓）<br>第　5回　経済活動と文化(1)：文化とは何か、文化的産業の可能性、地域経済と文化等　（船津　潤）<br>第　6回　経済活動と文化(2)：企業と「世界観」、テクノロジーの影響等　（船津　潤）<br>第　7回　アジア草原地帯の歴史（1）：モンゴル，中央アジアの遊牧文化　（土肥　克己）<br>第　8回　アジア草原地帯の歴史（2）：モンゴル，中央アジアの遊牧文化　（土肥　克己）<br>第　9回　技術と経済（1）：産業革命と資本主義　（山口　祐司）<br>第 10 回　技術と経済（2）：ＡＩ、ロボットと資本主義の行方　（山口　祐司）<br>第 11 回　憲法における文化（1）：表現の自由から考える　（山本　敬生）<br>第 12 回　憲法における文化（2）：生存権から考える　（山本　敬生）<br>第 13 回　食と環境：防災意識と食文化の知恵(1)　（山下　三香子）<br>第 14 回　食と環境：防災意識と食文化の知恵(2)　（山下　三香子）<br>第 15 回　まとめ（順番，内容を変更することがあります。） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（２つ）の提出（100%）で評価します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本の歴史** | 担当者 | 永山修一 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」<br><br>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ，十分に意識しながら，南九州から南島に生活した人々の姿を，なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。<br>【到達目標】　身近な歴史に関心を持つことができ，歴史的思考力の一端を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業時に配布<br>(2)　『鹿児島県の歴史』（山川出版社，1999 年）原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　歴史の見方<br>第　2回　資料と史料（文献）<br>第　3回　資料と史料（遺物）<br>第　4回　資料と史料（遺構）<br>第　5回　旧石器時代・縄文時代<br>第　6回　弥生時代・古墳時代<br>第　7回　神話と伝承<br>第　8回　隼人と律令制度<br>第　9回　薩摩国正税帳を読む<br>第 10 回　考古学から見る南九州の奈良時代<br>第 11 回　平安時代の薩摩・大隅（隼人の「消滅」と開聞岳の噴火）<br>第 12 回　平安時代の薩摩・大隅（受領支配と島津荘の成立）<br>第 13 回　奄美諸島の歴史<br>第 14 回　キカイガシマをめぐって<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 特になし | | |
| 成績評価の方法 | 授業時毎の小レポート<br>レポート | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本文学・古典（隔年開講）** | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年次いずれでも可 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】古典文学の主人公像をさぐる<br><br>【概要】日本の古典文学にはさまざまなキャラクターが登場します。そのなかには,英雄というにふさわしい主人公もいれば、現代人の目から見ると主人公らしくない人物もいます。この講義では、『古事記』『日本書紀』の中の神話の英雄、平安時代の王朝物語の主人公、鎌倉時代の軍記物の武人を通して、昔の人が考えた主人公像とはどんなものだったのか考えていきます。<br>【到達目標】古典文学に親しむ。主人公らしさとはどんなものなのか考え、自分の言葉で説明できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　ビギナーズクラシックス『古事記』角川ソフィア文庫,『落窪物語上・下』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシックス『源氏物語』角川ソフィア文庫,ビギナーズクラシックス『とりかへばや』角川ソフィア文庫,ビギナーズクラシックス『平家物語』角川ソフィア文庫 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：初めに。主人公とは何か<br>第　2回　神話の英雄１：素戔嗚尊１<br>第　3回　神話の英雄２：素戔嗚尊２<br>第　4回　神話の英雄３：大国主命１<br>第　5回　神話の英雄４：大国主命２<br>第　6回　伝説の英雄１：倭健命１<br>第　7回　伝説の英雄２：倭健命２<br>第　8回　理想の主人公１：落窪物語<br>第　9回　理想の主人公２：源氏物語１<br>第 10 回　理想の主人公３：源氏物語２<br>第 11 回　男装の麗人？：とりかへばや<br>第 12 回　中世の武人１：平家物語１<br>第 13 回　中世の武人２：平家物語２<br>第 14 回　中世の武人３：平家物語３<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業で取り扱った作品を読む。主人公について考える | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の授業のコメントカード（50%）<br>レポート（50%） | | |

2 部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **こころの科学** | 担当者 | 田中　真理 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3 年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】心理学の視点から，人間の心理に対する理解を深めるとともに，精神的健康を維持増進する方法について学ぶ。<br>【概要】本講義では特に，社会心理学，臨床心理学，発達心理学の観点から，人間の行動や心理の理解，日常生活における精神的健康に関わる知識，さらには青年期以降の発達的視点の習得を目指す。適宜，質問紙や心理検査，ワークなどを用いた体験的な学習を行う。<br>【到達目標】①自己理解や他者理解を深めるための心理学の知識の習得を目標とする。<br>②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　毎時プリントによる資料を配布します。<br>(2)　①無藤 隆他著『心理学（新版）』有斐閣，2018 年<br>②中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第 2 版]―自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版，2016 年<br>③岡本祐子他著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013 年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション<br>第　2回　方法論①：実験法<br>第　3回　方法論②：観察法<br>第　4回　方法論③：調査法<br>第　5回　社会心理学①：自己と社会<br>第　6回　社会心理学②：感情・情動<br>第　7回　社会心理学③：パーソナリティ<br>第　8回　臨床心理学①：ストレス理論<br>第　9回　臨床心理学②：ストレス・マネジメント―理論編<br>第 10 回　臨床心理学③：ストレス・マネジメント―実践編<br>第 11 回　臨床心理学④：ストレス関連障害，うつ病<br>第 12 回　発達心理学①：乳児期～児童期の発達<br>第 13 回　発達心理学②：青年期の発達<br>第 14 回　発達心理学③：成人期以降の発達<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 試験（60%）＋授業内で課される小レポート課題（30%）＋リアクションペーパーの内容（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較文化** | 担当者 | 陳　躍 |
| | 〔履修年次〕　1年2年3年 | 授業外対応 | メール対応（chenyue0205@yahoo.co.jp;） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）<br>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。<br>【到達目標】１中国社会を知る。２中国人を知る。３日本人と中国人との相違を知る。４「日本人」に関して再度認識する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント配布<br>(2)　陳　躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　空気を読まない中国人と空気を読む日本人<br>第　2回　初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人<br>第　3回　店員が神様である中国と客が神様である日本<br>第　4回　イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人<br>第　5回　家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人<br>第　6回　向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人<br>第　7回　なれなれしい中国人とよそよそしい日本人<br>第　8回　中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」<br>第　9回　「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人<br>第10回　無責任なことをかるく言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人<br>第11回　その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人<br>第12回　喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人<br>第13回　核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人<br>第14回　傍若無人な中国人と人の目ばっかり気にする日本人<br>第15回　相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（60%）、レポート（40%）。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アジア文化論** | 担当者 | 川野　和昭 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3年 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。<br>【概要】講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州，南西諸島のフィールドワークのデータを，「竹の文化」という切り口で，両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。<br>【到達目標】「竹の文化」をキーワードに，東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに，日本列島及びアジアにおける鹿児島の文化的アイデンティティを確認する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション……本講義の概要（、目的、方法、試験、評価等）について。アジアの地域的広がりと、民族、文化の多様性について<br>第　2回　焼畑文化の概説……持続的農耕としての焼畑農耕の特徴、特に「竹の焼畑」について<br>第　3回　九州山地、大隅半島東海岸の竹の焼畑……木の森より竹の森を優先して選択する熊本県五木村、鹿児島県南大隅町内詰のタカコバ（竹の焼畑）の具体的展開<br>第　4回　南西諸島の竹の焼畑……竹の森を優先して選択するトカラ列島悪石島の「アワヤマ（粟栽培の竹の焼畑）」の具体的な展開（2001年の実施例とその映像資料）<br>第　5回　ラオス北部の竹の焼畑（1）……木の森より竹の森を優先して選択する竹の焼畑の具体的展開。竹の選択、予定地の選定の方法について<br>第　6回　ラオス北部の竹の焼畑（2）……伐採、火入れ、播種、除草の方法等について<br>第　7回　ラオス北部の竹の焼畑（3）……一次的仮の収穫、本格的収穫、食始めの方法について<br>第　8回　ラオス北部の竹の焼畑（4）……予定地選定から食始めまでの稲作儀礼の具体的展開<br>第　9回　ラオス北部の竹の焼畑（5）……稲種の獲得から各段階の稲作儀礼に関する稲作神話の諸相<br>第10回　ラオス北部の竹の焼畑（6）……稲作作業に関する道具の諸相とそれに関する稲作神話<br>第11回　九州山地、大隅半島東海岸及びトカラ列島とラオス北部の竹の焼畑の比較……選定される竹の種類、伐採から食始めまで<br>第12回　赤米、里芋文化の比較……ラオス北部のカム族が持つ赤米信仰、里芋信仰と南九州のそれとの比較<br>第13回　竹の民具の比較（1）……脱穀具の「巻棒と打ち付け台」、調整具の「箕」について<br>第14回　竹民具の比較（2）……運搬具の竹の背負い籠漁具の竹の筌及び魚籠について<br>第15回　まとめ……南九州の竹の文化を東南アジアの少数民族の文化視点で見ることが、くつものアジアの認識に繋がることを説く。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 学期末筆記試験（６０％）と授業への意欲（４０％） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **日本国憲法** | 担当者 | 山本　敬生 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3年履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。<br>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。<br>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　山下友信他編，『ポケット六法（平成30年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　日本国憲法の意義　・立憲主義，民主主義，自由主義，法の支配の理念について<br>第　2回　憲法概論　・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念について<br>第　3回　基本権総論　・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論について<br>第　4回　包括的権利・参政権　・幸福追求権，プライバシーの権利，法の下の平等，選挙に関する憲法原則について<br>第　5回　精神的自由権(1)　・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則について<br>第　6回　精神的自由権(2)　・表現の自由，検閲の禁止，知る権利，学問の自由，教育の自由について<br>第　7回　経済的自由権　・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権について<br>第　8回　受益権　・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権について<br>第　9回　社会権　・生存権，環境権，教育を受ける権利，労働基本権について<br>第10回　国会(1)　・国権の最高機関の意味，唯一の立法機関の意味，衆議院の優越について<br>第11回　国会(2)　・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能について<br>第12回　内閣　・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任について<br>第13回　裁判所　・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制について<br>第14回　財政　・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，公金支出の禁止について<br>第15回　憲法改正　・憲法改正の手続，憲法改正の限界について | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ライフプランニング** | 担当者 | 瀬尾由美子 |
| | 〔履修年次〕 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける<br>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。<br>【到達目標】<br>・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。<br>・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　「これであなたもひとり立ち」　金融広報中央委員会（無償提供）、プリント<br>(2)　「大学生のための人生とお金の知恵」　金融広報中央委員会（無償提供） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性と考え方<br>第　2回　ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く<br>第　3回　ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性<br>第　4回　社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識<br>第　5回　社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識<br>第　6回　社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する<br>第　7回　所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方<br>第　8回　貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い<br>第　9回　貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い<br>第10回　貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識<br>第11回　貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度<br>第12回　貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識<br>第13回　保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方<br>第14回　保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方<br>第15回　まとめ：第1回から第14回までのまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 講義中ごとの感想（50%）＋期末試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **環境問題** | 担当者 | 相場慎一郎・井余田秀美・野呂忠秀・岡村雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】環境問題を様々な角度から考える<br><br>【概要】化学(井余田)，陸（相場），海（野呂），経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える<br><br>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。<br>(2)　國部克彦（編集），神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』，中央経済社。<br>國部克彦，伊坪徳宏，水口剛『環境経営・会計』，有斐閣。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等<br>第　2回　環境保護行政（1）世界自然遺産と保護地域制度<br>第　3回　環境保護行政（2）希少種の保護と外来種問題<br>第　4回　化学（1）：生活環境と公害<br>第　5回　化学（2）：地球環境汚染<br>第　6回　化学（3）：環境に配慮した生活<br>第　7回　陸（1）：人類の進化<br>第　8回　陸（2）環境問題の歴史<br>第　9回　陸（3）植物と土壌<br>第 10 回　海（1）：海洋生態学と環境保全<br>第 11 回　海（2）：赤潮<br>第 12 回　海（3）：磯焼け<br>第 13 回　経済社会（1）：企業のグローバル化とその影響（1）<br>第 14 回　経済社会（2）：企業のグローバル化とその影響（2）<br>第 15 回　経済社会（3）：企業と公害 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 20 点満点（講師一人あたり）×５ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **かごしまカレッジ教育** | 担当者 | 望月 正道 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 随時（要メール予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】 レポートと話し合いのための日本語力（書く力・話す力）を養成する。<br><br>【概要】「書く力」では，レポートの構成要素と表現を知り，データ・資料に基づいた論証型のレポートを作成する力を，「話す力」では，少人数グループによる話し合いで相手の立場や意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養う。<br>【到達目標】(1) 「話し手」・「聞き手」としてふさわしい態度や話し方･聞き方を学び，実際の話し合いの場で実践できる。<br>(2) グループの話し合いの結果を，簡潔にわかりやすく授業の中で発表できる。<br>(3) レポートの構成要素を理解し，組み立てにそって論理的なレポートが書ける。<br>(4) レポートの構成要素として使われる様々な表現を理解し，レポートの中で使うことができる。<br>(5) 事実と意見を区別し，データや資料・情報に基づいた論証型のレポートが書ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社<br>(2)　国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　導入：「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」紹介，各自自己紹介<br>第　2回　地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く<br>第　3回　漢字：地図の解答確認，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題<br>第　4回　ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で<br>第　5回　調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査<br>第　6回　調査開始　：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告<br>第　7回　調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告<br>第　8回　図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方<br>第　9回　ポスター作成：発表用資料を模造紙に<br>第 10 回　中間報告：口頭発表と質疑<br>第 11 回　レポート：文型・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成<br>第 12 回　レポート：第１回提出<br>第 13 回　レポート：わかりやすく書くには<br>第 14 回　レポート：補充調査<br>第 15 回　レポート：第２回提出とまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | ネット調査，図書館調査，ポスター作成など，毎回授業のなかで指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題レポートの成績(50%)＋中間報告の口頭発表(30%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%) | | |

（注）受講者数は 30 名が上限。希望者多数で抽選となる場合は，「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **かごしま教養プログラム** | 担当者 | 県内８大学の担当教員 |
| | 〔履修年次〕　１年<br>〔単位〕　２単位 | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 前期集中<br>選択（注）　〔授業形態〕　講義 |
| | 【概要】この講義では，鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた，鹿児島を素材にした授業を持ち寄り，「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき，リベラルアーツ教育を行います。３日間の夏期集中授業で，講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ，学生間でよく話し合い，切磋琢磨しながら学習します。<br><br>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化，自然，社会，産業などのテーマについて，内容をよく理解し，自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。<br>②グループ学習により，テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い，グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ，それを適切に発表できる。<br>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について，受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　未定 | | |
| 授業スケジュール | 第　１回　平成３０年度実施概要（平成３１年度については未定。若干の変更の予定があります。）<br><br>日程　：　平成３０年８月２２日（水）～２４日（金）<br>場所　：　鹿児島大学<br>定員　：　県内８大学等の学生　１５０人程度 | | |
| 成績評価の方法 | 未定 | | |

（注）「かごしまカレッジ教育」または「日本語表現法」（日本語日本文学専攻のみ）の履修が条件となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **かごしまフィールドスクール** | 担当者 | 県内１１大学の担当教員 |
| | 〔履修年次〕　１年<br>〔単位〕　２単位 | 〔学期〕<br>〔必修／選択〕 | 前期集中<br>選択（注）　〔授業形態〕　実習 |
| | 【概要】地場産業，農業，商業，文化，観光，環境，暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし，そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし，今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し，今後，地域を活性化していくための方策について考察し，若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。<br>この活動により，鹿児島の本質と問題点を理解し，国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ，あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には，実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し，考察・<br>討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに，発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより，日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。<br><br>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して，同地区の住民生活，商業活動，文化活動等の特徴を把握し，選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。<br>②同地区等のさらなる活性化のために，今後どのような展望が望ましいか，どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え，グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。<br>③実地調査，討論，発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。<br>テーマ別に編成されたグループにおいて，これらの３つの学習目標を達成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　未定 | | |
| 授業スケジュール | 第　１回　平成３０年度実施概要（平成３１年度は未定。若干の変更の予定があります。）<br><br>日程・場所：　①平成３０年８月２８日（火）～３０日（木）　２泊３日<br>霧島市牧園地区<br>②平成３０年８月２５日（土）～２８日（火）　４日間<br>鹿児島市，いちき串木野市，薩摩川内市，出水市，姶良市<br>③平成３０年８月２７日（月）～３０日（木）　３泊４日<br>南さつま市大浦町<br>定員　：　県内８大学等の学生　６０人程度 | | |
| 成績評価の方法 | 未定 | | |

（注）「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | キャリアデザイン | 担当者 | 担当教員 |
| | 〔履修年次〕　２年<br>〔単位〕　１ | 〔学期〕　通年<br>〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】１年生が就職活動を始める前に，卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。<br>【概要】キャリアデザインの授業内容に学生課で行ってきた就活サポートを取り込み，一体的に進路選択，就職活動の進め方などを学習する。「労働・ライフデザイン」，「働く意味を考える」，「進路のイメージの具体化」，「就活パネルディスカッション」など８回の講義をとおして，社会の中で働くことの意味，就職活動の実践的な進め方，学生課の就職支援など学生の進路選択及び就職活動に資する。進路については主な業界だけでなく，編入，公務員，教員及び栄養士それぞれの進路のイメージを具体化することで，間近に迫った進路選択に学生が不安なく臨めるよう必要な事項を学習する。併せて，将来のキャリア形成に有用な事項についても学習する。<br>【到達目標】８回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　適宜紹介 | | |
| 授業スケジュール | ◆７月２４日（水）３限，４限<br>第１回　労働・ライフデザイン<br>第２回　働く意味を考える<br>◆９月１８日（水）及び２０日（金）午後<br>第３回　「ワークショップ」（４グループに分ける）<br>◆特設時間を利用した学生課主催のキャリアサポートのいずれかに参加する。<br>第４回　**＊最低１つに参加する。すべてに参加してもよい（レポートに記載可。ただし，１回分とする）。**<br>・「公務員・教員受験説明会」（１０月９日（水））<br>・「編入学受験説明会」（１０月２３日（水））<br>・「就職活動説明会」（１２月４日（水）第一部）（１２月６日（金）第二部）<br>◆１２月１０日（火）４限，５限<br>第５回　進路のイメージの具体化Ⅰ<br>**「販売業の仕事」，「金融関係の仕事」，「製造業の仕事」，「栄養士の仕事」（いずれか一つに参加）**<br>第６回　進路のイメージの具体化Ⅱ<br>**「情報関連の仕事」，「教職に関する仕事」，「医療事務に関する仕事」，「福祉に関する仕事」（いずれか一つに参加）**<br>◆１月２２日（水）　（特設時間を利用）<br>第７回　「就活パネルディスカッション」<br>◆１月２９日（水）　（特設時間を利用）<br>第８回　「就職活動を始めよう」<br>※2019 年度の講師については適宜掲示する。 | | |
| 成績評価の方法 | ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%） | | |

# 14　第二部商経学科教養科目
# （外国語科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(A) | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜（要予約）およびschoology |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。<br>【概要】<br>本授業では，返答や補足・確認質問など，日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では，各ストラテジーに関して，インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し，コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。<br>【到達目標】<br>①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント配布　指定のファイルを購入してください。<br>(2)　Kehe D. & Kehe D. P. (2007) *Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition*, Pro Lingua Associates. | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Course introduction<br>第　2回　Rejoinders<br>第　3回　Follow-up questions<br>第　4回　Confirmation questions<br>第　5回　Clarifications with question words<br>第　6回　Keeping or killing the conversation<br>第　7回　Expressing probability<br>第　8回　Mid-term exam and review<br>第　9回　Interuppting someone<br>第10回　Eching instructions<br>第11回　Polite requests, responses, and excuses<br>第12回　Getting response<br>第13回　Soliciting details<br>第14回　Responding with details<br>第15回　Course review | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習1時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | Learning Portfolio(60%)，Mid-term(20%)，Final(40%，定期試験期間中)で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅰ(A) | 担当者 | 霧 島　S. 怜 |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】An Understanding of Spoken Sentences and A Guided Mini-conversation. (相手の理解と会話の試み)<br>【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)というヨロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧な英語でジョージ・タウン大学の講義をした者はいません。 例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉学に極めて効果です。…では、楽しく、大生らしく、勉学に励みましょう!!<br>【到達目標】演習内容の 70% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)<br>(2)　又、必要に応じて習熟資料を配布する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。<br>第　2回　U20 Why Learning？　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　4回　U 1 The Guy with Green Hair！　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　6回　U 2 The Shoplifter！　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　8回　U 4 Beauty Contest！英和訳、読解、聞き取り等<br>第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第10回　U 5 Who Pays？　英和訳、読解、聞き取り等<br>第11回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第12回　Spec. IAAE 10　A Horrible Vacation 読解、聞き取り、コミュニケーション練習<br>第13回　Spec. IAAE 14　Thief Begging 読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第14回　Spec. IAAE 23　A Morning Cup of Coffee 読解、聞き取り、コミュニケーション練習<br>第15回　受講生が選択したテーマの学習 (Marriage) 前期学習のまとめ等<br>★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(A) | 担当者 | 石井　英里子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜（要予約）およびschoology |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。<br>【概要】<br>本授業は，返答や補足・確認質問など，日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では，各ストラテジーに関して，インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し，コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。<br>【到達目標】<br>①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント配布　指定のファイルを購入してください。<br>(2)　Kehe D. & Kehe D. P. (2007) *Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition*, Pro Lingua Associates. | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　Course introduction, Making comparisons<br>第　2回　Finding the right word<br>第　3回　Exploring a word<br>第　4回　Correcting someone<br>第　5回　Eliciting confirmation<br>第　6回　Starting and stoppong a conversation<br>第　7回　Beginning and ending a phone call<br>第　8回　Mid-term exam and review<br>第　9回　Expressing opinions<br>第10回　Making a group discussion<br>第11回　Discussion connectors<br>第12回　Summarizing<br>第13回　Conductiong a formal meeting<br>第14回　For fun: Find the strange word<br>第15回　Volunteering an answer | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習1時間以上必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | Learning Portfolio(40%)，中間試験(20%)，期末試験(40%，定期試験期間中)で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 英語Ⅱ(B) | 担当者 | 霧 島　S. 怜 |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 要件のある時は、講義の前後に申し出て下さい |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】A Good Understanding and A Meaningful Mini-Conversation. (正しい理解と意味のあるミニ会話)<br>【概要】学生の皆さん、"Roma meravigliosa non era costruita durante una notte" (素晴しいローマは一夜にしてならず)というヨロッパの有名な諺が教示しているように、「有名な先生」の指導下で一カ月の勉強の後、完璧なウクライナ語でキエフ大学の講義をした者はいません。例えば、将来の仕事や海外での勉学という具体的な目標、更に、素敵な彼氏や彼女、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くため、という動機は外国語の勉学に極めて効果です。…では、大生らしく、楽しく勉学に励みましょう!!<br>【到達目標】演習内容の 75% 以上理解し、身につけること (詳細は演習の冒頭に説明する)。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　Richard R. Day 他, "Impact Issues 1", Pearson Longman, (ISBN 978-962-01-9930-1)<br>(2)　又、必要に応じて習熟資料を配布する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　演習の内容、方法と成績、期末 Test について。ミニ演習。<br>第　2回　U 6 Saying "I love you"　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　3回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　4回　U 8 Cyber Love！　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　5回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　6回　U 10 Fan Worship！　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　7回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第　8回　U 11 'Pet Peeve'　英和訳、読解、聞き取り等<br>第　9回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第10回　U 14 Get A Job　英和訳、読解、聞き取り等<br>第11回　同題　教官と共に コミュニケーション練習<br>第12回　U17 To Have or Have Not　読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第13回　Spec. IAAE 27　The Last Dance　読解、聞き取り、コミュニケーション練習等<br>第14回　Review of the I and II semester　聞き取り、理解、Q&A<br>第15回　受講生が選択したテーマの学習 (Xmas) 前期学習のまとめ等<br>★ 参加者の言語的力量と上達に応じて内容の増減が有り得る。 | | |
| 成績評価の方法 | 予習 40%、演習参加 40%、期末 Test 20% の合計 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **異文化コミュニケーション（英語）** | 担当者 | 英語担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれでも可 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。<br>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。<br>2018 年度の実績<br>日程：９月５日～９月１９日<br>参加者：１６名<br>研修費用：約３５万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の昼食費等）<br>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 事前ガイダンス：<br>特設時間を利用して受講希望者に３～４回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。<br><br>海外研修：<br>9 月を予定（約２週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。<br><br>事後指導：帰国後に総括。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）　とハワイでの研修状況（50%）で評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **異文化コミュニケーション（中国語）** | 担当者 | 中国語担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれでも可 | 授業外対応 | メールで事前連絡すること |
| | 〔学期〕　通年　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。<br>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。<br>中国語を用いて活動するため，あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。<br>※2017 年度中国研修の実績<br>・日程：3 月 3 日（土）～14 日（水）［12 日間］<br>・参加者：12 名（日本語日本文学専攻 8 名，英語英文学専攻 1 名，経営情報専攻 3 名）<br>・費用：約 13 万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など）<br>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | <u>事前指導</u>　受講希望者に 3～5 回行います。<br>［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明，<br>［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明，<br>［3］課題（レポート作成）の指示などです。<br><u>海外研修</u>　休業期間に約 2 週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか，さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。<br><u>事後指導</u>　帰国後に総括します。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(A) | 担当者 | 陳　躍 |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 授業終了後及びメールによる（アドレスは授業中に告知） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】楽しい中国語会話<br>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。<br>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂<br>(2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク<br>②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　我是上海人<br>第　2回　我叫王平<br>第　3回　这里是南京路<br>第　4回　现在几点了?<br>第　5回　今天是星期几?<br>第　6回　你家有几口人?<br>第　7回　没关系（映画）<br>第　8回　香港的夏天热吗?（映画）<br>第　9回　四川菜很好吃（中間テスト）<br>第 10 回　我经常散步<br>第 11 回　牌价是多少?<br>第 12 回　汉语难不难?<br>第 13 回　我没吃蒜<br>第 14 回　我想去超市<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅰ(B) | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>中国語に親しむ<br>【概要】<br>この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。<br>【到達目標】<br>中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・張国璐『いま始めよう！アクティブラーニング』朝日出版社<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習<br>第　2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習<br>第　3回　発音（2）：複母音の導入，練習<br>第　4回　発音（3）：子音の導入，練習<br>第　5回　発音（4）：子音の練習、発音のまとめ<br>第　6回　動詞是の使い方<br>第　7回　姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方<br>第　8回　これまでの復習<br>第　9回　動詞文の導入と練習<br>第 10 回　動詞文の練習、疑問文の練習<br>第 11 回　二つ以上の動詞からなる連動文<br>第 12 回　希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習<br>第 13 回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる<br>第 14 回　全体の復習<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト(40%)　口頭試験(60%)で評価する | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(A) | 担当者 | 陳　躍 |
| | 〔履修年次〕　1 年 | 授業外対応 | 授業終了後及びメールによる（アドレスは授業中に告知） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】楽しい中国語会話<br>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。<br>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂<br>(2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク<br>②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　来我家玩吧<br>第　2回　我打算去旅行<br>第　3回　没看过，听过<br>第　4回　我能参加<br>第　5回　我记一下<br>第　6回　我们边走边谈<br>第　7回　好像借给小李了（中間テスト）<br>第　8回　我不会打日文（映画）<br>第　9回　你知道号码吗？（映画）<br>第10回　什么都可以<br>第11回　被谁偷走了呢？<br>第12回　让你久等了<br>第13回　有没有单间？<br>第14回　我说得不好<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 中国語Ⅱ(B) | 担当者 | 楊　虹 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>中国語によるコミュニケーションに慣れる<br>【概要】<br>この授業では，中国語Ｉを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。<br>【到達目標】<br>学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　陳淑梅・張国璐『いま始めよう！アクティブラーニング』朝日出版社<br>(2)　授業中に紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習<br>第　2回　動詞「有」の導入，練習<br>第　3回　動詞「在」の導入，練習<br>第　4回　「有」と「在」の応用練習<br>第　5回　年月日、曜日の言い方の練習<br>第　6回　助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習<br>第　7回　助動詞を使った文の応用練習<br>第　8回　復習（1）これまでの内容の復習<br>第　9回　形容詞述語文の導入，練習<br>第10回　時刻の言い方の導入，練習<br>第11回　形容詞述語文の応用練習<br>第12回　お金の言い方の導入，練習<br>第13回　量詞の導入，練習<br>第14回　復習（4）：全体の復習<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト（40%）　口頭試験(60%)で評価する | | |

# 15　第二部商経学科教養科目
# （スポーツ・健康科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生涯スポーツ実習 Ⅰ | 担当者 | 西迫　貴美代　、長岡　良治 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 随時　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習Ⅰ)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する<br>【概要】野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル<br>屋内スポーツ：バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど<br>その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法（からだほぐし）を取り入れる。<br>【到達目標】<br>①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する<br>②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる<br>③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる（ルールの理解　審判の方法　簡易ルールの設定） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適時、資料を配付する（ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | | 主に男女別に履修する（出席状況、天候によって男女合同の場合もある　） | |
| | 第　1回<br>～<br>第　3回 | 1.　バドミントン<br>ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する（シングルス、ダブルスゲームの方法） | |
| | 第　4回<br>～<br>第　6回 | 2.　硬式テニス(ミニテニス)<br>フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム　前衛と後衛のポジションの理解) | |
| | 第　7回<br>～<br>第　9回 | 3.　バレーボール、ミニバレーボール<br>アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる | |
| | 第１０回<br>～<br>第１２回 | 4.　バスケットボール<br>シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える） | |
| | 第１３回<br>～<br>第１５回 | 5.　サッカー、ミニサッカー,フットサル<br>シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加状況(60%)＋基礎的な技術(40%) | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 生涯スポーツ実習 Ⅱ | 担当者 | 西迫　貴美代　、長岡　良治 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 随時　nisizako@k-kentan.ac.jp |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習Ⅰ)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する<br>【概要】野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル<br>屋内スポーツ：バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど<br>その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法（からだほぐし）を取り入れる。<br>【到達目標】<br>①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する<br>②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる<br>③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる（ルールの理解　審判の方法　簡易ルールの設定） | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　適時、資料を配付する（ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について）<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | | 主に男女別に履修する（出席状況、天候によって男女合同の場合もある　） | |
| | 第　1回<br>～<br>第　3回 | 6.　バドミントン<br>ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する（シングルス、ダブルスゲームの方法） | |
| | 第　4回<br>～<br>第　6回 | 7.　硬式テニス(ミニテニス)<br>フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム　前衛と後衛のポジションの理解) | |
| | 第　7回<br>～<br>第　9回 | 8.　バレーボール、ミニバレーボール<br>アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる | |
| | 第１０回<br>～<br>第１２回 | 9.　バスケットボール<br>シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える） | |
| | 第１３回<br>～<br>第１５回 | 10.　サッカー、ミニサッカー,フットサル<br>シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加状況(60%)＋基礎的な技術(40%) | | |

# 16　第二部商経学科教養科目
# （情報科目）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（A） | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得<br>【概要】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。<br>【到達目標】<br>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2016』FOM出版<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Wordの画面構成<br>第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換<br>第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存<br>第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動<br>第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）<br>第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について<br>第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択<br>第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更<br>第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書）<br>第10回　図形描画　：図解について、図形描画を使った地図の作成<br>第11回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定<br>第12回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について<br>第13回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成<br>第14回　社外文書作成　：案内状など<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 文字入力・Word操作の復習,知識問題の予習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅠ（B） | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得<br>【概要】<br>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。<br>【到達目標】<br>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的な文書作成能力の習得 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2016』FOM出版<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Wordの画面構成<br>第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換<br>第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存<br>第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動<br>第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）<br>第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について<br>第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択<br>第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更<br>第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書）<br>第10回　図形描画　：図解について、図形描画を使った地図の作成<br>第11回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定<br>第12回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について<br>第13回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成<br>第14回　社外文書作成　：案内状など<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 文字入力・Word操作の復習,知識問題の予習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（A） | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>パソコンの概要を学び、実践的に活用できる知識や技術を習得する。<br>【概要】<br>Windows の概念・基本操作からメール・インターネット・マルチメディアなど、様々なアプリケーションの操作をしながら知識や技術を身につける。<br>【到達目標】<br>ファイル操作、インターネット閲覧・操作（メールを含む）など基本的なアプリケーションの操作が確実にできる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　資料プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　現在のパソコン活用状況の確認<br>第 2回　基本操作（画面の見方・用語の確認）<br>第 3回　メール操作（学内推奨の Web メール）<br>第 4回　メール操作（学内推奨の Thunderbird）<br>第 5回　ファイル・フォルダ操作<br>第 6回　ファイル・フォルダ操作<br>第 7回　資料作成（課題）と、印刷に関する注意事項の確認<br>第 8回　インターネットを活用<br>第 9回　インターネットを活用<br>第 10 回　デジタルカメラの活用<br>第 11 回　画像編集ソフトの活用<br>第 12 回　その他の機能（スキャナの活用、PDF ファイルについて）<br>第 13 回　その他の機能（サウンドレコーダー、ムービー作成について）<br>第 14 回　その他の機能（トラブル解決法について）<br>第 15 回　前期習得操作の確認（実技テスト） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業後、項目ごとのまとめや操作確認を行う | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の操作状況（20%）＋実技テスト（20%）＋レポート提出（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 情報リテラシーⅡ（B） | 担当者 | 瀬戸　博幸 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールにて（アドレスは講義中に告知） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピュータを道具として使える力を持とう<br><br>【概要】現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている。我々はそこに生活し，情報を受信し，情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか，どのようにしたら情報を受信し，発信する道具として使えるのか，演習を通して初歩の初歩から体得しようとするものである。<br><br>【到達目標】そこにコンピュータがあるなら，それを臆せずに使う人になる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)　ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする | | |
| 授業スケジュール | 第 1回　コンピュータを起動しよう。ＯＳってなんだろう<br>第 2回　ビデオを介して，インターネットとは何か理解しよう<br>第 3回　ブラウザの基本的使い方<br>第 4回　Ｗｅｂメールの送受信<br>第 5回　ファイルとフォルダ<br>第 6回　フラッシュメモリを使おう（メールソフトを使ってメールしよう）<br>第 7回　ホームページを作ってみよう<br>第 8回　クリックひとつで次のページへ<br>第 9回　ペイントで描いた画像をページへ<br>第 10 回　携帯から写メール<br>第 11 回　ＨＴＭＬあれこれ<br>第 12 回　ホームページに自分のギャラリー（1）<br>第 13 回　ホームページに自分のギャラリー（2）<br>第 14 回　プレゼンでまとめよう（1）<br>第 15 回　プレゼンでまとめよう（2） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各自のフォルダに学習結果が保存されるので，興味を持って予習し，不明な点を復習する。 | | |
| 成績評価の方法 | メールによる日々の考察（５０%）＋公開したホームページとプレゼン作品（５０%）により評価する | | |

# 17　第二部商経学科専門科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報社会論（隔年開講）** | 担当者 | 杉原　洋 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3いずれも履修可 | 授業外対応 | 原則、授業終了後、非常勤講師控室で。メールアポお願い。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ニュースから現代社会を理解する<br><br>【概要】マスメディアのニュースを素材に、「日本の今・世界の今」を読み解き、出来事の背景や、問われていることの意味、どう私たちに関わるのかなどを、一緒に考えましょう。<br>【到達目標】社会に出るとき・出たときに求められる時事問題の常識や、考える力を身につけることです。自分も社会をかたちづくり、支える１人なのだということに気付くことです。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　特に使用しません。杉原が作成したプリントを配布します。テーマによってはDVDを視聴します。<br>(2)　池上彰『知らないと恥をかく　世界の大問題』角川新書<br>蒲島郁夫『改訂版メディアと政治』有斐閣アルマ<br>その他、授業資料で適宜紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに　授業の目指すもの、授業の進め方など全体的なオリエンテーション<br>第　2回　天皇退位と新元号<br>第　3回　第25回参議院選挙と日本の政治<br>第　4回　日本国憲法を考える１（憲法って何なの）<br>第　5回　日本国憲法を考える２（自民党はどこを変えたいと考えているのだろう）<br>第　6回　日本国憲法を考える３（国民投票の仕組み）<br>第　7回　川内原発と日本のエネルギー問題１（第５次エネルギー基本計画）<br>第　8回　川内原発と日本のエネルギー問題２（核のゴミと過疎地）<br>第　9回　川内原発と日本のエネルギー問題３（ドイツの脱原発政策）<br>第10回　大きく動いている世界１（日本はアメリカとどう付き合えばいいのだろう）<br>第11回　大きく動いている世界２（北朝鮮、韓国、中国とどう向き合うか）<br>第12回　国際貢献とはどういうことか<br>第13回　DVD視聴「アフガンに命の水を」<br>第14回　フェイクニュースとネット言論（新聞、TV、ネット情報の読み方・見方）<br>第15回　まとめ<br>【注意】現代を理解するうえで重要なニュースがあった場合は、授業スケジュールにかかわらず、適宜「ニュース解説」の授業に振り替えます。このシラバスは、あくまでも「計画」であり、変更されることがある、と考えてください。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 【予習】短大図書館などで複数の新聞に必ず目を通してください。読み比べが大事。TVやポータルサイトのニュースを検索・視聴して、現代日本、現代世界でどんなことが起きているかをチェックすること。<br>【復習】授業資料をもとに、講義内容を自分なりに整理し、疑問点や自分の考えがあれば、メールで発信してください。 | | |
| 成績評価の方法 | ・授業始めに配布する「感想シート」と、期末に提示する「期末リポート」を合わせて総合評価します。配分は「感想シート」20%、「期末リポート」80%。<br>・5回（全授業の3分の1）以上、無断欠席した場合（感想シートが提出されていない）は、原則として単位の認定はできません。欠席届は、原則、事前にペーパー（書式は問いません）で提出してください（メール連絡は不可）。突発事故や急病などの場合、事前提出は不可能ですから、事後提出でかまいません。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会哲学（隔年開講）** | 担当者 | 西原　誠司 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール・Ｌｉｎｅで連絡。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】人間とは何か／人間社会とは何かを哲学する<br>【概要】現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものの見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。<br>【到達目標】人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布<br>(2)　種村完司『コニュニケーションと関係の倫理』青木書店<br>鰺坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』（有斐閣新書） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに<br>第　2回　人類社会の起源――人類７００万年の歴史<br>第　3回　日本人の起源を遡る<br>第　4回　縄文社会にみる人類社会の共通原則――ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために<br>第　5回　奴隷制社会にみる人間性――スパルタクスの蜂起　貴族と奴隷どちらが人間的か<br>第　6回　封建社会の恋――近松門左衛門と『曽根崎心中』<br>第　7回　王侯貴族の恋――『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット<br>第　8回　日本の近代と明治維新――坂本龍馬にみる近代的人格の誕生<br>第　9回　明治維新と日本資本主義①――産業革命の光と影　富岡製糸<br>第 10 回　明治維新と日本資本主義②――産業革命の光と影　あゝ野麦峠<br>第 11 回　現代資本主義の光と影　夫はなぜ死んだのか　過労死認定の厚い壁<br>第 12 回　キューブラー・ロスと終末期医療／最後のレッスン　死のまぎわの真実<br>第 13 回　脳梗塞からの“再生”　免疫学者・多田富雄の闘い<br>第 14 回　私たち抜きに私たちのことを決めないで　初期認知症を生きる<br>第 15 回　おわりに――言葉遊びで短所を笑おう | | |
| 授業外学習(予習・復習) | **予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみること。配布プリントをみて復習をする。** | | |
| 成績評価の方法 | 授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出 50%）および筆記試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。<br>【概要】<br>経済とは、経済学の役割（第１～２回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第３～７回）。マクロ経済学の基礎理論（第８～１４回）。<br>【到達目標】<br>経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　マンキュー，Ｎ・グレゴリー（2014）『マンキュー入門経済学［第２版］』東洋経済新報社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　授業ガイダンス、経済とは何か<br>第　2回　経済学の役割<br>第　3回　ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給<br>第　4回　ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策<br>第　5回　ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性<br>第　6回　ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場<br>第　7回　ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ<br>第　8回　マクロ経済学の基礎（1）ＧＤＰの測定<br>第　9回　マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション<br>第 10 回　マクロ経済学の基礎（3）経済成長<br>第 11 回　マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム<br>第 12 回　マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割<br>第 13 回　マクロ経済学の基礎（6）外国貿易<br>第 14 回　マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ<br>第 15 回　全体のまとめ、テスト対策 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **行政法** | 担当者 | 山本　敬生 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。<br>【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約等の行政の行為形式論，行政上の義務履行確保制度，行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。<br>【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　山下友信他編，『ポケット六法（平成 30 年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　法律による行政の原理　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則について<br>第　2 回　行政立法・行政計画　・法規命令（委任命令，執行命令），行政規則，行政計画について<br>第　3 回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力について<br>第　4 回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，瑕疵の治癒と転換について<br>第　5 回　行政行為(3)　・行政裁量，裁量行為，羈束行為，比例原則，平等原則について<br>第　6 回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政について<br>第　7 回　行政上の義務履行確保制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政罰について<br>第　8 回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為の手続について<br>第　9 回　行政不服審査法　・審査請求，異議申し立て，再審査請求，教示について<br>第 10 回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，取消訴訟，事情判決，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議について<br>第 11 回　行政事件訴訟法(2)　・処分性，原告適格，法律の保護する利益説，保護に値する利益説について<br>第 12 回　行政事件訴訟法(3)　・狭義の訴えの利益，無効等確認訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟について<br>第 13 回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権について<br>第 14 回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件について<br>第 15 回　損失補償　・奈良県ため池条例事件，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間について | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済政策（隔年開講）** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　1，2，3年 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メール連絡してください。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「課題先進国」と言われる日本の将来にとって，どのような政策が必要なのかを考えます。<br>【概要】人口減少社会への転換によって，これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度の再構築が迫られています。日本が抱えるさまざまな課題を採り上げ，受講者とともに将来の制度設計について考えていきます。<br>【到達目標】<br>日本の課題について関心を持ち，さまざまな考え方やアプローチを踏まえて，自分自身で解決策を考える視点を持つこと。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　千葉忠夫『格差と貧困のないデンマーク－世界一幸福な国の人づくり』ＰＨＰ研究所<br>高岡望『日本はスウェーデンになるべきか』ＰＨＰ研究所<br>山崎亮『まちの幸福論－コミュニティデザインから考える』ＮＨＫ出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　ガイダンス：　講義の目的・進め方<br>第　2 回　経済成長を考える：　経済成長は善か悪か必要悪か，経済成長のための政策とは<br>第　3 回　財政再建を考える(1)：　財政再建は必要なのか，社会保障と税の一体改革とは<br>第　4 回　財政再建を考える(2)：　消費税増税の課題，税制の課題は何か<br>第　5 回　社会保障の将来を考える(1)：　国は，誰をどこまで救うべきなのか，公平の基準，平等の考え方<br>第　6 回　社会保障の将来を考える(2)：　弱者救済のための政策　生活保護制度の課題とは<br>第　7 回　社会保障の将来を考える(3)：　現役世代のための社会保障の充実策とは<br>第　8 回　雇用の将来を考える(1)：　非正規雇用と正規雇用の格差，正規雇用の男女間格差，格差解消の方策とは<br>第　9 回　雇用の将来を考える(2)：　若者の雇用政策には何が必要か，高齢者の雇用政策の課題とは<br>第 10 回　地域経済の将来を考える(1)：　人口減少と地域経済，大都市圏集中と地方経済の空洞化<br>第 11 回　地域経済の将来を考える(2)：　中央集権から地域主権へ，道州制は何を目指そうとしているのか<br>第 12 回　地域経済の将来を考える(3)：　地域経済を支える産業政策の課題とは<br>第 13 回　地域経済の将来を考える(4)：　農業の再生には何が必要か<br>第 14 回　地域経済の将来を考える(5)：　地域社会の未来のため何が必要か<br>第 15 回　まとめ（授業評価アンケートの実施，期末レポートの提出） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を十分行ってください。授業で採り上げたテーマに関連する報道や論説に触れ，視点や考えをさらに深めてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会政策** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 常時対応（メールによるアポイントメント必要） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】貧困・格差・男女差別・職場ハラスメントの発生原因をさぐる<br><br>【概要】　貧困や格差、劣悪な労働環境は、偶然の産物ではなく、その背後にはそれを成立される法則が存在しています。授業ではそれを解明し、改善のための手段も考えます。ベーシックな科目なので、できれば１・２年次に履修して下さい。<br>【到達目標】労働をめぐる社会問題に対して関心を持ち、その解決のために社会を分析する基礎的な力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。レジュメを配布します。<br>(2)　授業の中で指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　資本主義と労働（1）　労働と価値<br>第　3回　資本主義と労働（2）　価値と貨幣<br>第　4回　資本主義と労働（3）　価値と資本<br>第　5回　資本主義と労働（4）　賃労働と資本<br>第　6回　賃金（1）　賃金形態<br>第　7回　賃金（2）　時間賃金<br>第　8回　賃金（3）　出来高賃金<br>第　9回　労働時間（1）　労働時間の延長理由（1）剰余労働と労働日<br>第 10 回　労働時間（2）　イノベーションがもたらすもの<br>第 11 回　資本主義的生産様式の諸結果　労働者の不安定化と資本による労働の包接<br>第 12 回　標準労働日を巡る資本・賃労働の闘争　労働日の長さをめぐる対立と闘争<br>第 13 回　社会政策と国家（1）　国家の本質について<br>第 14 回　社会政策と国家（2）　社会政策の本質について<br>第 15 回　日本の労働問題を考えるために | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 参考文献の独習を指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **民法** | 担当者 | 疋田京子 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】民法入門<br>商法や労働法など市場経済の一般法であり、契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法である民法を知る。<br>【概要】明治 29 年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。<br>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは<br>第　2回　民法の基本構造：財産法と家族法<br>第　3回　法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定<br>第　4回　法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則<br>第　5回　成人年齢が 18 歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力<br>第　6回　父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権利能力・意思能力・行為能力<br>第　7回　権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全<br>第　8回　権利の対象とすることができるのは？：権利の客体／物の概念<br>第　9回　善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度<br>第 10 回　契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件<br>第 11 回　契約どおりにならなかったら？：契約違反とその解決方法<br>第 12 回　言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力<br>第 13 回　損害賠償が求められる場合とは：不法行為<br>第 14 回　「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習に重点をおいて、よく理解できなかったところを質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | ４回のレポート提出（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **商法** | 担当者 | 河野総史 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了後またはメールにて対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>商法分野のうち、会社法の基礎知識<br>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが、本講義においては会社法分野の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である企業についての理解を深めることを目的とする。<br>【到達目標】<br>株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎を身に付けることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　指定しない（レジュメを配布する）<br>(2)　適宜指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義ガイダンス　民法と商法<br>第　2回　会社法総論<br>第　3回　会社の種類<br>第　4回　株式①（株式の種類等）<br>第　5回　株式②（株式の譲渡および譲渡制限等<br>第　6回　株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）<br>第　7回　株式④（株式併合・分割・無償割当等）<br>第　8回　資金調達①（会社設立時）<br>第　9回　資金調達②（募集株式の発行等）<br>第 10 回　資金調達③（株式以外の資金調達手段）<br>第 11 回　機関①（機関総論）<br>第 12 回　機関②（株主総会）<br>第 13 回　機関③（取締役・取締役会）<br>第 14 回　機関④（監査役・会計参与・会計監査人）<br>第 15 回　機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社）　総まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は不要。復習を徹底して小テストに備えること。小テストについての詳細はガイダンス時に説明する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末テスト 80 パーセント、小テスト 20%とし、全体で６０%以上を合格とする。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **産業心理学** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ<br>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。<br>【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布，Web でも公開<br>(2)　なし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概要説明<br>第　2回　人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質<br>第　3回　記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用<br>第　4回　ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則<br>第　5回　ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介<br>第　6回　職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策<br>第　7回　仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類<br>第　8回　人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係<br>第　9回　ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例<br>第 10 回　広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム<br>第 11 回　販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理<br>第 12 回　販売，印象管理：セールステクニックと印章管理<br>第 13 回　人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策<br>第 14 回　こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **会計学総論** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】会計学という学問領域を道案内し，複式簿記会計の基礎力を涵養する<br><br>【概要】　本講義を開講する目的はおおよそ次の二つです。<br>① 財務会計の基礎知識と複式簿記の仕組みを理解すること<br>② 会計科目の相互の関連を解説すること<br>本講義では，商経学科で開講されている簿記会計科目である「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算」「会計情報論」などの科目群の関係を簡単に紹介するとともに，簿記会計の基礎知識をできるだけ具体的な事例を用いて解説し，基礎力の定て解説し，基礎力の定着を図ります。また，受講後も会計科目について円滑に学習を継続できるように指導します。<br><br>【到達目標】会計学という学問領域の全体像をつかみ，複式簿記会計の基礎を理解すること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　永野則雄『ケースブック会計学入門』（第３版），新世社（変更することがある）。<br>(2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。<br>田中靖浩『会計の世界史―イタリア，イギリス，アメリカ　500 年の物語』日本経済新聞出版社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画，会計科目の全体像についての説明<br>第　2回　会計とはなにか：情報提供活動としての会計<br>第　3回　複式簿記会計の歴史（1）：簿記と会社の誕生<br>第　4回　複式簿記会計の歴史（2）：財務会計の歴史<br>第　5回　会計の仕組みと約束事（1）：複式簿記会計の基本原理<br>第　6回　会計の仕組みと約束事（2）：会計の前提と規則<br>第　7回　財務諸表の作成原理（1）：貸借対照表と損益計算書<br>第　8回　財務諸表の作成原理（2）：財産計算と損益計算の基準<br>第　9回　財務諸表の読み方（1）：収益性分析<br>第 10 回　財務諸表の読み方（2）：安全性分析<br>第 11 回　経営管理のための会計（1）：CVP 分析<br>第 12 回　経営管理のための会計（2）：予算と実績<br>第 13 回　財務諸表監査と会計職業：公認会計士の使命と役割<br>第 14 回　納税と会計職業：税理士の使命と役割<br>第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>２年前期：**会計学総論**<br>簿記論Ⅰ<br>２年後期：簿記論Ⅱ<br>財務会計論<br>３年前期：原価計算<br>会計情報論<br>３年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 中間レポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

（注）本科目と簿記論Ⅰを同時に履修することが望ましい。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **簿記論Ⅰ** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】商業簿記の基礎Ⅰ<br><br>【概要】簿記を初めて学ぶ学生を対象に，簿記論Ⅱと合わせて日商簿記検定３級レベルの内容を学習します。<br><br>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br>渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br>(2)　滝澤ななみ『スッキリわかる 日商簿記３級』（平成 30 年版），TAC 出版。<br>神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　履修登録の確認，講義概要の説明：テキスト第１章<br>第　2回　複式簿記の歴史：簿記と会社の誕生①<br>第　3回　複式簿記の歴史：簿記と会社の誕生②<br>第　4回　仕訳と転記：テキスト第２章<br>第　5回　仕訳帳と元帳：テキスト第３章<br>第　6回　試算表の作成：テキスト第４章<br>第　7回　帳簿の締切りと財務諸表の作成：テキスト第４章<br>第　8回　複式簿記の実践（1）：ビジネスゲームで複式簿記を実践する<br>第　9回　複式簿記の実践（2）：ビジネスゲームで複式簿記を実践する<br>第 10 回　現金と預金：テキスト第５章<br>第 11 回　商品売買（1）：テキスト第６章<br>第 12 回　商品売買（2）：テキスト第６章<br>第 13 回　売掛金と買掛金（1）：テキスト第７章<br>第 14 回　売掛金と買掛金（2）：テキスト第７章<br>第 15 回　まとめ<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>２年前期：会計学総論<br>**簿記論Ⅰ**<br>２年後期：簿記論Ⅱ<br>財務会計論<br>３年前期：原価計算<br>会計情報論<br>３年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

（注）本科目と会計学総論を同時に履修することが望ましい。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営学総論** | 担当者 | 竹中啓之 |
| | 〔履修年次〕 1、2、3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。<br>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。<br>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 授業中に配布するプリント<br>(2) 講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。<br>第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。<br>第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。<br>第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。<br>第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。<br>第 6回 人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。<br>第 7回 人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。<br>第 8回 人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。<br>第 9回 人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。<br>第 10 回 日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。<br>第 11 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。<br>第 12 回 企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。<br>第 13 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。<br>第 14 回 企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。<br>第 15 回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報科学概論** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕 1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学全般の基礎知識を学ぶ<br>【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。<br>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０％以上理解できる ・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) プリントを配布，Web でも公開<br>(2) 初心者向け情報関連雑誌 | | |
| 授業スケジュール | 第 1回 概要説明<br>第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割<br>第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割<br>第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度<br>第 5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み<br>第 6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法<br>第 7回 IT セキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策<br>第 8回 インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方<br>第 9回 周辺機器１：モニタ，光学ドライブなど周辺機器の役割，仕組み<br>第 10 回 周辺機器２：プリンタ，ハブ，ルータなど周辺機器の役割，仕組み<br>第 11 回 クラウド，ビッグデータ，ＩｏＴ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開<br>第 12 回 スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方<br>第 13 回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法<br>第 14 回 インターネットの国際比較：普及率，使用法と地域，国の情勢<br>第 15 回 まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **文書作成実習** | 担当者 | 永仮ゆかり |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 講義終了時および必要に応じてメール |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得<br>【概要】<br>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。<br>【到達目標】<br>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得）<br>＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）<br>第　2回　検定対策（3級）　：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野）<br>第　3回　検定対策（3級）　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）<br>第　4回　検定対策（3級）　：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）<br>第　5回　検定対策（3級）　：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　6回　検定対策（3級）　：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野）<br>第　7回　検定対策（3級）　：課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野）<br>第　8回　検定対策（3級）　：文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）<br>第　9回　検定対策（3級）　：文書作成3級検定模擬問題演習<br>第10回　Excelデータの利用　：Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み、差し込み印刷の設定<br>第11回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など）<br>第12回　報告書の作成　：課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）<br>第13回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）<br>第14回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **統計学** | 担当者 | 倉重賢治 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>基本的な統計解析を学ぶ<br>【概要】<br>現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。<br>【到達目標】<br>・基本的なデータ処理を行う<br>・相関関係について理解する<br>・検定について理解する | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：統計学とは<br>第　2回　データの基本処理：平均値，度数分布<br>第　3回　データの基本処理：分散，標準偏差<br>第　4回　データの基本処理：標準正規分布<br>第　5回　データの基本処理：正規分布と偏差値<br>第　6回　データの基本処理：確率分布<br>第　7回　統計解析：相関係数<br>第　8回　統計解析：回帰直線<br>第　9回　統計解析：順位相関<br>第10回　統計解析：カイ２乗検定<br>第11回　統計解析：平均値の推定<br>第12回　統計解析：平均値の検定<br>第13回　統計解析：分散分析<br>第14回　統計解析：エクセルを用いた統計解析<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **応用文書処理** | 担当者 | 岡村 俊彦 |
| | 〔履修年次〕　2，3年 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ<br>【概要】1）　自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する<br>2）　ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。<br>3）　提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する。<br>※ワード，エクセルがある程度使える中上級者向けの授業です<br>【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる　・わかりやすいドキュメントを作成する　・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布，Web でも公開<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　概要説明<br>第　2回　自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成<br>第　3回　自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合<br>第　4回　自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合<br>第　5回　自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ<br>第　6回　ホームページ作成１：　HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入<br>第　7回　ホームページ作成２：課題設定とページ作成<br>第　8回　ホームページ作成３：資料収集とページ作成<br>第　9回　ホームページ作成４：ページ公開<br>第10回　提案書作成１：インターネットによる費用情報検索<br>第11回　提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書<br>第12回　提案書作成３：プレゼン資料の作成<br>第13回　提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ<br>第14回　提案書作成５：プレゼンと評価<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（３つの課題を総合的に評価） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ＰＣデータ活用** | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用<br>【概要】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。<br>【到達目標】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　習熟度確認アンケート　Excel の起動と画面の確認　文字入力の確認<br>第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認<br>第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用<br>第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線<br>第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）<br>第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）<br>第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）<br>第　8回　各関数を利用した実習問題<br>第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）<br>第10回　円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）<br>第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）<br>第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能<br>第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか）<br>第14回　データの集計（ピボットテーブル）<br>第15回　前期のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（60%）＋小テスト（30%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣデータ活用実習 | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得<br>【概要】<br>前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。<br>【到達目標】<br>知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認<br><br>☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　実教出版編修部　30 時間でマスター　Excel2016（Windows10 対応）　実教出版株式会社<br>(2)　プリント | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　前期授業の復習　知識科目問題<br>第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題<br>第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題<br>第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題<br>第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題<br>第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題<br>第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題<br>第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題<br>第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）<br>第 10 回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題<br>第 11 回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題<br>第 12 回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題<br>第 13 回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題<br>第 14 回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題<br>第 15 回　後期のまとめ　知識科目問題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題や宿題の提出状況（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣアプリケーション実習（Ａ） | 担当者 | 口脇淳子 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | 授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>アプリケーションソフトを活用して様々な資料を作成する。<br>【概要】<br>３つのアプリケーションソフト（PowerPoint・KompoZer・Access）の基本操作を習得し、それぞれの目的に応じた資料を作成しパソコン活用の幅を広げる。<br>【到達目標】<br>各アプリケーションソフトで課される資料（作品）を完成させる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　資料プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明<br>第　2回　プレゼンテーション作成：Microsoft Office PowerPoint の操作説明<br>第　3回　プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成<br>第　4回　プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成<br>第　5回　プレゼンテーション作成：課題に基づいて各自作成<br>第　6回　プレゼンテーション　発表<br>第　7回　ホームページ作成：KompoZer の操作説明（ページ作成）<br>第　8回　ホームページ作成：KompoZer の操作説明（タグ・リンク・CSS 設定）<br>第　9回　ホームページ作成：課題に基づいて各自作成<br>第 10 回　ホームページ作成：課題に基づいて各自作成<br>第 11 回　ホームページ作成：課題に基づいて各自作成<br>第 12 回　データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明（テーブルの作成）<br>第 13 回　データベース作成：Microsoft Office Access の操作説明（フォーム・クエリ・レポートの作成）<br>第 14 回　データベース作成：課題データベースの作成<br>第 15 回　データベース作成：課題データベースの作成 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 計画的に作成できるよう授業前に資料の準備や基本操作の確認を行う | | |
| 成績評価の方法 | 授業内での操作状況（10%）＋各アプリケーションの課題提出（９０%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | ＰＣアプリケーション実習（Ｂ） | 担当者 | 瀬戸　博幸 |
| | 〔履修年次〕　１年 | 授業外対応 | メールにて（アドレスは講義中に告知） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】コンピュータを道具として使える力を持とう<br><br>【概要】パソコンは非常に有効な機械であり，ＯＳの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今，特に Web ブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこで JavaScript を用いて Web ブラウザを制御する実習を通して、アプリケーションについて考えて みることにする。<br><br>【到達目標】各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか理解し，積極的に活用しようとする人になる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)　ホームページに紹介されている JavaScript の記事を参考資料とする | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ホームページにアニメーションを取り入れよう（オリエンテーション）<br>第　2回　JavaScript の紹介（1）HTML に JavaScript を組み入れる<br>第　3回　JavaScript の紹介（2）繰り返しの処理はどのように行われるのか<br>第　4回　JavaScript の紹介（3）ソースにコメントをつけよう<br>第　5回　JavaScript の紹介（4）画像の位置を制御<br>第　6回　JavaScript の紹介（5）画像を動かしてみよう<br>第　7回　JavaScript の紹介（6）簡単なゲームにしてみよう<br>第　8回　JavaScript の紹介（7）簡単なゲームにしてみよう（その２）<br>第　9回　自分でやってみよう（1）構想<br>第10回　自分でやってみよう（2）作画<br>第11回　自分でやってみよう（3）アニメーション化<br>第12回　自分でやってみよう（4）アニメーション化<br>第13回　自分でやってみよう（5）アニメーション化<br>第14回　自分でやってみよう（6）ホームページで公開<br>第15回　まとめ アプリケーションソフトって何だろう | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 各自のフォルダに学習結果が保存されるので，興味を持って予習し，不明な点を復習する。 | | |
| 成績評価の方法 | メールによる日々の考察（５０％）＋公開した作品（５０％）により評価する | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 日本経済論 | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本経済<br><br>【概要】主として明治から現在までの日本の産業政策と構造改革について講義します(下記，授業スケジュールを参照)。<br><br>【到達目標】日本経済の特質と課題，そして日本経済が過去の歴史や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め，日本経済や経済政策について主体的に考察できるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　三和良一『概説日本経済史　近現代　(第３版)』東京大学出版会<br>内閣府『平成 30 年度　年次経済財政報告』 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等<br>第　3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等<br>第　4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950 年代前半の産業政策等<br>第　5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等<br>第　6回　行政指導について：勧告操短，企業の反発等<br>第　7回　開放体制への移行：IMF8 条国への移行，産業再編等<br>第　8回　1970 年代の日本経済：2 度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等<br>第　9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き，現在の状況等<br>第10回　1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等<br>第11回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等<br>第12回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等<br>第13回　構造改革：構造改革の特徴・本質等<br>第14回　構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識，構造改革下の福祉改革の内容と特徴等<br>第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義前後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ，検討すること，普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目することを勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **財政学** | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政の基礎的な制度について，内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること<br><br>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で，それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは，財政民主主義という財政制度の根幹，経済における公共部門と民間部門の関係，歴史的推移，そして，グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めることになります。この講義を受講することで，経済学等で学んだマクロ経済の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また，財政は，政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので，他の科目では触れることが少ない政治の経済に対する影響に関しても見識を高めることができるはずです。<br><br>【到達目標】財政の基礎的な制度について理解し，説明できるようになること，実際の政府の活動について分析・評価できるようになること，マクロ経済の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005 年)<br>植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016 年)<br>宇波弘貴編著『図説　日本の財政　各年度版』東洋経済新報社 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2 回　財政(1)：財政の定義，財政学の特徴，政府に対する評価の揺れ等<br>第　3 回　財政(2)：市場の失敗，財政民主主義と制度化に必要な原則等<br>第　4 回　予算(1)：定義，役割，政府と議会の役割，予算原則等<br>第　5 回　予算(2)：予算の種類，特別会計と「埋蔵金」，改革の方向等<br>第　6 回　経費(1)：定義，主要な分類，経費膨張の法則，転位効果等<br>第　7 回　経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等<br>第　8 回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等<br>第　9 回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等<br>第 10 回　公債(1)：定義，民間債務・租税との対比，公債の種類等<br>第 11 回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等<br>第 12 回　財政投融資：定義，運用対象，批判，2001 年度の改革，今後の展望等<br>第 13 回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等<br>第 14 回　財政改革を考える：社会の変化と財政，財政危機とは，財政改革で求められる視点等<br>第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数，加えて日本関連だけでなく，諸外国関連のニュースについても)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **農業経済論** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。<br><br>【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、農業地域、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。<br><br>【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標、表面化している食料・農業・農村の問題提起<br>第　2回　農業の基礎：基本的知識<br>第　3回　世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産<br>第　4回　日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開<br>第　5回　日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法<br>第　6回　日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換<br>第　7回　農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通<br>第　8回　農業保護政策：国内市場、農産物貿易<br>第　9回　農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化<br>第 10 回　農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業<br>第 11 回　農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法<br>第 12 回　高付加価値化と安全性：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、六次産業化、農商工連携、GAP<br>第 13 回　農村空間の商品化：農村景観、地産地消、観光農園、農産物直売所<br>第 14 回　都市住民の農業：市民農園、体験農園、自家菜園<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **金融論** | 担当者 | 内田昌廣 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | いつでも対応しますので，メールで連絡してください。 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>金融の仕組みに関する基礎知識を習得するとともに，金融が経済に及ぼす影響など幅広い視野を養います。<br>【概要】金融の役割や金融機関が果たしている機能から，金融業界が直面している課題や金融危機の原因や影響まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学習し，社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。<br>【到達目標】<br>金融の基本的な知識を習得し，金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　川西諭・山﨑福寿『金融のエッセンス』有斐閣<br>杉山敏啓編『実務入門　改訂版　金融の基本教科書』日本能率マネジメントセンター | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　　序論：お金とは何か？　金融とは何か？<br>第　2回　銀行の役割(1)：　決済の仕組み（内国為替，手形，外国為替）<br>第　3回　銀行の役割(2)：　間接金融の仕組み，預金金利・貸出金利の決定方法，銀行の信用創造機能<br>第　4回　銀行の役割(3)：　貸出形態，貸出審査，信用補完（担保・保証）<br>第　5回　銀行の役割(4)：　新しい貸出手法（動産担保融資，知的財産担保融資，リバースモーゲージ・ローン）<br>第　6回　銀行の役割(5)：　地域金融機関の取り組み（地域密着型金融）<br>第　7回　銀行の役割(6)：　金融機関に対する規制，預金者保護のための制度<br>第　8回　証券会社の役割(1)：　直接金融の仕組み，株式の仕組み，株式市場の仕組み，株式上場の意義<br>第　9回　証券会社の役割(2)：　債券の仕組み，証券会社の業務，証券市場に対する規制，投資家保護のための制度<br>第 10 回　保険会社の役割(1)：　保険の仕組み，生命保険と損害保険<br>第 11 回　保険会社の役割(2)：　保険会社の経営，保険会社に対する規制，契約者保護のための制度<br>第 12 回　日本銀行の金融政策：　日本銀行の金融調節，ゼロ金利政策，量的緩和政策<br>第 13 回　金融危機から学ぶこと：　日本のバブル崩壊，米国発の世界金融危機，欧州金融危機<br>第 14 回　ソーシャル・ファイナンス：　金融の仕組みを活用して，社会的課題を解決する方法<br>第 15 回　まとめ（授業評価アンケートの実施，期末試験に関する質疑応答） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を十分行ってください。金融に関する情報・論説に触れ，最新の動きについて知識を広げてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学史** | 担当者 | 西原　誠司 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】時代の中で生き、時代をこえて生きる経済学・経済学史を学ぶ<br>【概要】ある時期に一世を風靡した学説が、次の時代には顧みられなくなることもある。なぜ、ある時代にはある経済学が脚光を浴び、次の時代には、また別の経済学が登場し、注目されるようになるのか。時代の中に経済学・経済学史を置きなおすことを通じて、そのことの意味を考える。とりわけ、この数十年間にわたって経済学の主流に君臨した「新自由主義」＝市場原理主義の学説は、その表面的な装いとは全く違って（一見するとアダム・スミスの再来であるかのように見える）、「国家が強力に介入する自由主義」＝イデオロギーであって、そのようなイデオロギーを越えていくことが大切であることを、経済学・経済学説史の歴史をたどって明らかにしたいとおもっている。<br>【到達目標】経済学・経済学説史を通して、現代起こっている経済現象の分析ができるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリントを配布する。<br>(2)　上野俊樹著作集１『経済学とイデオロギー』（文理閣、2003 年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに――経済学・経済学史とイデオロギー<br>第　2回　ミルトン・フリードマンとショックドクトリン――新自由主義とは何であったのか<br>第　3回　アダム・スミスの『国富論』とその時代<br>第　4回　マルクスの『資本論』を読む――マルクスが生きた時代<br>第　5回　マルクスの『資本論』を読む――史的唯物論と経済学・経済学史<br>第　6回　マルクスの『資本論』を読む――商品と貨幣<br>第　7回　マルクスの『資本論』を読む――剰余価値とはなにか<br>第　8回　マルクスの『資本論』を読む――資本蓄積<br>第　9回　マルクスの『資本論』を読む――資本の原始的蓄積<br>第 10 回　レーニン『帝国主義論』を読む――２１世紀の資本主義<br>第 11 回　レーニン『帝国主義論』を読む――資本主義の「最後の段階」と戦争<br>第 12 回　ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読む<br>第 13 回　ケインズ「平和の経済的帰結」を読む<br>第 14 回　現代資本主義を読み解く――経済に関する諸学説とその意味<br>第 15 回　おわりに――Ｌｏｖｅ＆Ｐｅａｃｅの経済学をめざして | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみること。配布プリントをみて復習をする。 | | |
| 成績評価の方法 | 毎回の講義で見せる映像資料の感想（50%）と筆記試験（50%）の両方で評価。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経済学特講** | 担当者 | 山口　祐司 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>歴史的な視野をもって、科学・技術や文化、国際的な政治経済関係といった点からアメリカ経済の実像を学んでいきます。<br>【概要】<br>アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第１回）。戦後アメリカ経済の圧倒的優位を準備した、２０世紀前半の特質（第２～４回）。「パクス・アメリカーナ」と呼ばれる、アメリカ主導による資本主義経済社会の繁栄（第５～７回）。1970 年代ころからはじまる「新自由主義」に基づくアメリカ経済の革新（第８～１１回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題（第１２～１３回）。今後のアメリカ経済のゆくえ（第１４回）。以上の流れでアメリカ経済を概観する。<br>【到達目標】<br>アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。世界経済との関係を意識し、アメリカ経済の相対的位置を把握すること。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　講義時に提示 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか<br>第　2回　戦後アメリカ経済の背景（1）大量生産体制<br>第　3回　戦後アメリカ経済の背景（2）大恐慌とニューディール<br>第　4回　戦後アメリカ経済の背景（3）第二次世界大戦と戦時経済システム<br>第　5回　パクス・アメリカーナ（1）第二次世界大戦後のパクス・アメリカーナの基本構造の確立<br>第　6回　パクス・アメリカーナ（2）繁栄の 1950-60 年代とパクス・アメリカーナ<br>第　7回　パクス・アメリカーナ（3）1970 年代におけるパクス・アメリカーナの限界<br>第　8回　新自由主義の興隆（1）1980 年代の「レーガノミクス」と金融的発展<br>第　9回　新自由主義の興隆（2）戦後企業体制の転換<br>第 10 回　新自由主義の興隆（3）1990 年代の「ニューエコノミー」<br>第 11 回　新自由主義の興隆（4）IT・バイオを中心とした技術革新<br>第 12 回　新自由主義の帰結（1）金融経済化とリーマンショック<br>第 13 回　新自由主義の帰結（2）アメリカにおける格差問題<br>第 14 回　これからのアメリカ経済のゆくえ<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際経済論** | 担当者 | 西原　誠司 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | メール・Line で連絡。 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】Love　&　Peace　の経済学――国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える<br>【概要】ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、５００万人のユダヤ人を含む６０００万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの理由を、グローバル化した経済に求め、９．１１以後多発するテロをなくす条件を考える。<br>【到達目標】グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、２０１５年）<br>西原誠司『グローバライゼーションと現代の恐慌』（文理閣、２０００年） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに――アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために<br>第　2回　資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争――１９世紀資本主義と２０世紀資本主義の違い<br>第　3回　資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化<br>第　4回　資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場<br>第　5回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　①　戦争の原因となった資源の共同管理<br>第　6回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　②　関税同盟・市場統合・通貨統合<br>第　7回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　③　新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機<br>第　8回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　④　人間と環境にやさしい新しい社会をめざして<br>第　9回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　⑤　多文化主義・多言語主義とＥＵ統合<br>第 10 回　最後の帝国主義アメリカ　①――ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立<br>第 11 回　最後の帝国主義アメリカ　②――多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北<br>第 12 回　最後の帝国主義アメリカ　③――米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」<br>第 13 回　動揺する西欧世界とイスラム世界――モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩<br>第 14 回　台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割<br>第 15 回　おわりに――杉原千畝の生き方に学ぶ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業態度（**50%**）積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。（**50%**） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アジア経済論** | 担当者 | 山本　一哉 |
| | 〔履修年次〕　１，２，３年いずれでも履修可 | 授業外対応 | 講義終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ<br><br>【概要】本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。<br><br>【到達目標】アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する。<br>(2)　レジュメに記載する。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンスー本講義の概要と進め方について<br>第　2回　日本の経済発展ー戦後の高度経済成長<br>第　3回　東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾<br>第　4回　東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール<br>第　5回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア<br>第　6回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア<br>第　7回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展<br>第　8回　国際的な資本移動とアジア通貨危機ー東南アジア・韓国<br>第　9回　中国の「改革開放」戦略と経済発展<br>第 10 回　中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換と産業集積<br>第 11 回　中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化<br>第 12 回　中国の貿易・直接投資の拡大ー一帯一路戦略・米国との通商摩擦<br>第 13 回　南アジア諸国の経済発展ーインド、パキスタン、バングラデシュ<br>第 14 回　アジア域内の相互依存の深化ー市場メカニズムと FTA による経済統合<br>第 15 回　日本とアジア諸国の貿易と投資 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際関係論** | 担当者 | 福田　忠弘 |
| | 〔履修年次〕　1～3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。<br>【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。<br>【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的，方法<br>第　2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか<br>第　3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化<br>第　4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦<br>第　5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１<br>第　6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２<br>第　7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争<br>第　8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム<br>第　9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序<br>第 10 回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題<br>第 11 回　国際社会における諸問題２：貧困と開発<br>第 12 回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題<br>第 13 回　国際社会における諸問題４：グローバルガバナンス（1）<br>第 14 回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス（2）<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 試験（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **アジア事情** | 担当者 | 福田　忠弘 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。<br>【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，脱植民地化，国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。<br>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　使用しない<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目的と方法<br>第　2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか<br>第　3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア<br>第　4回　歴史的形成２：植民地のようす<br>第　5回　歴史的形成３：植民地からの独立<br>第　6回　歴史的形成４：脱植民地化，国民国家建設，開発<br>第　7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア<br>第　8回　東南アジア１：インドシナ三国<br>第　9回　東南アジア２： ベトナム戦争の影響<br>第 10 回　東南アジア３：タイ，ミャンマー，マレーシア<br>第 11 回　東南アジア４：メコン河流域開発<br>第 12 回　東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成<br>第 13 回　アジアにおける協力体制１：ASEAN を中心とする協力１<br>第 14 回　アジアにおける協力体制１：ASEAN を中心とする協力２<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%）によって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **ヨーロッパ経済事情（隔年開講）** | 担当者 | 大重　康雄 |
| | 〔履修年次〕　1年，2年，3年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する<br>【概要】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国の EU 離脱や難民・移民問題が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。<br>【到達目標】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第５版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント<br>(2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか<br>第　2回　ヨーロッパ統合前史<br>第　3回　ヨーロッパ統合の歴史<br>第　4回　統一通貨ユーロとは<br>第　5回　国際金融危機とＥＵ財政諸問題<br>第　6回　ＥＵ社会が抱える課題<br>第　7回　イギリスとＥＵ経済<br>第　8回　フランスとＥＵ経済<br>第　9回　ドイツとＥＵ経済<br>第 10 回　その他諸国とＥＵ経済<br>第 11 回　中・東欧諸国と EU 経済<br>第 12 回　ＥＵと対外通商関係<br>第 13 回　欧州通貨と国際金融システム<br>第 14 回　ヨーロッパ社会と統合の将来について<br>第 15 回　講義のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域経済論** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。<br><br>【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。この講義では地域とは何か、地域とはどのように構成されているのかを知り、地域間格差を生み出す要因を地域経済構造と基本的な理論から学び、地域経済の発展に関わる今日的な対応策について検討する。<br><br>【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域経済の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済<br>第　2回　都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階<br>第　3回　都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム<br>第　4回　産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析<br>第　5回　商業地域論：商業形態の発展と変化、中心地理論<br>第　6回　工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散<br>第　7回　農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散、生産者の意思決定<br>第　8回　漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス<br>第　9回　地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差<br>第 10 回　内発的発展論：定義、事例紹介<br>第 11 回　地域連携：地域内連携、地域間連携、異業種間連携<br>第 12 回　都市計画：展開、運用、仕組み<br>第 13 回　まちづくり：地方分権とまちづくり条例、中心市街地と郊外、景観と緑地<br>第 14 回　コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域産業政策** | 担当者 | 岡田　登 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地域間格差の実態と問題点を理解する。<br><br>【概要】国内において地域間格差及び地域間競争が激化する中で、地域的な特徴を見極めて地域経済の再建と発展を図らなければならない。地域経済論では地域間格差を生み出す要因について経済構造と理論から学ぶが、この講義ではそれを踏まえて地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、地域の発展に向けた取り組みの実態を学び、これから地域が生き残るための方策を探る。<br><br>【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域の発展に向けて自ら考えて発想できるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　授業中に適宜紹介する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　はじめに：講義の目標<br>第　2回　政策的要因（1）：日本の国土計画、全国総合開発計画、新全国総合開発計画<br>第　3回　政策的要因（2）：第三次全国総合開発計画、第四次全国総合開発計画、21 世紀の国土のグランドデザイン<br>第　4回　地域間格差の現状（1）：人口、産業、所得<br>第　5回　地域間格差の現状（2）：ライフコースと人口移動<br>第　6回　地域間格差の現状（3）：地域社会、生活<br>第　7回　地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併<br>第　8回　地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生<br>第　9回　地域活性化の取り組み事例（1）：大都市地域<br>第 10 回　地域活性化の取り組み事例（2）：都市地域<br>第 11 回　地域活性化の取り組み事例（3）：工業地域<br>第 12 回　地域活性化の取り組み事例（4）：農村地域<br>第 13 回　地域活性化の取り組み事例（5）：観光業地域<br>第 14 回　地域の発展を考える：鹿児島を事例に<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をして次回の講義を受けること | | |
| 成績評価の方法 | 授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地方自治論（隔年開講）** | 担当者 | 船津　潤 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】地方自治，地方行財政<br>【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係の特徴といった視点を踏まえて，地方自治に関する基本的な概念や理論，制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます(下記，授業スケジュールを参照)。<br>【到達目標】上記の概要に示した内容に関する理解を深め，受講者が地方自治，地方行財政について，自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　なし<br>(2)　総務省編『地方財政白書　各年版』日経印刷 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明<br>第　2回　地方自治(1)：地方自治とは何か，地方公共団体の本質的特徴，地方分権が求められる背景等<br>第　3回　地方自治(2)：グローバル化の影響等<br>第　4回　地方自治体の意思決定(1)：首長・役所・議会の関係，国と地方公共団体の関係等<br>第　5回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等<br>第　6回　地方自治体の財源(1)：三位一体の改革，地方債等<br>第　7回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等<br>第　8回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，影響等<br>第　9回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金等<br>第 10 回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等<br>第 11 回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等<br>第 12 回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等<br>第 13 回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，参考事例の紹介等<br>第 14 回　住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について<br>第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **高齢者福祉（隔年開講）** | 担当者 | 田口　康明 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールで連絡、随時対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。<br>【概要】本科目は，本科目は，専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。<br>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　小竹雅子『総介護社会――介護保険から問い直す（岩波新書)』<br>(2)　授業内で随時紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 第１回　ガイダンス　この授業のすすめ方<br>第２回（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策<br>第３回（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義<br>第４回（発表）テキスト「序章：介護問題の社会化」<br>第５回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その１<br>第６回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その２<br>第７回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その１<br>第８回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その２<br>第９回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その１<br>第１０回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その２<br>第１１回（発表）テキスト「第４章　介護保険の使い方」<br>第１２回（発表）テキスト「第５章　介護保険にかかる金」<br>第１３回（発表）テキスト「第６章　なぜ、サービスは使いづらいのか」<br>第１４回（発表）テキスト「第７章　介護保険を問い直すガイダンス　」<br>第１５回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストの各回の箇所を十分読むこと／各回のテキストの指定部分を事前に熟読する | | |
| 成績評価の方法 | 授業中の発表　60%，授業中の発言 20%　ファイナルレポート 20% | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **労働法** | 担当者 | 疋田　京子 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | コミュニケーション・カードを利用する |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現のための基礎知識<br>２０１９年４月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。<br>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。<br>【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。<br>権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　『知らなきゃトラブル！　労働基準関係法の要点』(全国労働基準関係団体連合会)<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：「マタハラ」って何？<br>第　2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法との関係<br>第　3回　労働契約の成立：労働者の募集・採用と内定取り消し<br>第　4回　労働法上の「労働者」「使用者」の概念：プロ野球選手は「労働者」？<br>第　5回　労働契約の内容はどうやって決まる？：労働契約と就業規則と労働協約の関係<br>第　6回　労働法の基本原則：労働契約で定めてはいけないことがある<br>第　7回　賃金についてのルール：賃金支払いのルール<br>第　8回　労働時間の基本的ルール（1）：所定労働時間と法定労働時間<br>第　9回　労働時間の基本的ルール（2）：罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか？<br>第 10 回　労働時間と賃金（1）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？__<br>第 11 回　労働時間と賃金（2）：変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう<br>第 12 回　労働時間制の多様化：フレックスタイム制・裁量労働制とは？<br>第 13 回　年次有給休暇：パートタイム労働者には年休権がない？<br>第 14 回　ワークライフバランスの実現に向けて：産前・産後休業／育児・介護休業と均等法<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習をしっかりとしてください | | |
| 成績評価の方法 | 4 回のレポート提出 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **国際経済特講（隔年開講）** | 担当者 | 村田　秀博 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 授業終了後 E メールにて |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】日本経済・地域経済のグローバル化と、鹿児島県内中小企業の海外進出、それに伴う貿易取引について<br><br>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で、企業活動を海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとしたり、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、方法論を考え国際感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。<br><br>【到達目標】日本国内特に県内での様々なグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　レジュメ、プリント資料、映像<br>(2)　必要に応じて、随時資料を追加配布する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・外国人労働力受け入れ）<br>第　2回　鹿児島県内中小企業の国際化の現状<br>第　3回　進出国の情勢比較（中国）<br>第　4回　進出国の情勢比較（中国）<br>第　5回　海外知的財産権の保護、県内大学生の海外展開<br>第　6回　外国人労働力の受け入れ、メディカルツアーの誘致<br>第　7回　進出国の情勢比較（台湾・タイ・ベトナム）<br>第　8回　進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）<br>第　9回　進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシア他）<br>第 10 回　貿易実務（自由貿易協定。TPP・FTA 他）<br>第 11 回　貿易実務（外国為替・為替相場・先物為替予約）<br>第 12 回　貿易実務（外貨預金・外貨貸付）<br>第 13 回　貿易実務（輸入）<br>第 14 回　貿易実務（輸出）<br>第 15 回　まとめ、試験 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験５０％＋レポート５０％ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地域研究特講** | 担当者 | 山本　晃正 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 講義終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>消費者をめぐる法律問題の諸相<br>【概要】<br>常に新たな手口が登場する悪徳商法やワンクリック詐欺などの消費者被害はどのように規制されているのか，危険な製品で受けた消費者の被害はどのように賠償されるのか，金融商品の規制はどうなっているのか，サラ金への規制はどうなっているか，公正な競争や表示のための規制はどうなっているのかなど，われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を，消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として，最新の法律改正も交えながら，できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。<br>【到達目標】<br>消費者がどのような状態にあり，どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し，その上で，消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは』法律文化社<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　消費者と契約：契約とは何か，契約の拘束力からの離脱<br>第　2回　消費者と契約：消費者契約法（目的，対象，取消権）<br>第　3回　消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効，適格消費者団体による差止請求権），電子消費者契約法<br>第　4回　消費者と契約：特定商取引法（規制対象，訪問販売・電話勧誘販売の諸規制）<br>第　5回　消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度，クーリングオフの意味と制度概要）<br>第　6回　消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引＝マルチ）<br>第　7回　消費者と契約：特定商取引法（送り付け商法），無限連鎖講防止法，復習のための第１回模擬演習テスト<br>第　8回　消費者と安全：製造物責任法（目的，製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由）<br>第　9回　消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など<br>第 10 回　消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん）<br>第 11 回　消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）と金融商品販売法<br>第 12 回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味，カルテル禁止と灯油裁判，共同の取引拒絶など）<br>第 13 回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価，不当廉売，抱合せ販売，再販売価格の拘束）<br>第 14 回　消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法…改正法）<br>第 15 回　まとめ：消費者基本法，消費者の諸権利，復習のための第２回模擬演習テスト | | |
| 授業外学習(予習・復習) | テキストの該当ページを読み，配付資料も利用して，予習と復習を行って下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **地方自治法** | 担当者 | 山本　敬生 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。<br>【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。<br>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　山下友信他編，『ポケット六法（平成 30 年度版）』，有斐閣 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　地方自治の意義　・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨について<br>第　2 回　地方公共団体の種類　・地方公共団体の構成要素（住民，区域，法人格），都道府県，市町村について<br>第　3 回　地方公共団体の区域・事務　・区域，機関委任事務，法手受託事務について<br>第　4 回　住民の権利義務(1)　・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求について<br>第　5 回　住民の権利義務(2)　・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求について<br>第　6 回　条例と規則(1)　・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力について<br>第　7 回　条例と規則(2)　・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項について<br>第　8 回　議会(1)　・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，検査権について<br>第　9 回　議会(2)　・調査権，請願受理権，定例会，臨時会，議会の運営について<br>第 10 回　議会(3)　・定足数の原則，会議公開の原則，過半数議決の原則，会期不継続の原則について<br>第 11 回　執行機関(1)　・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所について<br>第 12 回　執行機関(2)　・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会について<br>第 13 回　議会と長との関係　・再議制度，専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散について<br>第 14 回　地方公共団体と国の関係　・国の関与の手続，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会について<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **簿記論Ⅱ** | 担当者 | 岡村　雄輝 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ<br>【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。<br>【到達目標】決算本手続を完了し，財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br>渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。<br>(2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　履修登録の確認，前期のおさらい：テキスト第１～４章<br>第　2 回　前期のおさらい：テキスト第５～７章<br>第　3 回　債権・債務（1）：テキスト第８章<br>第　4 回　債権・債務（2）：テキスト第８章<br>第　5 回　受取手形と支払手形：テキスト第９章<br>第　6 回　有価証券：テキスト第 10 章<br>第　7 回　固定資産：テキスト第 11 章<br>第　8 回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第 12 章：<br>第　9 回　資本金と引出金：テキスト第 13 章<br>第 10 回　収益と費用：テキスト第 14 章<br>第 11 回　伝票：テキスト第 15 章<br>第 12 回　決算と財務諸表（1）：テキスト第 16 章<br>第 13 回　決算と財務諸表（2）：テキスト第 16 章<br>第 14 回　決算と財務諸表（3）：テキスト第 16 章<br>第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施<br><br>会計科目の履修順序（初学者向け）<br>２年前期：会計学総論<br>簿記論Ⅰ<br>２年後期：**簿記論Ⅱ**<br>財務会計論<br>３年前期：原価計算<br>会計情報論<br>３年後期：管理会計論 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

**簿記論Ⅰを履修する学生は，後期に簿記論Ⅱも履修することを勧めます。なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営管理論** | 担当者 | 竹中　啓之 |
| | 〔履修年次〕　1、2、3年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。<br>【概要】２人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。<br>　したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や，組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中，対処している方法について講義していきます。<br>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に配布するプリント<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。<br>第　2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。<br>第　3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。<br>第　4回　組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。<br>第　5回　組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。<br>第　6回　組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。<br>第　7回　他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。<br>第　8回　企業理念と組織文化（1）：企業を管理する上で、理念と文化の役割について理解する。<br>第　9回　企業理念と組織文化（2）：これまでの組織文化論を概観し、組織管理と文化の関連について考える。<br>第10回　人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。<br>第11回　人的資源管理（2）：これからの人的資源管理の課題について考える。<br>第12回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。<br>第13回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。<br>第14回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。<br>第15回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営組織論（隔年開講）** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3年いずれも履修可 | 授業外対応 | 常時対応（希望者は事前にメール下さい。） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】資本主義企業の組織構造の発展をとその中での労働環境の変化について理解します。<br>**※　社会政策を履修していると理解がしやすくなります。**<br>【概要】講義が対象とする資本主義的企業は、利潤最大化を目的とする組織です。この目的に沿って企業の組織構造が変化しその下での労働環境が発展変化します。講義ではその法則を理解し、また、そこから派生する問題を捉えます。<br>【到達目標】資本主義企業と組織構造の発展、および労働環境についての影響に関する基礎的理解を得る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。レジュメを配布します。<br>(2)　授業内で指示します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　近代における労働観の分裂について　資本主義の下での労働の特徴について<br>第　3回　資本主義企業の下での労働（1）　資本の運動とその歴史的条件について<br>第　4回　資本主義企業の下での労働（2）　資本の運動と資本主義的労働の特徴<br>第　5回　資本主義企業とイノベーション（1）　イノベーションと資本間競争<br>第　6回　資本主義企業とイノベーション（2）　イノベーション競争がもたらす労働環境の変化<br>第　7回　組織と生産力（1）協業　資本主義的企業組織の基礎としての協業<br>第　8回　組織と生産力（2）分業　分業による生産力の発展と部分労働者化<br>第　9回　組織と生産力（3）機械制大工業　機械制大工業の成立と資本による労働者の包接の進展<br>第10回　「科学的管理」とフォードシステム　テーラーシステム、フォードシステムの登場<br>第11回　労働の人間化要求とボルボ方式　労働の人間化要求とポスト・フォーディズム<br>第12回　ワーク・ライフ・バランス要求とその問題点　ワーク・ライフ・バランス論の問題性<br>第13回　デーセントワークの主張とグローバル化戦略との対立　デーセントワーク要求と資本のグローバル化戦略の対立<br>第14回　デジタル化と労働環境　デジタル化が変化させる労働の未来<br>第15回　まとめ　今何を変えなければならないか | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 参考文献の独習を指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 管理会計論（隔年開講） | 担当者 | 北村　浩一 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 授業終了後 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する<br>【概　要】<br>管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。<br><br>【到達目標】<br>企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。 | | |
| （1）テキスト<br>（2）参考文献 | （1）西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社<br>（2）特になし | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　講義ガイダンス・講義の進め方や評価について<br>第 2 回　予算管理（1）<br>第 3 回　予算管理（2）<br>第 4 回　利益管理（1）<br>第 5 回　利益管理（2）<br>第 6 回　CVP 分析（1）<br>第 7 回　CVP 分析（2）<br>第 8 回　管理会計とは<br>第 9 回　分権的組織の管理会計（1）<br>第 10 回　分権的組織の管理会計（2）<br>第 11 回　原価概念<br>第 12 回　原価計算と原価管理<br>第 13 回　標準原価管理<br>第 14 回　原価企画と ABC 原価計算<br>第 15 回　講義のまとめ<br>（＊　講義の進度によって予定を変更する場合があります） | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 小テスト(複数回，50%）と期末定期試験（50%）の総計で評価します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 国際経営論（隔年開講） | 担当者 | 松本俊哉 |
| | 〔履修年次〕 | 授業外対応 | 授業終了時および随時メールで対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】多国籍企業のグローバル価値連鎖<br><br>【概要】国際生産をおこなう主要多国籍企業の「グローバル価値連鎖」（事業活動の世界的な分散と統合）に注目しながら経営戦略の現状と課題について考察する。<br><br>【到達目標】現代の多国籍企業の経営戦略が作り出す競争優位を具体的な事例をもとに理解する。また、そうした国際経営のあり方が国民経済や労働者、環境などに及ぼす影響について理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定（資料を配付する予定）<br>(2)　瀬藤澄彦『多国籍企業のグローバル価値連鎖』中央経済社、井上博（監訳）『多国籍企業と国際生産』同文館出版 | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　オリエンテーション（講義の目的、進め方、成績評価の方法など）<br>第　2 回　多国籍企業の経営（1）直接投資とプロダクトライフサイクル<br>第　3 回　多国籍企業の経営（2）内部化と企業内貿易<br>第　4 回　多国籍企業の経営（3）外部化とアライアンス<br>第　5 回　自動車産業のグローバル価値連鎖（1）<br>第　6 回　自動車産業のグローバル価値連鎖（2）<br>第　7 回　電機・電子産業のグローバル価値連鎖（1）<br>第　8 回　電機・電子産業のグローバル価値連鎖（2）<br>第　9 回　食品加工産業のグローバル価値連鎖（1）<br>第 10 回　食品加工産業のグローバル価値連鎖（2）<br>第 11 回　アパレル産業のグローバル価値連鎖（1）<br>第 12 回　アパレル産業のグローバル価値連鎖（2）<br>第 13 回　国際経営と人権<br>第 14 回　国際経営と環境<br>第 15 回　全体のまとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 配付資料の予習、レポートの作成を適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（50%）、筆記試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **比較経営論（隔年開講）** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営システムの多様性を知る<br><br>【概要】本講義では、様々な国々の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まず、日本的経営について解説した後に、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営システムを取り上げる。また、授業のなかで適宜グループ・ワークを行い、主体的に課題に取り組んでもらうことで、各国の経営に対する関心を養い理解を深める。<br><br>【到達目標】各国の歴史、政治、経済、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第　2回　株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：各国の経営システムを分析するために必要な基本事項を解説する。<br>第　3回　日本の経営①：日本の経営に関する歴史を振り返り、日本的経営の要点を確認する。<br>第　4回　日本の経営②：日本的経営におけるコーポレート・ガバナンスの変容について考える。<br>第　5回　日本の経営③：日本的生産システムを知る。<br>第　6回　日本の経営④：日本的経営における組織・人的資源管理および経営戦略の特徴を解説する。<br>第　7回　アメリカの経営①：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて考える。<br>第　8回　アメリカの経営②：アメリカ企業の組織・人的資源管理や経営戦略の特徴を解説する。<br>第　9回　グループ・ワーク①：これまでの講義の内容を確認する。<br>第10回　欧州の経営①：イギリスの経営について解説する。<br>第11回　欧州の経営②：フランスの経営について説明する。<br>第12回　欧州の経営③：ドイツの経営について、コーポレート・ガバナンスを中心に説明する。<br>第13回　アジア諸国の経営：アジア諸国の経営について解説する。<br>第14回　グループ・ワーク②その１：これまでの授業の内容を確認する。<br>第15回　グループ・ワーク②その２：これまでの授業の内容を確認する。また、期末テストに関する説明を行う。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークに臨む姿勢等（30%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **会計情報論（隔年開講）** | 担当者 | 宗田　健一 |
| | 〔履修年次〕　2，3 年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る<br><br>【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。<br>各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』(通称：ＥＤＩＮＥＴ(Electronic Disclosure for Investors’ NETwork)）を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。<br><br>【到達目標】会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　講義資料を配布します。<br>(2)　**★成川正晃編著**『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明<br>第　2回　会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINET の使い方，アニュアルレポートの入手等）<br>第　3回　有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み<br>第　4回　会計学と財務情報・非財務情報について<br>第　5回　財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROE など）<br>第　6回　財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）<br>第　7回　財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）<br>第　8回　財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）<br>第　9回　財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など）<br>第10回　財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ･フロー分析①）<br>第11回　財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ･フロー分析②）<br>第12回　時系列分析（２社以上）<br>第13回　同業他社比較分析（２社以上）<br>第14回　学生による分析報告とディスカッション<br>第15回　まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習が大切です。毎回，宿題を課します。 | | |
| 成績評価の方法 | 中間レポート（40%），期末レポート（60%） | | |

**（注）本科目は，会計学総論，財務会計論を受講済みであることが望ましい。**
**なお，受講生の学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更することがあります。★の書籍は，本学生協で発注する予定です。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業行動科学（隔年開講）** | 担当者 | 竹中啓之 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約）、及び講義終了後 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。<br>【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。<br>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。<br>【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に知る。主要な動機づけ理論を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　授業中に配布するプリント<br>(2)　講義中に指示する | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する<br>第　2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する<br>第　3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する<br>第　4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える<br>第　5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える<br>第　6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える<br>第　7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える<br>第　8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する<br>第　9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する<br>第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する<br>第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する<br>第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する<br>第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える<br>第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営戦略論** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　１～３年いずれも可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】経営戦略に関する基本的知識を習得する。<br><br>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・成長を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に解説します。さらに、最近の企業の動向を取り上げながら、現代社会においける経営戦略のあり方も講義します。<br><br>【到達目標】経営戦略の基本概念を知ると同時に、各概念がどのような関係にあるのかを考えることができる。また、講義を通じて得られた知識を基に、ニュースや新聞などの情報をより深く理解できるようになることを目標とする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第　2回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。<br>第　3回　経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。<br>第　4回　規模の経済と範囲の経済、垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。<br>第　5回　多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。<br>第　6回　M&A と戦略的提携：M&A および戦略的提携について、それぞれの特徴や相違点を見ていく。<br>第　7回　経験曲線と PLC：PPM の基礎にもなる、経験曲線と PLC について解説する。<br>第　8回　PPM：全社的視点から、経営資源の配分方法について考える。<br>第　9回　経営戦略の実際：実際の企業を事例として、経営戦略の重要性を確認する。<br>第 10 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における２つの柱について説明する。<br>第 11 回　ポジショニング・アプローチ：ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて解説する。<br>第 12 回　資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチについて説明する。<br>第 13 回　ゲーム論的アプローチ：経済学のゲーム論をベースとした、ゲーム論的アプローチについて講義する。<br>第 14 回　学習アプローチ：組織学習論を中心に、競争戦略論における学習アプローチについて解説する。<br>第 15 回　経営戦略と現代社会：競争戦略論の内容を振り返りながら、現代社会との関連性について考える。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業への姿勢等（10%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業論** | 担当者 | 朝日　吉太郎 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 常時対応（希望者は事前にメール下さい。） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】資本主義的企業の発展法則を捉え、今日の資本主義を動かす巨大企業の運動とその問題点を考えます。<br>**※　社会政策を履修していると理解がしやすくなります。**<br>【概要】今日世界経済は、巨大企業を中心に運動しています。富める１％が世界の半分の富を独占し、中小企業や労働者には様々なしわ寄せが生じています。その利益のために戦争すら引き起こされます。このような現代社会を考察します。<br>【到達目標】現代資本主義の法則的認識を基礎に、今日生じている様々な社会問題をとらえ、その解決を考える力を養います。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　テキストは特に指定しません。レジュメを配布します。<br>(2)　授業で紹介します。 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　講義の目的と進め方について<br>第　2回　巨大企業と世界<br>第　3回　資本の巨大化　（1）資本主義と機械文明<br>第　4回　（2）資本の蓄積（1）　資本蓄積の基本法則と限界と失業者の形成<br>第　5回　（3）資本の蓄積（2）　イノベーションを含む蓄積と資本の自立<br>第　6回　（4）資本の蓄積（3）　相対的過剰人口の諸形態<br>第　7回　（5）利潤と競争　利潤の運動<br>第　8回　（6）商業資本の形成　商業資本の成立と運動<br>第　9回　（7）利子生み資本（1）　利子生み資本の形成とバブル経済の誕生<br>第 10 回　（8）利子生み資本（2）　銀行資本の成立と運動<br>第 11 回　独占資本主義　（1）独占資本の形成と運動　独占資本と独占の運動<br>第 12 回　（2）金融資本と帝国主義　独占資本の運動と国家、世界貿易、植民地<br>第 13 回　日本の企業集団（1）日本資本主義（1）　戦前の日本資本主義の特徴<br>第 14 回　（2）日本資本主義（2）　戦後の日本資本主義の特徴<br>第 15 回　まとめ　グローバル化と日本企業集団の戦略 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 参考文献の独習を指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **経営工学（隔年開講）** | 担当者 | 倉重　賢治 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>企業などにおける運営業務の科学化<br>【概要】<br>現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。<br>【到達目標】<br>企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　序論：経営工学とは<br>第　2回　生産スケジューリング１：どんな順番で製品を作れば良いのか<br>第　3回　生産スケジューリング２：どんな順番で作業を行えば良いのか<br>第　4回　工程編成：均等に作業を割り当てるには<br>第　5回　プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには<br>第　6回　設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか<br>第　7回　生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか<br>第　8回　作業分析：作業者の動作を分析する<br>第　9回　投資計画１：お金の現在価値と将来価値<br>第 10 回　投資計画２：プロジェクトの価値<br>第 11 回　在庫問題：在庫コストを少なくする<br>第 12 回　評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ<br>第 13 回　最短経路：一番近い道を探す<br>第 14 回　配送計画：配達順序を決める<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **応用データ活用** | 担当者 | 倉重　賢治 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>リレーショナルデータベースの概念と基本操作<br>【概要】<br>実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。<br>【到達目標】<br>データベースソフトの Access を利用して，簡単なシステム開発を行う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　未定<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　序論：リレーショナルデータベースの概念<br>第　2 回　Access の操作：Access とは<br>第　3 回　Access の操作：レコードの並べ替え<br>第　4 回　Access の操作：レコードの追加<br>第　5 回　Access の操作：フォームの作成<br>第　6 回　Access の操作：選択クエリの作成<br>第　7 回　Access の操作：さまざまなクエリ<br>第　8 回　Access の操作：アクションクエリ<br>第　9 回　Access の操作：データベースの設計<br>第 10 回　Access の操作：リレーションシップの作成<br>第 11 回　Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算<br>第 12 回　Access の操作：レポートの作成<br>第 13 回　Access の操作：レポートのアレンジ<br>第 14 回　Access の操作：マクロの利用<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **プログラミング** | 担当者 | 倉重　賢治 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング<br>【概要】<br>プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。<br>【到達目標】<br>・基本的なプログラミング技術を身につける。<br>・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　七条達弘,『やさしくわかる ExcelVBA プログラミング　第 5 版』，ソフトバンククリエイティブ<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第　1 回　序論：プログラミングの概念<br>第　2 回　VBA の利用：関数と変数<br>第　3 回　VBA の利用：条件分岐<br>第　4 回　VBA の利用：オブジェクトの基本<br>第　5 回　VBA の利用：繰り返し操作<br>第　6 回　VBA の利用：マクロの登録と自作関数<br>第　7 回　VBA の利用：マクロの記録<br>第　8 回　VBA の利用：文字列と日付関数<br>第　9 回　VBA の利用：変数の型宣言と配列<br>第 10 回　VBA の利用：プロシージャとオブジェクト<br>第 11 回　VBA の利用：セル操作の詳細<br>第 12 回　VBA の利用：イベントプロシージャ<br>第 13 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 1<br>第 14 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 2<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報論特講** | 担当者 | 岡村　俊彦，倉重　賢治 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。<br>【概要】<br>ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといった ICT を学び，日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。さらに，コンピュータを用いた意思決定法やデータ処理について学習を行う。<br>【到達目標】<br>実社会において，自ら ICT 業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」，プリント<br>(2)　特になし | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　概要説明：授業概要と評価方法の説明<br>第 2 回　ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア，ソフトウェアの解説<br>第 3 回　コンピュータの内部部品 1 ：CPU とメモリの解説<br>第 4 回　コンピュータの内部部品 2 ：ストレージと光学ドライブの解説<br>第 5 回　インターネットとネットワーク：TCP/IP の意味と設定方法<br>第 6 回　ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法，Wi-Fi の解説<br>第 7 回　様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例<br>第 8 回　コンピュータが扱う数字 1：2 進数と 16 進数<br>第 9 回　コンピュータが扱う数字 2：負の数と実数<br>第 10 回　情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号<br>第 11 回　シミュレーション 1：シミュレーションとは<br>第 12 回　シミュレーション 2：エクセルを用いたシミュレーション<br>第 13 回　意思決定：エクセルのソルバー<br>第 14 回　データ分析：エクセルのデータ分析<br>第 15 回　まとめ | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | レポート（75%）＋期末試験（25%） | | |

（注）「情報科学概論」（担当：岡村）を履修済み，もしくは同等以上の学習が終了している者を対象とする

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **マーケティング論** | 担当者 | 瀬口　毅士 |
| | 〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ<br><br>【概要】マーケティング論とは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって、ますますマーケティングは重要になってきています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説していきます。さらに、グループ・ワークを適宜取り入れることで、理解を深めていきます。<br><br>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い消費者」になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを知ることである。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法について確認する。<br>第 2 回　マーケティング論の誕生と基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。<br>第 3 回　グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。<br>第 4 回　標的市場の選択：STP について解説する。<br>第 5 回　消費者行動分析：消費者行動論の知見を基に、消費者の購買行動について理解を深める。<br>第 6 回　競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。<br>第 7 回　グループ・ワーク②：市場・顧客分析と競争分析<br>第 8 回　製品戦略：バリュー・ネットワークや製品ミックスなどについて解説する。<br>第 9 回　価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。<br>第 10 回　流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。<br>第 11 回　流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。<br>第 12 回　プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスについて説明する。<br>第 13 回　ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。<br>第 14 回　企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。<br>第 15 回　グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツについて考える。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業のなかで適宜指示します。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（70%）＋リアクション・ペーパーからの反応やグループ・ワークに臨む姿勢等（30%） | | |

# 18　商経学科の演習・実習科目

# 第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

（経済専攻・経営情報専攻とも）

| 授業科目 | 履修年次 | 学期 | 単位 | 必修・選択 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | 1 年 | 前期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 演習 Ⅰ | 1 年 | 後期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 演習 Ⅱ | 2 年 | 前期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 卒業研究 | 2 年 | 後期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |

# 第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

| 授業科目 | 履修年次 | 学期 | 単位 | 必修・選択 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎演習 | 1 年 | 前期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 演習 Ⅰ | 2 年 | 後期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 演習 Ⅱ | 3 年 | 前期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |
| 卒業研究 | 3 年 | 後期 | 2 | 必 修 | 詳細は学科で指示する。 |

| 授業科目 | （第一部･第二部）<br>基礎演習･演習Ⅰ･演習Ⅱ･卒業研究 | 担当者 | 各年度で指定する教員 |
|---|---|---|---|

**①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目**

社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは（1）司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で，講義科目と異なり，参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また，担当教員と所属学生で構成する演習は，工場見学や研究のための合宿，国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして，（2）対話型であるために，参加学生各自の自発性が重要で，他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し，応用してゆく場です。そのため，（3）どの担当教員の演習に参加するかということが，その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので，加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して，受講登録に臨むようにして下さい。

**②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？**

商経学科の「演習」系授業科目は，（1）すべて必修科目で，（2）これを順番に受講することで，社会学科的なものの考え方から出発して，自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。

**③「演習」系科目の受講の流れ**

（第一部）

１年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

１年生後期「演習Ⅰ」→２年生前期「演習Ⅱ」→２年生後期「卒業研究」

１年生後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

２年後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

（第二部）

１年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

２年生後期「演習Ⅰ」→３年生前期「演習Ⅱ」→３年生後期「卒業研究」，

２年生後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

３年生後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

**④演習のテーマ及び概要・スケジュール**

各演習には，担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして，「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし，最終的には，演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。

**⑤成績評価の方法**

演習ごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。

**⑥受講登録上の注意**

原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って，「演習Ⅰ」の選択が重要となります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **社会活動** | 担当者 | 担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕年次指定なし　〔学期〕通年<br>〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。<br><br>【概　要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。<br>具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。<br><br>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。 | | |
| （1）テキスト<br>（2）参考文献 | 未定（事前指導のなかで指示する） | | |
| 授業スケジュール | 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。<br>研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。<br>事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **企業研修** | 担当者 | 担当教員全員 |
| | 〔履修年次〕１年（第一部），２年（第二部）　〔学期〕通年<br>〔単位〕２単位　〔必修／選択〕選択　〔授業形態〕実習方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。<br><br>【概　要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。<br>具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。<br><br>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。 | | |
| （1）テキスト<br>（2）参考文献 | 未定（事前指導のなかで指示する） | | |
| 授業スケジュール | 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。<br>研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。<br>事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。 | | |
| 成績評価の方法 | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%） | | |

# 19　教職に関する科目

| 授業科目名：<br>**教職入門** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。

【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

授業の概要

今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。

授業計画

第１回：進路選択の対象としての教員

第２回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像

第３回：　　同上　　②「授業名人」といわれた人たち

第４回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期

第５回：　　同上　②明治期と戦後の教員像

第６回：　　同上　③現代日本の学校と教員

第７回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修

第８回：　　同上　　②教員の服務上・身分上の義務と身分保障

第９回：チーム学校への対応①

中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解

第１０回：　同上　　②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割）

第１１回：諸外国の教職員

第１２回：教育方法と教員の役割①ITCと教員

第１３回：　同上　　②アクティブ・ラーニングへの対応

第１４回：中学生と教職員の諸関係

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編

教職員ハンドブック 第3次改訂版　　東京都教職員研修センター（監修）　都政新報社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**教育原理** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解

【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。

授業の概要

「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を，思想や歴史，社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。

授業計画

第１回：教育学の諸概念①　日本の近代以前と近代以降の教育概念

第２回：　　同上　　②　諸外国の教育概念

第３回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論

第４回：　　同上　　②地域における教育と教育的関係

第５回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど）

第６回：　　同上　　②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期）

第７回：　　同上　　③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想

第８回：　　同上　　④日本の明治期以降の教育思想

第９回：　　同上　　⑤戦後日本の教育の変遷

第１０回：近代公教育の原理

第１１回：世界の教育改革

第１２回：学力の要素と学力政策

第１３回：幼児期の教育

第１４回：思春期の教育

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編

思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著　ぎょうせい

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**教育心理学** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：田中　真理<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。

・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。

【テーマ】

幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。

授業の概要

教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達的特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。

授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），パーソナリティ（幼児児童生徒ひとりひとりの個人特性の理解とそのための方法），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識，学習や教育評価）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。

授業計画

第１回：発達①　発達に関する基礎的な概念

第２回：発達②　発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性

第３回：発達③　身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論

第４回：発達④　愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達

第５回：発達⑤　代表的な発達理論と各発達段階，発達課題

第６回：発達⑥　発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方

第７回：学習①　代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習

第８回：学習②　記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係

第９回：学習③　動機づけ，欲求，学習意欲

| | |
|---|---|
| 第１０回：学習④ | 知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用 |
| 第１１回：学習⑤ | 教育評価機能と方法，評価情報の収集方法 |
| 第１２回：学習⑥ | 教授法，学習方法と教科との関連，ATI |
| 第１３回：個性① | パーソナリティ理論（類型論・特性論） |
| 第１４回：個性② | パーソナリティ検査（質問紙法検査，投影法検査，作業法検査）と心理検査に関する諸概念 |
| 第１５回：まとめ | |
| 定期試験 | |

テキスト

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『教育心理学第3版』有斐閣，2015年

服部　環・ 外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年

櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

筆記試験（70%）＋小テスト（20%）+リアクションペーパー（10%）

| 授業科目名：<br>**特別支援教育概論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田中　真理<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解 | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。

・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。

・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。

【テーマ】

特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。

授業の概要

平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。

授業計画

第１回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度

第２回：「通級による指導」及び「自立活動」

第３回：指導計画及び教育支援計画の作成

第４回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解

第５回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解

第６回：発達障害、軽度知的害児への支援

第７回：貧困世帯、被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方

第８回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者（家庭）など学内外の関係者・関係機関
との連携と支援体制の構築

定期試験

テキスト　　毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育−−教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣，2014年

学生に対する評価　　定期試験（100%）

| 授業科目名：<br>**教育行政学概論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。

【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業の概要

教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。

授業計画

第１回：公教育の原理及び理念

第２回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ

第３回：現代日本の教育制度と教育改革

第４回：学校経営①校務分掌と各部署の役割

第５回：　同上　②学級経営のしくみ

第６回：学校と地域の連携①学校と地域の関係

第７回：　　同上　　②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり

第８回：学校安全への対応

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編

教職員ハンドブック 第3次改訂版　　東京都教職員研修センター（監修）　都政新報社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**教育課程論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：森田司郎<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教育の基礎的理解に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

＜授業のテーマ＞これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修を行っていく。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。

＜到達目標＞

(1)社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。

(2)学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。

(3)各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。

(4)開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。

授業の概要

授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。

授業計画

第１回：オリエンテーション：学校とは何を学ぶためのところか？　社会における学校教育と教育課程の意義と役割

第２回：日本の学校教育と教育課程：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？　教育制度・教育内容・教育方法・教員養成

第３回：教育課程の基本原理(1)：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるの

か？　カリキュラムと教育課程の概念整理
第４回：教育課程の基本原理(2)：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？　法令、教科書・教材・学習環境
第５回：教育課程の基本原理(3)：学習指導要領とは何か？　学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み
第６回：教育課程の基本原理(4)：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？　学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)
第７回：教育課程の基本原理(5)：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？　学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)
第８回：教育課程の基本原理(6)：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？　学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)
第９回：教育課程の基本原理(7)：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？　新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性
第10回：教育課程編成の基本原理(1)：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？　各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法
第11回：教育課程編成の基本原理(2)：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？　各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法
第12回：教育課程編成の基本原理(3)：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？　開かれた教育課程の意義と編成方法
第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？　カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際
第14回：今後の教育課程の在り方：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？　主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例
第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認
定期試験：試験と全体のまとめ

テキスト
文部科学省『小学校学習指導要領』（2017）、『中学校学習指導要領』（2017）
*『高等学校学習指導要領』（2018）が発行された場合には、その内容についても適宜扱っていく。

参考書・参考資料等
必要になる参考書・資料等については、授業内で適宜指示する。

学生に対する評価
・試験(70%)、課題等の提出物(20%)、授業への積極的参加と貢献(10%)

| 授業科目名：<br>**国語科教育法Ⅰ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：竹本寛秋<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し，授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また，模擬授業により，実践的な授業の能力を身につける。

授業の概要

中学校学習指導要領を読み解き，現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で，授業を計画し，指導案を作成し，授業を実施する流れを修得する。そのために，指導案を作成し，模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業，および模擬授業の振り返りを行うことで，授業を客観的にとらえる能力を修得し，授業研究の意義を理解する。

授業計画

第１回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容

第２回：中学校学習指導要領について

第３回：「知識及び技能」に関する事項について

第４回：「思考力，判断力，表現力」に関する事項について

第５回：教材研究の方法（１）：教材研究の観点

第６回：教材研究の方法（２）：事例研究

第７回：学習指導案の作成（１）：教材観，生徒観，指導観

第８回：学習指導案の作成（２）：目標の設定，授業内容の設定，評価の観点

第９回：模擬授業の意義

第１０回：模擬授業（１）：文学的文章

第１１回：模擬授業（２）：説明的文章

第１２回：模擬授業（３）：古典

第１３回：模擬授業の振り返り：方法と実践

第１４回：教育実習について

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説　国語編』プリント。

参考書・参考資料等：授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価：　学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）

| 授業科目名：<br>**国語科教育法Ⅱ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：竹本寛秋<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し，授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。

国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器，方法を利用した授業を計画・実践できる。

授業の概要

国語教育の現状，様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク，学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し，新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。

第１回：ガイダンス：国語科教育の現状
第２回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法
第３回：アクティブラーニングによる国語科の授業（１）：読みの場の創造
第４回：アクティブラーニングによる国語科の授業（２）：対話の場の創造
第５回：ICTを利用した授業（１）：電子黒板，タブレット端末
第６回：ICTを利用した授業（２）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用
第７回：これからの国語科教育の展望と課題
第８回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説　国語編』，プリント。

参考書・参考資料等

授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価

授業での課題（50%），期末レポート（50%）

| 授業科目名：<br>**英語科教育法Ⅰ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：土持かおり<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　英語） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・英語教師に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。

・小学校及び中学校の学習指導要領に掲げられている外国語教育の目標と内容を理解する。

・4技能5領域の到達目標達成に必要な指導法を理解し、指導技術を身につける。

【テーマ]未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。

授業の概要

外国語（英語）教育の指針となる小学校及び中学校の学習指導要領を理解するとともに、3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の学習到達目標とそれを達成するための指導法及び言語活動について学び、実践的コミュニケーション能力を育成するめの指導技術を身につける。さらに、グループによるディスカッション（随時）を通し、主体的に英語科教育について考えていく。

授業計画

第１回：(1) 英語科教育の目的：英語教師を目指す者にとって習得すべきことは何かについて考える。
(2) 異文化理解：国際共通語としての英語の役割、英語の多様性について認識し、理解を深める。

第２回： 第二言語習得と学習者要因：第二言語習得理論を理解するとともに、言語適性、認知要因、情意要因、学習方略などの学習者要因と第二言語習得との関係について理解し、生徒の英語習得が効果的に行われるために必要な指導について学ぶ。

第３回：コミュニケーション能力：「コミュニケーション能力」(Communicative Competence)とは何か、どのような構成要素から成り立っているかについて学び、授業での養成について考える。

第４回： 外国語教授法：各教授法の歴史と理論的背景を概観し、それぞれの指導法の特徴及び活用法について学び、問題点について検討することで教室の現場にあったものを取捨選択できる知識と技能を身につける。さらに教師の実演による主な教授法の授業を生徒の立場で体験する。

第５回：小学校での英語教育：小学校の外国語活動及び教科としての外国語（2020年度より）の学習指導要領、授業活動及び教材例について理解するとともに小・中連携の英語教育の在り方について考える。

第６回：学習指導要領：中学校学習指導要領について学ぶとともに、外国語（英語）及び領域別の到達

目標と内容について「3つの資質・能力」の観点から理解する。さらに、旧・現・次期中学校学習指導要領を比較しながら改訂のポイントについて理解する。

第７回：教科書の理解：中学校検定教科書の意義、種類、構成及び内容を理解するとともに、様々な情報が掲載されたページも含め教科書の活用方法について学ぶ。

第８回：「聞くこと」の指導：(1) 学習指導要領における「聞くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) リスニングのプロセスを理解し、生徒に英語を聞く力を身につけさせるための指導法のバリエーションをしり、それぞれの特質について学ぶ。

第９回：「話すこと［やり取り・発表］」の指導：(1) 学習指導要領における、「話すこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) コミュニケーション能力の育成の観点から、生徒に英語で話すこと（やり取り・発表）の力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第１０回：「読むこと」の指導：(1) 学習指導要領における「読むこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) 生徒に英語を読む力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第１１回：「書くこと」の指導及び文字の指導：(1) 学習指導要領における「書くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解し、生徒に英語を書く力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。(2) 文字の指導について理解し、特に英語の音声と文字の結び付きを身につけさせるための指導法とその特質を学ぶ。

第１２回：音声の指導及び語彙・表現の指導：(1) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解するとともに，プロソディーを身につけさせるための効果的な指導法を学ぶ。(2) 語彙・表現の指導において、「意味」の理解とともにその「使い方」を身に付けさせるための指導技術や導入・定着のための活動について学ぶ。さらに辞書指導についても学ぶ。

第１３回：文法の指導：文法事項の導入法（2つのアプローチの仕方とオーラル・イントロダクション等）や定着のための練習活動、コミュニケーション場面を意識した言語活動を中心に文法の指導について学ぶ。さらにオーラル・イントロダクションによる導入、展開での言語活動についてビデオ映像視聴を通して理解するとともに指導技術を身につける。

第１４回：模擬授業（1）：オーラル・イントロダクションによる導入をグループで作成・実演する。

第１５回：模擬授業（2）：展開におけるコミュニケーション活動を学び、グループで作成・実演する。

テキスト

『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、開隆堂）

『小学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、東洋館出版社）

参考書・参考資料等；『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山出版）

学生に対する評価：毎回の振返りシート（40%）課題のレポート（30%）模擬授業レポート（30%）

| 授業科目名：<br>**英語科教育法Ⅱ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：土持かおり<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　英語） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・英語教師に求められる実際の授業で応用できる知識・技能を身につける。

・教材研究、授業の組み立て方を理解し、学習指導案を作成できる力を養う。

・教育実習で実際に授業を行えるよう作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

【テーマ】未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。

授業の概要

英語科教育の基本となる言語習得理論、生徒論、評価論、教材論(ICT機器を含む)について学び、実際の授業で応用できる知識を身につける。また、実際の授業をビデオ映像の視聴により体験し、具体的指導技術を身につける。さらに、教材研究の方法、授業の組み立て方、学習指導案の作成について学び、「コミュニケーション能力の育成」という視点で指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行う。

授業計画

第１回： 英語でのインタラクション：英語で授業を行う際に必要な、クラスルーム・イングリッシュ、ティーチャー・トーク、文法事項や題材のオーラル・イントロダクションなどについて学ぶとともに、生徒とのやりとりを設定し、実演により指導技術を身につける。

第２回：生徒論：主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育を充実するための個に応じた指導方法や指導体制の工夫を学ぶ。さらに、生徒の特性や多様性を知るとともに特性や習熟度の把握の仕方及びそれに応じた効果的な指導方法，実際の具体例について学ぶ。

第３回：評価：(1) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等）：言語テストの適切さの規準（妥当性、信頼性、実効可能性、波及効果）について理解し、パフォーマンス評価を含む主な言語テストの種類と目的について学ぶ。　(2) 観点別評価： 観点別学習状況に基づく評価基準の設定、実際の評価、評定への総括について、その理念と方法について学ぶとともに、実際の授業での評価基準の設定例なども理解する。

第４回：教科書と教材研究：教科書を実際の授業で効果的に活用するための教材研究の方法と活用の仕方について、実際の教科書も使用しながら実践的に学ぶ。

第５回：教材研究及びICT機器等の活用：言語活動のための効果的な補助教材（ワークシート、フラッ

シュカード等）の作成・活用の仕方について学ぶ。さらに、PC、映像、デジタル教科書、電子黒板、タブレットなど授業で活用できる様々なICT機器の種類及びその効果的活用法を学ぶとともに、実際の授業で利用する際の留意点や課題についても考える。

第６回：学習到達目標と授業の組み立て：学習指導要領及び学習到達目標に基づく年間指導計画、単元計画について理解する。さらに各時間の指導計画及び授業の組立について理解し、実際の指導に生かすことができるよう授業での指導手順について学ぶ。

第７回：学習指導案：学習指導案の目的・基本的構成について理解するとともに、略案、細案の書き方について具体例を基に、それぞれの作成の仕方を学ぶ。さらに、実際の指導案を参考にしながら書式のバリエーションについて知る。

第８回：学習指導案と授業：学習指導案に基づき授業が実際どのように行われているかを、授業のビデオ映像の視聴を通し理解し、指導技術を身につける。

第９回： ALTとのティーム・ティーチング：ALTとのティーム・ティーチングにおける効果的な指導、授業設計及び授業準備段階での英語での打ち合わせ、ティーム・ティーチングでの英語での学習指導案の作成について学ぶとともに、実際の授業に活かせる指導法を身につける。

第１０回：教育実習：教育実習の趣旨・内容・心構えについて理解する。さらに、ビデオ映像教材を視聴し、教育実習生の生徒との交流、教材研究及び実際の授業展開について考察する。

第１１回：領域統合型の言語活動の指導：5領域の単独の指導法の理解のもと、複数領域を統合した言語活動の指導について学ぶ。また、複数の領域を組み合わせた効果的なコミュニケーション活動の作成について具体例を参考に学ぶ。

第１２回：模擬授業（1）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第１３回：模擬授業（2）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第１４回：模擬授業（3）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第１５回：模擬授業（4）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する

テキスト

『グローバル時代の英語教育－新しい英語科教育法』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、開隆堂）

『小学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、東洋館出版社）

参考書・参考資料等：『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山書房）

学生に対する評価

毎回の振返りシート（40%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、模擬授業レポート（20%）

| 授業科目名：<br>**家庭科教育法Ⅰ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：冨山裕子<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し，授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき，適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして，具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。

【テーマ】家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。

授業の概要

中学校における家庭科教育に求められていることを理解し，学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。

授業計画

第１回 : 第１回 : 家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力

第２回 : 家庭科教育への理解（「家庭科」教育の目指すところ及び求められる「家庭科」教師の資質）

第３回 : 家庭科教育のあゆみと今日的課題

第４回 : 教科教育としての家庭科教育の理念と特徴

第５回 : 家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題

第６回 : 小・中・高等学校の指導目標と内容（学習指導要領改訂のポイントと新旧対照表の読み合わせを含む）１

第７回 : 小・中・高等学校の指導目標と内容（学習指導要領改訂のポイントと新旧対照表の読み合わせを含む）２

第８回 : 家庭科教育の学習指導

第９回 : 家庭科教育の学習指導計画

第１０回 : 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容

第１１回 : 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と学習指導計画1

第１２回 : 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と学習指導計画2

第１３回 : 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」における評価

第１４回 : 中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案作成（本時案）

| |
|---|
| 第１５回：まとめ<br>定期試験 |
| テキスト<br>田部井恵美子・内野紀子 外 共著「家庭科教育法」学文社 |
| 参考書・参考資料等<br>文部科学省「中学校学習指導要領　技術・家庭編」<br>文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」 |
| 学生に対する評価<br>筆記試験（８０％）と提出物（学習指導案２０％）で評価する。 |

| 授業科目名：<br>**家庭科教育法Ⅱ** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：冨山裕子<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】　・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおして，学習指導要領への理解を深める。・立案した学習指導案によった教材研究の実践と考察をとおして，様々な方法を習得する。・立案した学習指導案によった模擬授業の実践と考察をとおして，適切な評価の考え方を理解できる。

【テーマ】　「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた演習等をとおし，家庭科教育に携わる教育実践力を確実なものにすることで，家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。

授業の概要

「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ，情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等の教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。

授業計画

第１回：学習指導案の読み合わせ及び改訂学習指導要領との関連の確認

第２回：学習指導案による授業展開の実際についての方法1　（板書計画，提供資料，学習形態等）

第３回：学習指導案による授業展開の実際についての方法2（教材研究の方法）

第４回：学習指導案による授業展開の実際についての方法3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法）（鹿児島県総合教育センター提供（ホームページ）の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集の活用）

第５回：学習指導案による授業展開の実際についての方法4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）

第６回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）

第７回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）

第８回：まとめ

定期試験

テキスト：田部井恵美子・内野紀子 外 共著「家庭科教育法」学文社

参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領　技術・家庭編」
文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」

学生に対する評価：筆記試験（８０％）と提出物（学習指導案２０％）で評価する。

| 授業科目名：<br>**道徳教育指導論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 道徳の理論及び指導法 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科　道徳」の目標に関する理解。「特別の教科　道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。

【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。

授業の概要

道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。

授業計画

第１回：人間存在と道徳（道徳とは何か）

第２回：各学校段階の道徳教育の目標と内容

第３回：中学校における道徳教育の指導計画

第４回：「特別の教科　道徳」の指導法①教科の特質の理解

第５回：　　同上　　②授業設計における留意事項

第６回：　　同上　　③指導案の作成

第７回：模擬授業とピア評価①第１班

第８回：模擬授業とピア評価②第２班

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳」編
思考力を育む道徳教育の理論と実践 － コールバーグからハーバーマスへ　浅沼茂著　黎明書房

学生に対する評価：模擬授業の評価（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**道徳教育の指導法** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科　道徳」の目標に関する理解。

【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。

授業の概要

道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。

授業計画

第１回：人間存在と道徳（道徳とは何か）

第２回：道徳教育の歴史①戦前の修身科

第３回：　　同上　　①戦後の道徳教育

第４回：小学校と中学校の道徳教育の特質

第５回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質

第６回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標

第７回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標

第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領

思考力を育む道徳教育の理論と実践 － コールバーグからハーバーマスへ　浅沼茂著　黎明書房

学生に対する評価：小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**特別活動指導論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 特別活動の指導法 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。

【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。

授業の概要

特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

第１回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等

第２回：　同上　②学校教育全体における位置づけ

第３回：　同上　③学級とその活動

第４回：　同上　④自治的諸活動の意義

第５回：　同上　⑤学校行事と地域社会

第６回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係

第７回：　同上　②学活の指導案

第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動　中学校編　文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著　東京書籍

学生に対する評価：指導案の作成（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**特別活動論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。

【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。

授業の概要

特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画

第１回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等

第２回：　同上　②学校教育全体における位置づけ

第３回：　同上　③学級とその活動

第４回：　同上　④自治的諸活動の意義

第５回：　同上　⑤学校行事と地域社会

第６回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動

第７回：　同上　②給食の時間の活用

第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」

学生に対する評価：小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**教育方法学概論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：元井一郎<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |

授業の到達目標及びテーマ

　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。そのため、教育方法史、授業論、教育の技術、学力と教育評価をテーマとする。

授業の概要

　教育方法史（ソクラテス・コメニウスとペスタロッチの教授法の特質）、授業論（授業の構造と意義；学習指導案の意義と作成手順　ほか）、教育の技術（教育技術の特質；集団づくり）、学力と教育評価（学力、相対評価と絶対評価ほか）、情報機器の活用（効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用）に関する基礎的な能力を身に付ける。

授業計画

第 1 回　教育の方法・技術とは何か

第 2 回　教育方法の理論と歴史

第 3 回　カリキュラムと教育方法の関連（児童中心カリキュラム・学問中心プログラム）

第 4 回　学習指導の方法（学習指導の構造；学習指導の目標・内容・指導過程　ほか）

第 5 回　授業論（授業の構造と意義／教材論/学習指導案の意義と作成手順、教師の役割と指導技術）

第 6 回　教育メディアとその活用（授業改造と情報機器／ＩＣＴの活用）

第 7 回　アクティブ・ラーニングの理解（教授組織と学習組織／活動と表現）

第 8 回　教育評価（評価の諸相）

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編
教育の方法と技術　（改訂版）柴田 義松編著　学文社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**生徒指導論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：田中　真理<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 生徒指導の理論及び方法 | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。

・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。

・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。

【テーマ】

学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。

授業の概要

生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進めるする上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不適応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。

授業計画

第１回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け

第２回：意義と原理①　教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性

第３回：意義と原理②　集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制

第４回：児童生徒理解①　児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴

第５回：児童生徒理解②　アセスメントの方法論と資料収集の方法

第６回：児童生徒理解③　教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果

第７回：全体への指導①　生徒指導の組織的取組と教師の役割

第８回：全体への指導②　基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成など日常的な生徒指導のあり方

第９回：全体への指導③　自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）

| |
|---|
| 第１０回：全体への指導④　構成的グループエンカウンターの理論と実際<br>第１１回：個別の指導①　不登校に関する基礎知識と対応<br>第１２回：個別の指導②　いじめ，暴力行為に関する基礎知識と対応<br>第１３回：個別の指導③　生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識とその処遇<br>第１４回：個別の指導④　インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と関係機関との連携<br>第１５回：まとめ<br>定期試験 |
| テキスト<br>文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年 |
| 参考書・参考資料等<br>①佐々木雄二・笠井仁編著『図で解する生徒指導・教育相談』福村出版，2010年<br>②一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年 |
| 学生に対する評価<br>定期試験（70%）＋小テスト（20%）+リアクションペーパー（10%） |

| 授業科目名：<br>**進路指導論** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：田口康明<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | | |

授業の到達目標及びテーマ：

【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。

授業の概要

　進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。

授業計画

第１回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解

第２回<進路指導からキャリア教育>　キャリア教育の成立過程の概説

第３回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史

第４回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き

第５回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連

第６回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連

第７回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連

第８回<まとめ>

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：

古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011）文部科学省

学生に対する評価：小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

| 授業科目名：<br>**教育相談** | 教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：田中　真理<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 科　目 | 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目 | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | |

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・教育相談を実践するうえで必要となる知識を習得する。

・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。

【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。

授業の概要

学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実際的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。

授業計画

第１回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性

第２回：意義と理論①　教育相談の意義と教育相談体制

第３回：意義と理論②　教育相談とカウンセリングとの関係

第４回：方法①　児童生徒の「問題」理解とその背景要因

第５回：方法②　児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論

第６回：方法③　教師に求められるカウンセリングマインドの必要性

第７回：方法④　カウンセリング技法

第８回：方法⑤　ロールプレイによる実習

第９回：展開①　児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方

第１０回：展開②　開発的・予防的教育相談の方法

第１１回：展開③　不登校への理解と対応

第１２回：展開④　いじめへの理解と対応

第１３回：展開⑤　非行や虐待等への理解と対応

| |
|---|
| 第１４回：展開⑤　教育相談での課題に応じた関係機関との連携<br>第１５回：まとめ<br>定期試験 |
| テキスト<br>　文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年 |
| 参考書・参考資料等<br>　①河村茂雄編著　『教育相談の理論と実際』　図書文化社　2012年<br>　②大前玲子編著　『体験型ワークで学ぶ教育相談』　大阪大学出版会　2015年<br>　③佐々木雄二，笠井仁編著　『図で解する生徒指導・教育相談』 福村出版　2010年<br>　④一丸藤太郎・菅野信夫　『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年 |
| 学生に対する評価<br>　定期試験（70%）＋レポート課題（20%）+リアクションペーパー（10%） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **教職実践演習（中）** | 担当者 | 田口康明，田中真理，竹本寛秋，土持かおり，坂上ちえ子 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | 〔履修年次〕2年　〔学期〕後期<br>〔単位〕2　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や，介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，教師になるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。<br><br>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており，子どもの状況に応じて，授業計画や学習形態等を工夫することができる。<br><br>【概要】：短大の 2 年間で学んだ教職に関する知識と，教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際，教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。 | | |
| (1) テキスト<br>(2) 参考文献 | (1)視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。<br>(2)学習指導案資料など適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 授業計画<br>第１回：[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明，履修カルテの活用の説明を行う。<br>第２回：[イントロダクション]2 年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。<br>第３回：[ロールプレイ(1)]<br>第４回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第５回：[グループ討論（1）] 生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。<br>第６回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている，子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。<br>第７回：[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。<br>第８回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。<br>第９回：[学校見学]（11 月中旬を予定。ただし，この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。<br>第 10 回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察<br>第 11 回：[模擬授業（1）] 教科に関する科目担当教員による指導の下，教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。<br>第 12 回：[模擬授業（2）] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。<br>第 13 回：[模擬授業（3）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。<br>第 14 回：[グループ討論（4）] 教科に関する科目担当教員による指導の下，教科等の指導の重点について討論活動を行い，授業計画や学習形態の工夫を定着させる。<br>第 15 回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | 教職実践演習（栄養教諭） | 担当者 | 町田和恵・中馬和代・田口康明・田中真理 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | 〔履修年次〕2年　〔学期〕後期<br>〔単位〕2　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や，栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，栄養教諭となるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。<br><br>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて，児童生徒の状況に応じて，学習活動，体験活動等を工夫することができる。<br><br>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第 11 回と第 14 回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。 | | |
| (1) テキスト<br>(2) 参考文献 | (1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』，文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房）<br>(2)適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 授業計画<br>第１回：[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明。<br>第２回：[イントロダクション]2 年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。<br>第３回：[ロールプレイ(１)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。<br>第４回：[ロールプレイ(２)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。<br>第５回：[グループ討論（１）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。<br>第６回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎，生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし，時期は未定。<br>第７回：[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。<br>第８回：[グループ討論（２）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。<br>第９回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。<br>第 10 回：[グループ討論（３）]学校見学についての省察を行う。<br>第 11 回：[模擬授業（１）]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。<br>第 12 回：[模擬授業（２）] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。<br>第 13 回：[模擬授業（３）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。<br>第 14 回：[グループ討論（４）] 給食の時間における食に関する指導の重点に検討する。<br>第 15 回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **教育実習（事前・事後指導を含む。）** | 担当者 | 田口康明 |
| | | 授業外対応 | 田口へメール |
| | 〔履修年次〕２年　〔学期〕前期<br>〔単位〕5　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】中学校における教育実習<br>【概要】教育実習は，教員免許状を取得するための必修科目であり，単なる体験ではなく，大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用，実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は，「目の前」に生徒のいない学習であったが，実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や，先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい，という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ，教育への愛着，生徒たちとの相互理解があってこそ，はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では，教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し，実習に臨み，実習後は，実習体験から得られた多くの事柄を定着させ，社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。<br>【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し，実際に教育実習を行い，事後においては，実習において習得した知識技能を定着させる。 | | |
| (1) テキスト<br>(2) 参考文献 | (1)　視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。<br>(2)学習指導案資料など適宜紹介する。 | | |
| 授業スケジュール | 事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし，適宜講義を加える。<br>第１回　教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性<br>第２回　教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。<br>第３回　模擬授業（１）<br>第４回　模擬授業（２）<br>第５回　模擬授業（３）<br>第６回　教育実習に関わる実務について<br>第７回　教育実習の反省と総括，採用試験に向けて<br>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て３週間の実習活動を行う。<br>この他，「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師）を実習事後に実施。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | |
| 成績評価の方法 | 実習先の評価，実習日誌，事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上，遅刻，欠席は原則として一切認めない。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養教育実習** | 担当者 | 町田和恵 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期集中　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。<br>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。<br>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』<br>(2)　文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成 28 年２月） | | |
| 授業スケジュール | 各施設により異なる<br>１．　指導教諭等からの説明<br>・学校経営<br>・校務分掌の理解<br>・服務　等<br>２．　児童及び生徒への個別的相談，指導の実習<br>・指導，相談の場の参観，補助　等<br>３．　児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習<br>・学級活動及び給食の時間における指導の参観，補助<br>・教科等における教科担任等と連携した指導の参観，補助<br>・給食放送指導，配膳指導，後片付け指導の参観，補助<br>・児童生徒会，委員会活動，クラブ活動における指導の参観，補助<br>・指導計画案，指導案の立案作成，教材研究　等<br>４．　食に関する指導の連携・調整の実習<br>・校内における連携・調整（学級担任，研究授業の企画立案，校内研修等）の参観，補助<br>・家庭・地域との連携・調整の参観，補助　等<br>５．　学校給食の管理を一体的に担う方法 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（40%）により評価する。 | | |

（注）前期集中

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **栄養教育実習の事前事後の指導** | 担当者 | 町田和恵 |
| | 〔履修年次〕　2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。<br>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。<br><br>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』<br>(2)　文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月） | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　栄養教育実習のオリエンテーション　意義や目的，心構えなど<br>第　2回　実習の評価の方法，実習後の提出物（実習ノート，学習指導案など），実習中の短大との連絡方法などの指導<br>第　3回　指導計画案，指導案の立案作成，教材研究<br>第　4回　模擬授業の実施（1）<br>第　5回　模擬授業の実施（2）<br>第　6回　栄養教育実習の報告・発表（1）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化<br>第　7回　栄養教育実習の報告・発表（2）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化<br>第　8回　相互評価，実習の反省，問題点の整理，今後の課題 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示 | | |
| 成績評価の方法 | 発表・提出物（80%）＋取り組み態度（20%）により評価する。<br>事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。 | | |

※ 7.5回

# ２０　司書教諭に関する科目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **学校経営と学校図書館** | 担当者 | 岩下雅子 |
| | 〔履修年次〕　1年 | 授業外対応 | メールによる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義形式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】小学校、中学校、高校と特色を活かした学校図書館運営全般と基本事項について理解を深め、さらに変化し続ける「新しい学校図書館」の役割についても考察し、学校図書館を担う司書教諭としての幅広い知見を培う。<br>【概要】常にアクティブラーニングを意識しながら授業を進める。学校図書館の歴史、学校図書館に関する法的根拠を踏まえて学校図書館への理解を深める。また現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域等と積極的に相互協力・連携するようになった背景についても理解を深める。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についても様々な角度から考察する。発想力、企画力、実践力、精査分析のできる司書教諭を目指し、その資質を培う。<br>【到達目標】<br>学校経営の中の学校図書館の位置づけと意義を理解し、様々な学校図書館現場の実際に触れながら司書教諭の果たす役割についてグループ等での討議を通して学びを培う | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　野口武悟　前田稔『学校経営と学校図書館』NHK出版　2013年<br>赤木かん子『お父さんが教える図書館の使い方』自由国民社　2014年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　「学校図書館法」から学校図書館の意義と教育的理念を学び、法的根拠についても理解する<br>第　2回　鹿児島県の学校図書館の現状についてグループディスカッションを通して今後の課題と展望を考察する<br>第　3回　映画「図書館戦争」を通して図書館の理念と意義について考察する(1)<br>第　4回　映画「図書館戦争」を通して図書館の理念と意義について考察する(2)<br>第　5回　学校図書館運営①（学校図書館経営、図書館行事等について理解を深める）<br>第　6回　学校図書館運営②（小学校の図書館運営について理解を深める）<br>第　7回　学校図書館運営③（中学校の図書館運営について理解を深める）<br>第　8回　学校図書館運営④（高等学校の図書館運営について理解を深める）<br>第　9回　学校図書館運営⑤（特別支援学校の図書館運営とインクルーシブ教育について理解を深める）<br>第10回　学校図書館とネットワーク（ＰＴＡ、地域、公共図書館等との連携をｸﾞﾙｰﾌﾟ学習し、発表を通して理解を深める）<br>第11回　読書感想文の全国の取組みについてグループで事例研究し発表を通して意義と手法について理解を深める<br>第12回　読書感想画の全国の取組みについてグループで事例研究し発表を通して意義と手法について理解を深める<br>第13回　児童生徒の「読書センター」「学習・情報センター」「心の居場所」としての学校図書館をグループで討議し、発表を通して企画力を培う<br>第14回　学校図書館メディアの選択等を通して生涯学習の学びに繋がる学校図書館の活用についてグループで討議し理解を深める<br>第15回　学校図書館と司書教諭、学校司書の今後の課題と展望についてグループディスカッションを通して考察する | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示、事前に配付された資料は読んでくること | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（７０％）授業ごとに実施するレポート（３０％） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **学習指導と学校図書館** | 担当者 | 岩下雅子 |
| | 〔履修年次〕　1・2年 | 授業外対応 | メールによる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義方式 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】学校図書館法(この法律の目的)第二条の「授業の展開に寄与する」とはどういうことだろう。学校図書館を担う司書教諭と学校司書が協働しながら支援する学校図書館の授業支援についてグループ討議を通して学びを深める。<br>【概要】常にアクティブラーニングを理解しながら授業を進める。多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。司書教諭としての職責や職務内容についての理解を深めるとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例(全国)を参考に、学校司書との協働についてもグループ等で討議する。<br>【到達目標】<br>学習指導（授業支援）と学校図書館をうまくコーディネイトするために、司書教諭が果たす役割を理解する。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　プリント<br>(2)　林容子『「総合的な学習」に司書教諭はどう関わるか』全国ＳＬＡ　2005年<br>三上久代『学校図書館における新聞の活用』全国ＳＬＡ2006年<br>稲井達也『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン』学事出版　2017年 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　学校図書館利用指導（学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する）<br>第　2回　小学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する）<br>第　3回　小学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する）<br>第　4回　中学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する）<br>第　5回　中学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する）<br>第　6回　高校の図書館教育①（図書館の授業支援事例を参考に、読書手法を用いた授業支援について考察する）<br>第　7回　レファレンス等の情報サービスについてグループで事例研究し発表することでスキルを培う）<br>第　8回　教科学習に活用する学校図書館①（グループで教科に関連したブックトークを構築する）<br>第　9回　教科学習に活用する学校図書館②（グループで構築したブックトークを発表する）<br>第10回　教科学習に活用する学校図書館③（ブックトークで取り上げた図書を参考にパスファインダーを作成する）<br>第11回　教科学習に活用する学校図書館④（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(1)<br>第12回　教科学習に活用する学校図書館⑤（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(2)。<br>第13回　教科学習に活用する学校図書館⑥（新聞を活用した授業（NIE）をグループで構築する）<br>第14回　教科学習に活用する学校図書館⑦（新聞を活用した授業（NIE）のグループ発表を通して、学びを深める）<br>第15回　授業の連携を通してこれからの司書教諭の役割・課題・展望についてグループで討議する。 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示、事前に配付された資料は読んでくること | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（７０％）授業ごとに実施するレポート（３０％） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **読書と豊かな人間性** | 担当者 | 木戸裕子 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | オフィスアワーに準じる |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。<br>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。<br>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトーク、アニマシオンなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　黒古一夫・山本順一編著『読書と豊かな人間性 』(メディア専門職養成シリーズ)学分社<br>(2)　「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、 | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　子どもと読書：現代社会と読書<br>第　2回　読書推進行政の法制度：読書教育を支える仕組み<br>第　3回　学校図書館と読書１：学校図書館の役割<br>第　4回　学校図書館と読書２：学校図書館と読書活動<br>第　5回　学校教育における読書指導：戦後 70 年間の変化<br>第　6回　学校教育における読書の意義：教科教育と読書<br>第　7回　児童生徒の発達段階と読書<br>第　8回　児童生徒と読書資料：本の種類と流通過程<br>第　9回　公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション<br>第 10 回　子供の読書環境・大人と読書：地域との連携、生涯学習<br>第 11 回　読書活動１：読書案内、ブックトーク、ブックリスト<br>第 12 回　読書活動２：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング<br>第 13 回　読書活動３：パネルシアター、紙芝居、エプロンシアター<br>第 14 回　実演１：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど<br>第 15 回　実演２：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。 | | |
| 成績評価の方法 | 課題提出（50%）と、授業第 14 回、15 回での実演（50%） | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目 | **情報メディアの活用** | 担当者 | 竹本　寛秋 |
| | 〔履修年次〕　２年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） |
| | 〔学期〕　後期　〔単位〕　２　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義 | | |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】<br>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。<br>【概要】<br>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。<br>【到達目標】<br>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。<br>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。 | | |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。<br>(2)　なし | | |
| 授業スケジュール | 第　1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割<br>第　2回　情報メディアの歴史的変遷<br>第　3回　学校教育と情報メディア<br>第　4回　情報メディアの種類と特性<br>第　5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点<br>第　6回　視聴覚メディアの活用<br>第　7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用<br>第　8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用<br>第　9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索<br>第 10 回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索<br>第 11 回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信<br>第 12 回　情報セキュリティ<br>第 13 回　ネットワーク環境と学校教育<br>第 14 回　学校図書館メディアと著作権<br>第 15 回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 教科書の精読，授業で課す課題の調査など。 | | |
| 成績評価の方法 | 授業での課題（30%）、期末試験（70%） | | |

# ２１　実務経験のある教員による授業科目一覧

「実務経験のある教員による授業科目一覧」

＜教養＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験との関係 |
|---|---|---|---|
| 和田　信哉 | 数学の世界 | 2 | 小学校にて講師として勤務 |
| 野呂忠秀<br>島津義秀<br>三嶽公子<br>岡田登 | 鹿児島学 | 2 | 島津氏は精矛神社の宮司で加治木島津家の第 13 代当主<br>三嶽氏は月の船自由大学の学長で NPO 法人かごしま文化研究所の副理事長<br>岡田准教授は自治体で元職員として勤務 |
| 福田忠弘<br>杉原洋<br>疋田京子<br>船津潤 | 平和論 | 2 | 杉原氏は地方新聞社に元記者として勤務 |
| ジェイムズ・マレー | 英語Ⅱ・Ⅳ | 1 | 高等学校にて教員（ＡＬＴ）として勤務 |
| 民間企業からの講師（複数名） | 社会活動 | 2 | 学外での様々な活動に参加し，実務を経験する。 |
| | 企業研修 | 2 | 企業へのインターンを行い，実務を経験する。 |
| | キャリアデザイン | 1 | キャリア形式について，企業の人事担当者が講義する。 |

＜日本語日本文学専攻＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験との関係 |
|---|---|---|---|
| 松元　徳雄 | 書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | 1 | 書道講師 |

＜英語英文学専攻＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験との関係 |
|---|---|---|---|
| ジェイムズ・マレー | 英語表現法Ⅰ・Ⅱ | 1 | 高等学校にて教員（ＡＬＴ）として勤務 |

＜食物栄養専攻＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験の内容 |
|---|---|---|---|
| 西迫　貴美代 | 生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ | 1 | 高等学校及び養護学校にて教員として勤務 |
| | スポーツ健康論 | 1 | |
| | 健康と運動 | 2 | |
| 有村　恵美 | 臨床栄養学実習<br>臨床栄養学Ⅰ，臨床栄養学Ⅱ | 2<br>2 | 病院に管理栄養士として勤務（現在も共同研究にて従事） |
| | 栄養学実習<br>栄養学各論 | 1<br>2 | |
| 山下　三香子 | 給食管理 | 2 | 病院、高齢者施設の管理栄養士として勤務 |
| | 給食管理実習Ⅰ,Ⅲ | 1 | |
| | 給食管理実習Ⅱ | 2 | |
| | 調理学 | 2 | |
| | 調理学実習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ | 1 | |
| 與儀　幸朝 | 健康管理概論 | 2 | 中学校にて教員として勤務 |
| 米盛　麻美 | 公衆栄養学 | 2 | 保健所，病院に勤務 |

＜生活科学専攻＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験の内容 |
|---|---|---|---|
| 川島　茂 | 設計製図Ⅱ | 1 | ・建築設計事務所における設計総括責任者及び意匠担当主任技術者業務 |
| | 空間デザイン論 | 2 | |
| | 空間デザインⅠ，Ⅱ | 1 | |
| | 住生活学 | 2 | |
| | 卒業研究 | 4 | |
| 宍戸　克実 | 住居・インテリア設計学 | 2 | ・外食チェーン企業での店舗設計監理業務<br>・都市コンサルタント企業での都市計画業務 |
| | 設計製図Ⅰ，設計製図Ⅲ | 1 | |
| | 設計製図Ⅳ | 4 | |
| | CAD 設計 | 2 | |
| | CAD 設計特講 | 2 | |
| | 建築史 | 2 | |
| | 生活文化（分担）(2) | 2 | |
| 北　一浩 | ビジュアルデザイン基礎Ⅰ | 1 | 広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 |
| | ビジュアルデザインⅠ | 2 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 北　一浩 | ビジュアルデザインⅡ | 1 | フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動 |
| 田島　康弘 | 住居構造学Ⅰ<br>住居構造学Ⅱ | 2<br>2 | 設計事務所代表 |
| 追田　順一 | 建築材料学<br>建築生産 | 2<br>1 | 建設会社で建築企画施工 |

＜経済専攻・経営情報専攻・第二部商経学科＞

| 教員名 | 科目名 | 単位数 | 実務経験の内容 |
|---|---|---|---|
| 岡田　登 | 地域産業政策 | 2 | 自治体で元職員として勤務 |
| 内田　昌廣 | 金融論　経済学特講Ⅰ | 2 | 都市銀行に勤務 |
| 田原　武志 | 経営学特講Ⅰ | 2 | 経営コンサルタント会社を経営 |
| 川野　和昭 | アジア文化論 | 2 | 県立高校教員，県歴史資料センター黎明館学芸員 |
| 瀬尾　由美子 | ライフプランニング | 2 | ファイナンシャルプランナーとして顧客の相談やセミナー講師 |
| 永山　修一 | 日本の歴史 | 2 | 高等学校にて教員として勤務 |
| 村田　秀博 | 国際経済特講Ⅰ | 2 | 信用金庫に勤務，海外ビジネスの専門家 |
| 丸田　真悟 | 非営利組織論 | 2 | ＮＰＯ法人理事長 |
| 大重　康雄 | 外国貿易論<br>ヨーロッパ経済事情 | 2<br>2 | 地方銀行に勤務 |
| 口脇　淳子 | ＰＣデータ活用<br>情報リテラシーⅡ | 2<br>1 | ＤＢソフトを利用したプログラム作成<br>一般，企業への講習会講師 |
| 杉原洋 | 情報社会論 | 2 | 地方新聞社に記者として勤務 |

＜教職＞

| 教員名 | 科目名 | | 実務経験との関係 |
|---|---|---|---|
| 竹本　寛秋 | 国語科教育法Ⅰ<br>国語科教育法Ⅱ | 2<br>1 | 高等学校，高等専門学校に教員として勤務 |
| 岩下　雅子 | 学習指導と学校図書館<br>学校経営と学校図書館<br>学校図書館メディアの構成 | 2<br>2<br>2 | 県立高等学校・大学図書館に学校司書として勤務 |